

東洋大学 FD・SD 活動報告書

(2021 年度)

東洋大学高等教育推進センター

2022 年 5 月

学生を主体とした教育のありかたを再考したセンターの1年

高等教育推進センター長 村田奈々子

2021年度は、前年度からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響がつづく1年となった。とはいえ、私たちはコロナとの付き合い方にも、よい意味で「慣れた」。昨年度の慌ただしいコロナ対応を経て、「ウイズ・コロナ」の段階に入った。高等教育推進センターを構成する4つ部会も、この現状を見据えて、学生の学びをとめない、学生を主体とした本学の教育のありかたを、落ち着いた目で再考し、活動した1年となった。

本年度のセンターの具体的な活動としては、以下の取り組みがあげられる。第一に、「学修者本位の教育への転換をもたらすための授業改善」を目的として、新たな授業形式に対応するアンケートの開発がおこなわれた。第二に、目的に応じた各種FD・SD/TA・SA研修会を実施するとともに、昨年度開設したFD・SDチャンネルに新たなコンテンツを追加し、全教員への啓蒙活動を継続した。FD・SDの体系化にむけたプログラムの企画もおこなった。第三に、高等教育推進センターニュースレターの発行をとおして、コロナ対応にあたる職員の声、学生の成長を支えている様々な組織の方針や活動内容、外部のFD・SDチャンネル研修会に参加した教員からの報告を、学内で共有した。第四に、教育支援システム利用状況や活動事例の評価と課題整理を行うために、様々な組織からの情報収集をおこなうとともに、高等教育推進委員を対象にアンケートを実施した。

高等教育推進センターが現在抱える問題として、上述したようなセンターの諸活動の重要性について、教職員の間では必ずしも共通理解が十分に進んでいないという点が挙げられる。たしかに、センターの取り組みは、派手さもなければ、即時に結果が出せるものでもない。しかしながら、そもそも教育とは、時間がかかる性質のものである。センターの地道な活動の日々の積み重ねが、将来的には本学の教育の質の向上に必ずや資するものと信じている。

高等教育センターは、本学の中長期的な教育のあり方を常に念頭におきながら、教職員のみなさんの協力も得つつ、少しずつではあるが着実に前進していきたいと考える。

目次

学部 FD・SD 活動報告	1
文学部	2
経済学部	5
経営学部	8
法学部	12
社会学部	15
理工学部	28
生命科学部	31
ライフデザイン学部	36
総合情報学部	39
食環境科学部	44
国際学部	47
国際観光学部	52
情報連携学部	56
研究科/センターFD・SD 活動報告	62
文学研究科	63
経済学研究科	66
経営学研究科	79
法学研究科	83
社会学研究科	85
理工学研究科	91
生命科学研究科	96
ライフデザイン学研究科	101
総合情報学研究科	105
食環境科学研究科	108
国際学研究科	113
国際観光学研究科	116
情報連携学研究科	119
学際・融合科学研究科	122

社会福祉学研究科	129
国際教育センター／国際部	136

高等教育推進センター/委員会 FD・SD 活動報告	140
----------------------------------	------------

2021 年度高等教育推進センター/委員会活動一覧	141
高等教育推進委員会	142
部会長会議	146
教育方法改善部会	147
FD・SD 研修部会	149
高等教育研究部会	152
教育開発・改革部会	154

付録	156
-----------	------------

高等教育推進センター刊行物	157
東洋大学高等教育推進センター規程	161
東洋大学高等教育推進センターニュースレター VOL.4 アーカイブ	164

学部 FD・SD 活動報告

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

1) 『各年度データブック』による情報公開

例年、文学部における授業実績や教育に関わる各種取り組みについて、各年度の「データブック」として作成し、学部教育の基礎的な資料を共有してきた。この資料は各学科や関係部局からの情報提供に基づき構成され、ガルーンやホームページを通じて学内外に公開されてきたが、2021 年度もこの資料作成を継続する。

2) FD 講演会・研修会

文学部はこれまで年 2 回程度、学内外の講師を招いて、講演会・研修会を実施してきた。本年度もこの企画を踏襲するが、講演・研修テーマについては、教員が共通に学ぶべき課題であり、かつコロナ禍という特殊な事情を鑑みたものを学部内自己点検・評価委員会での検討をもとに設定したい。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①『文学部自己点検・評価報告書（2020 年度データブック）』の公開

活動実績

2020 年度の文学部の教育研究活動情報を各学科から収集し、「データブック」としてまとめ、ガルーンやホームページに公開した。

成果・課題

継続的な FD 活動を進めるためには、各年度のデータを学部および各学科内で分析することが必要であるが、そのための基礎資料をこの「データブック」は提供し続けている。

とはいえ、改善のためのデータ項目は学科ごとに項目が分かれており、文学部全体で統一すべきか、それとも各学科に任せるべきか、という問題が提起され続けている。全体で統一すれば、他学科のデータとの比較を通じてそれぞれの学科での課題やその解決法が浮かび上がってくるだろうという期待はあるものの、文学部各学科の教育学修の多様性を鑑みると、そのような統一はむしろ各学科の多様性を損ね、逆に課題を見えにくくしてしまうのではないかとこの恐れがある。また、データブックを外部に公開してはいるものの、学部外からの改善意見を受け付けるシステムがないため、創造的発展の機会を喪失している可能性がある。したがって、

①最低限の掲載項目の策定、②学部外からの改善意見の受け付け、以上の2点が今後の課題となるだろう。

なお、今年度も紙媒体での印刷製本を行わず、ホームページ等で電子媒体による公開のみとし、刊行経費の削減を行った。この方針を次年度以降も継続するか否かは、協議の対象とした。

②FD 講演会・研修会

活動実績

【FD 研修会】

2021 年度は2件のFD 講演会を行った。なお、両者ともウェビナー形式で行われた。

①コーチングの哲学（2021 年 10 月 6 日）

講師：佐良土茂樹氏（日本体育大学准教授）

②ハラスメント研修会（2022 年 1 月 12 日）

講師：白石和泰氏・西脇巧氏（TMI 法律事務所弁護士）

成果・課題

①では、近年のコーチング（学）の流れやコーチングの具体的な方法論、そして、その背景にある哲学が紹介された。これからの高等教育における「学び」のあり方に関し、ひとつの指針を文学部教員間で共有できたと思われる。

②では、教育現場におけるハラスメントの特徴と傾向、そしてハラスメントであると判断される法的基準（教育という目的に照らし合わせた場合の必然性の有無等）が紹介された。この種の問題はグレーゾーンが多く、法的基準が必ずしも学生・教員が受けるだろう実感と一致するわけではないとは言え、法的基準を予め知っておくことはハラスメントの予防に一定の意義があると思われる。

課題としてひとつ挙げるとすれば、FD 講演会中に双方向的な対話があったとは見なしがたい点が挙げられる。2021 年度はウェビナー形式で開催せざるを得なかったが、活発な議論を伴う効果的な講演会を可能とするような開催方法や形式を今後見定めていく必要がある。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/10/6	FD 研修会「コーチングの哲学」	FD	83	4	87	×
2021/12/1	学部別ハラスメント研修会（人事部主催）	FD	85	9	94	×
2022/1/12	文学部ハラスメント研修会	FD	79	9	88	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022 年度は、学部長のイニシアティブの下、文学部自己点検・評価委員会委員を中心に推進していく。

活動の中心は「データブック」の作成や年 2 回の研修会の実施といった、2021 年度の FD 活動を踏襲したものになるが、新型コロナウイルスによる状況が未だ予断を許さない中で、新たな FD 活動の企画についてはある程度慎重にならざるを得ない。たとえば、コロナ前では問題なく実施できていた学生の海外派遣や研究交流を推進する研修会・交流会等を実施しようとするならば、感染症対策とセットで計画・実施方法を策定することに加え、日本と相手方の国や都市の感染者状況と公的機関の対応によっては直前で中止しなければならない可能性がある。

また、「データブック」および学生からの各種アンケートや適正テスト等の分析結果の解釈と利用方法も慎重な態度が求められる。というのも、2021 年度のデータはコロナウィルスまん延前のそれと異なる傾向を見せると予想されるからである。それゆえ、データの結果にこれまでにない傾向が見られた場合は、同委員会内部でも多角的検討を行う。また、この問題に伴い「データブック」に記載する項目についても、検討と調整を同委員会で行いたい。

さらに、研修会については、ハラスメント問題に加え、対面・非対面・ハイブリッドといった講義形式の利点と欠点を共有し、manaba サービス等の有効活用を通じた新たな講義スタイルを各教員が作り上げられるような機会を提供するような企画を提案し、実施する。

以上

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

経済学部では教育および研究の質を高めるべく、全学で実施される授業評価アンケートや学部独自のゼミアンケートを中心に、FD 会合・FD 研修会・FD 視察等の様々な組織的な取り組みを行ってきた。こうした活動によって学部の教育力および研究力は毎年着実に向上している。2021 年度も、こうした活動を継続する計画である。

さらに 2021 年度は、2020 年度に引き続き、オンライン授業の実施という新たな課題を遂行する際に、FD 活動の枠を超えた自発的な情報交換の場をもち、教職員全体で教育の質保証に向けて取り組む。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①授業評価アンケート

活動実績

講義科目は全学方式、ゼミアンケートは学部独自方式で実施した。

実施科目：講義科目（春学期 287、秋学期：293）、ゼミ（春学期 20、秋学期 141）。

成果・課題

アンケート結果に基づいて授業改善に取り組むことができた。アンケート結果について経年的に集約し今後の資料としていきたい。今年度はコロナ禍における非対面講義に関して重要な学生の反応を得ることができた。

②FD 会合

活動実績

今年度は新型コロナウイルス蔓延による影響を踏まえて中止とし、次年度の開催に向けて、専任教員からテーマを公募し FD 推進委員会にて検討した。

成果・課題

3～4 つのテーマについて分科会方式にて FD 会合を実施する予定となった。オンライン教育に関連するテーマが多く寄せられており、引き続き、次年度においても検討の必要があると考えられる。

③FD・SD 研修会

活動実績

2021 年 12 月 2 日に Webex で川上淳之氏（経済学部経済学科准教授）による FD 研修会「東洋大学学生データベースを用いた研究」を実施した。

成果・課題

本学で収集した学生データベースについて、その特徴や利用に際しての留意点についてご紹介いただき、その後、データベースを用いた就職活動満足度との関係に関する研究結果についてご講演いただいた。その後の質疑応答を含めて知見を深めることができた。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/12/2 14:00～14:50	FD 講演会 「東洋大学学生データベース を用いた研究」	FD・SD	54	11	65	×

④学生目安箱の設置

活動実績

従来の学生との意見交換会では参加人数が集まらず、学部生から直接意見を聴取する機会を設ける手段として、経済学部生向けの ToyoNet-ACE のコースのアンケートに目安箱を設けた。（2021 年 5 月 24 日～2021 年 6 月 30 日）特にテーマは限定せずに、大学生生活や授業などに関する意見を募った。

成果・課題

116 人の学生から様々な意見が寄せられ、各学科で意見を確認のうえ、意見のあった学生に対し個別に回答を行った。目安箱の実施期間中は緊急事態宣言の発令により全ての授業が非対面で行われていた期間があったことから、非対面授業に関する意見が多く寄せられた。集まった意見は、今後の授業運営に活かしていきたい。

⑤FD 視察

活動実績

2022 年 2 月 17 日（木）から 19 日（土）の日程で久留米工業大学および久留米大学にて産学共同教育および Project Based Learning に関する見学・ヒアリングを企画したが、福岡県にて「まん延防止等重点措置」が実施されたため、受入先の都合により残念ながら中止となった。

⑥ 授業参観

活動実績

一層の教育改善に資するため、互いに授業を参観する授業参観（授業公開）を実施した。実施期間は5月から春学期終了時までとし、見学可能な科目はGoogle フォームを用いて専任教員にアンケート調査を実施することで選出した。

成果・課題

8科目の授業を公開した。見学者にはGoogle フォームを通じてフィードバックをもらった。フィードバックを行ったのは1名であったが、実際の参観者数はそれ以上であった。オンライン授業のため、自発的に個別にミーティング情報を公開し、相互に授業を見学して意見を交換し合う教員もいたことを付言しておく。このような授業参観は、相互に授業の質を改善するのに有益であった。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

コロナ禍におけるFD・SD活動となり、規模の縮小ややり方の変更を余儀なくされたものがあった。2022年度は、これら活動をどのように遂行していくのかを検討していく必要がある。一方で授業参観などを通じて、遠隔講義の課題や工夫の共有を行うなどポジティブな対応もできている。これら知見を2022年度の活動に生かし、さらに知見の蓄積と共有化を進めていきたい。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2021 年度もコロナ禍での FD・SD 活動を余儀なくされ、対面形式での計画は全て非対面での対応となった。WebEx を活用し、オンライン形式で実施した学部内 FD 活動では、昨年度に引き続き非対面授業の教授法に関する意見交換や学生指導に必要となるインターンシップに関する講演を通じて、教職員間の情報共有の場を設けることができた。また、教員間における授業公開や授業ごとのワーキンググループ会合開催の推進、学生アンケートを活用することにより、学部教育全体の質の維持・向上につながったと思われる。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①非対面授業に関する情報共有

活動実績

昨年度に学部内教職員が自由に情報や意見の交換ができるように開設したガルーンを今年度も継続活用した。非対面授業に関する教授法だけではなく、研究活動に関する質問、意見、情報なども寄せられていた。

成果・課題

情報交換ができる場を設けておくことについて改めて重要であると実感するだけでなく、一過性のコミュニケーションの場とならないように、今後も継続してアップデートしながら活用されることが望まれる。

②授業公開

活動実績

授業公開は、例年通り各学科が主体となり行われた。例えば、経営学科では、専任教員が担当する専門科目および基盤教育について、原則として全講義回を学科教員に公開することとしている（一部科目除く）。また、これらの科目の ToyoNet-ACE コースに閲覧希望教員を登録し、他の教員の授業運営を学べる機会を確保している。マーケティング学科では、助教を含む全教員（13 名、サバティカル教員を除く）が自身の担当する科目について 1 回分の授業をオンラインで公開した。全教員がいずれかの授業を視聴した（授業公開率&授業視聴率 100%）。

成果・課題

他の教員の説明方法や授業運営を参考とし、自身の授業に取り入れる上で絶好の機会となっている。特に、専門教育で複数コースを開講している科目を中心に教員同士で情報共有がなされるなど、非常に意義のあるものであったと考える。

③学部内 FD 研修会・講演会

活動実績

春学期に研修会、秋学期に講演会、計2回をオンライン形式で開催した。研修会では、積極的に教員間でICT・デジタルを活用するために必要な知識と技術の情報交換を意識した「非対面授業での教授法」について企画した。学部内の複数教員が講師となり、実際に活用している教授法を紹介しながら意見交換を行った。また、講演会では、近年学生が参加する機会が増えた就業体験“インターンシップ”について改めてどのような活動が行われているのかを理解する場を企画した。講師に本学社会学部の榊原圭子先生をお迎えし、「インターンシップとは何か」というタイトルで講演をしていただいた。

成果・課題

コロナ禍で過ごした2年間で教員の非対面授業に関する教授法のスキルは驚くほど向上し、授業の質は向上したと思われる。来年度は対面授業の比率が高くなることが予想されるが、習得した知識と技術を活かして、今でとは違う一段階上の対面授業運営を期待する。

講演会では、講演後に参加教員より活発な質疑応答が行われ、予定時間をオーバーする実りのある企画となった。今後の学生指導において、適切な説明を行う準備が出来ただけでなく、インターンシップの位置づけと重要性について再認識するものとなった。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/7/28 15:30～18:00 (Webex)	FD 研修会 「非対面授業に関する情報交換会」	FD・SD	45	6	51	×
2022/3/9 16:00～17:30 (Webex)	FD 講演会（榊原圭子先生） 「インターンシップとは何か」	FD・SD	46	5	51	×

④ 学生アンケートの活用

活動実績

全学実施の在校生・卒業生アンケートの結果を活用するだけでなく、学科ごとに学生アンケート等を実施し、その結果を学科会議で共有して教育の質向上に取り組んだ。例えば、経営学科では7月に新入生に対して実施し、84件の回答を得た（回答率26%）。回答者の90%以上から、学科の満足度についてポジティブな回答が得られた。マーケティング学科では、新入生の満足度や問題点を把握するために2回（第1回：4月3日、第2回6月1日）実施した。1回目（回答者123名、回答率76.9%）、2回目（同125名、78.1%）の回答があり、例年2回目の満足度等は評価が少し下がる傾向になるが、評価は全体として高いものであった。

成果・課題

学生にとってより良い学修環境を整備・提供するために、アンケートの結果は学部・学科教員で情報共有し、学習到達目標に即した教育方法の工夫やアイディアを交換し合っている。

⑤ 授業改善のためのワーキンググループ

活動実績

各学科が主体となって授業ごとのワーキンググループ（WG）を設け、教員間で教育手法を共有して授業内容の改善を図った。具体的には、専門教育科目である「基礎実習講義（3学科共通）」、「基礎演習入門（経営学科）」、「マーケティングデータ入門（マーケティング学科）」などである。また、英語教育分野においても教育検討委員会を開催し、非常勤講師を含めた懇談会も毎学期行って非対面授業や新カリキュラムについて話し合いが行われた。

成果・課題

次年度に向けた教材について見直しが行われるだけでなく、各教員のティーチングスキルや解決すべき課題を共有することにより授業改善がなされた。また、学習内容、成果・成績、今後の課題などは報告書としてまとめ、学科教員で共有が行われることにより、教育の質向上に向けた大きな成果となっている。

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022年度は、過去2年間のコロナ禍の非対面授業期から対面授業に戻る過渡期である。その過渡期におけるFD・SD活動のテーマとして、3つのテーマを据える。1つ目が「デジタル化のさらなる活用」である。この2年間、対面授業とは異なる困難なことに我々は直面してきた。非対面ならではの授業の組立、コンテンツ作成、プライバシーやセキュリティなどの問題であり、FD活動においても重点を置いて取り組んできた。2022年度は、これまでのデジタル化に関する知識をより深化させ充実した授業運営へと進化させる方策を学ぶ場を持つ。2つ目が「コミュニケーション」である。非対面授業の継続により教員も学生もバーチャルな場での

コミュニケーションについては学ぶことが多かったが、一方、リアルな対面でのコミュニケーションが手薄になった。そこで、改めてリアル対面でのコミュニケーションとはどのようなものか、考える場を持ちたい。3つ目が「公開授業」である。従来のFD活動においても、学科単位で教員間での互いの授業を（希望ベースで）公開してきたが、2022年度はFD委員会の活動として学科間での機会の共有も含め、より一層促進し、上記テーマ「デジタル化」「コミュニケーション」の工夫を学び合う場の一つ的手段として位置付ける。このほか、サブ活動として新たに改定された「授業評価アンケート」に関する勉強会の開催についても検討したい。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

法学部では教育の質を一層高めるべく、全学の取り組みである授業評価アンケートやシラバス・チェックなどの FD 活動に積極的に参画するとともに、学部内での独自の工夫もしてきている。その際、FD 学習会や単位僅少者面接などでは学部内の他の各種委員会との連携の下、課題を確認する。また、特に FD 学習会では教員からの要望に応じて企画を立て、実施する。継続的な活動を毎年実施しつつ、適宜工夫や改善を盛り込み、学部全体の教育能力の向上に努める。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①授業評価アンケートの実施

活動実績

春・秋の各学期に本学高等教育推進センターによる全学統一フォーマットを用いた授業評価アンケートを実施した（春学期：163 科目、秋学期：162 科目）。授業評価アンケートの実施後には、学生にフィードバックできるように授業担当者からのコメントをまとめ、公表した。学部独自の追加質問として、当該授業受講によって学生の知見がどのように深まったのか等の意見を収集し、また、志望進路（公務員志望など）に関する質問項目も設け、どのような学生が履修しているのか、担当教員が把握できるように工夫している。

成果・課題

前年度（春学期 172 科目、秋学期 169 科目）とほぼ同程度の科目数について授業評価アンケートを実施することができた。本アンケートにより各教員が自分の授業を客観的に振り返る良い機会となった。オンライン授業におけるアンケート回答率が特に低かったという声が聞かれるので、対面・オンライン授業にかかわらずアンケートの回答率を増加させるように引き続き取り組むことが課題である。

②単位僅少者面接の実施（学部 FD 委員会、学生生活委員会合同）

活動実績

留年率や退学率の低下につなげるべく、修得単位が少ない学生に対する個別面談を例年実施している。前年度は秋学期開始前の 9 月中旬にオンラインでの個別面談を学生生活委員会委員を中心に実施したが、今年度は春学期の追加登録期間前に学部 FD 委員会委員と学生生活委員会委員がオンラインでの個別面談を実施し、教員が学生の相談に乗るとともに助言を行った。

面談の時期については前年度とは異なったが、面談後には、担当教員の報告を基に、課題を確認し、教務課と密接な連携の下、前年度と同様に対応した。対象学生からは、オンライン授業への取り組み、課題レポートの講義が多くレポート作成方法が分からないという声があり対応した。また、面接対象者の保証人に、「単位僅少者面接結果通知」（欠席者には欠席通知）と、単位僅少状況の原因や課題、今後の改善点を学生に考えさせて作成させた「修学状況調査書」を送付した。

欠席学生には「修学状況調査書」を後日教務課まで提出させ、学習状況の把握や学生との面接といったフォローアップを教務課で行った。

成果・課題

教員に直接悩みや状況を話し、アドバイスを得ることにより、学生の勉学へのモチベーション向上につながったケースが多々見られた。今後は、欠席学生数をどのようにしたら減らすことができるのか、また、欠席学生をどのようにフォローするのが課題である。

③保護者との連携を視野に入れた取り組み

活動実績

法学部生の保護者に「14（とーよー）メール」と題したメールマガジンを毎月 14 日に配信し、教育活動の紹介や行事予定の案内、各種事務手続きなど様々な情報提供を教職員が行っている。2021 年度の配信件数は延べ 13,090 件（2020 年度 14,728 件、2019 年度 17,683 件）となっている。

成果・課題

大学側から直接保護者に連絡することで、保護者が大学の様子を身近に感じられる一助となっている。保護者のニーズに応える情報をさらに多く提供することが今後の課題である。

④法学部 FD 学習会の開催

活動実績

授業における教員間の工夫を共有する等の目的で、年 3 回の FD 学習会を実施した。まず、昨年度に引き続きオンライン授業が中心となる中で、昨年度の経験を踏まえた上での課題に、具体的に対応するための学習会を 2 回にわたり開催した。また、例年、着任間もない教員による本学での教育に関する課題や悩み・工夫などを講演してもらい、教員間で問題点を共有し意見交換する場を設けているが、今年度も 1 回実施できた。なお、FD 学習会とは別に、授業運営に関して自発的な意見交換会も設けられたことも付け加えたい。

成果・課題

昨年度の経験を踏まえた上で、今年度はオンライン方式と対面方式の両方を利用して効果的な FD 学習会を実施できた。特に最初の 2 回はオンライン授業・試験の技術的課題に対応する形であったため、参加教員からの反響が非常に大きかった。今後も FD 委員会としては、教員のニーズや現実に応じた、より実用的な内容を FD 学習会として企画していきたい。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021年5月11 日 15:30-	第1回 FD 学習会 安藤和宏教授「オンライン授業の改善のためのパワーポイントを利用した動画作成方法」	FD	45名	5名	50名	×
2021年6月1 日 15:30-	2022年度教育課程実施および授業運営等に係る意見交換会	FD	45名	5名	50名	×
2021年7月6 日 15:30-	第2回 FD 学習会 高橋豊美教授・鷲田任邦准教授・中田妙葉教授「非対面試験・レポート試験における工夫と課題」 安藤和宏教授「Excelを用いたToyoNet-Aceの小テスト作成方法」	FD	46名	5名	51名	×
2022年1月11 日 15:30-	第3回 FD 学習会 加藤隆之教授「担当授業の教授方法や工夫・課題」	FD	46名	5名	51名	×

3) 2022年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

今年度の実績を踏まえ、2022年度も適宜工夫を凝らしながら FD 活動を引き続き実施していく。その際、単位僅少者面接等において、学生生活委員会と緊密に連携して進めていくことを予定している。さらに、2022年度は FD 学習会のより一層の充実化が課題であり、教職員からの要望に応じて企画を立てることも努めることで、教職員全体で教育の質保証に向け、取り組むたい。その際に、ここ2年実施できなかった外部講師の招聘も積極的に計画したい。また、学部 FD の活動を大学のホームページで報告する体制を整えることも計画したい。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2020 年度は、新型コロナ・ウィルス感染拡大の影響を受け、具体的な委員会開催すら難しく、毎年慣例としている新任教員 FD 昼食会と年 3 回の研修会を実施することが不可能となった。しかし、オンライン授業への対応という新たな課題が浮上し、ネット授業での情報交換を実施した。また、外部講師を招き、キャリア委員会との共同で「対話の教室」をオンラインで実施した。

2021 年度は、通常の FD 活動再開が期待されたが、新型コロナ・ウィルス感染拡大が続き、昨年度と同様、慣例としている新任教員 FD 昼食会と研修会を年 3 回は実施することはできなかった。しかしながら、新任教員 FD（昼食抜き）と研修会 1 回は開催することができた。今年度は特に、学部長や教務課の協力も得て、2 つの新しい試みに挑戦した。

1. オンラインですべての活動を計画した。

特に **FD 講演会開催にはオンデマンド形式を導入**したのは画期的な試みであった。

新年度第 1 回 FD 推進委員会を皮切りに、新任教員 FD、春学期末の第 2 回 FD 推進委員会、秋学期には FD 講演会、そして年末には新任教員 FD のフォローアップとしての第 2 回新任行員 FD とすべて、オンラインで実施できた。

社会学部 FD 講演会は、今年度は 1 回しか実施できなかったが、オンデマンド形式で実施した講演会は内容の大変濃いものとなった。SDG s Week に LGBTQ をテーマとした講演会を実施することができたことは時宜にかなう、参加した教員にも高い評価を得た。さらにはこの高評価を受け、教務課の協力を得て **FD 講演会は全学部の教員・職員に向けて期間限定公開**されたことから、活動の充実ぶりを表していると言える。

2. 初めての試みとして新任教員 FD のフォローアップを計画した。

年末に第 2 回目の新任教員 FD を実施したことで、新任教員が着任 1 か月目に実施した第 1 回目の FD にて提起された疑問やコメントについて、半年後に追跡することができた。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

① 第 1 回新任教員 FD

新任教員 12 名には 4 月にメールで告知し、各学科の FD 推進委員および学部長にも案内を出した。参加者は、新任教員 11 名、FD 推進委員 5 名、学部長 1 名、社会学部教務課職員 3 名、合計 20 名が参加した。例年であれば、昼食をとりながら意見交換を実施してきたのだが、本年は新型コロナの感染拡大により、オンラインでの FD 開催となった。オンラインでの

開催ではあったが、新任教員からは自己紹介後に積極的に率直なコメントや質問があり、教職員が答える形式で進められた。議論したテーマ、また FD 後のアンケートでの回答は以下に集約される。

1. 東洋大の業務全般について：

- ・ Garoon や Toyonet-ACE は一度操作を覚えると便利で使いやすい。
- ・ 会計システムは複雑なので、最初に説明会があるとよかった。

2. 非対面オンライン授業実施について：

- ・ 大人数の講義でオンラインでのグルーピングが難しかった。
- ・ オンラインでは教室でのような双方向型授業の実施が難しいが、レスポンスやチャットを利用すると学生たちからの反応もよい。
- ・ 東洋大の学生たちは総じてまじめで、リアクションペーパーの提出率も高く、質問も多い。

3. ゼミにおける動画参加について：

オンラインゼミの際に、ゼミ生がマイクのみでの参加だと表情がわからずコミュニケーションがとりづらい。だが、動画参加をゼミ生に義務付けることはできないとのことなので、どうしたら学生たちに自主的に動画参加してもらえるか、について様々な意見がでた。

成果・課題

例年では新任教員は数名であるが、今年度は大人数の新任教員をお迎えした。皆さん積極的にご発言くださり、大変良かった。だが、昼休みの限られた時間に多くの教員にお話しいただく形となり、一人当たり十分な発言の時間を設けることができなかったので次回はもう少し長い時間を取りたい。

秋学期には教授会後に社会学部全教員対象の FD を実施予定である。

添付資料

添付資料：新任教員 FD アンケート結果

Q1. 着任後に、東洋大学の業務全般で、感じられたことが何かありますか？

- ・ 良い意味で官僚的なしくみで、事務処理に関してはなんとかなるところがあり、これまで教えてきた大学と比べ、事務処理負担が軽く、授業準備に専念できるのは良いところだと思います。また、オンラインのシステムは使いづらい部分もありますが、これまで所属した大学よりも非常に良いので助かっています。
 - ・ 多くの先生方のご指摘されていましたが、Garoon や ToyoNet 等がとても便利で、非常にありがたいな、と感じました。ただ、個人研究費について amazon の利用は控えてほしい、とのことで書籍購入が amazon なら 1-2 日で受け取れるところを 10 日程度待たなくてはならないようなことになるのが難しいと感じています。

・今のところ授業も会議もオンラインだが、不便は感じない。ToyoNet-Ace も使いやすい。他の教職員の皆さまとの交流が深まらないのは寂しいですが、今の状況下では致し方ないところかと思います。

・教育研究の環境がよいと感じています。教育については LMS と図書館がとても使いやすいと感じています。研究については、図書館に蔵書も多く、電子ジャーナルも充実しており、便利だなと思っています。

・会計システムの利用の実際について、一度説明会があるとありがたかったです。（個別に質問をしてすでに解決しましたが、一緒に質問させていただく機会が設けられていた方が気兼ねが少ないと思いますので）。

・教室割り当てをどこで確認するのかがわかりませんでした。（担当授業については事務室で教えていただきましたが、本来どこで確認するのか知りたいです）

Q2. 授業を進める上で、特に注意していることはありますか？

・学生とのコミュニケーションは当然注意しています。ただこればかりは、毎年状況が変わるので、注意をしても同じ対応ができないので、学生も色々いるということを何度も言い聞かせるようにしています。

その上で、学生の傾向をなるべく把握し、可能な範囲で楽しく学習できるように環境と雰囲気づくりは細心の注意をはらっています。また、学生のコメントなどには可能な範囲で丁寧に返答するよう心がけています。

学生の方に選択肢があり自分に意思決定の場があると学生自身が自覚できた場合は進んで勉強する気がするので、なるべく学生が主体的に意思決定ができるような場を設けるようにしています。個別の要望への対応もなるべく行うようにしているのと、先生はあくまで学習のコーチングで、学生同士で勉強するような雰囲気作りをこころがけるようにしています。

・オンラインでの開催ということもあり、開催方法や資料の提示は一元化し、毎回わかりやすく提示することに努めています。また、学生と教員が協力的に授業を作り上げていくことができるよう、学生の皆さんが発言しやすく、素直にわからないことをわからないといえる環境づくりに努めています。

・オンデマンドでも双方向性をもたせるために、毎回のコメントペーパーへのフィードバックに時間を割いている。

学生の視聴しやすさを考え、授業資料は動画にし、字幕を付けている（元々は聴覚障がい学生への配慮であったが、他の学生にも好評である（準備に時間はかかりますが・・・））。

・オンライン授業が続いているため、丁寧な言葉遣いをするように特に注意しています。

Q3. 東洋大学の学生に対して、感じられたことが何かありますか？

・どこの大学でも様々な背景をもつ学生がいますが、傾向として、真面目ではあると思います。時々、怖いくらい。考えて判断しているのかなと思うくらい、言えばやるという感じでしょうか。ただ受け身の傾向というか、シャイとかではなく、なるべく面倒くさいことはしたくない方向でいきたい、という学生もあり、背中を押してあげないといけない印象はうけます。意思表示はこちらがお願いしなければやらない感じですが、受け答えはしっかりしている感じがします。

・学生さんの中には（特に1年生）、「自分はあまり頭が良くないから心配」とメールやコメントを送ってくる方がいて、心配です。「わからない」ことを解消できるような態度や建設的な取り組みができるように促していけたら、と感じています。

また、個人差の問題かもしれませんが、接している人数が少数なのでわからないのですが3年生の元気があまりない印象を持っています。

・真面目な学生が多いのか、コメントペーパーは長く書いてくれているものが多い。

ゼミのグループワークでも割と活発に議論してくれている。

また、海外に行ったり勉強会を立ち上げたり、活発で外向的な学生が多い印象。

・オンライン授業が続いているため、学生の様子や雰囲気はまだ十分に実感や把握できていないというのが正直な感想です。授業では、試行錯誤しながら慎重に丁寧に接するように心がけています。対面授業が再開されましたら、学生への接し方ももう少し工夫できるのではないかと思います、その点は楽しみにしています。

Q4. 東洋大学における改善点や改良点などのご意見があれば自由にお書きください

・特段ないですが、わがままをきいていただけるのであれば、業務に関して気軽に相談できる環境があればな、と思う所存です。これは学生と少し雑談したところで気づきました。先生が「質問ありませんか」や「気軽に質問していいですから」とは言っても、聞く側からすると聞ける雰囲気がない、どこに行けばいいかわからない、何がわからないかもわからなく混乱している状態だと聞きづらい、というのがあったと言われました。恥ずかしながら、自分も学生と同じような態度を、大学の業務を進める中でしてしまっている感がありました。大人になれという話で自分の問題ですが、環境があればと思っています。またFDなどで、より良い授業ができるように、気軽に相談できるような場、あるいは訓練できる場があればと考えています。

・特に今の時点では思いつきません。1年ゼミと4年ゼミを続けて開催するスケジュールになっているのですが、4年生が大変しっかりしています。約3年でこんなに成長するのだなと思わせられる反面、先生方が丁寧に対峙されてきた故なのだろうとも感じております。1年生の成長をサポートできるように向き合えたらと背筋が伸びる思いです。

Q5. 今日の新任教員FDについてご感想を自由にお書きください

お忙しいところ機会をいただきありがとうございました。少し話せる機会があるだけでも助かりました。

・この度はこうした会を開催してくださりありがとうございました。学生の皆さんともなかなか会えないのと同様に先生方ともなかなかお会いする機会がないので、とても嬉しく参加させていただきました。いろいろと勉強不足なところばかりですので、引き続き先生方とゆるゆと交流できる機会がありましたら、大変うれしく存じます。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

・このような状況下で、他の教員の皆さまがどのように授業をしているのか等を知る機会がないので、大変ありがたかったです。

ただ、皆さん忙しい中なので仕方ないが、時間が短かったように思う。特に、大人数のゼミは初めてなので、皆さんどのようなやり方をしているのか聞いてみたかった。

・大変お忙しい中、こうしたFDを設けていただき、誠にありがとうございます。オンラインであっても、また、短時間であっても、こうした会に参加させていただけますと、今後、もしかしたら学内での教育研究を通じた交流に発展できる可能性もあるかと存じます。そうした意味で、会を設けていただき大変感謝しております。また機会がありましたら、ぜひ参加したいと思います。

・事前のアンケート記入をもとに問題点を共有するかたちでもよかったかもしれないと思いました。

②2021 年度社会学部 FD 講演会

活動実績

演題：「LGBTQ+ と性の多様性～誰もが自分らしく学べるキャンパスの在り方～」

講師：時枝 穂（Rainbow Tokyo 北区代表）

五十嵐 ゆり（レインボーノッツ合同会社代表）

講演会要旨：2015 年に起きた一橋大学アウティング事件、2018 年、お茶の水女子大学で、トランスジェンダー学生の受け入れ表明や、2017 年、早稲田大学で、国内大学発となる LGBTQ 学生や支援者が集まれるリソースセンターができる等、昨今、大学における、性の多様性に関する取り組みは目まぐるしく変化している。

誰もが自分らしく学べるキャンパスのあり方とは。生の多様性、LGBT・SOGI に関する基礎的な知識から、大学・教職員に求められる対応などについて、具体的な事例を交えて理解を深める。

参加人数：講演会動画公開期間には 100 回の再生数があった。講演の感想や講演者への質問もいくつか寄せられたので、この報告に添付する（「報告資料」参照）。

講演は大変好評であり、社会学部教職員からは、学部学生や東洋大学内他学部教員対象にも同様の内容の講演をオンデマンドで実施してはどうか、という提案が複数寄せられた。社会学部の学生対象には今年度同様の講演会が2回予定されている(添付資料参照)。

◎学内他学部教員対象にも、今回の講師による講演動画の公開を企画することとなった。

成果・課題

コロナ禍の折、初めての試みとしてオンデマンド形式でFD講演会を実施したところ、開催形式も好評であった。来年度以降の講演会開催は、リアルタイム形式とオンデマンド形式を状況や講演内容によって使い分けることも検討したい。今年度の今後のFD活動としては、12月に新任FD(6月開催)のフォローアップ懇談会を任意参加で実施予定である。

添付資料

添付資料1: FD講演を視聴後に教員から寄せられた感想

- ・学生と接する教員の立場で拝聴致しました。

豊富な事例、理解のしかたに関する示唆など、学びとなることがたくさんありました。

これまで、教室のなかで該当学生と推定される学生と接する際など、なるべく配慮はしているつもりでしたが、それが、当人に疎外感を感じさせないことにつながるはずと理解できたことも収穫であり、今後の教員としての指針になりました。

- ・お二人ともアナウンサーのようにお話しが上手で、とても聞きやすかったです。教員だけではなく、多くの方に聞いていただくとよい内容だと思いました。全学で公開することに賛成します。他大学の一步進んだ取り組みを学ぶとてもよい機会だと思います。

- ・動画を視聴いたしました。ぜひ授業で学生にも同様の話を聞かせたいです。

- ・ビデオを拝聴しました。

とても分かりやすく説明されていて大学教員として知っておくべきたくさんの学びがありました。私は恥ずかしながら、「LGBT」は知っていても最近では、LGBTQと呼ばれることや、「Q」の意味など知らなかったのが今後はLGBTQという呼び方を使おうと思いました。そうした知識面での情報に関しても学べましたし、授業などでも使えるニュートラルな表現については早速、使っていきたいと思いました。

また、お勧めの書籍もご紹介下さっていてまず1冊読んでみる時に、どんな本を手にとったら良いのかも分かって良かったです。ぜひ、全学の先生方にも見ていただきたいです。

- ・FD講演会の企画をありがとうございました。個人的に、とても勉強になりました。

今後とも、このような社会学部ならではのテーマの積極的な情報発信と、全学へ向けての展開に期待いたします。

- ・個人的には、こうした啓発活動で用いられる、E (Expression) の説明については、若干の危うさも感じています。

服装等の身なりは、ジェンダーの表現に使う方もいるし（「女らしい恰好を表現するものとしてのスカート」）、同じ身なりをそれとは全く別の表現目的で使う方もいます（「男らしいスカート」あるいは単に「スカートをはいている人としてのスカート」「野球ファンとしてのスカート」）。そもそも何も表現するつもりがない人もいます（つもりがないからといって、その服装を見る人が何も意味を与えないかと言うとそうではないので話は複雑ですが）。

人の身なりの表現を、ことごとく Gender Expression として「ジェンダーを表現するもの」と位置づけることが自明（当然）であるかのような説明は、逆に身なり（表現）に対する性別ステレオタイプを強化したり、身なりについて他者が意味を付与する際に男女二分軸で判断することを自明に特権的に扱うような日常実践になりはしないか、少し危惧するところがあります。

講師の方はこういった点についてどうお考えになるのか、対面研修であつたらうかがってみたいところでした。なにせよ、大変示唆に富む講演会をご企画くださいましたことに、感謝申し上げます。

【ご参考】

学生たちにも LGBTQ 関連の講演会を視聴する機会があればよい、とのコメントも寄せられていますが、今年度は当学部社会学部でも以下の講演会が開催されます。

ご参考までに。

日時：10月22日（金）2限「社会学基礎演習」（10:40-12:10）

演題：「LGBT/SOGIE から考える多様性 ～職場・キャリア形成における
ダイバーシティ & インクルージョン～」

講師：有田 伸也氏（NPO 法人 虹色ダイバーシティ 東京スタッフ）

開催形式：[20211022 虹色ダイバーシティ フライヤーver.2 \(1\).pdf](#)

以上。

2021年10月20日

2021年度東洋大学社会学部FD推進委員会委員長

平島 みさ

添付資料2：FD講演会開催趣旨と講師プロフィール

<開催日時・形式>

開催日時：2021 年 10 月 4 日（月）～18 日（月）

開催形式：事前収録動画を期間限定のオンデマンド公開。

（PPT を用い、2 名の講師が講義・トーク）

<タイトル>

「性の多様性」～誰もが自分らしく学べるキャンパスのあり方～

<講演要旨>

2015 年に起きた一橋大学アウティング事件、2018 年、お茶の水女子大学で、トランスジェンダー学生の受入れ表明や、2017 年、早稲田大学で、国内大学初となる LGBTQ 学生や支援者が集まれるリソースセンターができるなど、昨今、大学における、性の多様性に関する取り組みは目まぐるしく変化してきています。

誰もが自分らしく学べるキャンパスのあり方とは。性の多様性、LGBT・SOGI に関する基礎的な知識から、大学・教職員に求められる対応などについて、具体的な事例を交え理解を深めます。

<講師>

時枝 穂（ときえだ みのり）

Rainbow Tokyo 北区 代表

（一社）Marriage For All Japan－結婚の自由をすべての人に アドボカシー事務局長
自治体にパートナーシップ制度を求める会・

プライドハウス東京 コンソーシアムメンバー

トランスジェンダー女性。東京都北区を中心に、ダイバーシティを推進する市民団体を運営。自治体において、同性カップルを家族として公的に認めるパートナーシップ制度の普及、同性婚（結婚の平等）の実現に向けたロビイング等を行う。性的指向・性自認に関する施策、企業・自治体・大学での講演。LGBT の訪日観光客向けツアー企画・寺院関係者向け LGBT セミナー。渋谷クロス FM／ラジオ MC。プライドハウス東京レガシー運営等に関わる。

五十嵐ゆり（いがらし ゆり）

レインボーノッツ合同会社代表 / NPO 法人 Rainbow Soup 代表 / 一社 LGBT 法連合会理事 / 筑紫女学園大学非常勤講師

1973 年東京都生まれ。2012 年、LGBTQ 支援団体 Rainbow Soup を発足。2015 年 3 月に NPO 法人化し、レズビアンであることをオープンにする。2015 年 7 月、アメリカ国務省主催

の LGBT プログラム研修生に選抜。2018 年、レインボーノッツ合同会社を設立し、SOGI・LGBT をテーマにした企業・自治体向け施策支援・社外相談窓口対応を展開。企業・自治体での講演実績多数。

以上。

担当：平島みさ

添付資料 3：FD 講演会広報用ポスター

2021 年度社会学部 FD 講演会



〈講演会要旨〉

2015 年に起きた一橋大学アウティング事件、2018 年、お茶の水女子大学で、トランスジェンダー学生の受け入れ表明や、2017 年、早稲田大学で、国内大学発となる LGBTQ 学生や支援者が集まれるリソースセンターができる等、昨今、大学における、性の多様性に関する取り組みは目まぐるしく変化しています。

誰もが自分らしく学べるキャンパスのあり方とは。生の多様性、LGBT・SOGI に関する基礎的な知識から、大学・教職員に求められる対応などについて、具体的な事例を交えて理解を深めます。

2021 年 10 月 4 日(月)~10 月 18 日(月)

期間限定 オンデマンド公開

講師： 時枝 穂 (Rainbow Tokyo 北区代表)

五十嵐 ゆり(レインボーノッツ合同会社代表)

連絡先：社会学部 FD 推進委員会 平島みさ hirashima@toyo.jp

③2021 年度社会学部 FD 講演会(東洋大学内全学部教職員向けに講演会動画公開)

活動実績

演題：「LGBTQ+ と性の多様性～誰もが自分らしく学べるキャンパスの在り方～」

講師：時枝 穂 (Rainbow Tokyo 北区代表)

五十嵐 ゆり (レインボーノッツ合同会社代表)

講演会要旨：2015 年に起きた一橋大学アウティング事件、2018 年、お茶の水女子大学で、トランスジェンダー学生の受け入れ表明や、2017 年、早稲田大学で、国内大学発となる LGBTQ 学生や支援者が集まれるリソースセンターができる等、昨今、大学における、性の多様性に関する取り組みは目まぐるしく変化している。

東洋大学においては全学的に LGBTQ の学生たちの受け入れ体制や在学生への対応を整える方向で様々な取り組みを開始している。そのような現状において、このたび社会学部 FD 推進委員会が社会学部内教員、職員向けに公開した FD 講演会では、LGBTQ に関する基礎知識がわかりやすく説明され、かつ当該学生たちへの対応についても具体例を挙げながら説明していることが高く評価された。そうしたところ、社会学部教務課と学長室から学内他学部の教職員向けにも講演動画の公開が提案され、教授会の賛意を得て、社会学部 FD 講演会としては初めて講演内容を 11 月 5 日から 21 日まで全学公開し、211 回（社会学部分含む）再生された。

成果・課題

時期的にも、東洋大学において SDGs 行動憲章が制定され、10 月 1 日～11 月 30 日は SDGs Weeks であったため、時宜にかなった講演会公開となった。

今回、このように社会学部内の講演会を広く全学公開することができたのも、FD 講演会初の試みとしてオンデマンド形式による講演会を実施した成果のひとつであるといえよう。

④第 2 回新任 FD 講演会

活動実績

「着任 8 か月での業務全般に関する感想、オンライン授業・ゼミに関する意見交換会」

このイベントは社会学部に今年と着任した新採教員を中心とした教員間の意見交換会で、今年度第2回目となります。学部教員全員を対象とし、教授会で案内と参加の呼びかけをし、Webex Meeting の設定で全教員に招待メールを発信しました。

当日は新採教員 6 人、FD 推進委員会の教員を含めその他の教員 11 人、教務課職員 2 人の合計 19 人が参加しました。

意見交換会は冒頭、新採教員から 4 月以降の授業をはじめ大学での勤務などについての感想や問題点などを発言していただき、そのほかの教員らがそれに対して各自の体験や工夫などを述べるという形で進めました。

新採教員からは、コロナ・ウィルス感染拡大の中でのオンライン授業の進め方、特にハイブリッド方式の授業の進め方が難しいとか、学生間の意見交換や教員への質問や相談がやりにくいなどの指摘がありました。またゼミについて学生数が多いためゼミの運営の仕方が難しい、卒論の指導が行き届きにくいなどという意見が出ました。

参加教員から、自らの体験に基づいたオンライン授業の進め方、多人数ゼミの指導方法などについて具体的な方法や提案が示され、新採教員だけでなく、他の教員にとっても貴重な情報共有の場となりました。

成果・課題

今回はオンラインでの意見交換という制約があったにもかかわらず、途切れることなく発言が続きました。こうした意見や情報の交換の場が今後も必要であることが痛感されたので、来年度以降も継続して、可能であれば対面で行われることが望ましいと考えます。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/5/25 12:15～13:00	第1回新任FD研修会 「東洋大学着任1か月での業務全般に関する感想、オンライン授業・ゼミに関する意見交換会」	FD	17	3	20	○or×
2021/10/4～ 2021/10/18	2021年度社会学部FD講演会 「LGBTQ+と性の多様性～誰もが自分らしく学べるキャンパスの在り方～」	FD			97回 動画 再生	
2021/11/5～ 2021/11/20	2021年度社会学部FD講演会 「LGBTQ+と性の多様性～誰もが自分らしく学べるキャンパスの在り方～」 (東洋大学内全学部の教職員向けに講演会動画再生)	FD			211回 動画再生	
2021/11/15 16:30～17:30	第2回新任FD研修会 「東洋大学着任8か月での業務全般に関する感想、オンライン授業・ゼミに関する意見交換会」	FD	17	2	19	

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021年度は昨年度に引き続き、新型コロナ・ウィルス感染拡大の影響で、通常通りのFD推進活動を実施するのは困難であった。しかしながら、その反面、オンライン、オンデマンドでの活動という新たな形式でのFD活動に挑戦する機会を得た。この貴重な経験を今後のFD活動にも生かしていきたい。

2022年度はさらに、社会学部の教員、職員にとって、教育の向上につながる内容の活動を実施できるよう、工夫しながら活動を充実していく所存である。また、オンラインでの活動の可能性についても広げていきたい。以下、予定している計画である。

① FD委員会の定期的な開催

社会学部FD委員会を年4回開催することを目標とする(オンライン開催も可)。

- ・ 5月上旬 年間計画の再確認
 - ・ 7月下旬～8月上旬 次年度予算要求のための計画の立案
 - ・ 12月上旬 年内の計画の進捗状況の確認および報告書の作成
 - ・ 1月下旬 報告書作成と当該年度の活動内容の反省及び次年度への引継ぎ事項の確認
- ② 新任教員に対するFD昼食会(5月末頃)、フォローアップ会の開催(12月頃)
- 新年度開始時に社会学部新任教員との交流を深め、本学の授業に関するFD昼食会を実施。
可能であれば、年末ごろにフォローアップ会の開催。
- ③ FD講演会の開催
- 当該年度のFD講演会の実施の具体案を第1回FD委員会で企画する。
可能であれば、通常通りFD講演会を3回開催する。
今年度はオンデマンド形式で複数講師によるFD講演会が公表であったこともあり、3回のうち1回はオンデマンド形式、または複数講師の対話形式開催の可能性も視野に入れる。
- ④ 年間活動報告書作成
- 報告書の作成に向けてスケジュールを確認し、各委員の担当部分を決定する。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、理工学部における学士力の質保証と専門教育を学生に提供できるように努めた。講義は学期または感染状況により対面・非対面授業を交えた形式で行い、従来の FD・SD 活動として出席状況確認、基盤教育科目の学習支援、グローバル化への取り組み、学修相談会を実施した。

初年次教育における学士力の保証については、春学期における 1 年生の平均修得単位数は約 20 単位、平均 GPA は 3.01（平均評価 B）を超えており、昨年度とほぼ同様の高い修得率であった。また理工学部生の学修意欲と教員の教育力を向上させるために、オンライン教育における利点および課題点について講習する機会を設けた。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①春・秋学期の出席状況確認

活動実績

春学期 4 月 7 日～ 5 月 11 日（第 1 回～第 4 回講義）

秋学期 9 月 17 日～10 月 14 日（第 1 回～第 4 回講義）

成果・課題

各学科で定めた主要科目について出席調査を実施した。出席不良や課題の提出が芳しくない学生に電話連絡して状況を確認し、その結果について各学科で情報共有した。

②基盤教育科目の学習支援

活動実績

基礎科目学習支援室

英語学習支援室・GCS 講座

成果・課題

基礎科目学習支援室では、学生の学習支援を対面と Webex の 2 つの方法にて対応した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため基本的に予約制として、予約せずに来室する場合は受付にて予約状況を踏まえて対応した。学習支援の成果として、微分積分学 A の合格率は 2021 年度春学期履修者 450 名中、合格者 382 名(合格率 84.9%)であった。2020 年度の合格率 89.9% からやや低下した理由は、成績評価で期末試験の比重を大きくしたためである。とはいえ、2019 年度以前には合格率が約 30%で推移していたことから、十分に高い数値といえる。本科

目の不合格による原級に改善がみられたことから、今年度をもって共通試験・再試験・追跡調査を終了することとなった。一方、2021年度の相談件数は195件(3/1時点)であり、2020年度の相談件数372件(3/1時点)の半分程度である。これは、感染症対策のため、実施ができなかった講座があったことが要因と考えられる。非対面での学習支援も実施していたが、事前予約制としたことで相談へのハードルが上がったことも考えられる。2022年度は、2019年度以前の実施体制に戻して対応していく。

英語学習支援室およびGCS講座では、キャンパスのスケジュールに合わせて対面またはWebexによる学習支援を行った。原則として学習支援は予約制で対応した。2021年度の利用者数は3259件(4/1-3/1)であった。2020年度の同期間は1477件であり利用件数が大幅に増えた。これは、4月から学習支援できる体制が整っていたこと、留学相談の件数も徐々に増加しているためと考えられる。

次年度も感染状況に応じて、学生の学習支援に取り組みたい。

③グローバル化への取り組み

活動実績

英語による授業科目の開講 ⇒外国語で行う授業科目数：90科目
外国語で行う授業科目実施率 8.1%

成果・課題

外国語で行う授業は感染状況に応じて対面授業から非対面授業に切り替えて行った。外国語で行う授業科目は殆どが遠隔授業であったが、例年と同程度の開講コース数を維持することができた。しかし授業科目の実施率は10%未満であり、履修者数が少ない状況を改善するには時間を要すると思われる。外国語に対して学生の学修意欲を高める工夫を情報共有することで、実施率の向上に努めたい。

2021年度の理工学部卒業生からTGLゴールド認定者が0名、シルバー認定者が3名、ブロンズ認定者が123名であり、認定者数はこれまでで最多となった。ただし、新入生対象のTGLプログラムは実施できていないこと、講座などは現在もリモートで行っていることから、例年よりも参加者は少なめであった。

④学修相談会

活動実績

春学期 2021年9月18日、秋学期 2022年3月19日

成果・課題

各学科が定めている単位僅少者修得単位基準に基づいて、成績不良の学生を対象に面談を行った。過年度のように対面形式による学修相談会を開催できないことからWeb面談、メール相談、電話相談による相談会を9月18日に実施した。感染状況を踏まえて、3月19日の学修

相談会も Web 面談，電話相談，メール相談にて相談会を開催した。単位僅少学生および保証人と今後の履修計画および学修計画について話し合った。

⑤川越キャンパス fd 講演会

活動実績

日 時 2021 年 10 月 28 日～2021 年 11 月 25 日（オンライン配信）

講 師 渡辺雄貴（東京理科大学）

テーマ オンライン教育は何を育て、何を育てられないのか？

成果・課題

東京理科大学教授 渡辺雄貴先生により「オンライン教育は何を育て、何を育てられないか？」と題して講演して頂いた。コロナ禍でオンライン授業が増えたことから、2020 年度実施の在学生アンケートの結果を踏まえて、遠隔授業における授業設計について留意すべき点を解説して頂いた。理工学部教職員 124 名が視聴した。オンライン教育を通じた学生の学習意欲向上について、本学教員が知る機会となった。

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/10/18- 11/25	川越キャンパス FD 講演会 「オンライン教育は何を育て、 何を育てられないのか」	FD	73	51	124	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、大学講義，学習支援を行った。昨年度の遠隔授業における課題を改善したことにより、各教員が 2021 年度の講義および学習支援を恙なく実施することができた。学修相談会は初めて非対面形式で実施することとなった。この経験から、これまで遠方に在住していることで参加できなかった保証人も、相談しやすい体制が整備されたといえる。学習支援・履修指導の質保証が最重要点なので、非対面形式による課題を検討したい。

2022 年度は例年通りの FD・SD 活動を継続しつつ、理工学部教員と川越事務部職員が学生の学士力保証を目指した教育に努める。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

前年度に続いて、2021 年度の FD 活動も新型コロナウイルスの影響下で展開されることとなった。感染状況によって大学の運営や教学のあり方も変わるため、FD 活動も事前の計画に基づいてというよりは感染状況を見ながらの対応という不便さを強いられた。

しかし、こうした特異な状況があったからこそ FD 活動にある種の方向性や枠組みが与えられた、という実態もあった。すなわち、こうした状況の中で大学教員に求められる新たな資質や能力などが明瞭になっており、その育成に向けた共通認識も醸成し易くなっている。

そうした中、本学部では具体的に次のような点を挙げて 2021 年度の FD 活動に臨んだ。

- ICT や非対面授業の運営や実施に関する力量を伸ばす
- 理系学部の特質である実習・実験授業の多さに起因する諸課題へ対応する
- コロナ禍による不利益を学生が抱え込まないよう的確にサポートする

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

① TA・SA 研修会

活動実績

理系学部にとって、実験・実習授業の補助を行ってくれる TA/SA は必須の人材である。2021 年度は計約 90 名の TA/SA を必要としており、希望する学生たちには高等教育推進センター主催の研修以外に、生命科学部・研究科独自の研修プログラムが用意された。

春学期開講科目の TA/SA 希望者を対象としては、4 月 24 日（土）の午前中を使って対面での研修会を行った。ただ、研修プログラムの中に「グループ・ディスカッション」を予定していたが、緊急事態宣言が発出される前日だったことと飛沫防止のため、代替として「課題の記入」とそれに対する「同じ実験担当 TA/SA からのコメント出し（付箋の利用）」を実施した。その付箋付きの課題は、後で実験担当教員に回送され、教員から TA/SA へ返却される際に注意事項などの共有が図られた。

秋学期においても、高等教育推進センターのオンデマンド型研修以外に追加で独自の研修を企画し、新型コロナウイルスの感染状況やワクチン接種の都合などによって、非対面で「WORD を用いたグループワーク」を行った。担当する実験科目ごとに学生にグループになってもらい、資料を基に協働しながら課題に取り組んで提出する内容のもので、10 月 11 日（月）～11 月 1 日（月）を実施期間として行った。

成果・課題

春学期の対面式の研修会では、不自由ながらも学生間の意見交換が直接行われ、参加者は熱心に取り組んでいた。付箋を用いた代替措置にもメリットがあったようで、学生からはむしろ先輩後輩に関係無くコメントを出しやすかった、といった感想も寄せられた。秋学期の研修会は非対面式のみになってしまったが、実験・実習の安全管理などについてグループ活動を通じて意欲的に取り組まれたと考えている。

課題としては、春学期の対面式研修会で講義や就職活動の都合で参加できなかった学生が発生したことが挙げられる。この点、非対面式の課題提出型で実施された秋学期の研修のあり方に分があった。ただし、特に実験・実習の安全面については、教員から学生たちに直接力説して理解の徹底を確保したい内容が少なくないため、全員揃っての対面式での実施がスムーズに継続できたらと考える。

② 基礎学力テスト・PROG テスト

活動実績

本学では主に新入生の非認知能力などの把握のため、全学的な取組として毎年 4 月に株式会社リアセックの PROG テストを行なってきた。生命科学部でも、これまで新 1 年生と新 3 年生を対象に PROG テストを実施してきた。しかしこの全学的な取組も 2020 年度をもって終了したため、今年度から新 1 年生については生命科学部独自の「基礎学力テスト」を柱として対応することになった。一方の新 3 年生については、新入生当時との資質や能力の経年変化を見るために、引き続き PROG テストを行なった（このための予算は生命科学部 FD 予算から支出している）。

今年度の「基礎学力テスト」は、ToyoNet-ACE を使って 4 月 2 日正午から 4 月 3 日 23 時 55 分まで公開・実施された。内容は「生物」が 30 分間、「化学」が 60 分間で、試験受付終了時刻に受験者への成績公開がなされた。また受験後には、新入生アンケートも行われた（入試で受験した教科に関するアンケートで、所要時間約 5 分）。

3 年生の PROG テストは ToyoNet-ACE で案内を出しオンラインで実施した。受験期間は 4 月 7 日から 4 月 23 日までであったが、受験状況を見て 5 月 7 日まで延長された（一部で 6 月 4 日までの追加受験を可能とした）。学生への成績公開は 5 月 25 日に行われた。教職員に対する PROG テストの結果説明会は、10 月 4 日の生命科学部教授会の前に約 1 時間を使って株式会社リアセックの担当者からオンラインでなされた。

成果・課題

本学部では「基礎学力テスト」のような新入生の学力を測定する試みをこれまでも実施してきたが、PROG テストが無くなったことによってその意義がより高まったといえる。また 3 年生の PROG テストも、学生の非認知能力に関する貴重な資料といえるので、これら 2 つのテストで認知能力と非認知能力の両方を見ることができ、本学部の学生理解や指導の向上につながれたと考える。

一方で、新 1 年生等の非認知能力について、PROG テストに代わる把握や理解の方法が欲しいところである。学力に代表される認知能力は、顕在化しにくい非認知能力と表裏の関係にあるとの認識が学校現場や行政では共有されている。特にアクティブ・ラーニングのような学習者の主体的・協働的な学習活動では非認知能力の果たす役割は大きい。学生の能動的な学習活動を推進していくために、今後も何らかの手段で学生の非認知能力の把握と活用が必要であろう。

③ F D ・ S D 研修会

活動実績

コロナ禍ということで、今年度の研修会もオンラインで実施された。研修会は春学期・秋学期にそれぞれ 1 本ずつで、研修テーマは 1) で述べた活動計画の 3 つの点の最初の 2 点に対応している。実施の概要については、この項の「活動記録一覧」表を参照されたい。

また、生命科学部においては所属教員の殆どが生命科学研究科にも所属しているため、いずれも研究科 FD 委員会との連携・共催という体制で実施された。同様に、生命科学研究科 FD 委員会が主催の研修会については、生命科学部 FD 委員会も連携・共催という形で参画している。生命科学研究科主催の FD 研修会については、生命科学研究科の報告を参照されたい。

成果・課題

いずれの研修会も時宜を得た内容のもので、また理系学部のニーズにも応えるものとして提供されている。理系学部にとって実験室の安全確保は必須の要件であるが、平穏な日常が常態化すると気の緩みなどから事故が発生することがある。春学期の安全講習はそうした事態の再発防止に向けた取組である。秋学期の研修会も、コロナ禍で特に対面機会の多い実験・実習授業をどう運営するかについて、海外の事例から知見の獲得をするものであった。いずれの研修会においても、参加教員はモチベーションを高く保ち、また明確な目的意識をもって取り組んだ様子であった。

そうした一方で、今年度の活動計画の 3 点目については、FD 研修会のテーマとしての取り上げができなかった。ただこれについては、2020 年度実施の 2 本の FD 研修会が、コロナ禍という状況からいずれも学生支援に関するもの（コロナ禍での就活支援と心理的サポート）に特化していたため、今年度に扱いが無くとも特段の不具合は無かったと考えている。

オンラインでの開催については、具体的には Webex や Zoom を使うことになる。Webex は本学の標準的なビデオ会議システムであるため使用に問題は無いが、研修会の講師によっては Zoom 使用を指定される場合があった。これまで、コロナ禍に鑑みて教育機関の関係者は Zoom の無料アカウントでも使用制限時間などの制約が一時解除されていたが、そのサービスも 2021 年末をもって終了し、以後は有料アカウントを取得しなければ制約が加わることとなった。そこで大学事務課等と FD 研修会のための Zoom の機関会員資格や有料アカウント取得について相談したが、不可能ということであった。学会等でも Zoom の使用機会が多く、また有力大学で複数のビデオ会議システムを使用できる体制をとっている学校が少なくないため、本学でも

Webex と Zoom を併用して使えるようになると FD 研修会も講師への講演依頼等がしやすくなると思われる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/7/28 15:00～16:00	「高圧ガス保安講習会」(講師：鈴木商館・担当者)	FD	22	3	25	×
2021/12/13 13:00～14:00	「コロナ禍における理系学部 の対面／非対面教育のあり方 と工夫について」(講師：サ ウスカロライナ医科大学・杉 雪子先生)	FD	17	1	18	×

④ 全国私立大学 FD 連携フォーラム・オンデマンド講義

活動実績

本学が加盟している「全国私立大学 FD 連携フォーラム」は、立命館大学にサーバーを設置して FD・SD 活動用のさまざまなビデオ講義をオンデマンド方式で提供している。生命科学部では、今年度も高等教育推進支援室に支援をいただきながら、全教員揃っての団体申し込みを行い受講できる体制をとった。

成果・課題

教員各自が各自の必要やペースに応じてできるのがこの種の学習のメリットである。コロナ禍でも全く安心して利用できる FD 機会であり、各教員がうまく活用するよう期待したい。

一方で、成果や課題は各教員の自己分析や自己判断に委ねられて、可視化・客観化が図りにくいのが考慮すべき課題でもある。これから何らかの対応が必要になる可能性がある。

3) 2022 年度 FD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

新型コロナウイルスの収束／終息がなかなか見えてこない中、次年度以降も大学の状況や社会環境を見ながら臨機応変に対応することが求められよう。加えて、そろそろ“アフター・コロナ”も視野に入れた展望も必要になってくるかもしれない。

こうした状況の中で、これまでの取組や活動を下敷きに、2022 年度も授業運営や指導技術の向上を目指す活動を行っていくと共に、学生理解の面にも注意を払いながら FD 活動を着実に展開していきたい。

【特に重点を置きたい事項】

- ◆ 対面・非対面授業の運営や実施に関する力量を高める

- ◆ 理系学部の特質に起因する諸課題への対応力を増す
- ◆ 学生理解を深め学生支援につなげる力を伸ばす

(以 上)

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

①FD 研修会の開催（年に 2 回）、②学生との意見交換会、③シラバス点検、④授業評価アンケート、⑤TA 研修会の実施が 2019 年度まで学部で実施されており、2021 年度はこれらの実施が計画されたが、2021 年度も感染拡大が続いたことから、全学で行われるオンライン研修会への参加により代替できるものは 2020 年度同様に代替となった。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①FD 研修会 上田信行氏による講義とワークショップ「プレイフルラーニング ～ラーニング 1.0 から 5.0 の学びの風景～」

活動実績

研修はオンラインで行われた。Introduction として学習環境を学ぶ同志社女子大学有学生有志による学習環境（ラーニングコモンズ）と学びの紹介が行われた。学生によるアイスブレイクが続いた。二番目に Lecture として上田氏によるプレイフルラーニングの理論と実践について講義が行われた。三番目に Workshop として「自分が授業で大切にしていること」をテーマに、参加者によるペアワークが行われた。四番目に Reflection として研修のスクライビング（グラフィックレコーディング）による「東洋大学 playful learning」の振り返りがあり、本日の研修を振り返る映像が流された。最後に上田氏によるプレイフルラーニングのまとめの映像が放映された。講師による講義は 15 分程度であり、研修参加者が主体となるアクティブでプレイフルな研修が行われた。研修後、資料と映像は学部教員に共有を行った。

成果・課題

参加者の感想には「大いに参考になる研修会でした」「理論も演習も大変に学びが多かった」「実践的で参考になりました。今後の対面・非対面授業に取り入れていきたいと思った」「非常に学生の参加意識を高める」「アクティブな授業展開を検討する上で非常に参考になった」「4 月からの授業で取り入れてみたい手法がたくさんあった」等、研修内容が実践的であることに評価が寄せられた。

また「これまで参加してきた FD 研修会で最も楽しい企画でした」「非常に質の高い FD 研修会の企画だった」「今まで聞いたことがない内容で新鮮だった」「本当に素晴らしい研修会だ」と講師と研修内容に対して高い評価が寄せられた。

②子ども支援学専攻 FD 研修会 南野奈津子氏の講義と質疑応答「東洋大学優秀教育活動賞受賞授業に学ぶ」

活動実績

南野教授がレジュメに沿って模擬授業を実施し、その理論的な背景と意図について説明を行った。その後、教員がグーグルフォームに感想と質問を書き込み共有した。その後、質問に応じて南野教授より回答を行った。学生の理解の把握方法、動画の連続での投影方法、ポスターセッションのやり方、グループの決め方、映画のリスト等具体的な質問が寄せられた。

成果・課題

子ども支援学専攻では、月3回の専攻会議で学生に関する情報を共有しており、月一回の実習会議では実習に関する情報共有を行っている。また実習会議後に専攻FD会議として実習に関する質の高い教育について協議を行っている。しかし専攻で他の教員の模擬授業とその意図を聞き意見交換をする機会は初めてであった。南野教授の教材準備や授業の方法が参考になったという意見とともに、Google formを使った質疑応答等、研修の進行方法が参考になったという意見も寄せられた。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2022/9/17 14:30～15:30	学部FD研修会 「：プレイフルラーニング ～ラーニング1.0から5.0 の学びの風景」	FD	40	2	42	×
2021/9/1 9:00～10:15	子ども支援学専攻FD研修会 「東洋大学優秀教育活動賞受 賞授業に学ぶ」	FD	12	0	12	×

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022年度は、年度末に新学部への移行と一部研究室の引越しが行われる。感染拡大状況を含めた新年度の状況をふまえた上で、①FD研修会の開催、②学生との意見交換会、③シラバス点検、④授業評価アンケート、⑤SA・TA研修会の実施、その他学部で行う必要性の高いものについて検討し実施する。

2021年度カリキュラムより適用を開始した学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等について、FD推進委員会でその活用方法について検討を行う。

4) 新校舎と新学部移行に伴う学習環境の充実

ライフデザイン学部では教員が学生の学習環境として工房、専攻学習室、介護実習室、保育実習室等、アクティブラーニングを行うことができる教室の充実を図っている。ただ講義室は机間が狭く机の移動が困難であるため主体的で対話的な学習を行いにくいという学習環境の課題が残されている。今度更なる学修者主体の学びを促進する施設の充実を図る必要性がある。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

総合情報学部では 21 世紀のユビキタス・コンピューティング・ネットワーク時代に必要不可欠な情報通信技術に習熟し、社会を先導できる「第一級の情報の創り手・使い手」の輩出を目的として FD 活動を行う。この教育方針を実現させるために、春・秋学期の出席状況確認、学修相談会、シラバス点検、基礎教育・専門教育・ICT 教育の学修支援に関する取り組み、春・秋学期の履修相談、全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度、学部としてのグローバル化への取り組み等を行う計画である。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①春・秋学期の出席状況確認（4～5 月, 9～10 月）

活動実績

春学期は 1 年次必修科目の総合情報学概論、1 年次総合情報学基礎演習、3 年次総合情報学演習と 1、2 年次英語必修科目、外国人留学生入試にて入学した留学生の必修科目において、秋学期は、1 年次総合情報学基礎演習、2 年次総合情報学演習と 1、2 年次英語必修科目、外国人留学生入試にて入学した留学生の必修科目において、各担当教員を通して、学期初めの 4 回の出席調査を行った。

なお、今年度は、昨年度秋学期から継続して、学籍番号下一桁が奇数・偶数の 2 グループに分け、隔週で対面/非対面授業とした。

成果・課題

出席不良の学生に電話連絡で状況の確認を行っており、その結果について、情報を共有した。なお、前学期の単位取得状況が芳しくない学生にも同時に教学課から電話連絡等を行った。

②学修相談会

活動実績

コロナ禍の影響を鑑みて対面形式での実施を中止し、9 月・3 月に非対面での代替案にて対応した。

成果・課題

9 月、3 月に予定していた学修相談会は、新型コロナウイルスの影響により対面形式での実施を中止し、非対面による代替案にて対応した。単位僅少者の保証人宛に案内を郵送し、相談希

望者には電話相談・Web 面談にて対応することで、学生本人・保証人が不安に感じている成績や、単位の修得状況、大学生活等のフォローを行った。

③シラバス点検（1月）

活動実績

2022 年度のシラバス点検を教務委員中心となり授業担当教員と連携して行った。1 月～2 月を目処に確認調査および修正依頼、再確認の作業を行った。

成果・課題

学科の教務委員が科目担当者に必要な修正を依頼して、作業は滞りなく完了した。

④基礎教育・専門教育・ICT 教育の学修支援

活動実績

総合情報学部では、独自に情報学習支援室を開設し、学生同士が学び教え合う場を用意し、1 年次からの ICT スキルとコミュニケーション能力醸成の支援を行った。

成果・課題

1 年次の必修演習科目において、IT パスポート試験合格程度の情報処理技術の習得を目指した。

⑤全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度

活動実績

全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度を活用し、学生と教員間のコミュニケーションを密に行い、できるだけワンストップで学生のニーズに応えられるよう支援を行った。

成果・課題

昨年度までは 1 年次春学期必修科目として基礎ゼミナールをクラス単位での講義体制で実施し、個別履修相談を実施したが、新カリキュラムとなった今年度からは、授業枠ではなく個別に対面やオンライン等で相談に応じるという形式をとった。

⑥専門英語講読の開講

活動実績

4 年次を対象にした英語による専門科目として、専門英語講読Ⅰ・Ⅱをゼミ単位の少人数クラスで開講した。

成果・課題

研究室単位で専門に関連させながらグローバル化に対する取り組みが行えた。なお、今年度はコロナ禍の影響でオンラインでの実施も併用することで対応した。

⑦SGU ルーム運営

活動実績

7号館1階にSGU ルームを開室し、英語学習全般、留学等グローバルに関する学習相談や学習支援を行った。

成果・課題

今年度は英語系助教だけでなく、メディア系、心理系の助教や英語がネイティブまたはニアネイティブの留学生（中国、ミャンマー、ベトナム、アメリカなど）を中心に学生対応や指導にあたった。また、年数回行われた TOEIC/IP 試験のテストスコアの返却業務やパンフレット、SGU ルーム紹介オリジナルビデオの作成を通して、学生にSGU ルームを身近に知ってもらうよう広報活動を行った。

⑧英語カラオケ・チャンピオンシップ、カラオケの英語教育有効利用

活動実績

2017年度から総合情報学部でスタートした「英語カラオケ・チャンピオンシップ」であるが、今年度は中止となった。なお、例年は、参加者にはTG ポイント5、来場者にも1ポイント授与される。また、このイベント参加への一つの動機付けとして、常時7号館シアターにカラオケ最新機 LIVEDAM STADIUM が設置されており、誰でも自由に利用できる体制をとっているが、今年度も昨年度に引き続きコロナ禍により稼働することがなかったのは残念であった。

成果・課題

来年度以降も開催する予定であるが、白山を会場としての開催の要望が他学部の参加者等から寄せられているので、今後も国際教育センターと交渉していきたいと考えている。7号館シアターのカラオケ機の無償貸し出し先の第一興商としても、今年度売上が減少し、無償貸出が今後難しくなるとのことで、今後、有償での貸し出しに向けて予算の申請について検討する。

⑨英語学習法に関するセミナー（中止）

活動実績

例年4月初旬の新入生ガイダンス時に、東進ハイスクール講師、一般財団法人実用英語推進機構代表理事で、文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」の委員でもあった安河内哲也氏による英語学習法に関するセミナーを開催しているが、今年度は中止となった。なお、2022年度は4月5日に対面での実施が決まっている。

成果・課題

今年度4月の新入生ガイダンス時は入学生を2グループに分けて別教室で行うことから、安河内氏のセミナー開催が困難であるため、中止となった。セミナーでは、学生同士が英語でコミュニケーションを行う場面もあるため、2022年度の開催にあたっては、感染予防を徹底した上で行いたい。

⑩学部独自の海外語学研修の実施

活動実績

海外語学研修として、2019年度より3週間、アメリカカリフォルニア州立ベーカーズフィールド校に学生を派遣しているが、今年度は昨年度に引き続き中止となった。

成果・課題

来年度は専任教員2名（グローバル委員長とネイティブ教員）が全行程にわたり同行し、安心・安全で充実した学習環境を確保する予定である。

⑪学部独自のFD研修会の実施

活動実績

①日 時 2021年10月28日-2021年11月25日（Youtubeによる動画配信）

講 師 渡辺雄貴教授（東京理科大学）

テーマ オンライン教育は何を育て、何を育てられないのか

②日 時 2021年12月7日16:30-18:00（Zoomによるオンライン開催）

講 師 渋谷英雄氏（ピースマインド株式会社ワーキングベターラボ所長）

テーマ 臨床心理とダイバーシティ

成果・課題

①理工学部と合同で、川越キャンパスFD講演会を動画配信にて実施した。教育工学が専門の東京理科大学渡辺雄貴教授に依頼し、コロナ禍における遠隔授業の設計について留意すべき点を解説いただいた。総合情報学部では25名の教員が視聴し、オンライン教育を通じた学生の学習意欲向上のための授業設計について理解を深める機会となった。

②総合情報学部のグローバル化、ダイバーシティ&インクルージョン推進事業の一環として、臨床心理学概論（講義科目）において、12月7日にピースマインド株式会社ワーキングベターラボ所長の渋谷英雄先生をお招きし「臨床心理とダイバーシティ」をZoomオンラインで開催した。124名の学部・大学院の学生と2名の教員の参加があった。講演会では、心の病や障がい等、個々の違いを尊重し、それぞれの個性や経験が活かせる多様性や共生社会について、臨床心理士としてのこれまでのご経験から貴重なお話を頂き、理解を深めることができた。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/10/18- 11/25	川越キャンパス FD 講演会 「オンライン教育は何を育て、 何を育てられないのか」	FD	25	51	76	×
2021/12/7 16:30～18:00	臨床心理学概論（講義科目） 「臨床心理とダイバーシティ」	講義科目 FD・SD	2	0	2	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

これまで通りの活動の継続と共に、各コースでの学習意欲、授業改善のための FD 活動を提案し、実施していく予定である。また、アメリカ本国のカリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校の海外研修をグローバル化推進の一環として引き続き実施する予定である。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

今年度は、教職員の FD・SD に関する具体的なニーズを調査し、本学部の状況に即したプログラム、教育の更なる質的向上を目指したプログラムの検討を行い、FD・SD 活動を実施していくことを計画していた。また、昨年度のアセチレンガス爆発事故を受け、大学内での実験・授業を安全に行うための安全講習会の見直しが求められ、2021 年度は安全委員会と協力し、さまざまな安全講習会が計画された。

今年度の FD・SD 活動の講習会・イベント等の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、対面、オンラインまたはハイブリッド形式と、その状況に合わせた様々な形式での開催となった。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①TA・SA 研修会（春）＆（秋）

活動実績

学生実験・実習の TA・SA（教える側の人材）として知っておいて欲しいことについて、例年 4 月に 1 回、研修会を実施していた。今年度は、安全教育のレベル向上を目指して、春（4 月）と秋（11 月）の 2 回、実施した。今年度の TA・SA 研修会では、安全管理教育も追加し、改めて TA・SA 業務の責任ある行動と TA・SA の立場を確認することを目的として実施した。春の研修会では採用予定者に対し、対面での講義とグループディスカッションを約 2 時間実施し、グループディスカッションでは、授業中の安全上の注意や TA・SA に求められる対応・対策について、議論が行われた。秋の研修会では、秋学期から TA・SA になった学生で、春の研修会に参加していない学生を対象にオンデマンド研修会を実施した。

成果・課題

本学部では実習や実験の授業が多く、それらの授業においては TA・SA と協力し、安全管理を徹底して行わなければならない。2020 年度の実験室内での事故を受け、今後の対面実習・実験授業実施にあたり、さらに安全管理が重要視されることから、TA・SA の研修においても安全管理に関する具体的な事例を取り入れた内容のさらなる充実が求められる。

②実験安全講習会（春）＆（秋）、教員向けの安全講習会（高圧ガス保安講習会）

活動実績

昨年度、大学内での実験・授業を安全に行うための安全講習会の見直しが求められ、2021年度は学部4年生およびSA向けの板倉キャンパス合同実験安全講習会を春（4月）と秋（10月）にオンライン（50分）で実施した。講習会の内容は、実験事故の際の対処法や連絡体制、汎用実験装置（遠心分離機やオートクレーブなど）の使用上の注意、ボンベや液体窒素の危険性などであった。

また、生命科学・食環境科学の学部・研究科 FD 委員会・安全委員会共催で、教員向けの安全講習会（高圧ガス保安講習会）も計画し、「高圧ガス保安講習会」（ガス爆発に関連した内容。アセチレン等の高圧ガス・液体窒素等）のオンライン講習会を実施した。

成果・課題

学生、そして教員に対する講習会を増やし、受講する機会を増やしたことで、学生および教員の安全管理意識をさらに高めることに繋がった。今後も継続していく体制を構築していくことが課題である。

③学部独自の評価項目を含む授業評価アンケート

活動実績

高等教育推進センターの全学的な取り組み「授業評価アンケート」を食環境科学部は今年度も春学期および秋学期に実施した。高等教育推進センターが策定する全学共通の質問項目（春学期5つ、秋学期9つ）に加えて、食環境科学部独自の質問項目として次の4つを設定した。

食環境科学部独自の質問項目：

1. あなたはこの授業の予習や復習をして意欲的に学習したか。
2. 教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をしたか。
3. この分野の知識が身についたか。
4. 授業が単調とならないよう、工夫されていたか。

今年度、板倉キャンパスでは対面授業が基本となり、授業形式が戻りつつあったが、学部独自の質問項目は昨年と同じ項目を設定した。

成果・課題

マークシートを用いた過去の方法と比較して、ToyoNet-ACE を用いた授業評価アンケートは、回答率の低さが課題となっており、どのように回答率を上げていくか、その方法を検討していくことが課題として挙げられた。

④FD 研修会の実施「発達障害の理解と対応～思春期から青年期～」

活動実績

食環境科学部 FD 委員会主催で、2021 年 10 月に食環境科学部教員、生命科学部教員、および職員に対し、「発達障害の理解と対応～思春期から青年期～」というタイトルでオンライン研修会を行った。

講師： 星野 美幸 先生（中沢会上毛病院）

研修会等の参加状況

開催日	研修会名	参加者数（人）			HP 掲載
		教員	職員	計	
2021/10/6 14:00～15:00	「発達障害の理解と対応 ～思春期から青年期～」	（教職員合計で）		35	なし

成果・課題

発達障害の学生に対してどのような対処をするのか、日ごろ多くの子どもたちと関わる現場の先生の話を通じて貴重な機会となった。オンライン形式の研修会となったが、参加しやすい環境を整え、食環境科学部のみならず生命科学部の教員、職員に対してアナウンスし、開催することができた。また、当日録画した映像を後日配信することで、より多くの先生方の参加・視聴につなげることができた。

課題として、時間の関係上、質疑応答の時間を十分に取れなかったことが挙げられる。研修会後にメールでいただいた質問に対しては、講師の先生にメールで後日回答をいただく形で対応した。限られた時間の中、教員および職員間での議論や情報共有につなげられるような工夫、環境づくりが課題である。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2020 年度に板倉キャンパスで起こった実験室における失火および爆発事故報告を受け、今年度は安全委員会と協力し、学生および教員に対する安全講習会を実施した。今後の授業運営を安全に行うためにも、引き続き安全講習会を開催することが重要であり、来年度も安全委員と協力し、安全講習会を計画していく。FD 研修会については、2022 年度以降の本学部の状況に即したプログラム、教育の更なる質的向上を目指したプログラムの検討を行っていく。

以上

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

クォーター制導入、全日本人学生の長期海外留学実現、英語講義内容の高度化、海外英語実習の必修化と一部科目の英語化といった諸課題については、PDCAにより効果を検証しつつ引き続き改善を図る。また、高校学習指導要領に対応した本学部の教育のあり方（高校におけるプログラミング、地理などの新規科目の必修化）に対応したFDについても実施していく。慣例となった授業評価アンケート、シラバス点検、英語化推進、各種セミナー研修参加については、一層着実な定着を図っていく。なお、本年度は新たに、国際地域学科キャリア形成支援委員会との共催で、学生のキャリア形成支援をテーマとしたFD活動を実施し、国際地域学科独自のキャリア形成支援の具体的方針を検討していくこととした。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check**①授業評価アンケート****活動実績**

例年どおり授業評価アンケートを実施した。専任教員はクォーター・学期の期間内で2科目以上を、非常勤講師は1科目以上を選定している。アンケート項目には高等教育推進センターが策定する全学共通の項目に加えて、学部独自の項目として次の7つを設定した：

- ・ E1. 専門知識や用語は分かりやすかったですか
- ・ E2. 授業は要点をとらえた説明になっていましたか
- ・ E3. 教員は授業へ熱心に取り組んでいましたか
- ・ E4. 教員の学生の質問に対する対応は適切でしたか
- ・ E5. 授業内容に触発され、自分でさらに調査・学習をしてみましたか。
- ・ E6. 教材は読み易かった（見易かった）ですか
- ・ F. 本授業で①特に良かった点、②改善できると思われる点、③最も印象に残ったトピックとその理由を具体的に記述してください。または④授業全体を通しての感想や要望でも構いません。なお、回答欄には、「1.、2.」や「3.」とわけて記載して下さい。

成果・課題

非対面形式での授業も2年度目に入り、授業評価アンケートの全学共通項目は前年に引き続き非対面形式に合わせた項目で実施された。学部独自の項目は例年と同じ項目でアンケートを行ったが、非対面形式で受講した学生からの回答を受け、各教員が例年の対面授業との比較、

課題の検証を行うことができた。次年度は対面形式主体の授業形態に戻ることが期待されるが、非対面を含めた授業形態も予想され、質的水準の維持・確保が求められる中で今回のアンケート結果を活用していくことが課題である。

②シラバス点検

活動実績

前年度に引き続き今年度もシラバス点検会は実施せず、各教員がチェックリストをもとにスクリーニングチェック（セルフチェック）を行った。なお、発展レベルの点検項目における「一定項目数の充足の達成有無」の項目数については3項目以上の達成を目標として設定し実施した。

成果・課題

スクリーニングチェックの結果、過年度より継続して担当している各教員については、チェックリストの条件をすべて満たしており、第3者による点検は必要なかった。標準レベルの内容については既に学部が定めた基準を充足しており、これからは発展レベルにおいて達成すべき特定項目の優先順位や項目数を徐々に決めていき、シラバス内容の充実を図る必要がある。新任教員の担当科目についてはFD委員により第3者点検を行い、基準を満たすシラバスとなるよう修正依頼を実施した。

③Immerse U (Class to Class) の運用方法に関するワークショップ

活動実績

学部国際交流委員会と共催で、6月1日、海外の大学とのオンライン共同授業（COIL：Collaborative Online International Learning）を実施するためのオンライン・システム、Immerse U (Class to Class) の運用方法に関するワークショップを行った。

成果・課題

非常勤講師を含め9名の教員が参加し、海外の大学とのオンライン共同授業を実施するためのオンライン・システム、Immerse U (Class to Class) の運用方法などについて情報を共有した。

④学生のキャリア形成支援をテーマとしたfd活動（共催：国際地域学科キャリア形成支援委員会）

活動実績

国際地域学科では、2021カリキュラムの立ち上げにともない、学科としての学生のキャリア形成支援の方針案を本学科キャリア形成支援委員会において策定し、春学期に学科会議で確認した。そのうえで、具体的方針を検討するために、FD活動にも位置付け、10月に学科教員を対象に「キャリア形成支援・就活支援に関する現状認識アンケート」（全21問）を実施し、その回答をキャリアコンサルタントとして業務委託を行った櫻井 照士氏（ソーシャルデザイン

ング研究所 人事コンサルタント）に共有した。当該アンケート結果を踏まえ、櫻井氏と本学科キャリア形成支援委員会でディスカッションを行ったうえで、「どのように学生を応援するか」というタイトルで、採用動向と就活日程の実態や具体的な支援策例に関するオリジナルの教員向けミニガイダンス動画（オンデマンド配信）を作成いただいた。11月中旬～1月初旬にかけて学科教員に対し動画の視聴と事後アンケートを実施した（動画は本学部グローバル・イノベーション学科および国際学部教務課職員にも共有した）。その後、事後アンケートの結果も踏まえ、キャリア形成支援委員会で具体的なキャリア形成支援方針を検証し、国際地域学科1月学科会議において事後アンケートの結果とともに方針を共有した。加えて、一連のFDを踏まえ、本学科キャリア形成支援委員会より補足的な質問をまとめ、3月半ばに櫻井氏との質疑応答を行った。この内容は録画し、4月学科会議にて報告と共有を行う予定である。

なお、動画制作および作成に付随するコンサルティング委託費用は、将来的にグローバル・イノベーション学科においても同学科キャリア形成支援委員会との共催によるFD実施を検討していくことを前提とし、FD委員会および国際地域学科キャリア形成支援委員会が管轄する両予算より執行することとした。

成果・課題

- ・「キャリア形成支援・就活支援に関する現状認識アンケート」…21名回答
- ・オンデマンド動画教員向けミニガイダンス「どのように学生を応援するか」…12月末までに24名の教職員が視聴（現在も学部内公開中）
- ・「事後アンケート」…11名回答
- ・動画ガイダンスへのフォローアップ（質疑応答）…4月にオンデマンド配信予定

このように大々的に、学科全体で現状認識を調査・共有したことや、学科の学びや学生の特長、最新の採用動向・スケジュール実態を踏まえた学科独自のキャリア形成支援方針を策定・検証したのは初の試みであった。限られた時間の中での取り組みだったが、学科教員の率直な声や人事コンサルタントから採用側の実態や学生への支援策事例等の情報・ディスカッションを通して具体的な方針を定めることができ、大変有益であった。

動画は、今後新任教員が着任した際にも案内し、継続的に活用する予定である。

⑤ハラスメント研修

活動実績

11月16日15:00～16:00にWebexにてハラスメント研修を実施した。

研修内容

1. アカデミック・ハラスメントについて
 - ☒ 学生との関係における留意点
 - ☒ 実際に問題となった具体例、近時事例
 - ☒ 陥りやすい誤解とそれを避けるための視点
 - ☒ ハラスメント・ハラスメントへの対応

2. パワー・ハラスメント－教職員との関係－について

☒ 近時事例

☒ パワハラが生じる要因

3. With コロナ時代におけるハラスメント

☒ オンライン授業とリモート・ハラスメント

☒ リモハラに陥らないための対処

成果・課題

33名の教員が参加した。事前にグーグルフォームで質問を受け付け、研修当日に外部講師より回答をいただく時間を設けた。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/06/01 10:00~10:45	Immerse U (Class to Class) の運用方法に関するワークショップ (国際交流委員会と共催)	FD	9			×
2021/11/18~ 2022/1/7	オンデマンド動画教員向けミニガイドランス「どのように学生を応援するか」 (国際地域学科キャリア形成支援委員会と共催)	FD・SD	19	5	24	×
2021/11/16 15:00~16:00	ハラスメント研修	FD	33		33	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

国際学部は 2017 年度の発足後 5 年が経過した。これまでの FD・SD 活動は新学部設置構想の実現に向けた取組に重点を置いていた。クォーター制導入、全日本人学生の長期海外留学実現、英語講義内容の高度化、海外英語実習の必修化と一部科目の英語化といった諸課題については計画通り着実に実施されていた。

2022 年度は学部のさらなる発展を目指し、幅広い観点から実践的な活動を展開できる人材を継続して育成し続けるために、引き続き教育システムの高度化の推進、海外大学及び専門機関と連携強化、海外留学支援体制の充実、英語化推進、キャリア教育の充実を中期計画として打

ち出しており、これに向けた活動の展開を図る。慣例となった授業評価アンケート、シラバス点検、各種セミナー研修参加については、一層着実な定着を図っていく。

また、ポストコロナにおける授業内容の向上を図るため、引き続き教員間の情報共有の強化と授業における ICT 活用研修会の開催及び積極的な参加、クォーター制を活かした「反転授業」のようなオンラインと対面授業の適切な組み合わせの工夫、学生とのインタラクションの強化を講じていく。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2021 年度の計画では、学部のビジョンや教育方針、組織の在り方を再考する機会とすることを目的とするために、①授業評価アンケート②外部から識者を招聘してのFD講演会③シラバス点検会④特色のある授業の紹介の4点を計画していた。

2020 年度の自己点検・評価結果に関する提言（フィードバックコメント）に基づいて再検討した結果、①授業評価アンケート②1年基礎ゼミ共通シラバス化に向けた研究会③シラバス点検会④特色のある授業の紹介（観光専門授業の英語化に向けて）の4点の実施を計画した。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①授業評価アンケート

活動実績

春・秋の各学期に本学高等教育推進センターによる授業評価アンケートを実施した（春学期：161科目、秋学期：126科目）。また、アンケート結果をうけて、学生に対してフィードバックコメントを入力した。春学期は、学生に対しコロナウイルス流行下において、観光業界についてどのように感じているかをアンケートし、就職支援等にも活用できるようにした。

成果・課題

アンケート結果に基づき、各教員で授業改善に取り組んでいる。アンケート結果については保存しておき、授業の質の向上に向けて活用していく。

②第1回FD活動「1年基礎ゼミ共通シラバス化に向けて」

活動実績

1年生基礎ゼミのシラバスの共通化について、2022年度からの段階的な導入を目標に、現状の課題や共通化のためのアイデアについて学部所属の専任教員全員参加によるディスカッション（グループごとの議論および全体報告）を行った。議論の内容と終了後に提出された各グループの簡単なまとめから、今後FD委員会で共通シラバスの案を作成、さらなる議論のベースとする予定である。

開催日時：2021年6月17日（木） 13:00～14:45

実施方法：オンライン（Webex）にて開催

具体的なプログラムは以下のとおり。

【グループディスカッション①】：基礎ゼミの現状と課題

アイスブレイクも兼ねて各先生方が基礎ゼミをどのような内容で、どのように行っているか紹介。共通シラバス化の必要性や取り組みの工夫、課題についても議論。

【全体フィードバック①】グループディスカッション①の意見共有

【グループディスカッション②】：共通シラバス化に向けたアイデア出し

学習到達目標、共通部分の割合と内容、15 回分の授業の大まかな流れ、成績評価の項目と基準についてアイデア出し。

【全体フィードバック②】グループディスカッション②の意見共有

成果・課題

ブレイクアウトルームを活用することによりグループ内で活発な議論となった。それを全体にフィードバックする機会を設け、またグループでの議論に戻る仕組みとしたことで、多様な意見を共有しつつそれを踏まえて学部としての方向性も見出せる結果となった。

それぞれに初年度教育の意義を再認識する機会としても大変効果的であったと考える。

③シラバス点検

活動実績

シラバスは、授業の方法及び内容、全授業の計画並びに学修の成果に係る評価の基準を学生に示すものであると同時に、カリキュラムの実施において学修の質を向上させることが第一の目的となっている。またそれを公表することも義務づけられ、外部からの評価にも堪えうるものを作成する必要がある。この目的の達成のために 2021 年度より、スクリーニング・チェックの実施を行うこととなっており、また、コロナ禍において、対面でのシラバス点検の実施が難しい状況になっていることも鑑み、2021 年度に引き続き、オンラインでのシラバス点検を行った。

1. シラバス点検の対象とする科目

- ・シラバス入力者自身によるスクリーニング・チェックにおいて、学部として達成すべき項目の充足に不安が生じている、と申告のあった科目。
- ・2022 年度新たに開講科目
- ・非常勤講師担当科目

2. 点検実施方法詳細

- ・グループ分け（語学、観光政策・ツーリズム領域、ホスピタリティ領域）

各グループ内で点検の分担等について検討いただく。

- ・シラバス点検対象科目一覧及びシラバスデータを Google Drive 等を利用し提供。
- ・点検方法 シラバスチェックシート（第三者）に基づき、点検する。
- ・点検結果報告方法

シラバス点検報告書を教務課まで提出（Google Drive に格納）

修正の必要なシラバスについては、グループ内で修正情報を共有いただく。

3. スケジュール

1月28日（火）	教員グループ表およびシラバス点検対象科目一覧を配信
1月29日（水）	～2月7日（月） 未入力督促・点検準備
2月8日（火）	～2月15日（火） シラバス点検期間
2月15日（火）	シラバス点検報告書提出〆切
2月15日（火）	～ 順次シラバス修正が必要なものを修正
	～2月28日（月） シラバス入力最終〆切

成果・課題

スケジュール通りにシラバス点検を実施することができた。これからもシラバスの質の向上およびシラバスに基づいた授業実施による授業の質の向上につなげていきたい。

④第2回FD活動「観光専門授業の英語化に向けて」

活動実績

本学部教員のグライアム・ロブソン教授による講演。TOYO GLOBAL DIAMONDS の概要に照らして、本学部の特性に鑑み、国際観光学部内英語での専門クラスの必要性和具体的な取り組み方法が示された。英語教育のメソッドと長年英語教育に尽力されたご経験を踏まえた講演内容であり、英語化に向けて教員と職員の意欲を向上させる上で大変効果的な講演となった。

開催日時：2021年10月14日（木） 13：00 ～ 14：00

実施方法：オンライン（Webex）にて開催

具体的なプログラム：

- 1、国際観光学部内英語での専門クラスの必要性
 - 2、利用可能な英語教育法の紹介
- ・(N)AWL とソフト 新 アカデミック・ワード・リスト
 - ・Task based teaching（タスク・ベースの言語教育）
 - ・Blooms taxonomy（Bloom の分類）
- 3、実践へのヒントと質疑応答

成果・課題

今回の講演で学部の現状が明確になり英語化の必要性も共有できた。質疑応答では、意欲的な学生への高い効果が認められる一方で、学生のレベル差も考慮し調整する必要も議論されるなど、活発な議論が展開され今後の課題も浮き彫りになったところである。「基本的な知識を習得する科目では日本語での実施が望ましいのでは」「英語でディスカッションさせることが重要」「20～30人程度の少人数クラスが望ましい」「学生のモチベーション作りが何より大切」「シラバスにどの程度英語なのかななどを明記することが重要」「留学生を効果的に配置すると英語で話す必然性が出る」などの議論から、学部としてのしきみの面と各教員の授業運営

の工夫の両面で、それぞれ次の課題を見出すよい機会となったと考える。今後は、対象とすべき授業とその構成、副専攻との兼ね合いなどの議論に発展していくことが予想される。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/6/17 13:00 ~ 14:45	第1回 FD 活動「1年基礎ゼミ共通シラバス化に向けて」	FD	28	0	28	×
2021/10/14 13:00 ~ 14:00	第2回 FD 活動「観光専門授業の英語化に向けて」	FD	29	3	32	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021 年度の FD・SD 活動を踏まえて、2022 年度に向けた FD・SD 活動の展望を記入ください。なお、2021 年度カリキュラムより適用を開始した学修成果測定指標による検証や成績分布の把握等についても、次年度の計画の中で実施する時期などご記載ください。

学部教育の質向上を図るため、引き続き①「授業評価アンケート」と②「シラバス点検」を実施する。また、2021 年度の第1回 FD 活動を受けて 2022 年度は共通シラバスの下で1年基礎ゼミが初めて実施されるため、2022 年度 FD 活動として、共通シラバスの手ごたえや課題等を議論する③「1年基礎ゼミ教育を考える（仮題）」を計画している。①は7月と1月にそれぞれ実施後、対象科目担当教員はフィードバックをおこなう。②は2021 年度と同様のスケジュールで2月中に完了予定である。③は8月の開催を予定している。

2022 年度の FD・SD 活動としては他に、2021 年度カリキュラムより適用を開始した④「学修成果測定指標による検証および成績分布の把握」を実施する予定である。④については、2021 年度の FD 活動で全教員が議論に参加した③「1年基礎ゼミ教育を考える（仮題）」と併せて検討することを考えている。具体的には、春学期終了後の8月に実施予定の③に併せて、④の学習成果測定指標を議論する予定である。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

情報連携学部（INIAD）では、より質を重視した教育を実現するために、入学定員が 400 名から 300 名に変更となる 2022 年度からカリキュラムの再編を行うこととしている。2021 年度の活動計画としては、これまでの 4 年間の教育実践を元に、新しい教育体制や教育内容、教育方法を抜本的に検討する。

また、完成年度を迎えたことから、これまでの 4 年間の教育研究の成果をまとめ、外部評価を行う計画としている。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①カリキュラムの再編

活動実績

INIAD の教育研究上の目的は、

コンピュータ・サイエンス教育を基盤とし、チームを組んで、コンピュータを使いこなし、情報を通して連携し、素早くアイデアを形にできるような人材を養成する。

プログラミングを含むコンピュータ・サイエンスの教育をすべてのコースの基盤とし、新しいビジネスを構築できるマネージャー人材、新しい公共をシステムとして構築できるコーディネーター人材、新しい製品と新しい情報サービスを技術とデザインの両面から具体化できる人材など連携イノベーションを起こせる中核人材を養成する。

となっており、これまで本学部が受けた取材や、企業への就職説明会から、社会が本学部に期待するのは、プログラミングや AI、IoT などの知識を前提とした DX 人材の育成となっている。

一方で、現在のエンジニアリング、ビジネス、デザイン、シビルシステムの 4 コース制においては、志願者や一部の学生の中に、学部教育の中核となる「情報」に対する学習意欲が十分でない学生が混在することが課題であった。

このことから、2020 年度から継続的に検討を重ねた結果として、2022 年度からは以下の方針でカリキュラムの再編を行うこととした。

1. 数理系科目の必修化

- ・データサイエンスや AI に関する知識・スキルが、社会で分野を問わず求められていることを踏まえ、その基礎となる数理系科目を必修化する。
- ・数学（線形代数、微積分）および統計学を、1～2 年次の必修科目として配置する。

2. 情報系必修科目の強化

- ・現カリキュラムにおいても 1 年次の必修科目となっているコンピュータ・サイエンスについて、2 年次まで継続的に教育する。
- ・ネットワーク・Web 技術、データサイエンス、アジャイル・ソフトウェア開発等、分野を問わず社会からの要請が強い内容を扱う。

3. コースを科目群に再編

- ・専門科目を「情報分野」「連携分野」を重視しつつ、体系的な科目群として再編する。
- ・学生は自身の目指す将来に合わせ、複数の科目群の科目を組み合わせることで履修することができる。

4. 情報連携学概論の強化

- ・初年時の情報連携学概論は通年科目化し、制度設計などを含めた教育を実施する。

特に 3 点目の科目群への再編に関しては、これまでの 4 コース制を廃止し、専門科目を、以下の 5 つの情報科目群と 2 つの連携科目群に再編し、学生には、情報科目群 1 つを含む、2 つ以上の科目群に必修科目全ての修得を必修とすることとした。

（情報科目群）

・コンピュータ・システム

様々な情報システムやサービスのインフラストラクチャとなる、コンピュータ・システムを、自ら構築するために必要となる知識・スキルを学修する。

・コンピュータ・ソフトウェア

コンピュータ・システム上での、ソフトウェア開発に関する専門的な知識・スキルを学修する。

・ユーザ・エクスペリエンス

Web デザインを中心とした、情報システムやサービスのユーザ・エクスペリエンスに関する専門的な知識・スキルを習得する。

・データサイエンス

データサイエンスに関する専門的な知識・スキルを学修する。

・ICT 社会応用

情報通信技術の実社会への応用に関する知識・スキルを学修する。

（連携科目群）

- ・コミュニティ形成

地域のコミュニティ形成のために必要となる知識・連携力を学修する。

- ・ビジネス構築

ビジネス構築のために必要となる知識・連携力を学修する。

このことによって、学生の将来構想に応じた柔軟な科目群の組み合わせ、必修以外の科目群の講義の柔軟な履修を可能にすることで、これまで以上にイノベティブな人材の輩出を目指す。典型的には、以下のような人材を想定する。

- ・コンピュータ・エンジニア人材

例) コンピュータ・サイエンスを体系的に習得し、コンピュータ・システムを設計・開発する人材 → 「コンピュータ・システム科目群」 + 「コンピュータ・ソフトウェア科目群」

例) AI / IoT を駆使した、最先端の情報サービスを開発できる人材 → 「コンピュータ・ソフトウェア科目群」 + 「データサイエンス科目群」

- ・UX デザイナー人材

例) Web サービスをはじめとしたコンピュータ・システムの UX デザインを行う人材 → 「ユーザ・エクスペリエンス科目群」 + 「コンピュータ・ソフトウェア科目群」

例) AR / VR などの最先端技術を活用し、空間デザインや、モノ・サービスのデザインを行える人材 → 「ユーザ・エクスペリエンス科目群」 + 「コミュニティ科目群」

- ・ビジネス構築人材

例) ビッグデータを活用し、企業の DX を先導できる人材 → 「ビジネス構築科目群」 + 「データサイエンス科目群」

例) 情報通信技術を応用したイノベティブなビジネスを構築できる人材 → 「ビジネス構築科目群」 + 「ICT 社会応用科目群」

- ・コミュニティ形成人材

例) GIS やビッグデータを活用し、政府や地方政府の DX を先導する人材 → 「コミュニティ科目群」 + 「データサイエンス科目群」

例) 情報通信技術を応用し、地域コミュニティの形成や都市サービスの構築を行うことができる人材 → 「コミュニティ科目群」 + 「ICT 社会応用科目群」

成果・課題

今回のカリキュラムの再編にあたっては、2022 年度から段階的に 4 コース制を解体し、学部全体として教育をする体制を強めていくため、教授会での議論のほか、数理系と情報系、7 科目群それぞれに、学部長と科目を担当する予定の教員全員によるカリキュラムに関する打ち合わせを開催した。

各打ち合わせでは、冒頭、学部長からこのカリキュラムの再編の趣旨説明をした後、以下のようなテーマについて、学部長と全教員とでディスカッションを行った。

- ・基礎教育と応用分野との連携について
- ・対面/オンラインの教育効果について
- ・科目群間の連携について
- ・科目科目群の内容について
- ・履修、時間割編成について

また、学部で活用している SNS (Slack) に、各分野別のチャンネルを作り、打ち合わせの後でも継続的に議論ができるようにした。

その結果として、応用科目において学生がスムーズに学修を進めるためには、1、2 年次の数理系や情報系の科目で、どの内容をどのタイミングで教育すべきなのかなどの具体的な意見交換や議論が、教員間で積極的に行われた。

また、カリキュラムの基本的な考え方として、1～3 年次までの科目においては、担当する教員によって教育内容が変わる属人的なカリキュラムではなく、学部のカリキュラム・ポリシーに則って各科目の内容を定め、担当教員はそれに沿った教育を行う、という学部の方針が再確認された。

②外部評価の実施

活動実績

2017 年度に開設し、2021 年 3 月に初の卒業生を輩出したことから、教育研究のさらなる改革を行うために、学部のアウトプット・アウトカムの適切性の判断や達成状況、活動状況を客観的に検証・評価するために、以下の 4 名による外部評価を 9 月～10 月に実施した。

- ・桑田 薫様（東京工業大学 副学長）
- ・大西 隆様（東京大学 名誉教授、元日本学術会議 会長）
- ・田丸 健三郎様（日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 NTO）
- ・深澤 直人様（NAOTO FUKAZAWA DESIGN 代表取締役、多摩美術大学 教授）

外部評価委員会では、開設時の哲学、学部の概要、カリキュラム、入試、コロナ禍・オンライン、イノベーション、就職、リカレント教育、施設設備などについて、資料に基づき学部長から説明をしたあと委員との意見交換を行った。

また、外部評価用の基礎データとして、入試関連（アドミッション・ポリシー、推薦入試、大学入学共通テスト、一般入試、外国人留学生入試）、学生関連（入学者数、入学時学力テスト結果、2 年次コース分け結果、卒業判定、退学者数）、就職関連（進路状況、就職・公務

員・契約社員の業種、職種）、学修関連（学生表彰、GPA 平均、卒業論文賞、論文テーマ）、研究関連（教員数、一般研究費及び研究実績、共同研究・受託研究・受託事業・科研費等、社会人リカレント教育）のデータを整備した。

成果・課題

意見交換の結果、各委員からは、

- ・シラバスをきちんと作って、誰が担当しても同じ内容を教えられるようにカリキュラム体系を作って教育をしているというのが大変よいと思う。また、演習や実習においてグループで取り組みをさせるというのは学生にとって良い刺激になり、今までと違う味の学生が育成されるので、ぜひ発展させていきたい。
- ・新しいものを創りだすときには、コンピュータ・サイエンスだけではなく、色々なバックグラウンドの人間が集まっているチームでないと、新しい製品・サービスが生まれてこない。イノベーションを生み出すためには、INIAD の教育体制は非常に重要だと考えられる。
- ・デザインの世界でも、コンピュータが入ってきたことによって、思考のプロセスが今までと変わり、表現媒体や表現手法も全く違うものになってきており、芸術やアートの定義も大きく変化していくのではないかなと思う。デザインに関しても、INIAD は後発ではなく、逆にかなり先端的なデザイン教育と言えると思う。

といった、本学部のカリキュラム等に前向きな評価をいただくことができた。

また、今後の課題として、

- ・INIAD の理念や教育は、高校を卒業したばかりの学生や社会には、まだ十分に理解されていないことが課題であり、それが浸透するまでにまだ少し時間がかかるのではないかなと思うが、結果は出始めており、将来的には大きな意味を持つてくるのではないかなと思われる。
- ・社会リカレント教育に参加される方々は、大学にいるときよりも社会に出てからの方が勉強をしなくてはならないという現実を実感していると思うので、リカレント教育で学んでいる社会人の方と学部学生の交流の場があると、学生が時間の大切さ、貴重さを知ることができるのではないかな。

などの貴重なご意見をいただくことができた。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022 年度は、新カリキュラムにおいて新たに必修化された数理系科目や、増強された情報連携学概論などの 1 年次配当科目を、学部全体の教育との関係性や学生の学修成果を検証しながら構築していく。

また、2023 年次から専門科目がコース制から科目群制に変更になることに伴い、学部長を中心に、前述した分野ごとのカリキュラムに関する打ち合わせにおいて対面、Web、SNS を活用して議論を重ね、新しい教育内容を学部全体として体系的に構築していくこととする。

研究科/センターFD・SD 活動報告

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

文学研究科長のイニシアティブと 2020 年度に策定された「2021 年度 FD・SD 活動実施計画」にもとづき、2021 年度は研修会と大学院生対象アンケート調査を中心に FD・SD を進めた。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①研修会（１）留学生の論文指導法に関する講演会

活動実績

文学研究科長のイニシアティブのもと、以下のように研修会を行った。

1. 講師：堀恵子氏（本学非常勤講師）
2. 対象：文学研究科教員 45 名、事務局 4 名 計 49 名
3. 講演会テーマ「留学生の論文作成に関わる日本語使用の特徴」
4. 実施内容

2021 年 6 月 16 日開催の上記研修会では、本学非常勤講師の堀恵子氏を招いて講演会を実施した。まず堀氏から、留学生の論文作成にかかわる日本語使用の特徴について分析と解説があり、留学生が「読んだ内容を既有知識と結びつけ、テキストから離れた自分自身の言葉で伝えられるようになる」ための指導方法について提示があった。堀氏によれば、①先行研究を読んで図表にまとめる、②要素間の関係性を理解させ、説明させる、などの方法があるという。また、剽窃を防ぐための指導方法として、引用の手順を詳細に例示し、練習させることが効果的との報告もあった。

成果・課題

留学生のための論文指導は、日本語を母語とする学生のための論文指導にも通じるところが多く、大学院での研究指導に資するところが大きいと思われる。とくに剽窃を防ぐための指導は必要不可欠のものとなっているが、大学院での研究指導は、その専門性の高さから各教員の創意工夫に任されてきた。今回論文指導にかかわる具体的な事例が紹介されたことで、各教員が自らの指導方法を向上させる機会となった。今後もこうした講演会の継続が期待される。

② 研修会（２）外部評価に関する講演会

活動実績

文学研究科長のイニシアティブのもと、以下のように研修会を行った。

1. 講師：大学評価支援室
2. 対象：文学研究科教員 48 名、事務局 4 名 計 52 名
3. 講演会テーマ「研究科外部評価について」
4. 実施内容

2022 年 1 月 19 日開催の上記研修会では、大学評価支援室職員を招いて講演会を実施した。講演では、まず「外部評価」とは何か、なぜ「外部評価」が必要なのか、その目的・意義・背景などについて解説があり、その後他大学等の事例紹介が行われ、さらに外部評価で期待される成果や実施する際の留意事情について提案がなされた。それによれば、「外部評価」とは、自己点検・評価活動に係る客観性及び妥当性を高めるため、外部有識者から意見を聴くものであるという。また、外部評価を受けるという過程をきっかけに、大学院教育および研究活動の活性化や中長期計画の着実な実行、意義のある評価へとつなげていくことが可能で、そのためには、（１）研究科における外部評価の目的を明確化すること（２）外部評価の目的を踏まえて、何を評価してもらいたいかを十分に検討しておくこと、（３）これらの協議にあたっては、研究科長、専攻長、自己点検・評価活動推進委員会を中心に組織的に検討すること、が提案された。

成果・課題

「外部評価」を導入する際はどのような目的で、何を評価するために導入するのか、文学研究科においても議論が必要になると思われる。今回の講演会は、文学研究科に所属する教員が「外部評価」の意義について共有し、方向性を考える契機となった。

③ 大学院生対象アンケートの実施とその結果についてのフィードバック

活動実績

1. 文学研究科に在籍する大学院生を対象とするアンケート調査の実施
実施期間：2022 年 1 月 7 日～1 月 30 日に ToyoNet-ACE にて 実施
回答者および回答率：文学研究科在籍大学院生総数 108 名のうち 34 名（31%）
2. アンケート結果概要

アンケート回答者のうち、本研究科での授業や指導について「大変満足」「概ね満足」と答えた割合は 79.4%でおよそ 8 割であるが、コロナ前の 2019 年が 96.7%であったことから、背景にはコロナ感染拡大の長期化によって対面指導の機会が減ったことがあると推測される。自由記述には「仕事と両立しながら授業に参加することができた」「オンライン授業でも対面の授業と変わらず授業に参加できた」とある一方、「基礎疾患があるため、リスクを心配しないで自宅で授業ができて良かった。しかし、主副指導教授との対面による面談が必要と考えるが、現実的に難しいのでジレンマがある」「良い点→通学時間がない、改善点→大学の施設や図書館が使いにくい」「ほかの先生方ともお話ができるような機会やシス

テムがあるといい」との記述もみられ、対面指導の再開もしくはそれに代わる機会への期待がうかがえる。

3. 上記調査結果のフィードバック

2月25日開催の文学研究科委員会において上記の回答結果を資料で配布し、結果と課題の共有を行った。新型コロナ感染拡大によって対面授業の全面再開が遅れていることの影響がみられること、また ToyoNet-ACE によるアンケートの回答率が低いことが課題として共有された。

成果・課題

対面による研究指導が困難ななかでは、オンラインによる指導形態をよりコミュニケーション的なものに工夫していく必要が求められているが、そうした課題が共有できたという点で、アンケート実施と結果共有は大変有意義であった。また、アンケートの回答率を上げるための工夫を他研究科の事例も参考にしながら検討していくことが課題として確認された。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021年6月16日(水) 14:45～15:45	研修会 「留学生の論文作成に関わる日本語使用の特徴」	FD	45/76	4/4	48/N	×
2022年1月19日(水) 14:45～15:30	研修会 「研究科外部評価について」	SD	48/76	4/4	52/N	×
2022年1月7日～1月30日	大学院生対象アンケートの実施	FD				×
2022年2月25日	研究科委員会 その結果についてのフィードバック	FD	37	2		×

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022年度も研修会と院生アンケートを中心にFD・SDを進めていく。とくに、大学院生を対象とするアンケート調査については、調査結果を分析し、改善状況を継続的に把握していく予定である。また年2回の研修会等についても、大学院生および教員のニーズにもとづいて継続的に実施していく予定である。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

(経済学専攻)

- ① 引き続き年度 2 回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施し、FD 会合や研究科委員会の場においてアンケートで得られた問題点・課題を教員間で共有する。回答率 100% を目指し、さらにアンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加も積極的に促す。
- ③ 2020 年度の FD 会合において、オンラインによる授業の実践事例が多くの教員から提示されたが、指導のさらなるスキルアップを図るため FD 会合や研究科委員会での討論を活用していく。

(公民連携専攻)

- ① 年度 2 回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。
- ② 修了予定セメスターのはじめと最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図る。
- ③ 専攻担当教員による専攻担当教員会議、客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議を定期的に開催し、授業運営等を検討する機会を設定する。
- ④ 一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践する。また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催する。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①（経済学専攻）FD 会合の実施

活動実績

2021 年 11 月 18 日（木）に「経済学専攻における課題に関する意見交換」をテーマとして、経済学専攻教員の FD 会合をオンラインで開催した。経済学専攻教員 14 名が参加し、活発な討論が行われた。なお、当初は専攻別に春学期・秋学期各 1 回開催する予定であったが、コロナ禍による繁忙もあり秋学期 1 回の実施にとどまった。

成果・課題

会合は、研究科委員の現状認識および課題意識を共有することを目的として、各研究科委員から自由に問題提起いただいた。その結果、以下の5つの論点が提示された。

院生の指導体制：後期課程の院生に対する精神面でのサポートや修士院生（とくに留学生）のキャリア支援や就職関連の情報共有の必要性が指摘された。また、オンライン講義の継続による院生間のコミュニケーションの低下も懸念された。

オンライン講義・DX対応：特に、社会人の講義で活用できないかとの提案があった。院生は少人数講義であり、DXにそぐわない面がある点も指摘された。

社会人院生の確保：社会人は本業が忙しく、研究との両立が難しく、中長期的な研究支援の必要性が提示された。時間割の工夫（夜間実施）については、昼間の院生との兼ね合いから難しい旨、意見が出た。リカレント教育の流れから、社会人向けの授業料や小学期の設置も提案された。

SGU推進指標の達成+next SGUを見据えた国際化の対応：英語講義がメインになると、アジアからの留学生が少なくなるとの懸念が示された。協定校からの交換留学制度の活用、院生による英語論文執筆と国際カンファレンスでの発表の支援など、講義や研究指導の中で英語を活用する案が示された。

経済学専攻の研究領域・体制：計量経済学については、実習をメインとする講座の必要性が示された。また、院生の幅広い研究関心に対応するために、複数の教員で指導する範囲を広くカバーできる体制をとることが望ましいとの意見が出された。

今後も、FD会合等で上述の意見・課題について継続的に議論を重ねて、よりよい研究教育体制を構築していきたい。

②（経済学専攻）授業評価アンケートの実施とフィードバック

活動実績

授業評価アンケートをToyoNet-ACEのアンケート機能を用いて春学期の7月、秋学期の2月の計2回実施した。回答結果を集計し、フィードバックコメント案を記載したものを10月および2月の研究科委員会で配布して報告し、改善点を洗い出して対応を図った。その後、アンケート結果と研究科委員会で了承されたフィードバックをToyoNet-ACE上で学生に公開した。

成果・課題

アンケート回答率は、春学期72%、秋学期83%であった。学生たちは、授業に対する取り組み状況や反省点を真摯な姿勢で記述しており、大学に対する要望や提案もかなり具体的・積極的に出してくるようになってきている。また、オンライン授業に対しては、対面と比べて教育上での困難はないことが確認できた。しかし、院生研究室や図書館などを利用した学習や院

生同士の交流が低調となっていた。経済学専攻として、これらを活性化するためのイベントなどを企画していきたい。

③（経済学専攻）研究発表会の実施

活動実績

博士前期課程・後期課程合同の研究発表会・修士論文報告会・博士論文報告会を春学期に 7 回、秋学期に 10 回、計 17 回オンラインで開催した（詳細は別添 2021 年度活動記録一覧（経済学専攻）の通り）。毎回、教員・学生間で活発な討論が行われた。

成果・課題

前期課程の学生は全員参加が義務付けられており、後期課程の学生も積極的に参加するため規模の比較的大きな研究会である。教員ばかりでなく学生からも厳しい質問やコメントが出され、白熱した討論となった。指導教員を含めた参加教員が議論をリードし、さまざまな観点からコメントすることにより、FD 効果の向上が図られた。さらに 1 月の「修士論文最終発表会（口述試験）」においては、多数の教員が同席し質問・コメントすることで、相互に指導能力の向上が図られた。今後は、当日発表者の指導教員（主査・副査）以外の教員の参加をさらに積極的に促すことが課題である。

（公民連携専攻）FD 会合の実施

活動実績

2021 年 4 月 2 日および 9 月 11 日に客員教員を含めた担当教員による拡大担当教員会議兼 FD 会合を開催した。各 18 名が参加した。FD 会合としては留学生を含む論文指導方針、体制について意見交換を行った。

成果・課題

以下の意見が出された。

- ・ 社会人、一般、留学生それぞれにどのようなハードルを設定するか：ディプロマポリシー上ハードルを変えられないとする意見、クリアすべきハードルは同じでも超えた先のレベル感は違うのではないかと、社会人かそうでないかは分かれ目になるが国籍は変わらないのではないかと、社会人でも PPP に深い関係のある業種とそうでない業種の場合は異なるので結局ケースバイケースになるのではないかなどの意見が出された。結論としては、最低限のレベルは同一であること、目指すべき方向性は院生によって異なるので一つに決めるものではないこと、ただし目安としてルーブリックを作成して共有してはどうかということになった。
- ・ 論文作成の着手時期：できるだけ早めるべきとの意見があった反面、絞り込みすぎてしまうと新しい知識を入れられなくなり逆に教育効果が低下するとの意見が出された。3 セメスターにゼミ単位でプレ報告会を行っている事例が紹介され、効果が出ているということであ

り、このような報告会でも主査の判断で参加を促すことで早期の論文作成ができるのではないかという点で合意が見られた。

- ・教員間の連絡体制：現状では院生が主査・副査にそれぞれ連絡して指導を受けている状態であり主査・副査間の意見のすり合わせができない、口述試験の時間が短く合否判定しかできないという意見が提起された。これに対しては、論文提出後では遅いので4セメスターに入ったら随時意見交換できるようにしてはどうか、論文提出後に十分な時間があり調整ができるのでルール化せずに教員に委ねてほしいという意見が出された。結論としては、報告会の後に、教員間での意見交換を促す連絡を行い、あとは主査の判断に委ねることとした。

（公民連携専攻）授業評価アンケートの実施とフィードバック

活動実績

授業評価アンケートを春学期、秋学期終了後に2回実施した。REAS（放送大学リアルタイム評価支援システム）を活用し、専攻全体および科目（含む演習）ごとに感想、要望を自由記述させる方式である。サーバーで自動的に匿名化されるため教員には完全匿名情報として配信されることで、回答者が忌憚ない意見を出せるようにしている。全員からのアンケート内容を全教員にフィードバックして、科目担当教員がコメントを記載し、それを全院生が閲覧できるようToyoNet-Aceに掲載するとともに、対応可能な要望事項に対しては活動に反映させることとした。

成果・課題

REAS システムの特性上回答率は把握できないが、合計約200件の感想、要望を受け取ることができた。春学期アンケートにおける「専攻全体に対する意見」と「専攻長からの回答」は以下の通りである。

- コロナ禍での通学となったが、ZOOMを活用したオンライン授業で、仕事との両立ができ、非常に学びになりました。スタッフにも親切にいただきました。⇒DXの進化が学びの機会を広げていることを実感します。教員・スタッフもアップデートしていきたいと思います。
- コロナ禍ということもあり、通学とWEBにて授業がうけることができ、全授業に参加できた。今後コロナが収束した後も通学及びWEBにて授業をうけることが可能になるようお願いいたします。⇒授業の性格によっても異なる可能性がありますので、ポストコロナの在り方として検討してまいります。
- 参考事例を基に実学であることが、社会人としての希望です。その点において実務での経験や事案を取り上げていただける、また、相談させていただける点は大変ありがたいです。また、自分の経験していない分野での経験や提案の情報は、見識が広がるという点でとても興味深いです。コロナ禍により生徒同士の交流がなかったのが残念でした。受講してない授業科目の授業資料（パワーポイントのスライドなど）を閲覧できるシステムがあったら良いな

と思いました。⇒資料はあくまでも授業の補足であり、教員の口頭説明や質疑と一体的に運営されてはじめて意味を持ちますので、履修科目以外の資料閲覧は行う予定がありません。

- コロナ禍で遠隔授業は受講しやすかった。ネット環境も申し分ない。⇒DXの進化が学びの機会を広げていることを実感します。教育の形態、内容もアップデートしていきたいと思います。
- 中身の濃い、示唆に富んだ講義が多く、いつも楽しみにしております。⇒ご期待に沿えるよう今後も努めてまいります。
- 大手町のスタッフの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。⇒こちらこそありがとうございました。

（公民連携専攻）論文報告会の実施

活動実績

当年度に終了を予定している院生は、最終セメスター開始後の中間報告会と、終了前の最終報告会への参加が義務付けられている。報告会は、全教員、院生が参加できる場として設定される。今期はコロナ禍に伴いオンラインで開催した。春学期修了生 3 名、秋学期修了生 13 名は全員参加した。

成果・課題

院生の人数が多い場合は複数の教室で実施するが、最低でも 3 人以上の教員が参加することで厳密性を担保している。

（公民連携専攻）連続トークの実施、PPP 成果発表会の実施

活動実績

一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践する。また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催する。

成果・課題

連続トークの実績は以下の通りである。

2021 年 11 月～2022 年 1 月で計 14 回開催。通常講義を公開する形式。14 名の教員（含むゲスト）が自分の講義の進捗にあわせて切りの良い回を公開。延約 400 人参加。

成果発表会の実績は以下の通りである。

日時：2 月 17 日（木）18：00～19：40

方式：Zoom

参加者：約 50 名

発表内容：

- ・中心市街地活性化の新しい評価手法による「賑わい創出施設」のまちづくりへの貢献度とその可能性

- ・社会的インパクトの最大化を促す PPP 審査指標設定手法の研究
- ・インドネシアにおける日本のプレハブ技術を活用した低所得者向け耐震住宅案件化調査
- ・沖縄地域 PPP/PFI プラットフォーム給食センター部会におけるデリバレイティブ・ポリングによる合意形成実験について
- ・ワーケーションによる地域活性化の可能性
- ・ニューノーマル時代における地域活性化拠点づくりのポイント
- ・鎌倉市視察報告
- ・三浦市市民交流拠点のあり方に関する研究

活動記録一覧

経済学専攻：別添 2021 年度活動記録一覧（経済学専攻）のとおり。なお、HP 掲載は行っていない。

公民連携専攻：別添 2021 年度活動記録一覧（公民連携専攻）のとおり。なお、一部公開行事（国際 PPP フォーラム、PPP 成果報告会、連続トーク）は開催の事実を HP に掲載している。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

（経済学専攻）

- ① 引き続き年度 2 回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施し、FD 会合や研究科委員会の場においてアンケートで得られた問題点・課題を教員間で共有する。回答率 100%を目指し、さらにアンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加も積極的に促す。
- ③ 2021 年度 FD 会合で提示された論点（オンラインの活用など）について、FD 会合や研究科委員会で継続的に議論をする。

（公民連携専攻）

- ⑤ 年度 2 回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。
- ⑥ 修了予定セメスターのはじめと最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図る。また、主査・副査間の意見交換を積極的に推奨する。
- ⑦ 専攻担当教員による専攻担当教員会議、客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議を定期的で開催し、授業運営等を検討する機会を設定する。

- ⑧ 一般参加者からも意見を得られるよう授業を公開する連続トークを実践する。また、ゼミ活動の成果等を発表する発表会を開催する。

2021 年活動記録一覧（経済学専攻）

日時	開催場所	開催内容（発表者、テーマ、参加者数など）
6 月 3 (木) 16 : 30- 18 : 10	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第 1 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）HE SIYE（M2）「陝西省における経済発展レベルの格差の問題」 （2）肖 力源（M2）「スイッチングコストを伴うマルチサイド市場についての研究」 （3）李 卓雄（M2）「補助金政策が中国の新エネルギー自動車産業の全要素生産性に与える影響分析」 教員 5 名、学生 21 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 10 日 (木) 16 : 30- 18 : 10	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第 2 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）高 キン（M2）「日本における禁煙率に関する分析－禁煙率関数の推計を中心として」 （2）劉 壮（M2）「Advantageous-selection の実証分析－中国民間医療保険市場を中心に」 （3）HAN YUEYUE（M2）「日本における男性の育児休業が家庭の継続出産行為に与える影響」 教員 6 名、学生 20 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 17 日 (木) 16 : 30- 18 : 10	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第 3 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）侯 秉辰（M2）「中国における農民専門合作社の経済効果に関する実証分析」 （2）張 思展（M2）「アリの森林の普及およびユーザーの使用意欲に影響に関する分析——ロジスティック回帰と因子分析に基づいて」 （3）葉 之夏（M2）「企業の社会貢献支出が企業価値に与える影響」 教員 8 名、学生 21 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

6月24日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第4回）（M2の修士論文中間報告、質疑応答 含め各30分） （1） 叶 丹敏（M2）「貿易産業と産業構造及び経済成長の関係 について」 （2） 李 翊菲（M2）「中国の「二人っ子政策」と既婚女性の労 働供給」 （3） CHHEM SOLINDA（M2）「Economic Growth, Poverty and Income Inequality in Cambodia」 教員4名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
7月1日 (木) 16:30- 17:10	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第5回）（D3の論文中間報告、質疑応答含め 各30分） （1）伊藤 翼（D3）「地方選挙が障害者施設の地方単独事業に 与える影響」 教員3名、学生21名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
7月8日 (木) 16:30- 17:40	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第6回）（D2, D6の論文中間報告、質疑応答 含め各30分） （1）阿部 真也（D2）「いわゆる「AI生成物」の著作権帰属に 関する制度研究」 （2）水村 陽一（D6）「規制改革による産業活性化と革新 -ド イツ手工業分野規制改革の全容」 教員5名、学生21名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
7月15日 (木) 16:30- 17:40	Webex に よる オンライ ン開催	春学期論文発表会（第7回）（D3, D4の論文中間報告、質疑応答 含め各30分） （1）葉 青（D3）「中国における都市農村間所得格差の要因分 析－家計の各種所得を視点として－」 （2）孔 徳毅（D4）「R C Aを用いて中国の工業製品の貿易構 造の実証分析－中間財輸入を考慮して」 教員5名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

10月7日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会（第1回）（M1の論文中間報告、質疑応答含め 各30分） （1）小山 竜輝（M1）「健康指標と経済指標の相関関係と因果関 係の推測」
---------------------------------	------------------------------	---

		(2) 銭 嘉瑩 (M1)「家庭の経済・就業状況と子供の生活・教育」 (3) 由富 康平 (M1)「戦後の若松港の石炭積出港としての重要性について」 教員 6 名、学生 20 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10 月 14 日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会 (第 2 回) (M1 の論文中間報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 金 麗 (M1)「訪日中国人観光客の旅行需要の決定要因」 (2) 千葉 美加 (M1)「年金基金ポートフォリオの資産構成の検証ーオルタナティブ投資の有効性についてー」 (3) 石 雨 (M1)「中国の GDP、観光、エネルギー消費の CO2 排出量への影響」 教員 7 名、学生 18 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10 月 21 日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会 (第 3 回) (M1, M2 の修士論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 孟 子涵 (M1)「産業集積における日本自動車企業の中国立地に与える影響」 (2) HE SIYE (M2)「陝西省における経済発展レベルの格差の問題」 (3) 肖 力源 (M2)「スイッチングコストを伴うマルチサイド市場についての研究」 教員 4 名、学生 19 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10 月 28 日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会 (第 4 回) (M2 の修士論文報告、質疑応答含め各 30 分) (1) 李 卓雄 (M2)「補助金政策が生産性に与える影響ー中国の新エネルギー自動車産業の財務データを用いた実証分析ー」 (2) 高 キン (M2)「日本における禁煙率に関する分析ー禁煙率関数の推計を中心として」 (3) 劉 壮 (M2)「Advantageous-selection の実証分析ー中国民間医療保険市場を中心に」 教員 5 名、学生 21 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

11月4日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会（第5回）（M2の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）張 思展（M2）「アリの森林の普及およびユーザーの使用意欲に影響に関する分析——ロジスティック回帰と因子分析に基づいて」 （2）葉 之夏（M2）「企業の社会貢献支出が企業価値に与える影響」 （3）侯 秉辰（M2）「中国における農民专业合作社の経済効果に関する実証分析」 教員8名、学生18名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月11日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会（第6回）（M2の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）李 翊菲（M2）「中国の「二人っ子政策」と既婚女性の労働供給」 （2）CHHEM SOLINDA（M2）「Economic Growth, Poverty and Income Inequality in Cambodia」 （3）叶 丹敏（M2）「貿易産業と産業構造及び経済成長の関係について」 教員4名、学生18名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月18日 (木) 16:30- 18:10	Webex に よる オンライ ン開催	秋学期論文発表会（第7回）（M2, M4の修士論文、D3の論文報告、質疑応答含め各30分） （1）HAN YUEYUE（M2）「日本における男性の育児休業が家庭の継続出産行為に与える影響」 （2）曾 浩然（M4）「中国における付加価値税改革による企業財務パフォーマンスへの影響—不動産業界を例として」 （3）伊藤 翼（D3）「子どもの障害発症が親の就労状況に与える影響」 教員3名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月25日 (木) 17:05- 17:45	Webex に よる オンライ ン開催	論文報告会（第8回）（Dの論文報告、質疑応答含め各30分） （1）葉 青（D2）「中国における都市農村間所得格差の要因分析—家計の各種所得を視点として—」 教員4名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

12月2日 (木) 17:35- 18:15	Webex に よる オンライ ン開催	論文報告会（第9回）（D6の論文報告、質疑応答含め各30分） （1）水村 陽一（D6）「規制改革による産業活性化と革新 – ドイツ手工業分野規制改革の全容」 教員2名、学生19名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
12月9日 (木) 17:05- 17:45	Webex に よる オンライ ン開催	論文報告会（第10回）（D2の論文報告、質疑応答含め各30分） （1）阿部 真也（D2）「いわゆる「AI生成物」の著作権帰属に関する制度研究」 教員3名、学生19名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
1月29日 (土) 13:00- 16:00	Webex に よる オンライ ン開催	2021年度修士論文口述試験。論文提出者13名について、各学生による報告の後、試験官教員（17名）より質疑応答を行った。各試験官の評価及び研究科委員会の審議を経て、これら13名の修士論文を合格とした。

2021年活動記録一覧（公民連携専攻）

日時	開催場所	開催内容（発表者、テーマ、参加者数など）
2021年4月2日(金) 18:30-19:30	Zoomによる オンライン開催	拡大専攻担当教員会議を開催。専任、客員18名が参加。コロナ禍対応、留学生の指導等について意見交換。
4月3日 (土)、4日 (日) 17:00- 18:00	Zoomによる オンライン開催	4月入学予定者の顔合わせ。非対面授業が予想されたためコミュニケーションを取ることが目的。新入生14名、教員12名が参加。各人から自己紹介を行った。
4月24日 (土) 12:15-13:15	Zoomによる オンライン開催	2021年度春学期修了予定者修士論文中間報告会。論文提出予定者3名について、各学生による報告の後、教員（8名）より質疑応答を行った。

6月19日 (土) 12:15-13:15	Zoomによる オンライン開催	2021年度春学期修了予定者修士論文最終報告会。論文提出予定者3名について、各学生による報告の後、教員(12名)より質疑応答を行った。
7月31日 (土) 12:15-13:15	Zoomによる オンライン開催	2021年度春学期修了予定者修士論文口述試験。論文提出予定者3名について、各学生による報告の後、教員(11名)より質疑応答を行った。
9月11日 (土) 16:00-17:30	Zoomによる オンライン開催	拡大専攻担当教員会議を開催。専任、客員18名が参加。論文指導について意見交換。主査・副査交代ルールの見直しを検討。また、報告会後の主査・副査の指導方針協議の実施について意見交換。
10月2日 (土) 12:15-12:45 20:00～	Zoomによる オンライン開催	2021年度春秋学期修了予定者修士論文中間報告会。論文提出予定者13名について、各学生による報告の後、教員(14名)より質疑応答を行った。
10月14日 (木) 13:00～14:00	Zoomによる オンライン開催	公民連携専攻将来構想に関する専攻担当教員協議(9名出席)。これ以前に、将来構想を検討するに至った経緯、検討体制として専攻内に将来構想検討委員会を設置すること、将来構想骨子についてメールベースの会議を開催済。特に、オンデマンド授業の方法についての意見を聴取。
10月14日 (木) 10:00～12:00 19:00～20:00	Zoomによる オンライン開催	公民連携専攻将来構想に関する拡大専攻担当教員協議。演習担当教員(5名)、修了生教員(5名)に分けて開催。それぞれ、教育システムの変更、1年コースの導入、学位の名称変更について報告した後、意見を聴取。
11月4日 (木) 11:30～12:30	Zoomによる オンライン開催	公民連携専攻将来構想に関する専攻担当教員協議(9名出席)。教育システムの変更、1年コースの導入、学位の名称変更それぞれについて、将来構想検討委員会のまとめ案を説明し、カリキュラムへの反映、授業運営方式等について論点を整理し、機関決定に進むことのできる了承を得る。その後、12月9日の研究科委員会、20日の常務理事会で決定。
12月11日 (土) 12:15～12:45 20:00～	Zoomによる オンライン開催	2021年度春秋学期修了予定者修士論文最終報告会。論文提出予定者13名について、各学生による報告の後、教員(15名)より質疑応答を行った。

2022 年 1 月 26 日 (水) 17:00～19:00	Zoom による オンライン開催	第 17 回国際 PPP フォーラム「社会的価値」欧州編を開催。外国人講師 2 名を招聘。ウェビナー形式で開催。約 90 名参加。資料を HP に掲載。
1 月 29 日 (土) 9:00～12:00	Zoom による オンライン開催	2021 年度春秋学期修了予定者修士論文最終報告会。論文提出予定者 13 名について、各学生による報告の後、教員 (17 名) より質疑応答を行った。
2 月 3 日 (木) 9:00～11:00	Zoom による オンライン開催	第 17 回国際 PPP フォーラム「社会的価値」北米編を開催。外国人講師 2 名を招聘。ウェビナー形式で開催。約 60 名参加。資料を HP に掲載。
2 月 17 日 (木) 18:00～19:40	Zoom による オンライン開催	PPP 成果発表会開催。各ゼミの活動報告、優秀論文の発表計 8 本を院生から報告。修了生、一般から約 50 名参加。
連続トーク	Zoom による オンライン開催	2021 年 11 月～2022 年 1 月で計 14 回開催。通常講義を公開する形式。14 名の教員 (含むゲスト) が自分の講義の進捗にあわせて切りの良い回を公開。延約 400 人参加。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

本研究科には複数の専攻やコースがあり、またそれぞれに所属する学生の傾向や、実習を必要するなどコースの特徴等があることを考慮しつつ、同時に、新型コロナウイルスの状況を見定めながら、例年実施しているアンケートを本年度も実施し、その結果を踏まえた教育、さらにはポストコロナに向けた教育の改善の方向を検討する。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

A. 授業改善について：アンケート調査の実施

活動実績

学生に対するアンケート調査は ToyoNet-ACE のアンケート機能を使用し、その期間を「11 月 24 日 0 時」から「12 月 15 日 24 時」までとして実施した。アンケートの概要は以下の通りである。

対象：

経営学研究科の全学生

アンケート調査項目：

(1)志望理由、(2)講義・演習・研究指導及び講義科目の満足度、(3)満足あるいは不満の理由、(4)授業を受講して得た成果または役立ったこと、(5)学習・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善点、(6)現在設置している講義科目以外で、設置してほしい科目や研究領域、(7) 講義科目や演習・研究指導、その他の要望（授業運営、学生生活、設備等）、(8) 中間報告会の回数や時期および形式、(9)自由記述

成果・課題

○アンケートの実施に関して

- ・昨年度に比べてアンケート回答者の数が大幅に増加した（4→17）。
- ・一方、アンケート回答者が特定の専攻・コースに偏っているため、結果の解釈・吟味に当たってはそれを踏まえて行う必要があった。
- ・実施の期間としては十分なものであったが、アンケートの回収数を高めるためには告知などの面での改善の余地があるかもしれない。
- ・アンケートの項目には現状のもの以外にも色々考えられるが、経年の変化や年度間の比較などを踏まえると現状を維持するので良いと考える。

・アンケートの実施時期・回数に関しては、結果の整理・分析、その共有、学生の負担などを踏まえると現状に特に問題はないと考える。

○アンケートの結果について

それぞれの学生の個々の具体的回答をここに記すことは避けるが、「（２）講義科目、演習、研究指導についての満足度」では、回答数 17 のうち「大変満足」「満足」の合計が「16」と全体の 94%以上が肯定的な評価をしていて、残る 1 も「どちらともいえない」であり必ずしも否定的評価ではない。それゆえ、現状は「全体として概ね肯定的な評価を受けている」と判断して良いと考える。

無論、これら回答のうち少なくとも 14 名が前期課程・ビジネス会計ファイナンス専攻の中小企業診断士養成コース所属であるため結果の解釈上はそれを踏まえる必要はある。しかし、細部において様々な指摘はあるものの、トータルとしての「概ね良い」と自己評価して差し支えないと考える。

一方、上述のように細かい点に関して様々な指摘があったことも事実である。それらへの対応・改善は実務的観点からの検討も要すると考えるが、それぞれに対して専攻・コース・教員のいずれのレベルで対応すべきかについては今後の検討課題と考えたい。

コロナ禍における授業実施も二年目となり、教員側も授業運営に対するある程度の慣れや経験を通じたノウハウの蓄積、方法面における進歩が見られた反面、それとは関係なく学生の要望や希望は様々なものがあった。しかし、困難な状況であることは学生側にもある程度は理解がされていると想像され、授業運営や研究指導における隘路・困難に直面しつつも熱意を持って対処した各教員の努力が学生に評価・理解されたものとも考えたい。とはいえ、学生からの意見や改善要望には真摯に耳を傾け、より良い教育の提供を目指したい。

アンケート結果の詳細は研究科委員会を通じて、大学院の講義・演習を担当しているすべての教員で共有をしている。

B. 学生の研究報告会の定例的開催

活動実績

令和 3 年度は、経営学・マーケティング専攻、ビジネス・会計ファイナンスの二専攻で修士中間論文報告会、修士論文発表会ならびに博士課程中間報告会、博士課程公聴会等を実施した。

成果・課題

中間報告会と論文発表会等のそれぞれの日程と参加者数は以下の表の通りである。なお「開催せず」は当該の学生が在籍しないことによる。

経営・マーケティング専攻

博士前期課程（修士課程）

	日時	報告者数	補足事項
--	----	------	------

中間報告会	2021 年 8 月 4 日	8	第 1 回・オンライン開催
中間報告会	2021 年 10 月 27 日	8	第 2 回・オンライン開催
口述試験	2022 年 2 月 2 日	7	オンライン

博士後期課程（旧経営学専攻を含む）

	日時	報告者数	補足事項
中間報告会	2021 年 10 月 27 日	4	オンライン開催
公聴会	開催せず		

ビジネス・会計ファイナンス専攻

博士前期課程（修士課程）

企業家・経営幹部養成コース

	日時	報告者数	補足事項
中間報告会	開催せず		
口述試験	開催せず		

会計ファイナンス専門家養成コース

	日時	報告者数	補足事項
中間報告会	2021 年 7 月 29 日	1	第 1 回・オンライン開催
中間報告会	2021 年 11 月 25 日	1	第 2 回・オンライン開催
口述試験	2022 年 1 月 27 日	1	オンライン

中小企業診断士登録養成コース

	日時	報告者数	補足事項
中間報告会	2021 年 7 月 24 日	24	第 1 回・オンライン開催
中間報告会	2021 年 11 月 27 日	24	第 2 回・オンライン開催
口述試験	2022 年 2 月 5 日	24	オンライン開催

博士後期課程

	日時	報告者数	補足事項
中間報告会	開催せず		
公聴会	2021 年 4 月 26 日	1	オンライン開催

これら報告会では報告を行った学生には指導教員以外からも様々なコメントを与えられることにより単に研究の進捗を促すのみならず多角的な視点からそれを進めるよう促進し、同時

に、教員も含んでの議論を通じた研究の質の向上・幅の拡大を目指した。特に修士課程の学生にとっては他の学生の研究の内容・進捗状況を知る機会となり、指導教員以外からのコメントは研究をより充実・発展させる源泉となったものと考えられる。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

A. 授業改善について

学生に対するアンケートの実施によって改善の余地・方向性を継続的に発見する。定例的な実施によって経年の変化を把握するとともに、より多くの回答・意見を収集する工夫も検討したい。

B. 学生の研究報告会の定例的開催

修士論文の中間報告会・発表会、博士課程中間報告会・公聴会の実施を通じ、各学生の研究の進捗状況を教員間で共有し、同時に研究の質を高める観点から学生・教員間、また教員間でも意見交換を行う。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

法学研究科においては大学院生に留学生の占める割合が増加していることや、国の COVID19 感染防止策のため入国できなかった留学生が多数いることから、こうした緊急事態における留学生指導のあり方について FD 研修会を実施することを計画した。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①2021 年度法学研究科 FD 講演会

活動実績

信州大学高等教育センターおよび東北大学大学院教育学研究科・教育学部に所属されている李敏准教授を講師に迎え、大学院修了後のキャリアパスを考え、法学の基礎知識を持たない外国人として、どのように日本の大学院で法学を勉強し、研究論文を執筆するかを主題に、日中の大学院制度および大学院の比較、中国人留学生が日本の大学院に入学した際に中国との相違から直面する課題、日本の教員が中国人留学生を指導するうえで求められるものについて講演を行っていただいた。

講演後、中国の大学院における社会人教育、中国人留学生に日本の学術用語を習得させるための指導方法、中国の大学院担当教員の授業負担、大学院におけるハラスメント問題の処理、チューター制度の意義について出席者から質問がなされ、講演者から回答が行われた。

成果・課題

計画に従って研修を実施するべく企画内容を詳細に検討する中で、中村恵高等教育推進委員の発案で、現在法学研究科に在籍する留学生が皆中国人であることを鑑み、留学生一般とするのではなく、特に中国人留学生を対象として絞り込みを行うこととした。また、講師との協議の中で、コロナ下でのものという表層的な問題に限定するのではなく、その根底にある日本と中国の教育制度の相違なども踏まえた全体像を俯瞰することが提案され、そうした方向での講演を依頼した。留学生との日常的なコミュニケーションではなかなか踏み込めない微妙な問題についてもその背景を理解することができ、各教員が今後のきめ細かな指導に活かすことが期待されるところである。

②修士論文・博士論文中間報告会

活動実績

修士課程は私法学専攻と公法学専攻とに分かれ修士2年に、博士課程は両専攻一緒に在籍する院生に、論文要旨をもとにして、各5分程度で説明を行わせ、その後、出席した教員との間で質疑応答を行った。コロナウイルス蔓延状況および、一部留学生が入国できていない状況を鑑み、オンラインで実施した。

成果・課題

主指導・副指導教授以外の教員からの質疑応答を通じて、多様な観点での論文の検討が行われ、院生が気づいていなかった問題点を発見し、また、論述にも厚みを持たせ、さらには、今後の研究課題を設定することに役立ったものと思われる。

教員の参加の便宜を鑑み、例年、平日である研究科委員会の終了後に実施しているが、社会人の院生が勤務上の都合で多数出席できなかった。今後は、土曜日または夜に実施するなど、可能な限り多くの院生が参加できるよう環境を整えていく必要があると思われる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/11/16 15:30～17:00	修士論文中間報告会（公法学専攻）	FD	2	0	2	×
2021/11/16 15:30～17:30	修士論文中間報告会（私法学専攻）	FD	8	0	8	×
2021/12/14 12:30～14:10	FD研修会 「中国人留学生がいかに日本の大学院（法学研究科）で学習するのか」	FD	20	1	21	×
2021/12/14 15:30～16:20	博士論文中間報告会	FD	10	0	10	×

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

実務家による講演会を実施する予定である。法学に関しては、理論と実務の双方を重視することから、単なる実務家による近時の実務の説明ないし報告を求めるのではなく、近時の実務についてアカデミックな観点から分析を加えた講演をお願いする予定である。そのため、実務一筋であった実務家ではなく、研究者としての実績もある実務家に講演を依頼する予定である。そして、この講演会を通じて、教員による研究の社会への還元・貢献の在り方を再考する一助とすることを期待している。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2021 年度より福祉社会システム専攻を改組し、社会学専攻の中に「社会実践学コース」を設置した。2021 年度は、福祉社会システム専攻の 3 セメスタ以降が存続するとともに、新コースが開始された移行期にあたる。修士論文の評価等は福祉社会システム専攻で独自に行ったが、入試等は専攻全体で取り組むなど、新たな体制づくりに配慮が必要であった。

社会心理学専攻では、教育力強化特別予算により、海外の大学との研究交流活動を継続した。コロナ禍の影響が大きかったが、オンラインで可能な活動を行った。

また、例年通り、院生アンケートを実施するとともに、FD 活動の一貫として講演会を開催した。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①社会学研究科高等教育推進委員会委員による講演会の実施

活動実績

大学・大学院の国際化と国際教育は、学生の国際流動性を量的に拡大することで進展してきた経緯がある。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大による物理的な越境を伴う国際教育交流が休止したことで、オンラインを活用した新たな教育実践や方策が世界中で施行されている。コロナ禍による緊急対応を越えた新たな国際教育と国際化のあり方について模索するため、留学生政策に詳しい専門化を招いて講演会を開き、これらに関する情報共有・意見交換を行った。

日時：2022 年 1 月 24 日（月）14:00－15:30

講師：太田 浩氏（一橋大学全学共通教育センター 教授）

演題：『ICT 活用による大学の国際化と国際教育交流』

成果・課題

日本のコロナウイルス水際対策により、米国、豪州を中心に日本の大学への交換留学生派遣を中止する大学の増加など国際交流の機会が減少し、また、世界経済の停滞による中間所得者層の縮小で、高等教育の回復には最低でも 5 年を要するとした報告もある。コロナの影響による制約から、国際移動に伴う高い旅費と環境への負荷（研究者の国際会議や研究交流も含む）への対応策として、短期留学の意義と量的拡大の再検討がなされ、ICT の活用へと移行した。しかしながら、日本では ICT を活用した遠隔教育、授業のデジタル化、事務のオンライン化が

遅れており、さらにはこれに関わるプロフェッショナル・スタッフの育成がなされていないという問題がある。このような背景がある中で、国際教育交流の ICT 化が一気に進められることとなった。これらの推移を踏まえた上で、具体的な国内外の大学の事例を紹介していただき、現状の問題点と今後の課題についての理解を深めるとともに、ディスカッションを行った。

そこでは、デジタル化によるオンラインへの移行（オンライン授業、配付資料の pdf 化など）、さらに DX による物理的世界には存在しない新しいサービスやワークフローの実現（国際コンソーシアムによるオンライン授業の相互開放など）といった質的変革の必要性についてまで話が展開した。ただし、これらのことを実現していくには、先述したわが国が抱える問題の解決が必要であり、そのためには外部機関との協力・連携も不可欠になると考えられた。DX に関しては、東洋大学でも力を入れようとしていることから、大学院教育の国際化と国際交流を考えるための大変良い刺激となる講演会であったといえる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2022/1/24 14:00～15:30	2021 年度社会学研究科 FD 研修会 オンライン講演会『ICT 活用による大学の国際化と国際教育交流』	FD	30	0	30	×

② 院生へのアンケート調査の実施

活動実績

以下の内容にて、2022 年 2 月に「2021 年度社会学研究科 授業評価アンケート」を実施した。比較のため、質問内容は例年と同じものとした。2019 年度までは紙媒体で調査票を配布してきたが、2020 年度に引き続き今年度もオンラインで実施した。大学院教務課から学生にメールで連絡していただくとともに、研究指導の教員からも協力をよびかけた。

問 1 今年度秋学期に履修している授業コース数（「研究指導を除く」）を教えてください。

1. 0 2. 1 3. 2 4. 3～4 5. 5 以上 回答欄（ ）

問 2 大学院の授業内容、運営方法等についての感想を、自由に記入してください。（自由回答）

問 3 大学院の授業を受講することで得た成果、役立ったことを記入してください。（自由回答）

問4 学修・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善点してほしい点があれば、自由に記入してください。（自由回答）

問5 社会学研究科の基礎科目のカリキュラムについて、基礎学力を習得するのに十分だと思いますか。（1つ選択）

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 十分である | 4. やや不十分である |
| 2. まあ十分である | 5. 不十分である |
| 3. どちらともいえない | |

回答欄（ ）

問6 あなたの専門領域からみて、専門領域の特論・演習・（社会心理学専攻の総合研究）科目のカリキュラムは十分だと思いますか。（1つ選択）

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 十分である | 4. やや不十分である |
| 2. まあ十分である | 5. 不十分である |
| 3. どちらともいえない | |

回答欄（ ）

問7 現在設置されている科目以外に、どのような科目があればよいと思いますか。また、その理由も述べてください。（自由記入）

問8 現在受けている研究指導について、あなたは満足していますか。（1つ選択）

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 満足 | 4. やや不満足 |
| 2. まあ満足 | 5. 不満足 |
| 3. どちらともいえない | |

回答欄（ ）

問9 研究指導について、要望があれば述べてください。（自由回答）

問10 英語で行われる科目を、2021年度春／秋学期に受講していますか（1つ選択）。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 受講した・している | 2. 受講していない |
|--------------|------------|

回答欄（ ）

成果・課題

回答数は27名（無記名）であった。オンライン化にともない、昨年に引き続き、回答数が多かった。回答数の多さにより、幅広く学生からの要望を聞くことができたと評価できる。回答からみる限り、授業や研究指導への満足度はおおむね高かった。対面での授業の機会が貴重であったとか、共同研究室の使用方法に困ったことなど、コロナ禍での困難も指摘された。

回答結果は別途、過去5年間のアンケート結果と比較可能なかたちで資料として作成し、研究科委員会場で全員に配布した。今後も継続実施し、学生からの要望・意見に耳を傾けるとともに、趨勢の把握に努める。

③教育力強化特別予算による海外教員・院生を交えたセミナー実施

活動実績

教育力強化特別予算の計画通り、2月12日に成均館大学とのジョイント・セミナーをオンラインで開催した。成均館大学教員2名、東洋大学教員2名（浅田晃佑先生、橋本剛明先生）が研究発表を行い、発表後に討論を行った。引き続き、成均館大学の大学院生2名、東洋大学の大学院生2名が発表を行い、質疑討論を行った。さらに、Google Classroomを用いて、互いの大学院生がWeb上で発表をした。この質疑は、2月13日から18日にかけて行われた。

詳細は、下記の通りである。

2022 Joint Seminar Between

Toyo University & Sungkyunkwan University

Asynchronous Seminar Date: February 12th (Saturday) ~ February 19th, 2022

Asynchronous Seminar Room: Google Classroom

Synchronous Seminar Date: 10:00 ~ 15:00, February 12th (Saturday), 2022

Synchronous Seminar Room: Zoom

Synchronous Seminar Program

Opening Remarks: 10:00 ~ 10:10 Prof. Kitamura (Toyo University)

First Session:

10:10 ~ 10:40 Prof. Asada (Toyo University)

10:40 ~ 11:10 Prof. Chang (Sungkyunkwan University)

11:10 ~ 11:40 Prof. Hashimoto (Toyo University)

11:40 ~ 12:10 Prof. Kim (Sungkyunkwan University)

Break Time: 12:10 ~ 13:00

Second Session:

13:00 ~ 13:15	No.1 (Sungkyunkwan University)	
13:15 ~ 13:30	No.1 (Toyo University)	Iha
13:30 ~ 13:45	No.2 (Sungkyunkwan University)	
13:45 ~ 14:00	No.3(Toyo University)	Ozaki, K.
Free Discussion:	14:00 ~ 14:20	
Closing Remarks:	14:20 ~ 14:30	Prof. Choi (Sungkyunkwan University)

成果・課題

昨年度に引き続き成均館大学と共同でセミナーを開催することができ、相互の研究成果を共有することができた。また、大学院生の研究発表に対して、学生同士ならびに教員から適切なコメントの提示がおこなわれた。このフィードバックを Google Classroom を使用してある程度の期間をかけて行うことにより、さらに交流を深めることができた。

このような発表とそれへのフィードバックのやりとりは、院生の研究指導の活発化につながるだけでなく、学生指導の方法について教員間で共有したりその方法を研鑽したりする場としても役に立つ。来年度も引き続き実施するとともに、オンラインでも交流拡大の方法を検討していきたい。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教 員・ 学生	職員	計	
2022/2/12 10:00~15:00	2022 Joint Seminar Between Toyo University & Sungkyunkwan University	FD・SD	49	0	49	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022 年度も、引き続き F D・SD 活動を進めていく予定である。

① 組織検討ワーキンググループの活動

2021 年度末に、研究科内において、組織検討ワーキンググループを設置した。社会学専攻のコース編成について検討、人事面の強化についてのコンセンサス形成、将来の研究科のあり方についての検討という 3 つの目的をもうけ、7 名のメンバーから構成される。

2022 年度は、社会学研究科内でかかえる組織上の課題を共有し、検討を進める予定である。

② 社会学研究科研究活動推進委員による講演会の継続実施

一昨年度は留学生、今年度は国際化に焦点を絞った講演を依頼した。引き続き、課題に即した取り組みを行う。

③ 院生へのアンケート調査の実施

引き続き院生の意識、意見などを知るため実施する。アンケート結果の学生へのフィードバックにつとめたい。また、数年分のアンケート結果が蓄積されてきたことから、その経年的な推移にも着目して分析をすすめ、成果を教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てる。

以上

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の現状を踏まえ、感染予防対策と学修機会の確保・研究活動の継続を両立するため、引き続き試行錯誤を続けながら様々な取り組みを進めて行く。また、大学院担当教員の指導力（質保証）を高めるため、大学院担当教員と川越教学課職員が連携して、以下の通り FD・SD 活動を継続して推進し行く。

①「PBL 教育」、「オンラインを活用した教育・研究活動」に関連したテーマについて FD 講演会を開催する。②「教育・研究等改善アンケート調査」を実施しする。③多種多様な企業、自治体、他大学と連携し PBL 教育の実証実験を実施する。④「理工学フォーラム」を対面とオンラインの併用で開催する。⑤ベンチャー・サイエンス特論は、例年、産学協同教育センター・中核人材育成講座と連携して実施しているが、今年度は研究科単独で実施する。⑥英語ワークショップはオンラインで開催する。⑦シラバス点検を継続して実施する。⑧適切性等に関する検証を本研究科の「適切性等の検証に関する内規」に基づき実施する。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①FD 講演会

活動実績

- ① 日 時：2021 年 9 月 2 日（木）16:30～17:30
場 所：オンライン
演 題：フィリピン・マブア大学との国際インターシップ
講 師：堀安 吉城 氏（株式会社二ノ宮製作所 専務取締役）
出席者数：55 名（教職員）
- ② 日 時：2021 年 11 月 11 日（木）16:00～17:00
場 所：対面・オンライン
演 題：学生とつくる！日本薬科大学の教育 DX
講 師：都築 稔 氏（日本薬科大学副学長）
出席者数：52 名（教職員）

成果・課題

- ① 理工学研究科では、PBL 教育・インターシップの取り組みを推進している。これまでフィリピンの大学から多くの海外インターシップ生を受け入れている株式会社二ノ宮製作所の取り組みについて講演をいただいた。外国人学生と企業のマッチング、参加学生が企業の抱える課題を自ら見だし、解決手段を導きだすための手法に関する指導方法等について幅広く触れていただき、本研究科の PBL 教育の取り組みに参考となる内容であった。
- ② 日本薬科大学の教育 DX について講演をいただいた。コロナ禍において日本で最初に全学オンライン授業を開始したことでマスコミに注目された大学で、円滑に運用されるまでの苦労等、本学にとっても参考となる内容であった。特に、学びの自由度と教育の質を大きく向上させるための試行錯誤、学生の受講状況や單元ごとに試験を実施し結果に

応じて学習の習熟度や進行度を可視化すること。学びの転換により、学生と教員、学生間の交流（対話する機会の増大）が増えたことなど参考になった。

②教育・研究等改善アンケート調査

活動実績

期 間：2021 年 12 月 3 日(金)～2022 年 1 月 13 日（木）
対 象 者：博士前期課程 170 名、博士後期課程 8 名（2021 年 10 月 1 日現在在学学生）
回答者数：博士前期課程 147 名（回収率 86.5%）、博士後期課程 7 名（回収率 87.5%）

成果・課題

理工学研究科が実施する「教育・研究等改善アンケート」は、学部学生向けの授業評価とは視点を変え、研究指導等についての学生満足度評価の色彩を強めた設問により、研究指導体制や研究教育環境の改善に資する項目にしている。設問は博士前期課程で 39 項目、博士後期課程は 30 項目で、研究活動、教育研究環境、コロナ禍における教育・研究活動への影響等、多岐に渡り学生の満足度を確認する内容となっている。

アンケート結果は、専攻長会議で確認した後、それぞれの専攻でも検証を行い、改善向けての議論を行った。特に、総合的な満足度で「不満がある」と回答があったところには、専攻内でその原因を調査し改善に努める。

PBL 教育

活動実績

期 間：2021 年 9 月 18 日(土)～2021 年 10 月 30 日（土）
場 所：株式会社二ノ宮製作所（埼玉県秩父市）
参 加 者：東洋大学 理工学研究科 生体医工学専攻 2 名
日本薬科大学 薬学部 薬学科 5 名
株式会社 二ノ宮製作所 若手社員数名
担当教員：東洋大学 大学院理工学研究科 吉田善一
日本薬科大学 矢嶋行雄

成果・課題

一つの専門に偏らない多角的な視点の PBL 教育を通じて、産業界から強く求められている「実践的能力」「社会人力」（問題発見力・問題解決力・実行力・創造力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力）を養成することを目的に、哲学対話とプレゼン力を重視する、また、企業から真の課題（悩み）を引き出し、提案を試験的に実施してもらうユニークな PBL を実施した。その成果として、①企業と他大学との連携プラットフォームを形成することができ、②東洋大学方式のスパイラル型ハイブリッド PBL を実証することができ（実施期間 2021.9.11～12.27）、③テキスト『オープン・イノベーションを実現する PBL』を作成できた。課題としては、海外の機関との連携をすることができなかったことと、具体的な官のメリットを描くことができず、自治体の参画が得られなかったことである。来年度実施する予定である。

理工学フォーラム

活動実績

開催日時：2021 年 10 月 9 日(土) 10:00～17:20
場 所：7 号館 2 階 721 教室 対面・オンライン併用開催
参 加 者：109 名

成果・課題

川越キャンパスの研究活動の活性化を図るために、2017 年度から 2019 年度まで「川越フォーラム」として学部生（理工・総合情報）と大学院生（理工・学際融合・総合情報）の横断的な研究発表会の場として、産業界からもコメンテータを招き開催した。また、学部生への保護者にも、大学院への進学のメリットを理解してもらう場としても案内を行った。今年度はそこで培ったノウハウを生かして、理工学研究科（理工学部を含む）が独自に対面とオンラインの併用で開催し、18 名が研究発表を行った。発表者には、参加した学生・教員から活発な意見や質問、多くのアドバイスがあり、特定の専門分野の知識を持った学生が、他分野や多角的な見方を学ぶ機会となったため、今後も継続的に開催して行く予定である。

ベンチャー・サイエンス特論

活動実績

開催日時：2021 年 10 月 23 日（土）1 時限～2 時限 講義
2021 年 11 月 13 日（土）1 時限～5 時限 ワークショップ
2021 年 11 月 20 日（土）1 時限～5 時限 ワークショップ
2022 年 1 月 14 日（金）3 時限～5 時限 竹中工務店技術研究所 見学
受講者：6 名
担当教員：秋山 哲一
外部講師：小山石 行伸（（株）マーケティング・マネジメント・アライアンス）

成果・課題

ものづくり分野の中核を担いうる人材に必要な実践的マネジメント能力を、ワークショップを通じて習得することを目的とした講義内容としている。今年度は、「事業戦略」と「マーケティング」に関する実践的理論と戦略策定演習を中心とした内容で、プロジェクト・マネジメントの基礎知識、ものづくり分野の管理技術、起業や特許取得に関する理解を深める事ができた。

⑥英語ワークショップ

活動実績

開催日時：2021 年 11 月 27 日（土）10:00～13:00
2021 年 12 月 4 日（土）10:00～13:00
2021 年 12 月 11 日（土）10:00～13:00
2021 年 12 月 18 日（土）10:00～13:00
場 所：オンライン開催
講 師：ヒューマングローバルコミュニケーションズ株式会社
参 加 者：15 名（学部生（大学院進学予定者を含む））

成果・課題

海外での研究発表（学会）や研究テーマに沿ったコミュニケーションのために必要不可欠な英語のリテラシー（読む、書く、発表する、質問する、議論する）をバランス良く学ぶことを

ねらいとした「英語によるプレゼンテーション（スピーチ）能力向上のための英語ワークショップ」を開催した。参加者は在学生に加え、来年度大学院進学予定者を含め 15 名の参加があり、英語のよる研究発表の基本的スキルを習得することができた。

⑦ シラバス点検

活動実績

実施期間：2022 年 2 月 4 日（金）～2022 年 3 月 4 日（金）

点検総数：57 件（理工学研究科博士前期・後期課程）

成果・課題

シラバス点検チェックリスト（第三者用）に基づき、授業担当者以外による第三者チェックを行った。一部、「標準レベル」に達していない授業科目があり、点検者を通じて見直しおよび必要に応じて修正を依頼した。すべての授業科目において、学修の質を向上させるための基本的内容が記述されており、重点事項をクリアすることができた。「発展レベル」についても第三者によるチェックが終了しており、修正が必要と思われる授業科目については修正を依頼した。

⑧ 適切性等に関する検証

活動実績

開催日時：2022 年 2 月 24 日（木）13：00～15：00

出席者：研究科長、各専攻長、事務局

テーマ：「コロナ禍における学びと研究；検証と今後活かすこと」

成果・課題

理工学研究科では、研究科内に「適切性等の検証に関する内規」を設け、毎年、これに基づき「研究科・専攻の目的」、「教員組織」、「教育目標」、「学位授与方針および教育課程の編成、実施方針」「学生募集および入学者選抜」「ポリシー」等に関して、適切に機能しているか定期的な検証を行なっている。今年度は、「コロナ禍における学びと研究；検証と今後活かすこと」をテーマに、他大学と本学（理工学研究科）の取り組みについて比較と検証を行なった。また、各専攻からの現状報告もあり、今後の改善に繋がる建設的な意見交換が行われた。特に、大学院生の研究活動開始を 2020 年 6 月から、綿密な感染防止対策を早急に整え実施できたことは高く評価された。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021 年 9 月 2 日 (木) 16:30 ～17:30	理工学研究科 FD 講演会 「フィリピン・マプア大学と の国際インターシップ」	FD	50	5	55	
2021/10/18- 11/25	川越キャンパス FD 講演会 「オンライン教育は何を育 て、何を育てられないのか」	FD	73	51	124	
2021 年 11 月 11 日 (木) 16:00～17:00	理工学研究科 FD 講演会 「学生とつくる！日本薬科大 学の教育 DX」	FD	47	5	52	

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

理工学研究科の「適切性等の検証に関する内規」に基づき、研究科の問題点や課題について継続的に協議を行な行っていく。また、大学院担当教員と川越教学課職員が連携して、FD・SD 活動を継続して推進していく。① FD 講演会、②PBL 教育、③「理工学フォーラム」、④英語ワークショップ、⑤授業・改善等アンケート、⑥シラバス点検、⑦ 適切性等に関する検証中心に実施していく予定である。

以上

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

生命科学部と連携し「6 年間の一貫教育」を目指して、継続的に授業方法の改善、学習および研究環境の整備、学生へのキャリア支援を行っている。そこで、FD・SD 講演会（例年）、オンデマンドビデオ（全国私立大学 FD 連携フォーラム）視聴（2017～）、安全講習会（TA・SA 必須 2021～）および機器使用者説明会の開催（例年）、グローバル化を視野に入れた基盤科目の開講（2017～）、博士前期課程 1 年生と博士後期課程生による中間発表会（例年）、学会奨励金の支給（例年）、アドバイザー教員制度の実施（2020～）、大学院生活の満足度アンケート実施（2020～）を行っている。その成果として、成果発表数と賞の受賞数が年々増加しているため、今後も、上記の取組を継続しながら、学生個人に合わせた指導を行っている。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

FD・SD 講演会の開催

活動実績

例年通りに研修会を生命科学部との共催により開催した。本年度も COVID-19 の影響によりオンラインで実施された。2021 年度は「新型コロナ禍における教育」をテーマとして「コロナ禍における理系学部の対面／非対面教育のあり方と工夫について」（生命科学部報告書参照）、「アフターコロナにおける『新しい学びの姿』」の 2 演題、2020 年度に発生したガス爆発事故の再発防止のため「高圧ガス保安講習会」を実施した。

成果・課題

「高圧ガス保安講習会」においては、板倉キャンパスで発生したガス爆発事故の再発防止として安全委員会の協力で行った。実験を行う際、少しのミスで大きな事故につながる可能性がある。そのため、教職員と学生の「安全」に対する共通の意識が必要であり情報共有することができた。さらに「新型コロナ禍における教育」をテーマとした中で、研究科として COVID-19 の影響により、対面講義が困難になる一方で、非対面におけるメリットも見えてきた。そこで「アフターコロナにおける『新しい学びの姿』」について、学生の学習効率が向上する実例を交えた紹介があった。この講演会は、多くの教員が参加し、各自の講義形式に対して何らかのヒントを得たテーマであったと思われる。

課題としては、COVID-19 の影響により精神的・体力的に不安定な学生がいるため、研究環境づくりや心のケアが必要である。来年以降における講演会の 1 つのテーマと考える。

また、今回、オンラインで実施したことで講師への講演依頼が容易になった。一方で講師が Webex Meeting の使用が初めてだったため、事前に接続確認することで時間を費やすこととなった。本学でも ZOOM の使用が可能になることでスムーズに開催できると思われる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/7/28 15:00～16:00	「高圧ガス保安講習会」 (講師：鈴木商館・担当者)	FD	22	3	25	×
2022/1/17 14:00～15:00	アフターコロナにおける『新しい学びの姿』 (講師：愛媛大学 竹中喜一先生)	FD	29	4	33	×

TA/SA 研修会（安全講習会）および機器使用者説明会の開催

活動実績

専門分野の研究計画を実施し学位論文の作成へと展開できるように「良い環境作り」を目指している。そこで、安全委員会の協力で実験を行う全学生を対象に、実験に伴う事故の予防や対処に関する安全講習会が宇（4月6日、10月20日）、また希望学生対象に機器使用者説明会（3回）を実施した。

本年度から高等教育推進センター主催の研修（ToyoNet-ACE）に加えて、研究科FD委員を中心にTA・SA研修会（春・秋学期2回）を開催した。その内容として、各実験科目の担当教員が列挙した「もっとも事故が生じやすい操作」をテーマとして、担当する実験科目ごとで「注意事項と事前準備」についてグループディスカッションを行った。

春学期は4月24日10時30分～12時に対面で研修会を行った。プログラムとして「グループディスカッション」を予定していたが、「緊急事態宣言発出の前日だったこと」と「飛沫防止」のため「課題の記入+同じ実験担当TA・SAからのコメント出し（付箋の利用）」により情報共有した。後日、実験担当教員に回送し、教員を交えて注意事項など再度共有が図られた。

秋学期は10月11日～11月1日に非対面で研修会を行った。プログラムとして、春学期と同様な「課題の記入+付箋の利用によるディスカッション」を予定していたが、「COVID-19の感染状況」と「ワクチン接種の影響」を考慮して、非対面で担当する実験科目ごとに「Wordに記入した回答の共有+コメント（吹き出し）記入」を実施した。後日、実験担当教員に回送し、教員を交えて注意事項など再度共有が図られた。

成果・課題

安全講習会において、例年、研究室配属生（B3～M2）が参加する学部共通の講習会であるが、本年度は COVID-19 の影響のためオンライン開催（Webex 講義＋ドリルによる理解度チェック）した。さらに、各研究室において、指導教員を中心に消化器や非常ベルの設置場所など「安全」に対する情報共有も行った。

機器使用者説明会（3 回）は、2019 年度までは学長施策として行ってきたが、2020 年度から担当教員による私的な講習会という形で継続している。学生の研究推進に極めて重要であるため、今後も継続するべく、予算を獲得する必要があると思われる。

TA・SA 研修会においては、COVID-19 の影響もあり「対面」ディスカッションができなかった。しかし、春学期は「KJ 法」を改良した「課題の記入+同じ実験担当 TA・SA からのコメント出し（付箋の利用）」を実施した。その結果、付箋を用いたことで、学生からは先輩後輩に関係無くコメントを出しやすかったようである。秋学期は非対面によるグループワークのみだったが、提出された Word を見ると意欲的に取り組まれたと考えている。本年度、TA・SA が情報共有したことで、担当教員との事前打合せがスムーズに行われたようである。

問題点としては、TA 登録がなく SA のみで、過去に生じた危険項目が伝達されていない実験科目がある。さらに、春学期において講義で参加できなかった学生がいたことである。

課題として、各実験科目における危険項目を共有することで意思疎通できるため、全員が揃った春学期の手法で継続する必要があると考えている。

③ 学生の人間力の向上

活動実績

（i）グローバル人材の育成

専門科目以外に基盤教育科目として「英語プレゼンテーション演習」「科学英語ライティング」「科学コミュニケーション特論」「科学コミュニケーション演習」を開講し、英語でのプレゼンテーションとコミュニケーション能力を強化した。さらに、独自の奨励金を支給し英語による学会発表を推奨した。

（ii）中間研究発表会

指導教員だけではなく、全教員が全学生を指導するという意識を持つために、M1 生、D1 生が研究の進捗状況を英語のポスター形式で発表し、研究目標設定の確認と達成状況について点検・評価を行った

成果・課題

（i）については例年通り、履修生が各自の研究について、英語の発表要旨・ポスターを作成し、担当教員の指導により完成させた。さらに、12 月 14 日（火）10 時 30 分～12 時 30 分に「大学院生によるサイエンスカフェ」をオンライン開催した。（ii）については、2021 年度は 8/18 に博士後期課程生の口述発表（対面＋非対面ハイブリッド形式）、8/17-8/18 と 9/8-9/9 に博士前期課程 1 年各 1 名ずつを感染防止に注意を払いながら英文ポスターによる中間研

究発表は対面形式で行った。各発表者が今後の研究の方針などについてのサジェスションをもらった。さらに 3/7-3/8 または 3/9-3/10 に博士前期課程 1 年 24 名、博士後期課程生 2 名の英文ポスターによる中間研究発表は、感染防止に注意を払いながら対面形式で行われる予定である。①②とも、従来から行われている活動で、とくに改善をするべき課題はない。

④ 学生の研究・教育環境の把握と改善

活動実績

2020 年度より、指導教員との密接な環境となりがちな大学院学生の研究室外の相談相手として、研究科内の教員を、学生の希望に応じてアドバイザーとして指名する制度を新たに設けている。また、生命科学研究科における研究・教育のさらなる充実を目標に、2 年時 4 月および終了時に、受講した授業や遂行中の研究に関する満足度などのアンケートを行うこととした。板倉事務課にアンケート集計をしてもらい情報共有することでキャンパスライフとメンタルのフォローを協同で行う。

成果・課題

修了生（2021 年度 3 月実施）、新博士前後期課程 2 年生（2021 年度 4 月実施）のアンケート結果を教員間で情報共有を行った。学生から COVID-19 の影響による研究計画の遅れやとメンタル面の不調などを訴える書き込みが目立った。

2021 年 3 月（卒業生）及び 4 月（新 2 年生）については、グーグルフォーム等の活用によるオンライン形式で行う予定である。アドバイザー制度の説明と登録は 4 月のガイダンス時に行う予定である。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

(i) FD・SD 講演会の開催

例年同様に、学習手法と学生の心ケアなどをテーマに、生命科学部との共催で、最少でも春学期、秋学期各 1 回の講演会を実施する。さらに、出席者を増加させるための工夫、著作権の問題に配慮しながら、講演の録画および LIVE 配信を検討する。

(ii) 学生の研究環境の向上

学生が「研究および学習能力の向上」と「人間力の向上」を目指す取組（中間発表、技術講習会、基盤教育科目など）は継続する。さらに SGU 構想の数値目標のためには、今後一層の英語化が求められる。また、それに伴い、シラバスやホームページ、各種書類の英語化などの整備、教職員による留学生サポートを行う。

(iii) 学生生活委員会との連携強化

・**アドバイザー制度**：学生が研究や人間関係から生じる様々なストレスを解消するため、学生生活委員会と連携による精神的なサポート体制の強化を目指す。

・ **学生アンケートの活用**: 2022 年 3 月にあらためて開始する研究科独自のアンケートの結果を解析し、研究科全体として授業改善・研究環境改善に役立てる。

学生の実的な声を参考に FD・SD 講演会のテーマを決定する

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2020 年度において 2021 年度の研究科全体としての FD・SD 活動計画を、以下のように計画した。

- 1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発
 - ① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の確実な共有と議論ならびに実践
 - ② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションを通じた日常的なリフレクション（省察）の実施
- 2) 学生アンケートの継続的な実施
 - ① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の確実な共有と議論ならびに改善
 - ② より有意義な学生アンケートとして発展するよう質問項目および方法論の継続的な検討
 - ③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な公表とともに、回答内容の公表
- 3) FD 研修会等の継続的な実施
 - ① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施
 - ② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施
 - ③ 2021 年度については「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加（が予想される事）への対応」をキーワードとした研修会の開催を予定
- 4) コロナ禍での留学生へ対応についての取り組み
 - ① 留学生への就学及び研究上の支援の強化
 - ② 母国の事情等で対面授業に参加できない院生の状況について、研究科としての共有と支援

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

① 研究科学生アンケート

活動実績

授業・研究指導等の改善を目的として、ライフデザイン学研究科・福祉社会デザイン研究科ヒューマンデザイン専攻所属の大学院生全員を対象に 2021 年 11 月 5 日～2021 年 12 月 17 日の期間において、Google Form によるアンケートを対象者全員に実施した（WEB 学生アンケート）。設問内容は、主に①「講義」 ②『授業時間内における「研究指導」』 ③『授業時間外における指導教員（主査・副査）の「諸指導」』 ④「授業（講義や研究指導）の開講曜日・時限」 ⑤そ

の他の観点（国際化、キャリア支援等）、このほか、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため非対面授業を実施したことを受けて、その対応への意見も聴取した。

成果・課題

昨年度を上回る 38 件の回答が得られ、アンケートそれぞれの設問に対する回答を、その内容にしたがって分類、整理した。回収率を上げるため、昨年度に比べ、実施期間を延長拡大すると共に、各教員にも院生に回答を促す働きかけを適宜行った。大学院での講義・研究指導については、大半の院生は現状を肯定的に受け止めている。特に研究指導については、院生個人の状況にきめ細やかに対応してくれているとする回答が多く、教員の対応が一定の評価を受けていると言える。但し、ICT 機器を活用した資料の共有方法の工夫が今以上に求められる指摘も得られた。今年度もオンライン非対面授業を実施したが、オンラインによるメリットを指摘する声も多く、今後も、キャンパスでの対面授業とともに状況によりオンライン非対面授業を併用するなど、柔軟な授業運営が求められる結果となった。

②研究科 FD 企画

活動実績

FD 講演会については、2021 年度の当初計画では、「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加（が予想される事）への対応」をキーワードとした研修会の開催を予定していた。しかしながら、新型コロナのパンデミックが継続していること、また留学生が増加している現状をふまえ、2020 年度の FD 講演会テーマである、「コロナ禍での留学生指導の現状と課題」という課題を引き継ぎ、第 1 部 留学生の立場を経験した本研究科教員自身の体験を元にした話題提供、第 2 部 話題を受けてグループディスカッションと話し合われた内容の共有という形式の学内シンポジウムとして実施した。

2021 年度大学院ライフデザイン学研究科 FD 企画「留学生への指導を考える

ー情報共有：留学者としての経験共有を踏まえて今後の大学院生指導を考えるー」

日時：2021 年 12 月 15 日(水) 15:00～16:25 Webex ミーティングによるオンライン開催

参加者：教員 30 名、職員 3 名、計 33 名

成果・課題

留学生の立場を経験した本研究科教員 2 名による教員自身の体験を元にした話題提供を受けて、小集団によるディスカッションが行われた。ディスカッション時に共有された意見として、留学生は慣れない海外生活、日本語でのコミュニケーションに不安を感じる可能性が高いという認識をもち、教員からの声かけが重要、講義、指導の内容が十分に理解されているかを日本人学生以上に確認する必要性といった実践的な意見交換がなされた。また、研究室や専攻をまたいだ留学生が交流する機会の設定という提案も得られた。そのほか、「大学 HP で確認するだけでも、留学生に対するサポートの状況がキャンパス間で異なり、白山や川越キャンパスに比べて赤羽台キャンパスは内容が乏しいように思え、さらなる充実を図って頂きたい。」との意見があった。

③学修成果の測定指標の検討・開発

活動実績

昨年度と同様、各専攻・コースならびに自己点検・評価活動推進委員会で検討し、各専攻の学修成果の測定指標（試行版）の開発はコロナ禍での教学運営の影響もあり、次年度以降も引き続き、取り組む必要がある。

成果・課題

2022 年度に学修成果の測定指標の運用し、必要に応じて見直しを行う。

④博士後期課程院生へのプレ FD に関する情報提供

活動実績

昨年度に引き続き、博士後期課程院生および指導教員に対し、他大学等で開催される大学院生も参加可能な FD に関する研修会等の周知を行い、FD に関する情報提供を行った。

成果・課題

今後も継続的にプレ FD に関する情報提供を積極的に行う予定である。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021 年 12 月 15 日(水) 15:00 ～16:25	FD 研修会 「留学生への指導を考える 一情報共有：留学者としての 経験共有を踏まえて今後の大 学院生指導を考える一」	FD・SD	30/54	3/3	33/57	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021 年度は、コロナ禍の影響から、当初計画を一部変更して FD 活動に取り組んだが、2022 年度は、引き続き研究科全体として、以下の諸点から活動の充実を図っていく。

1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発

- ① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の共有、議論ならびに実践
- ② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションを通じた日常的なリフレクション（省察）の実施

2) 学生アンケートの継続的な実施

- ① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の共有と議論ならびに改善

- ② より有意義な学生アンケートとするための質問項目および評価方法の継続的な検討
- ③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な実施と回答内容の公表
- 3) FD 研修会等の継続的な実施
 - ① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施
 - ② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施
 - ③ 2022 年度については「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加（が予想される事）への対応」をキーワードとした研修会の開催を予定
- 4) コロナ禍での留学生へ対応についての取り組み
 - ① 留学生への就学及び研究上の支援の強化
 - ② 母国の事情等で対面授業に参加できない院生の状況について、研究科としての共有と支援
- 5) 学修成果測定指標による検証や成績分布の把握
 - ① 年度内に実施、成績分布を把握・共有する

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

本研究科は、これまで、文理融合における高度専門的な大学院教育の実現を目指して①FD 研修会、②学生の声の随時フィードバック、③コンピテンシー評価の FD・SD 活動に取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが完全に終結することではなく、コロナ禍が継続状況のために、やむを得ず、これらの活動の中止や計画変更の必要が生じた。①FD 研修会についてはオンラインを最大限に活用することとした。②学生の声の随時フィードバックは、指導教員を中心としてゼミ単位、研究科全体では、メールや Toyonet-Ace 等を介した質問の受付とその対応という形をとった。③コンピテンシー評価については、複数教員の指導下で、学生はグループ単位での「プロジェクト演習」がオンラインの実践的な実験演習となり、研究計画の作成、共同での計画遂行、成果発表の一連の取り組みができたことと、PROG の実施が困難なことなどのため、今年度の実施は見送ることにした。

一方で、本研究科のブランディングの項目の 1 つとして掲げている“④学部との一貫教育”を加えた。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①FD 研修会

活動実績

第 1 回 FD 研修会（4 月 3 日）（6103 教室）

内容：

- (1) 育成する人物像
- (2) 教育方法
 - ・ 総合情報学分野の開拓・確立に向けて
 - ・ PBL & コンピテンシー評価
 - ・ 専門分野における英語論文の執筆と口頭発表の指導方法
 - ・ グローバル人材の育成方針
- (3) 参加者：教員 11 人

※本学研究科の FD 研修会は、上記の 1 回だけであったが、オンライン形式の FD 講習につついては、学部の FD 講習会、他研究科（例えば、理工学研究科等）主催の講習会を聴講するように案内した。

成果・課題

特に、大学院の新任教員、若手教員に本研究科の指導方針と修論、博論の完成までのステップ等を理解してもらうことができた。課題としては、客員教授や非常勤講師の方々にも本研究科の教育・指導方針を共有して頂くことが必要と思われる。

② 学生の声の随時フィードバック

活動実績

授業、研究発表奨励金、各種奨学金、短期海外留学、修士論文、博士論文、他、大学院に研究教育活動で不明な部分やアドバイスが欲しい事項がある場合は、ToyoNet-Ace の書き込みや研究科所属の教員へのメールでの問い合わせをし、関係する教員、その事項に対して対応できる教員が連絡をとり協力して、学生に対応した。具体的には、短期留学、奨励金、研究関連では、学際的領域のテーマの研究に関して、指導教授と他分野の教員が協力してアドバイスやチェックをした。

成果・課題

本研究科では、留学生も多く、学生の研究テーマも多様な分野を横断する者が多く、研究室内だけでなく、横断的に教員が協力して、アドバイス等を行っている。成果としては、国際会議での発表論文が多かったことをあげることができる。

③ コンピテンシー評価

活動実績

複数教員の指導下で、学生はグループ単位での「プロジェクト演習」がオンラインの実践的な実験演習となり、研究計画の作成、共同での計画遂行、成果発表の一連の取り組みができたことと、PROG の実施が困難なことなどのため、今年度は昨年度と同様に見送った。

成果・課題

過去のデータから行動力育成の効果は十分示されているため、特にコンピテンシー評価を実施せずとも研究業績等から間接的にその効果が実証されたと捉えることができる。

次年度は、コンピテンシー評価の継続/代替えを含めて検討する。

④ 学部との一貫教育

活動実績

学部・大学院の一貫教育の1つとして、大学院での特徴的かつ有益な資格取得のカリキュラムを配備した。日本初の心理職の国家資格である「公認心理師」については、厚労省に必要な書類（カリキュラム内容、担当予定教員の情報）を準備し、申請し、大学院の「公認心理師」カリキュラムとして認可された。その他にも、「メンタルトレーニング指導士」、「専門社会調査士」の資格に関するカリキュラムも認定された。

成果・課題

公認心理師、メンタルトレーニング指導士、専門社会調査士、さらに既に認可されている国際的トレーニング指導ライセンスの NSCA-CSCS の各種資格に対するカリキュラムを配備することができた。

課題としては、授業をよび課外指導等で上記の諸資格に対して、実際に資格取得者を出すことが課題となる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/4/3	FD 研修会 「総合情報学研究科の研究指導・人材育成」	FD	11	0	11	×
2021/10/18- 11/25	川越キャンパス FD 講演会 「オンライン教育は何を育て、何を育てられないのか」	FD	25	51	76	

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021 年度の FD・SD 活動は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが完全に終結することではなく、コロナ禍が継続状況となり、2021 年度と同様に特殊であった。一部で、従来行っていた活動の制限もある。2022 年度は、基本的には、①～④の活動を継続する。ただし、活動③に関してはこれまでの実績から一定の結論が得られたものとして、漸次終息させることを念頭に置いている。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

科学技術の高度化、社会・経済・文化のグローバル化などにより、社会経済の各分野において指導的役割を果たすとともに、国際的にも活躍できるような高度な専門能力を有する高度専門職業人の養成が強く求められている。食環境科学研究科食環境科学専攻博士前期および後期課程は、「食品・栄養及び本学の特徴であるスポーツを通じた健康寿命の延伸、食の安全・安心に係る分野でグローバルに活躍できる高度専門職業人」を育成する目的で、2016 年度に開設された。本研究科では博士前期課程および博士後期課程のそれぞれで5つのディプロマ・ポリシーを掲げており、2019 年度には内部質保証を担保するためにディプロマ・ポリシーに基づく大学院学習成果測定指標を設定して教育内容との関わりを明言化している。このような背景のもと、本研究科が目的とする高度専門職業人を育成するための教育をより良いものとするため、各種 FD 活動を実践している。

2021 年度の主な FD 活動として、① FD 講習会・講演会、② 学会発表・参加奨励金制度、③ TA/SA 研修会、④ 研究科独自の評価項目を含む授業評価アンケート、⑤ 研究とキャリアの進捗状況：年次評価、⑥ 食のグローバルイノベーション人材創出塾および中間発表会と外部評価委員会、⑦ 海外研修 を実施した。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

① FD 講習会・講演会

活動実績

本研究科では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの DP(4)として「研究成果を社会に還元できる視野の広さと実社会で通用する実践的能力を身につけている」ことを設定している。これに基づいて、大学院学習成果測定指標においては「PBL 型授業の成績」と「特許の出願」をその指標として設定しており、FD 活動として継続的な授業改善が求められている。

本研究科では、教職員向けの FD・SD 研修会を企画、実施している。2021 年度は、授業改善を目的として、コロナ禍において行われるようになってきたハイフレックス型授業の事例や課題、ブレンディッド・ラーニングのポイントなどについての講演会を実施することとした。

成果・課題

2022 年 2 月 17 日(木)に石川 大樹 先生（デジタルハリウッド大学大学院 専任助教・デジタルハリウッド株式会社 動画教材開発責任者）に、「ハイブリッド教育事例紹介」をテーマにご講演いただいた。参加者は教職員 28 名であった。また、当日参加できなかった教職員のため

に、2月末まで講演の動画を公開していただいた。本研修会については、大学院 HP 上で実施報告を行った。2022 年度以降も引き続き、教職員にとって有用な情報が得られるような研修会を企画・実施する。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2022/02/17 14:30～16:00	FD・SD 研修会 「ハイブリッド教育事例紹介」	FD・SD	26	2	28	○

② 学会発表・参加奨励金制度

活動実績

本研究科では、博士前期課程の DP(5)として「自らの設定した課題について、基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を用いて考察する能力を身につけている」を設定している。また、博士前期課程の DP(6)および博士後期課程の DP(6)として「課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを修得し、自らの研究成果等を国内および国際学会での発表、学術論文の執筆を通じて情報を発信できる能力を身につけている。」を設定している。

本研究科では、全学の奨励金制度(学会発表・論文発表)に加えて、食環境科学研究科においても学会発表参加奨励金制度を導入することで、学会発表・参加を促している。

成果・課題

食環境科学研究科独自の学会発表参加奨励金制度は、2021 年度は 3 名（計 3 件）の申請があり、本制度は食環境科学研究科の研究発表の促進に寄与したといえる。

③ TA/SA 研修会

活動実績

新しく TA や SA を行う学生に対して、TA/SA の意義や職務上の注意事項などを理解してもらうことを目的として、毎年春学期のはじめに TA/SA 研修会を実施している。2020 年度までは春学期のみの実施であったことから、秋学期から TA/SA を開始する学生に対する研修が行われていなかった。また、2021 年度には新型コロナウイルス感染症対策の一環として、従来対面で行われていた TA/SA 研修会の内容を高等教育推進センターのもとで、オンライン上で行われるようになった。このような背景をもとに、食環境科学研究科および食環境科学部では、

春学期と秋学期のはじめにオンライン上で食環境科学部の実験実習内容に特化した TA/SA 研修会(安全教育に特化した内容)を実施することとした。

成果・課題

食環境科学研究科および食環境科学部の高等教育推進委員(FD 委員)で食環境科学部の実験実習に特化した内容の動画を作成した。TA/SA はこれを閲覧し課題の提出をもって、TA/SA 研修会への参加とした。なお、課題については、教員が記載内容を確認し、必要に応じて再提出を求めた。参加者数は、春学期 26 名、秋学期 8 名であった。本研修会が、修士課程の学生が TA 業務を通して学部学生との付き合い方(倫理観)や実験実習における危害の事前事後対応などを事前に想定しておくことの重要性を理解し、安全に実験実習を運営することに寄与したと思われる。

なお、TA の活動は必須ではなく、大学院学習成果測定指標に明記もされていないが、ディプロマ・ポリシーの DP(1)「哲学教育に基づき、高度職業専門人としての倫理観や高い見識を修得し、リーダーシップを発揮し、社会貢献できる能力を身につけている」(備考：倫理観)の習得などに関わっている。

④ 研究科独自の評価項目を含む授業評価アンケート

活動実績

本研究科では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの DP(4)として「研究成果を社会に還元できる視野の広さと実社会で通用する実践的能力を身につけている」ことを設定している。これに基づいて、大学院学習成果測定指標においては「PBL 型授業の成績」と「特許の出願」を指標として設定しており、FD 活動として継続的な授業改善が求められている。

本研究科では、授業および施設設備の改善を目的として、食環境科学研究科独自の授業評価アンケートを春学期および秋学期の終了後に実施している。アンケートは Google フォームを用いて匿名で行い、集計結果は、食環境科学研究科において報告されている。また、年度末にはアンケート結果を踏まえて、講義担当者からの所見を集約し、学生にフィードバックしている。

成果・課題

2021 年度においても、春学期および秋学期の学期末に授業評価アンケートを実施した。アンケート結果は研究科委員会において情報共有した(第 6 回 食環境科学研究科委員会(2021 年 9 月 29 日)、第 10 回 食環境科学研究科委員会(2022 年 2 月 19 日))。講義担当者からの所見の集約と学生へのフィードバックは 3~4 月に行う予定である。

⑤ 研究とキャリアの進捗状況：年次評価

活動実績

本研究科は、「食品・栄養及び本学の特徴であるスポーツを通じた健康寿命の延伸、食の安全・安心に係る分野でグローバルに活躍できる高度専門職業人」の育成を目的としている。この目的を達成する上で、教員と学生のすれ違いが起こらないようにするため、本研究科では「研究とキャリアの進捗状況(年次評価)」を指導教員と学生が話し合いながら作成する機会を設けている。年次評価としてまとめられたものについては、食環境科学研究科研究科委員で回覧後、各学生に返却し、翌年度以降の研究活動に活用してもらっている。

成果・課題

各指導教員および各学生には、本研究科での教育研究活動と学生のキャリアの目的がどのように結びついているのかを考えてもらう機会として大変重要である。2021年度は3月中に実施予定である。

⑥ 食のグローバルイノベーション人材創出塾および中間発表会と外部評価委員会

活動実績

本研究科では、ディプロマ・ポリシーのDP(1)として「哲学教育に基づき、高度職業専門人としての倫理観や高い見識を修得し、リーダーシップを発揮し、社会貢献できる能力を身につけている」、DP(3)として「幅広い知識（基礎的素養）の涵養とともに、生命科学的視点に立って、食品機能とこれが健康維持・増進に果たす役割を一層深化させた専門知識を身につけている」を設定している。これに基づいて、大学院学習成果測定指標においてはDP(1)の指標として「外部評価委員会での評価」を、DP(3)の指標として「中間報告会での外部評価委員会メンバーによる評価」と「修士論文審査報告書における評価・審査結果」を設定している。

上記の通り、本研究科では、本研究科が目的としている高度専門職業人の養成のために、食のグローバルイノベーション人材創出塾、中間発表会、外部評価委員会を開催している。本取組では、各産業界で活躍されている外部評価委員の方を招聘し、学生一人ひとりへの密なアドバイスやディスカッションを行っていただいている。これによって、高等教育機関である本研究科と実社会との関係性が緊密となり、高度専門職業人の育成のための基盤が形成される。また、本取組によって、内部の質保証のみならず、外部評価によって、より良い教育への改善が可能となる。2021年度も引き続き実施することとした。

成果・課題

2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、食のグローバルイノベーション人材創出塾をハイフレックス形式で実施した(2021年8月30日)。また、中間発表会もハイフレックス形式で行った(2022年2月21日)。学外有識者の評価から学生の成長度を測ることができる大変貴重な機会となった。また、中間発表会と同日に外部評価委員会も実施した(2022年2月21日)。食のグローバルイノベーション人材創出塾において外部有識者から評価いただいたこ

とで、高等教育機関である本研究科と実社会との関係性が緊密となり、高度専門職業人の育成のための基盤が形成できた。

⑦ 海外研修

活動実績

本研究科では、ディプロマ・ポリシーの DP(2)として「英語による食環境科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を身につけている」を設定している。これに基づき、大学院学習成果測定指標では、「専門英語授業の成績」、「海外研修成果の評価」、「TOEIC 等外部英語テストスコア」を DP(2)の指標として掲げている。このうちの海外研修に関しては、タイのチュラロンコン大学と協定を結び、「海外インターンシップ」を実施することとしている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得なかったが、2021 年度はオンラインで実施することとした。また、GiFT の海外研修(オンラインで実施)も認定している。

成果・課題

チュラロンコン大学との研修会は、2021 年 8 月 18 日～20 日にオンラインで実施した。参加者は博士前期課程 1 年の 6 名および 2 年の 9 名であった。また、GiFT による海外研修には 1 名が参加した。新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、本取組の実施によって、英語による食環境科学の知識および専門的研究手法や技能を身につけるための機会を設けることができた。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

上記の FD 活動はどれも高い教育効果・教育改善効果が認められたと推察される。2022 年度以降も引き続き全教員および外部有識者が関わりながら実施していく。特に、外部評価委員の取り組みは、食環境科学研究科の特色の一つとなっており、学生からの評価も高いことから、今後もこれまでの実績を踏まえて取り組み内容を改善していく。また、学習成果測定指標による検証や成績分布の把握については、適宜、研究科委員会内で報告されている。取り組み内容と実施時期については、上記の取り組みを踏襲して行うが、必要に応じて食環境科学研究科の教育に合った FD 活動について研究科委員会において議論を重ねていく。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2020 年度に発足したグローバル・イノベーション学専攻では学生要望等に関し情報の蓄積が少ないため、新入学生の最初の学期において、インタビューを実施し学生の要望や悩みを把握し、適宜解決するように努めている。国際地域学専攻では昨年度までも修了生を対象としたアンケートを実施している。学部と比べて学生数が限られているが、記述式（日英 2 言語、無記名）の項目を複数設定している。その結果は専攻会議で報告され、教員間で共有・議論し、今後の研究教育体制の向上に活かしている。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①新入学生に対するインタビュー（要望等調査）の実施

活動実績

- 実施日：#1 2021 年 6 月 2 日（水）グローバル・イノベーション学専攻 2021 年 4 月入学生に対し対面でインタビューを実施（参加 4 月入学生 2 名）
- #2 2022 年 3 月 9 日（水）グローバル・イノベーション学専攻 2022 年秋入学生に対し Zoom によりインタビューを実施（参加 秋入学生 1 名）

実施方法：対面およびオンラインで実施した。インタビュー項目は以下のとおり。

- 1) 最初の学期における全般的状況
- 2) 研究活動・修士論文執筆の状況
- 3) 現時点での懸念点・悩み等
- 4) 大学への要望

成果・課題

2020 年度においては、専攻発足初年度であったため、学生間の横のつながりが薄い等の問題点が認識されたが、2021 年度入学生に関しては、全般的に満足度も高く問題点等はなかった。

②英語授業法に関する FD 活動への参加

活動実績

- 実施日：2021 年 9 月 7 日（火）「英語論文執筆に必要な英文ライティングの基本を身につける」（参加：グローバル・イノベーション学専攻 教員 1 名）

成果・課題

専門家の講習を受けることができたいへん有意義であった。またオンライン実施であったが、学内他学部の教員とも交流ができ良かった。今後はより多くの教員の参加が望まれる。

③修了予定学生のアンケートの実施

活動実績

実施日：2021年7月23日（金）回答数：国際地域学専攻（M・3名,D・1名）

2022年1月29日（土）有効回答数：国際地域学専攻（M・3名）

実施方法：本年度は google form を用いた方法で実施した。回収した回答は全て匿名で処理することを断った上で、回答に際してはメールアドレスの入力を必須とし、該当者以外の回答を除外できるようにした。

設問は、記号選択と記述の混合式で、全て日英2言語表記とした。具体的には以下の通りである。

1. 以下の項目について、評価してください。

- （1）リサーチスキル科目
- （2）専門科目講義・演習
- （3）研究指導
- （4）設備、学生生活
- （5）コロナ禍におけるオンラインの研究、教育環境

2. 研究を進める上で、思うようにいかなかった点があれば記入して下さい。

3. 本研究科の教育課程で最も良いと思うことは何ですか？

4. 本研究科の教育課程で、最も改善が必要だと思うことは何ですか？

成果・課題

講義・研究指導に関しては、満足度は非常に高い。とりわけ、修士課程のリサーチスキル科目に関しては、問題設定、仮説の立て方、データ処理と解釈などの面で効果があることが確認できた。また、学期ごとの院生発表会も研究の進捗を確認する上で意義があることが認められた。

昨年度に引き続きコロナ禍の下、オンラインでの講義や研究指導に関しては概ね円滑に進められた一方で、共同研究室が予約をしたうえで利用しなければならないなどに不便を感じた学生もいたようである。

④人材育成奨学計画(JDS)の受け入れ要望調査に関する懇談

活動実績

実施日：2021年5月25日（火）

出席者：国際地域学専攻教員 5 名

国際協力機構（資金協力業務部）6 名

この懇談は、JICA の JDS スキームの担当部署と本専攻の JDS 留学生の受け入れ状況を共有するとともに、本専攻が提出した申請書へのフィードバック、また採択のポイントなどを得ることを目的とした

成果・課題

本専攻が提出した申請書に関して、特に不足している点、弱い点はないとのことであったが、重要なポイントとしては、本専攻のカリキュラムがどのような付加価値を提供しているかを明記することとのことであった。ここでの付加価値とは、たとえば、来日前の事前研修、来日後のフォローアップなどである。また、審査にあたっては、教員の指導内容と現地経験の双方を重視するとのことであった。以上のような点を、次年度以降の申請書の作成に反映させていく必要がある。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

次年度も引き続き、新規入学生に対するインタビューを通じて学生の要望把握し適宜運営に反映していきたい。また修了予定学生を対象としたアンケートを実施し、その結果を研究科として議論していきたい。

4) 英語による教授法・論文指導法の FD 研修会開催希望

本研究科には留学生も多く在籍する。また、グローバル・イノベーション学専攻は英語トラックであるため、この面における教員の FD 活動は特に重要である。2021 年度は、コロナ禍により集合研修ではなくオンライン研修ではあったが十分な成果が得られたと感じる。2022 年度も集合研修またはオンラインによりぜひ同様の研修会を、できれば複数回（授業法、論文指導法等）実施して頂きたい。

以 上

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

大学院授業は 2021 年度においては基本的に対面である方向性が示されたが、新型コロナ環境に柔軟に対応するため、予習用・復習用コンテンツの ACE へのアップロードなどの充実を目指しより多くの教員参画を進めていきたい。また、毎学期で 2 回実施している研究発表会においても、2020 年度はオンラインであったものの、できれば対面での実施可能性を探りたい。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①東洋大学・マカオ科学技術大学のジョイントセッション

活動実績

東洋大学・マカオ科学技術大学のジョイントセッション「1ST JOINT CONFERENCE ON INTEGRATED RESORT RESEARCH WITH MACAU UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY AND TOYO UNIVERSITY」を 7 月 22 日 15:00～17:40 に実施した。

成果・課題

参加者はマカオ科学技術大学：教授 3 人、大学院生 3 名。東洋大学：教授 3 名、大学院生 2 名であった。オンラインによる開催で、活発な議論が展開された。

②FD 講演会「観光専門授業の英語化に向けて」（国際観光学部との共催）

活動実績

2021 年 10 月 14 日の 13 00—14 00 にオンラインで開催された。

参加者は、国際観光学研究科の教員の約 20 名が参加し、国際観光学部のグライアム・ロブソン教授が講演を行った。

成果・課題

観光領域の科目を英語で実施する上での要点について、教員ならびに学生が有する課題を踏まえてその改善策についての紹介があった。

③東洋大学 観光短編映画祭（国際観光学部との共催）

活動実績

テーマを「持続可能な観光」とし、30 分以内の映像、ジャンル・手法は問わない内容で募集した。応募期間は 2021 年 4 月上旬～ 9 月 12 日で、108 の国地域から 1,881 件の応募があった。入賞作品を 10 点選定し、入賞作品上映会・授賞式を 11 月 18 日に井上円了ホールにて実施した。新型コロナ禍環境に鑑み、来場者は本学の学生・一般は招待客のみとした。またご後援を観光庁、国連世界観光機関（UNWTO）から得ることができた。

成果・課題

本映画祭はベネチア・カフオスカリ大学と共同で実施している観光イノベーションプロジェクトの一環である。特にその運営面で現役大学院生（国際観光学研究科院生（後期課程学生 3 名ならびに前期課程学生 7 名：田中樹里、長瀬真理子、矢田部悟、大竹優太、奥名涼音、滝沢勇人、唐銘陽、中田陽菜、山浦ひなの、Phommavong Latthasone）が国際的な学修・研究活動を経験し、これは同時に研究科教員にとってのグローバル環境での学修における成功事例として FD としての意味合いを持つこととなった。

④FD 講演会「コロナ禍での観光と観光研究の今後を考える」

活動実績

2022 年 1 月 20 日 10 時より、本学国際観光学部の越智良典教授が、「コロナ禍での観光と観光研究の今後を考える」に関する講演を実施した。（Webex によるオンライン実施）

成果・課題

⑤大学院研究会の実施

活動実績

本研究科では毎学期に 2 回の研究会を実施している。本年度は以下の通りの日程で開催された。

日時	開催方法	内容
5 月 22 日（土）	オンライン	2021 年度春学期第 1 回研究発表会
7 月 17 日（土）	オンライン	2021 年度春学期第 2 回研究発表会
11 月 20 日（土）	オンライン	2021 年度秋学期第 1 回研究発表会
1 月 22 日（土）	オンライン	2021 年度秋学期第 2 回研究発表会

成果・課題

新型コロナ禍環境下で、残念ながらすべてオンラインでの実施となった。院生の研究テーマや手法ならびに指導教員の教育方法の工夫など、各教員にとってFDとしての意義は大きい。本研究科では本年度は40名程度の院生が在籍しており、教室（オンラインではトラック）数を増加せざるを得ない状況となった（現在3トラックにて実施）。新年度も同等以上の院生数が見込まれる関係上、運営の教員配置などでさらなる工夫が不可避となる。

3) 2022年度FD・SD活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021年度のFD・SD活動を踏まえて、2022年度は「新型コロナ禍環境から先の教育の在り方」を強く意識したFD・SD活動を継続する。新型コロナ禍環境は、対面での教育に大きな制約をもたらした。同時にそれはテクノロジーの利活用を促進させ、ボーダレスかつオンデマンドの教育を充実させるきっかけともなった。そうした状況を鑑み、教育の新たなあり方を模索したい。

本研究科では観光産業・観光政策・観光開発領域で活躍できる人材育成をその目的としている。つまり産官学の連携重要性を強く認識していることからまずは本領域の実務家教員、さらには外部講師招聘によるFD/SD活動も推進することとしたい。

4) その他

本年度はフランスのセルジー・ポントワーズ大学（Cergy-Pontoise University）のローラン・ギリール（Laurent Guihery）教授の招聘が計画されていた。しかし新型コロナウイルス感染症広がりがおさまらず、また入国の際の検疫措置などによる制約も発生したことから、本招聘計画は中止となった。FD活動の一環としてギリール教授のご講演を計画していたが実現に至っていない。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

2021 年度から INIAD の学部卒業生が大学院に進学ようになったことに合わせて、専門性を深める方向で大学院のカリキュラムの大幅変更を行った。具体的な変更点は以下のとおりである。

- ・必修科目を 4 科目から 2 科目に減少させた。
- ・従前のオムニバス必修科目 2 科目は「共通選択科目」2 科目とした（DX 特論）。
- ・専門分野の多様性を高めるため専門科目の数を大幅に増やし隔年開講とした。
- ・リカレント教育プログラムの受講を単位認定することとした。

また一方で、社会人学生の対応についても変更を行った。2020 年度までは全員が社会人学生であったため、講義を特定の曜日 2 日に集め、多くの学生は 1 年次に全講義科目を対面講義（コロナ禍の 2020 年度を除く）で履修していたが、この運用と INIAD 卒業生向けのカリキュラム変更は両立しないため、「コロナ禍の状況にかかわらず、すべての科目と研究指導をオンラインで可能」にすることにして、社会人の学生をリクルートする方針とした。

2021 年度の FD 活動計画としては、この新しい教育研究の展開について、教員間で教育方法や課題を共有、議論することで、より質の高い教育研究を行うための F D 活動を計画した。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

① アンケート及び研修会の実施

活動実績

上記の目的のために、まず「2021 年度大学院授業の方法について」として、2021 年 12 月に全教員に、担当科目ごとの Web アンケートを実施した。

アンケートの内容は以下のとおりである。

- ・担当科目における【対面・双方向・オンデマンド】の実施回数
- ・授業形態が【講義中心・学生による発表中心・学生同士（+教員）の議論中心・学生が個人作業をおこなう場合・学生が共同作業をおこなう場合】に対して【対面が必須・双方向オンラインで良い・オンデマンドで良い】のいずれか？
- ・オンラインで履修可能にすることが授業の内容に与えた影響
- ・自由意見

また、1月13日（水）の研究科委員会の終了後、FD研修会の位置づけとして、研究科の全教員による2021年度の授業方式の振り返り、今後の授業の進め方についての意見交換を行った。

研修会では、研究科長から、今年度の教育研究の概要の説明をした後、12月に実施したアンケート結果の報告を行い、自由討議を行った結果、活発な意見交換がなされた。

成果・課題

アンケートの結果としては、2021年度では、一部の授業を除いてすべて双方向オンラインで行われていた。

その中で、授業形態ごとのオンラインの有効性・限界については、以下のようになる。

授業形態毎のオンラインの有効性・限界

授業形態	回答数（複数科目を担当した場合を含む延べ人数）	関連する意見
講義中心	双方向オンラインで良い 24名 オンデマンドで良い 1名	学生の理解度を把握しにくい
学生による発表中心	双方向オンラインで良い 16名 他 なし	
学生同士（+教員）の議論中心	双方向オンラインで良い 11名 対面が必要 3名	学生同士の対等な議論のためには、面識ができるまでは対面がのぞましい
学生が個人作業をおこなう場合	双方向オンラインで良い 11名 他 なし	
学生が共同作業をおこなう場合	双方向オンラインで良い 4名 対面が必要 5名	ブレイクアウトルームなどをうまく使えば、双方向オンラインでも柔軟な教育が可能であろう

該当する形態で授業を実施している場合のみ回答

この結果によると、特に講義中心、学生による発表中心、学生が個人作業を行う場合などにおいては、対面授業と同等の質と量の授業が可能であったとの意見が多数であった。

また、自由意見では、

- ・学生の理解に合わせて授業内容を変更しなかったが、学生の理解度が表情から分からないため、そのような授業運営はできなかった。
- ・複雑な内容や教員からのフィードバックの確認などに学生が録画を活用しており、対面よりオンラインの方が優れている。
- ・重要な意思決定をオンラインで行うことも社会で行われており、オンラインでの意見交換はそのトレーニングの意味がある。

などの意見があり、プラスの効果も認められた。

一方、学生が共同作業を行ったり、議論をする形態の授業の場合にはオンラインの限界が生じていたことが分かった。

また、FD 研修会の中の自由討議では、

- ・授業の中で、学生同士の議論を求める授業の場合、オンラインでは議論が活発化しにくく、学生同士の気心が知れていないことも原因ではないか。
- ・専門科目で学生同意の上で対面実施にした講義は機材を使う講義であったが、対面にした効果は大きかった。

などの意見があった。

このような現状に対して、入学後早い時期に対面講義の科目を設けることによって、学生同士が互いの考え方を知る機会を作る案が提案された。

議論の結果、研究科としては、INIAD 出身、社会人を問わず学生同士の交流の機会を持たせることが講義時および研究上の議論の活発化に必要であり、2022 年度の授業運営を以下の方針で進めることとなった。

- ・春学期の必修科目（研究法Ⅰ）は、INIAD 出身学生は対面必須、社会人学生も可能なら対面で受講する。このことに伴い、大学院生用研究室でも学生が顔を合わせ、交流を深める機会が増えることになる。
- ・それ以外のオンラインの講義では、基本的には学生はカメラをオンにして講義を行う。
- ・今後、英語による講義が必要になる場合は科目毎に対応を考える。

また、学年進行や INIAD 出身学生が増加してくることに伴い、大学院生用研究室のさらなる整備の必要性も確認された。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2021 年度の FD 活動から得られた上記の方針を元に授業運営を行い、その課題を共有、議論することで、さらに質の高い教育研究を行うための FD 活動を実施する。

また 2022 年度は、INIAD 出身学生が修士論文を提出し、初の修了生を輩出する年度となる。そのため、修士論文の発表、審査等の仕組みについても、あらためて研究科として検討していくこととする。

1) 2021 FD/SD activities plan / 2021-PLAN

The outline of the 2021 FD/SD activities planned in 2020 is summarised below.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities in both face-to-face and remote ways, assuming that the “COVID-19 pandemic” situation won’t be dramatically improved.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research from theoretical, analytical and experimental points of view. The research guidance and instruction will also be given in both face-to-face and remote ways by supervisors.
- (c) Several international programmes will be performed in collaboration with overseas universities once the “COVID-19” has ceased or the situation has been dramatically improved.
 - 1. “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania.
 - 2. “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania.
 - 3. “Erasmus Mundus programme” with the University of Algarve, Portugal
 - 4. Negotiation on the “English courses for Toyo students” with the University of Exeter, UK, the Queen Mary University of London, UK, and the University of California Santa Barbara, USA.
 - 5. Internship programmes for high school students and students/PDs from partner universities.
- (d) The “PhD double degree programme” will be carried out in collaboration with Nantes University, France, noting that the academic year 2021 is the final year for the current PhD candidate.
- (e) International symposia and seminars will be organised and held in either face-to-face or remote ways for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (f) The advisory committee will be held in the first half of 2021. The members are listed below.
 - Director, Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute
 - Professor, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University
 - General Manager, Central Research Laboratory, Hitachi Ltd
 - President, Professor, Toyo University
 - Director, Vice-President, Professor, International Affairs Office, Toyo University
 - Executive Director, Board of Trustees, Toyo University
 - Director, Professor, Centre for Computational Mechanics Research, Toyo University

2) review of the fd/sd programmes in 2021 / 2021-Do, Check

2.1 educational programmes

outline

The School was established as an international graduate school and therefore the syllabuses are written in English so that both Japanese and international students can understand the research and educational policies and programmes organised by the School. The style and content of each syllabus were improved via mutual review among the academic staff members of the School.

The lectures and workshops were classified into two categories; that is, (a) fundamental and (b) specialised ones. Note that the School accepts students from various countries and different fields

such as physics, chemistry, biology, mechanics, electronics and biomedicine and therefore fundamental lectures are necessary for those from different educational backgrounds.

(a) Fundamental lectures

- Introduction to bio-nano science fusion
- English for science and technology
- Fundamental mathematics
- Fundamental physics
- Fundamental chemistry
- Fundamental biotechnology

(b) Specialised lectures

- Extremophiles
- Nanoelectronics
- Nano materials
- Bio materials and nanotechnology
- Microbiology
- Bio nano science
- Advanced nano science and nanotechnology
- Workshop on advanced equipment I, II, III, IV
- Web education I, II

All the lectures and workshops were given in English. Basically, students give talks on specific subjects and discuss them with the other participating students each week. Particularly, in “Workshop on advanced equipment”, the principles and operational techniques of state-of-the-art microscopic and spectroscopic equipment are taught and instructed, which contributes greatly to the progress in the students’ ability to operate advanced equipment and carry out advanced research.

Even under the “COVID-19 pandemic” situation, most of the lectures were given in a face-to-face way. The supervisors regularly gave a mixture of face-to-face and remote research guidance and instruction to their students.

achievements

There was definitely some improvement in students’ English thanks to their presentations and discussion in English in the lectures and workshops. Students carried out research at the Bio-Nano Electronics Research Centre using several pieces of equipment and spectroscopic analysers without any difficulties and troubles thanks to their participation in the “Workshop on advanced equipment”.

The academic staff members gave extracurricular courses on oral and poster presentations in English to those students who were going to present their latest research results at international web conferences and symposia.

2.2 Research

Outline

Advanced research in the fields of nano science/technology, bio science/technology and bio-nano fusion science/technology was actively carried out via interactive instructions and discussion between students and their supervisors, thanks to which quite a few scientific papers were published in international journals even under the “COVID-19 pandemic” situation.

achievements

- (a) 18 scientific papers were published in international journals. The mean impact factor of a journal was over 3.500, which shows that the academic standards of the School are high even from an international point of view.

- (b) 6 invited talks were given by some of the academic staff members at web international conferences.
- (c) 2 talks were given by doctoral students at international web conferences.

2.3 research and educational collaboration

outline

The School has so far exchanged memoranda of understanding (MoUs) on the development of collaborative research and educational programmes with quite a few overseas universities and companies. The International Affairs Office has supported the conclusion of the MoUs, whereas the Education and Students Affairs Office on the Kawagoe Campus has supported the PhD double degree programme in collaboration with Nantes University.

However, most of the collaborative programmes such as “International internship programmes” and “Students and researchers exchange programmes” were either cancelled or postponed under the “COVID-19 pandemic” situation. Particularly, the “Erasmus+ programmes” in collaboration with the Politehnica University of Timisoara and the University of Bucharest were postponed for at least one year. We really hope the “COVID-19” will cease soon so that the programmes will be carried out in the academic year 2022.

In the case of the “PhD double degree programme”, one candidate visited Nantes University from 17th September 2021 to 9th January 2022 to performed theoretical and computational work on “Hydrogenation/dehydrogenation of small carbon molecules”. The supervisor of Nantes University directly instructed the candidate to complete the subject, whereas the supervisor of the Graduate School of Interdisciplinary New Science remotely guided her PhD study via Zoom and e-mail. The candidate went through the first thesis defence, which was organised between Nantes University and Toyo University and held on 28th January 2022 via Zoom. The candidate’s performance was highly evaluated and appreciated by the juries and she successfully received her PhD from Nantes University on 10th February 2022. She also received her doctoral degree from Toyo University on 25th March 2022.

achievements

The following papers were published in collaboration with other institutions.

Y. Tanuma, T. Maekawa and C. Ewels, Methodological investigation for hydrogen addition to small cage carbon fullerenes, *Crystals* **11**, 1334 (2021).
DOI: 10.3390/cryst11111334

P. Muniyandi, V. Palaninathan, T. Mizuki, M.S. Mohamed, T. Hanajiri and T. Maekawa, Scaffold mediated delivery of dual miRNAs to transdifferentiate cardiac fibroblasts, *Mater. Sci. Eng. C* **128**, 112323 (2021).
DOI: 10.1016/j.msec.2021.112323

H. Shimoshige, H. Kobayashi, S. Shimamura, T. Mizuki, A. Inoue and T. Maekawa, Isolation and cultivation of a novel sulfate-reducing magnetotactic bacterium belonging to the genus *Desulfovibrio*, *PLoS ONE* **16**, e0248313 (2021).
DOI: 10.1371/journal.pone.0248313

S.Al Khabouri, S. Al Harthi, S.Al Harthi, T. Maekawa, M.E. Elzain, H.H. Kyaw, M.T.Z. Myint and K. Laxman, Structure, composition and enhanced magnetic properties of novel ternary multicore-shell Ni-Co-Cr nanoclusters prepared by one-step inert gas condensation method, *Mater. Chem. Phys.* **271**, 124858 (2021).
DOI: 10.1016/j.matchemphys.2021.124858

S.C. Pillai, A. Borah, M. Nguyen, T. Le, H. Kawano, K. Hasegawa and D.S. Kumar, Co-delivery of curcumin and bioperine via PLGA nanoparticles to prevent atherosclerotic foam cell formation, *Pharmaceutics* **13**, 1420 (2021).
DOI: 10.3390/pharmaceutics13091420

N. Keswani, R.J.C. Lopes, Y. Nakajima, R. Singh, N. Chauhan, T. Som, D.S. Kumar, A.R. Pereira and P. Das, Controlled creation and annihilation of isolated robust emergent magnetic monopole like charged vertices in square artificial spin ice, *Sci. Rep.* **11**, 13593 (2021).
DOI: 10.1038/s41598-021-92877-7

R. Sreejith, A. Sen, T. Maekawa and D. Sakthi Kumar, Three-dimensional visualization of subcellular dynamics of cancer cell destruction on therapeutic nanodrug treatment, *Small Struct.* **2**, 2000145 (2021). DOI: 10.1002/sstr.202000145

M. Dhanya, N. Selvaraj; R.G. Aswathy, B. Sivakumar, D.S. Kumar and K.M. Nampoothiri, Star-shaped polylactide dipyrindamole conjugated to 5-fluorouracil and 4-piperidinopiperidine nanocarriers for bio-imaging and dual drug delivery in cancer cells, *ACS Applied Polymer Materials* **3**, 737 (2021). DOI: 10.1021/acsapm.0c01043

S. Guan, L. Hao, H. Yoshida, T. Itoi, Y. Cheng, S. Seki, Y. Nishina, and Y. Lu, Enhanced photocatalytic activity and stability of TiO₂/graphene oxide composites coatings by electrophoresis deposition, *Mater. Lett.* **286**, 129258 (2021). DOI: 10.1016/j.matlet.2020.129258

S. Guan, L. Hao, Y. Yang, H. Yoshida, X. Zhao and Y. Lu, Significantly enhanced photocatalytic activity of TiO₂/TiC coatings under visible light, *J. Solid State Electrochem.* **25**, 603-609 (2021). DOI: 10.1007/s10008-020-04834-5

S. Guan, L. Wang, Y. Tamamoto, M. Kato, Y. Lu and X. Zhao, Fabrication and characterization of potassium-doped ZnO thin films, *J. Mater. Sci-Mater. Electron.* **32**, 669-675 (2021). DOI: 10.1007/s10854-020-04847-w

M. Kato, S. Guan and X. Zhao, In-situ observation of graphene using an optical microscope, *Appl. Surf. Sci-Adv.* **6**, 100138 (2021). DOI: 10.1016/j.apsadv.2021.100138

P. Zhang, L. Wang, S. Guan, H. Naganuma, Y. Tamamoto and X. Zhao, Enhancing efficiency in transparent thin-film ZnO/P3HT solar cells by the improved crystalline quality of ZnO, *Phys. Status Solidi A* **218**, 200535 (2021). DOI: 10.1002/pssa.202000535

X. Zhang, D. Ren, X. Liu, S. Guan, X. Yu, J. Chen and C. Nie, Numerical and analytical study on the mechanical properties of a connector with long-fiber and metal laminated bolts for prefabricated construction, *Adv. Struct. Eng.* **24**, 2885-5897 (2021). DOI: 10.1177/13694332211007377

L. Hao, Y. Zhang, Q. Zhao, S. Guan, T. Hu and Y. Lu, Comparative study of MoS₂/MoO₃, g-C₃N₄/MoO₃ heterojunction films and their improved photocatalytic activity, *App. Phys. A* **127**, 767 (2021). DOI: 10.1007/s00339-021-04925-8

X. Zhang, X. Yu, J. Chen, C. Zhao, S. Guan and Y. Fu, Influence mechanism of the trabecular and chamfer radii on the three-point bending properties of trabecular beetle elytron plates, *J. Bionic. Eng.* **18**, 409-418 (2021). DOI: 10.1007/s42235-021-0025-z

Y. Hu, L. Hao, Y. Zhang, X. Ping, T. Liu, Q. Zhao, S. Guan and Yun Lu, Defect concentration regulation in nanoflower-like WO₃ film and its influence on photocatalytic activity, *J. Mater. Sci-Mater. Electron* **32**, 182-190 (2021). DOI: m10.1007/s10854-021-05605-2

T. Kajisa and S. Hosoyamada, Mesoporous silica-based metal oxide electrode for non-enzymatic glucose sensor at physiological pH, *Langmuir* **37**, 13559-13566 (2021). DOI: 10.1021/acs.langmuir.1c01740

An international web symposium was organised and held by the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The graduate students gave poster presentations. The outline of the symposium is summarised below.

The 18th International Symposium on Bioscience and Nanotechnology

Date: Friday 3rd December 2021

Organisers:

Bio-Nano Electronics Research Centre, Toyo University

Graduate School of Interdisciplinary New Science, Toyo University

Supporters:

JEOL Ltd, Shimadzu Co., Horiba Ltd., Oxford Instruments KK

Elionix Inc., Samco Inc., Nissan ARC Ltd., Ulvac-Phi Inc., Hitachi High-Tech Co.

Schedule:

13:20 Opening

13:30 Plenary talk 1

- Modification of thermal boundary resistance for thermal management of interconnect system in advanced VLSI circuits
Tianzhuo Zhan
Graduate School of Interdisciplinary New Science, Toyo University
- 14:00 Plenary talk 2
Modification strategies of TiO₂ photocatalyst coatings
Sujun Guan
Graduate School of Interdisciplinary New Science, Toyo University
- 14:30 Plenary talk 3
Creation of bio nano-interface platform for highly sensitive biosensors
Taira Kajisa
Graduate School of Interdisciplinary New Science, Toyo University
- 15:00 Break
- 15:20 Poster presentations in “Breakout rooms”
- 16:40 Break
- 17:00 International panel discussion on
“Education under the COVID-19 pandemic situation”
Chris Ewels, University of Nantes, France
Mark Baxendale, Queen Mary University of London, UK
Silvia Geordani, Dublin City University, Ireland
Sharon, Strawbridge, University of Exeter, UK
Toru Maekawa, Toyo University
- 18:00 Closing

We discussed and negotiated on future collaborative academic programmes with overseas universities.

- ✓ The “Erasmus+ programmes” in collaboration with universities in the EU.
 - (a) The “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania, was postponed and we discussed a new schedule starting in the academic year 2022.
 - (b) The “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania, was also postponed and we discussed a new schedule starting in the academic year 2022.
- ✓ The “PhD double degree programme” in collaboration with Nantes University, France.
 - (a) The PhD student was supervised by both Japanese and French researchers.
 - (b) The PhD student gave two presentations at international web conferences.
 - (c) The PhD student published two papers in international journals.
 - (d) The PhD student received her PhD from Nantes University and doctoral degree from Toyo University.

The Secretariat of the Research Promotion Office, the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre efficiently supported the above academic activities from an administrative point of view.

2.4 evaluation and strategies of the academic and administrative activities

Outline

The external “Advisory Committee” was held online for the evaluation and strategies of the academic activities performed at the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The outline of the “Advisory Committee” is summarised below.

The Advisory Committee

Date: 8th May 2021

Place: Bio-Nano Electronics Research Centre, International Seminar Hall, Kawagoe, Saitama, Japan

Evaluators and advisors:

Director, Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

Professor, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University

Director, Center for Global Social Innovation, Hitachi Ltd.

President, Professor, Toyo University

Director, Vice-President, Professor, International Affairs Office, Toyo University

Executive Board of Trustees, Toyo University

Director, Professor, Centre for Computational Mechanics Research

achievements

The “Advisory Committee” was successfully held via a mixture of face-to-face and Zoom meetings and the advisory members were basically favourable to the academic activities at the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre.

Events

MONTH	NAME	CLASSIFICATION	NUMBER OF PARTICIPANTS			WEBSITE
			Teaching staff members	Admin staff members	Total	
April - March	Publication of scientific papers in collaboration with other institutions	FD	7	–	7	Please refer to the DOIs given above
April - March	Negotiation on the “Erasmus+ programmes” with the Politehnica University of Timisoara and the University of Bucharest	FD/SD	2	3	6	https://erasmus-plus.ec.europa.eu https://www.toyo.ac.jp/en/news/research/labo-center/bnel/20191024Erasmus/ https://www.toyo.ac.jp/en/news/research/labo-center/bnel/20191113Erasmus_Bucharest/
April - January	PhD double degree programme	FD/SD	1	2	3	https://www.toyo.ac.jp/en/news/research/labo-center/bnel/Ms-Yuri-Tanuma-selected-as-a-French-Governmental-scholar/
May	Advisory Committee	FD/SD	3	4	7	
July - September	Scientific seminars for Himeji High School	FD/SD	1	4	5	
December	Web international symposium	FD/SD	7	6	13	https://www.toyo.ac.jp/en/news/research/labo-center/bnel/18thSymposium/

FEBRUAR Y	PHD DOUBLE DEGREE PROGRAMME: PHD CONFERRED FROM NANTES UNIVERSITY	FD/SD	3	2	5	
March	PhD double degree programme: Doctoral degree conferred from Toyo University	FD/SD	3	2	5	

3) FD/SD strategies in 2022 / 2022-Plan

The outline of the FD/SD activities plan in 2022 is summarised below.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities in both face-to-face and remote ways.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research. The research guidance and instruction will also be given in both face-to-face and remote ways by supervisors.
- (c) Several international programmes will be performed in collaboration with overseas universities once the “COVID-19” has ceased or the situation has been dramatically improved.
 1. “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania.
 - 2 “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania.
 3. “Erasmus Mundus programme” with the University of Algarve, Portugal
 4. Negotiation on the “English courses for Toyo students” with the University of Exeter, UK, the Queen Mary University of London, UK, and the University of California Santa Barbara, USA.
 5. Internship programmes for high school students and students/PDs from partner universities.
- (e) International symposia and seminars will be organised and held in either face-to-face or remote ways for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (d) The external “Evaluation Committee” will be held in the first half of 2022. The members are listed below.

Director, Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

Professor, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University

General Manager, Central Research Laboratory, Hitachi Ltd

President, Professor, Toyo University

Director, Vice-President, Professor, International Affaires Office, Toyo University

Executive Director, Board of Trustees, Toyo University

Director, Professor, Centre for Computational Mechanics Research, Toyo University

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

SD 活動計画：

前年度の実活動績を踏まえ、継続的な教育・研究活動を実施していく（年 2 回の修士論文の進捗状況報告と講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供等）。2019 年度より継続中の志村ゼミ主催の研究会活動（有職の院生などに対し研究機会を提供するための定期的な研究会の実施）についても、学生のニーズに応えるため引き続き実施する。

さらに院生への質問紙調査からは、図書館や院生研究室の使い方への要望や ToyoNet-ACE を使った資料収集や配信等の提案が見られたことから、これらも当該研究科・専攻の課題として継続して共有し、検討議題とする。

FD 活動計画：

引き続き外部講師を招聘し、「留学生への研究指導のあり方」に関し研修を行う。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

(1)FD・SD 活動計画（全般）

活動実績

本年度は、実施計画に基づき、①継続的な教育・研究活動、②院生に対する質問紙調査、③外部講師による講演を実施した。①について、修士論文の報告会（中間報告）、東洋大学社会福祉学会での教員と院生の共著による論文の提出を行った。また前述の志村ゼミの研究会活動も実施した。

さらに②に関して在学中の院生、特に近年急増する留学生、特に中国からの留学生への指導方法向上に資するため、院生アンケートを実施した。また③に関し 2 回の FD 講演会を行った。（下記に詳述）。

成果・課題

以上の活動により、通常のカリキュラム外での教育・研究指導を実施できた。また近年の院生のニーズ（全体）及び、中国からの留学生の実態（大学院への留学及び社会福祉学研究科を志す理由）などを理解できた。特に後者については中国の国内事情が大きく影響していることが想定されることから、彼らを勉学に引きつける方法を今後さらに検討する必要があると考えられる。

(2)FD 講演会 中国留学生に関する社会福祉学研究科の課題

活動実績

近年本専攻に入学を志望する留学生、特に中国人留学生の質の変化に対応するため、日本で社会福祉を学んだ中国人留学生としての経験を有する洪助教（社会福祉学科）から、以下の項目について話を伺った（周知方法：専攻内で案内、参加人数：9）。

1. 社会福祉初学者への対応
 - ・ 学部授業聴講への消極性の理由と対応
 - ・ 日本人学生と一緒に授業におけるレベル差への対応
 - ・ 留学生同士で固まりやすい傾向の解消策（日本人学生との交流の活発化）
 - ・ 学部で他分野を専攻した学生が社会福祉学を目指す理由や背景
2. 学部留学生の大学院進学
 - ・ 学部留学生の大学院進学を増やすのに必要な事項及び留意事項
 - ・ 日本での大学院進学を目指す場合の理由や背景
3. その他
 - ・ 優秀な留学生の確保策

以上の内容に対して、参加者より下記の質問があった。

- ・ チューターの組合せ等
- ・ 研究テーマに、日本ではなく中国のことを選ぶ理由
- ・ 留学生における東洋大学の評価、順位等
- ・ 入試の際の面接の秘訣

成果・課題

多くの中国人留学生は、専攻（社会福祉学）とは全く異なる学習経験を有するケースが多くなっている。このため、専攻では社会福祉学の基本的な知識を習得させるための活動を行ってきたが、本講演からその方法について見直す必要があるものと思われる。

(3)FD 講演会 留学生が大学院に求めること・入学を希望する理由

活動実績

近年本専攻に入学を志望する留学生、特に中国人留学生が増加傾向にある。そのニーズに応えるため、表題の講演会を行った。留学生への日本語教育等を行っている ABK 学館日本語学校の山本俊明先生に、以下の点について話を伺った。

1. 留学生の現状（2015～2019）を捉える
 - 1) 留学生（大学院）の全体像を捉える
 - 2) 専攻別大学院学生数の推移
 - 3) 大学院修士課程 1 年留学生の入学経路

- 4) ABK 学館の大学院進学希望者について
2. 留学の目的を考える ―Push Pull モデルを使って
3. 留学生の進路状況
 - 1) 進路希望
 - 2) 大学院修了生の進路
 - 3) 専攻別就職状況
 - 4) 専攻別国内就職者数
 - 5) 留学生の国内就職の課題
 - 6) 企業の留学生採用理由と求める能力
4. 留学生が大学院に求めること

以上の内容に対して、参加者より下記の質問があった。

- ・ 留学生のためのダブルスクール（予備校）の実態について
- ・ ゼロスタート（専攻に関する予備知識がない院生）に対する対応方法について

成果・課題

本講演から、中国人留学生が海外留学を目指す理由や進路について一定程度理解できた。また希望する学修内容と本専攻での学修内容が必ずしも一致していないことが考えられた。現状のカリキュラムは社会福祉学として必須であることから、留学生に対しては、それぞれの科目を学ぶ意義について今後もより深く教授する必要があると示唆された。

(4)院生アンケート

活動実績

2021年11月25日から2022年1月13日まで、社会福祉学研究科の院生に対するアンケートを実施した。実施に当たっては、オンラインアンケートツールである「SurveyMonkey」を用い、無記名で下記の(1)~(6)までの6問（うち2問は留学生のみ対象）を自由記述で聴取した。回答件数は17件であった。

成果・課題

本アンケートの結果は、以下の通りである（原文のまま掲載）。

- (1) オンライン授業全般の良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。
 - ・ オンライン授業の良かった点は、通学時間を節約して、その時間を利用して予習することができました。オンライン授業の不安なところは、電波が悪い時、先生の声がはっきり聞こえないことがあります。
 - ・ オンラインと対面授業を同時に行う時、オンラインで先生の声がよく聞こえません。
 - ・ 通学時間がかからないのは本当にありがたかった。
 - ・ 良かった点は、通学にかかる労力が軽減できたことである。本業を持ちながら大学院に通え

る環境を整えていただいていることは本当にありがたいが、勤務後の通学は体力を削られる面があった。オンラインは当初はなじめなかったが、継続していくうちに時間を有効に使えるメリットもあることを感じた。改善すべき点ではないが、Wi-Fi 環境で使う場合や PC のスペックによっては、通信の安定性が欠ける点が難点である。

- ・ 通信状況によって教室に入れない場合もあります。
- ・ 感染のまんえんを防止した・たまに回線が弱くなった点がある
- ・ 移動時間がないのは大きな利点。ネット環境によって聞き取りにくいことが多々あった。
- ・ 良かった点：どこからでも授業を受けられた点。調査のために遠方に行っている授業を受けることができ、日程の制約を受けにくかった。 改善すべき点：コミュニケーションを取りづらい授業があった。（受講者側の問題かもしれませんが）
- ・ 特になし
- ・ 緊張感がなく、楽しみ授業をする
- ・ 直接に先生と会えるのが緊張しやすいタイプですので、オンライン授業のおかげで少しだけ緊張感がばくれますので、いいと思います。
- ・ 移動時間を気にせず受講できる点は良いと思います。
- ・ 職場から東京に出向くことを控えるよう言われていても、授業には出席することができました。ご配慮いただきありがとうございます。
- ・ ハイブリッドの授業では教室にいる院生とリモートで参加している院生とで伝達がうまくいかず授業が止まってしまうことがしばしばある。
- ・ 論文を書くのに適しています。先生と画面共有して、論文の欠陥をすばやく見つけることができます。
- ・ 自由に発言できる
- ・ インターネットの環境があることでアクセスしやすい。

(2) 大学院の講義内容・進め方について良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。

- ・ 多くの受講者・ゼミ参加者が PC 操作に慣れておられ、通常の授業、ゼミ等と遜色ない内容となっていた。
- ・ 先生それぞれの考え方のもとに講義のあり方、進め方が異なることが良い点である。博士課程では学生の受信能力を高めていかないと得るものは少ない。また、学部での授業とは異なり、画一的な講義のあり方では、選られるものは少ないと思われる。先生に自由に講義を行っていただくことがよいと感じており、改善すべき点については、特に思いあたるものはない。
- ・ 個人の研究に関する講義は良かったと思います。
- ・ こちらの興味関心に合わせてくださったので良かった。
- ・ 他の生徒の研究を聞けて、改善点などの指導を聞くことができるので自身の研究の参考になる点は多い
- ・ 自分の研究を中心にする授業が好き
- ・ オンライン授業ですが、対面授業と同じようにいつも先生たちにご指導いただいているので、特に改善すべき点はないと思います。

- ・ 今後対面授業が主流になっていくことが予想されますが、できればハイブリッド型での授業をお願いしたいです。
- ・ 自分の研究報告だけでなく、他のゼミ生の取り組みについて指導される場面がみれるので、テーマが違っていても自分の研究に役立てることができました。
- ・ 個別指導をしてくださる
- ・ 講義内容がわかりやすい
- ・ フェイストゥフェイスで行う指導、院生の交流は大切と思うため、対面でのゼミの意義が改めて感じる事ができた
- ・ ほか、なし が5件。

(3) 主査・副査の諸指導について良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。

- ・ 主査も副査もやさしくて、私がいけないところを教えてくださいました。ありがとうございます！
- ・ ご丁寧な指導を頂戴できましたが、仕事の関係で秋セメスターは、研究継続とゼミへの出席が困難な状況がありました。
- ・ 大学院紀要に投稿したが、副査の先生から有益な助言をいただいたり、要約の翻訳について多大なご協力をいただいたり、多大なご助力をいただいた。そして、主査の先生には、査読コメントにしたがった修正を行った後、1か月に亘り内容、形式について継続した指導をいただいた。最終的に完成できたのは、主査、副査の先生のおかげであり、諸々のご指導がすべてにおいて良かったと感じている。指導について改善していただきたい点はない。
- ・ 主査と副査のご指導をもらって大変助かります
- ・ 実はすべての先生はアドバイスをあげたので、みんなは副査という感じがある
- ・ いつでも話を聞くことができありがたい。
- ・ 指導により気付く点が多く良い
- ・ 最初は研究方法は間違えるかどうかを指導されたいです
- ・ 指導先生がたまに厳しいですが、ゼミで色々勉強になっています。
- ・ いつもの確なご指導をいただいています。研究が思うように進まないこともあるので、期待に応えられるようにしたいと思っています。
- ・ 主査副査両先生ともに、丁寧にご指導いただいております。個別指導もして下さいますので、感謝しています。
- ・ 個別指導をしていただけるのでありがたい。
- ・ 教授はとても親切に論文を指導してくれます。これは外国人にとって本当に良いことです。
- ・ 主査・副査の指摘が明確です
- ・ ほか、なし が3件。

(4) 院生研究室・図書館・ToyoNet-Ace 等について、良かった点・改善すべき点について、自由に記述してください。

- ・ ToyoNet-Ace を使えるようになるのに時間がかかりました。
- ・ 図書館であるが、コロナ下においても院生には開放していただけたことがありがたかった。Toyonet-Ace については、休学中もコンテンツを共有できるようにしてもらえるとありがた

たい。事務室の方の対応がとてもよく、とても助けられている。

- ・ 図書館の利用はちょっと難しいと思います。
- ・ 致し方ないのは分かりますが事由に院生研究室を出入りしたい
- ・ 図書館を制限下でも毎日使えたのはありがたい。ただ、電子書籍の対応が増加するとよりありがたい。
- ・ 院生自分の席が欲しい
- ・ とても利用しやすいですので、改善すべき点はないと思います。
- ・ この2年間は大学に行くことができていないのですが、ToyoNet-Ace など便利に活用しています。休学してしまうと、情報が漏れてしまうことが心配です。
- ・ 日曜・祝日も共同研究室をあけてもらえないかと思うことがある。(社会人学生のため、平日の利用が難しい)
- ・ toyonet-ace の設計が簡潔です
- ・ ほか、なし が6件。

(5) (留学生のみ回答してください) 日本語講座、日本語添削を利用した場合はその感想を教えてください。利用したことがなければ、「利用なし」と書いてください。

- ・ 利用しやすいし、先生たちも優しいです。
- ・ 秋学期が初めて日本語講座に参加していたんですが、色々勉強になりました。
- ・ 今年は日本語の講義には応募しませんでした。が、昨年の講義から本当にたくさんを学びました。
- ・ 日本語講座が留学生にとって助けになる
- ・ ほか、利用なしが4件。

(6) (留学生のみ回答してください) 日本語講座、日本語添削を利用するつもりがない場合は、その理由を教えてください。すでに利用したり、今後利用予定であれば「利用した・する予定」と書いてください。

- ・ 私は日本語学校に卒業したあと入学したので、今の日本語能力が大丈夫と思う。今後日本語能力が不足と感じるときに利用する。
- ・ ほか、利用した・利用する予定・利用したいが6件。

以上が回答内容である。現在の指導体制に関し、特にオンライン授業について通信環境や院生自身のPCの環境等に関するコメントがあった。これらは外部要因のため一足飛びに解消することは困難と思われるが、今後オンラインを活用する際は、何らかの形でこれらの面に対応することが必要と思われる。また日本語講座・添削の利用について、各教員より積極的な利用を働き掛けているものの、利用していない留学生も散見される。回答にある通り留学生が自身の日本語力に一定の自信を持っていることがその理由だが、「完璧」という状態はないと思われるため、今後も利用を促す必要があると考えられる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
10月4日 10:30 ～11:30	FD 講演会 中国留学生に関する社会福祉 学研究科の課題－コウシンロ 先生からのヒアリング－	FD・SD	9	0	9	×
1月24日 15:00 ～16:00	FD 講演会 留学生が大学院に求めるこ と・入学を希望する理由	FD・SD	7	0	7	×

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

2022 年度においても、SD 活動として①継続的な教育・研究活動（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告・講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供、及び志村ゼミの研究会活動の実施等）を、また FD 活動として②院生に対する質問紙調査、③外部講師による講義を行う。①は通年で、②及び③は主に秋学期中に実施予定である。

これらの活動を通じ、社会福祉学専攻の学生に対して、通常の授業以外でも学習・研究活動の機会を提供するとともに、院生の実態やニーズ把握を行う。

1) 2021 年度 FD・SD 活動計画 / 2021-PLAN

国際教育センターでは、シラバス点検や授業評価アンケートなどの取り組みに加え、日本語教育プログラムや英語特別教育科目（LEAP プログラム）などのテーマごとにFD研修を実施している。

日本語教育プログラムについては、2021 年度についても 1 回はオンライン開催するという計画となっている。また、昨年度実施した理論と実践双方のテーマを設定することで、授業内実践についての理解を深めるという方針を今後も継続する。

LEAP プログラムについては、IELTS 対策へ再編した新プログラムでの教育活動に必要な知見のインプットや研修などを随時計画していく。

SD 研修については、引き続き TGD 構想の推進及び大学の国際化に係る各種テーマを設定し実施する計画となっている。

2) 2021 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2021-Do, Check

①日本語教育プログラム [FD]

活動実績

2020 年度に引き続き、日本語教育の理論的理解と教育実践の向上を目的として、オンラインによる FD 研修会を 2 回（実践編と理論編）開催した。本 FD は正課科目担当教員、課外プログラム担当教員、学内関係者を対象としているが、文学部日本語教員養成プログラムを履修する学生や学内の留学生にも開放し実施された。

第 1 回 日時： 2021 年 8 月 5 日（木）13:30－15:00 開催方法：ビデオ会議システム

講師： 館岡洋子氏（早稲田大学院日本語教育研究科教授）

タイトル： 「日本語教育における協働学習の展望」

参加者数： 18 名（内本学教員 17 名）

第 2 回 日時： 2022 年 1 月 28 日（月）13:00－14:30 開催方法：ビデオ会議システム

講師： 杉村泰氏（名古屋大学教授）

タイトル： 「許容度と選択率から見た『てならに』・自他受身・指示詞の選択および日本語教育への示唆」

参加者数： 20 名（内本学教員 19 名）

成果・課題

第1回（実践編）では、舘岡先生から協働学習（ピア・ラーニング）の基本的な考え方だけでなく、実践例や教師の役割について具体的なお話を聞くことができた。日本語教育科目で推進している反転授業の在り方にも大きな示唆を得た。また、第2回（理論編）では、杉本先生をお招きし、状況描写場面における日本語母語話者と学習者の表現選択の違いについてお話をうかがった。学習者が間違えやすい項目についても研究成果の紹介があり、活発な意見交換が行われた。今回は学外からの参加者が少なかったため、今後は、広報手順などを改善し、より多くの関係者が参加できる体制を検討していきたい。

②LEAP（英語特別教育科目）プログラム [FD]

活動実績

2021年度はオンラインのアプリ・ツールを使った効果的な授業運営方法を検討するために、教育学（Educational Technology）をテーマとして春学期に1回、IELTS教授に関する実践的なテーマで秋学期に1回、計2回のFDを開催した。

第1回 日時：2021年6月1日（木）9:00－10:30 開催方法：ビデオ会議システム

講師：Rab Paterson（東洋大学非常勤講師）

タイトル：「LEAP into Google Classroom」

参加者数：8名（内本学教員7名）

第2回 日時：2022年1月13日（木）9:00－10:30 開催方法：ビデオ会議システム

講師：Roger Mitchell（パークレーハウス）

タイトル：「IELTS Workshop」

参加者数：9名（内本学教員8名）

成果・課題

第1回目では、コロナ禍により2020年度から全LEAP科目を非対面双方向型で実施している中、英語教育と教育学を専門とする本学非常勤講師から、英語教育でのGoogle Classroomの様々な機能や使い方が紹介された。Google Classroomの便利な機能を使うことでオンライン授業をより効果的に実施する示唆を得た。

第2回目では、IELTSを主軸とした教育内容の更なる充実や学生への指導方法などを改善するためのFDを実施した。LEAP教員が事前に課題を出し合い、その課題への対応方法などについて、IELTS指導に関する教育経験が豊富な外部講師から、経験に基づく助言や事例などの共有があった。外部講師の視点からも、2021年度から始まった本学のIELTS対策に主軸を置いたプログラム設計の方向性について、問題がないことが確認された。

③ チャレンジワーク国際部全体ミーティング[SD]

活動実績

本年度のSD活動として、「チャレンジワーク国際部全体ミーティング」を実施した。TGD構想の推進及び大学の国際化にかかる国際部・国際課の業務課題に基づく目標に対して取り組むチャレンジワークについて、今年度は課員各自が取り組んだ内容・成果・課題を課員全員に報告・共有することで、業務課題に基づく目標の進捗状況や担当業務外も含む国際課としての取り組みを横断的に把握し、今後の業務改善や各自の意識改革に繋げることを目的としている。

日時： 2022 年 3 月 17 日 10:00-12:00 開催方法：ビデオ会議システム

講師： なし

参加者： 27 名（国際部長及び国際課職員）

成果・課題

国際部の取組課題に基づき、国際課のチャレンジワークとして設定された総計 20 の目標について、目標毎に主担当が取り組み内容とその成果および今後の課題について報告した。報告後に国際部長からフィードバック・コメントがあり、取り組み内容の評価や次年度以降の課題への取り組み方について提言があった。本報告会はSDとして位置づけられ、目標管理制度のチャレンジワークを担う専任職員だけでなく、国際課に所属する全課員が参加して実施された。担当業務や所属チームを超えて、国際部・国際課として目指すべき目標や達成状況などを共有することができた。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD/SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021 年 8 月 5 日 13:30-15:00	国際教育センター日本語教育講演会「日本語教育における協働学習の展望」	FD	17	0	17 ※	×
2022 年 1 月 28 日 13:00-14:30	国際教育センター日本語教育講演会「許容度と選択率から見た『てなかに』・自己受身・指示詞の選択および日本語教育への示唆」	FD	19	0	19 ※	×
2021 年 6 月 12 日 9:00-10:30	LEAP 主催 FD「LEAP into Google Classroom」	FD	7	1	8	×
2021 年 1 月 13 日 9:00-10:30	LEAP 主催 FD「IELTS Workshop」	FD	8	1	9	×
2021 年 3 月 17 日 10:00-12:00	チャレンジワーク国際部全体ミーティング	SD	0	27	27	×

※日本語分野の FD には上記記載の教職員以外に**学生も参加**している。

3) 2022 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2021-Act, 2022-Plan

日本語教育プログラムについては、2022 年度も理論編と実践編の 2 回に分けて研修を行う予定である。基本的には 2021 年度を踏襲してオンラインでの開催を予定しているが、コロナの収束状況によっては対面で実施し、学内の日本語教育関係者が顔を合わせて議論する場を提供したい。実施時期は、第 1 回を春学期終了後、第 2 回を秋学期終了後とし、今後内容を含めて調整する。

LEAP プログラムについては、IELTS 対策へ再編した新プログラムに必要な知見のインプットに繋がる研修を随時計画していく。

SD 研修については、引き続き TGD 構想の推進及び NEXT SGU の策定に向けた各種テーマで SD を実施する。

2021 年度高等教育推進センター/委員会活動一覧

月	推進委員会・部会長会議・各分会						行事	
	推進委員会	部会長	教育方法改善	FD・SD研修	高等教育研究	教育開発・改革	日程	内容
4							4/7-5/10	TA/SA研修会
		①4/16					4月9日(金)	全学授業評価アンケート実施依頼
	①4/20			①4/23-5/6				
			①4/26-5/8					
5							5月	『東洋大学FD・SD活動報告書（2020年度）』刊行
				①5/17-21		①5/11		
			②5/28-6/2	②5/25-28			5月26日(水)	授業評価アンケート第1Q実施期間開始（～6/8）
		②6/8	③6/10					
6	②6/21-23							
7							7月7日(水)	授業評価アンケート第2Q/春学期実施期間開始（～8/3）
8							2/16-18	英語で授業をおこなうためのFD研修会
9							9月1日(水)	2021年度新任教員FD研修会
							9/17-10/31	TA/SA研修会
10				②10/1				
				③10/8				
	③10/15							
11							11月4日(木)	授業評価アンケート第3Q実施期間開始（～11/17）
12							12月16日(木)	授業評価アンケート第4Q/秋学期実施期間開始（～1/31）
1				③1/7				
2							2/16-18	英語で授業をおこなうためのFD研修会
			④2/25	④2/25		②2/22		
3		③3/1						
	④3/8						～3/9	「高等教育推進センターニュースレター」年間計15回配信
							～3月	TOYO FD・SD Channel 16本公開

高等教育推進委員会

第1回（第Ⅲ期通算第1回）

日時 2021年4月20日(火) 18:15 ～ 19:45

場所 Webex meetings

〔はじめに〕

1. 高等教育推進センター長 挨拶
2. 高等教育推進委員会委員 紹介
3. 2020年度第6回（第Ⅱ期通算第10回）東洋大学高等教育推進委員会要録 確認

〔議 題〕

I. 協議事項

1. 国際教育センターからの委員選出について
2. 部会長の選出及び委員の各部会への配属について
3. 第Ⅲ期（2021～2022年度）計画の立案について

II. 報告事項

1. 各部会活動状況報告
 - ① 2021年度授業評価アンケートの実施について
 - ② 2021年度 TA/SA 研修会の実施について
 - ③ FD・SD チャンネル 2020年度実績報告
2. センター報告
 - ① 各学部・研究科における FD・SD 活動状況報告のお願い
 - ② English Support Service について
 - ③ 学外における FD・SD 関連研修会について

III. その他

今後の運営及びスケジュール等について

第2回（第Ⅲ期通算第2回）

日時 2021年6月21日(月) 13:00 ～ 6月23日(水) 13:00

場所 ガルーン会議

〔はじめに〕

(1) 2021 年度第 1 回東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

〔議 題〕

1. 協議事項

- (1) 国際教育センター選出委員の部会への配属について
- (2) 第Ⅲ期（2021-2022 年度）活動計画
- (3) 教育方法改善部会 授業評価アンケートの見直しについて
動画 URL : <https://youtu.be/GHjWQs466MQ>

2. 報告事項

(1) 各部会活動状況報告

- ① FD・SD 研修部会 TA/SA 研修会実施報告
- ② FD・SD 研修部会 2021 年度英語で授業を行うための FD 研修会企画（案）
- ③ FD・SD 研修部会 2021 年度新任教員 FD 研修会企画（案）
- ④ 高等教育研究部会 第Ⅲ期ニュースレターについて

(2) 各学部・研究科における FD・SD 活動状況報告

- ① 国際観光学研究科
- ② 社会学部

(3) センター報告

- ① 学外機関との連携について（JPFF 総会・シンポジウム）
- ② English Support Service 利用状況について
- ③ 『東洋大学 FD・SD 活動報告書（2020 年度）』の刊行（PDF）について

第 3 回（第Ⅲ期通算第 3 回）

日時 2021 年 10 月 15 日(金) 12:30 ～ 14:00

場所 Webex Meetings

〔はじめに〕

- (1) 2021 年度第 2 回東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

〔議 題〕

1. 協議事項

- (1) FD・SD 研修部会 FD・SD の充実・高度化について

2. 報告事項

(1) 各学部・研究科における FD・SD 活動状況報告

- ① 社会福祉学研究科
- ② 食環境科学部

第 4 回（第 III 期通算第 4 回）

日時 2022 年 3 月 8 日(火) 9:30 ～ 11:00

場所 Webex Meetings

〔はじめに〕

(1) 2021 年度第 3 回東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

〔議 題〕

1. 報告事項

(1) 各部会活動状況報告

- ① 教育方法改善部会
- ② FD・SD 研修部会
- ③ 高等教育研究部会
- ④ 教育開発・改革部会

(2) 各学部・研究科における FD・SD 活動状況報告

- ① 経営学部
- ② 社会学部
- ③ ライフデザイン学部
- ④ 文学研究科
- ⑤ 社会学研究科
- ⑥ 法学研究科
- ⑦ 食環境科学研究科
- ⑧ 生命科学研究科
- ⑨ 文学部
- ⑩ ライフデザイン学研究科

(3) センター報告

- ① English Support Service の利用状況について

- ② English Support Service 利用状況について
- ③ 学外機関との連携について（JPFF、関東圏 FD 連絡会）
- ④ 学外における FD・SD 研修会について
- ⑤ 学修成果測定指標の活用について
- ⑥ 各学部・研究科からの教学データ提供依頼状況について
- ⑦ 2021 年度 FD・SD 活動報告書の作成について（依頼中）

2. 協議事項

- (1) 2022 年度以降の授業評価アンケートの実施について
- (2) 2022 年度実施 FD・SD プログラムについて
- (3) 新任教員・非常勤講師に向けた授業支援ツールの案内について
- (4) 高等教育推進委員対象のアンケート実施について

部会長会議

第 1 回

日時 2021 年 4月16日(金)
場所 Webex Meetings
議題 部会配属について

第 2 回

日時 2021 年 6 月 8 日(火)
場所 Webex Meetings
議題 第Ⅲ期活動計画について

第 3 回

日時 2022 年 3 月 1 日(火)
場所 Webex Meetings
議題 2021 年度活動報告について

教育方法改善部会

部会

第 1 回

- 日時 2021 年 4月26日(月) ～ 5月8日(土)
- 場所 メール会議
- 議題 (1) 2021-2022 年度活動計画について
(2) 授業評価アンケートの見直しについて
① 授業評価アンケートの目的の見直し
② 授業評価アンケート項目の見直し

第 2 回

- 日時 2021 年 5 月 28 日(金) ～ 6 月 2 日(水)
- 場所 メール会議
- 議題 (1) 新授業評価アンケート項目案について

第 3 回

- 日時 2021 年 6 月 10 日(木) 18 : 20 ～ 19 : 10
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) 新授業評価アンケート項目案について
(2) 授業評価アンケートに関する調査実施について

第 4 回

- 日時 2022 年 2 月 25 日(金) 15 : 30 ～ 17 : 00
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) 2021 年度教育方法改善部会の活動報告について
(2) 2022 年度以降の授業評価アンケートの設問項目及びアンケート結果の出力帳票について
(3) 2022 年度以降の授業評価アンケートの実施運用について
(4) 2022 年度授業評価アンケート実施スケジュールについて
(5) 2021 年度授業評価アンケート実施結果報告について

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

教育方法改善部会

計画：2021年5月10日
中間報告：2022年3月08日
期末報告：2023年 月 日

部会長長谷川 勝久

活動項目	P				D・C	
	2021年度計画の概要	2022年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①授業評価アンケートの開発、分析及び活用	1. 2022年度以降のハイフレックス授業を想定して新たな授業形式に対応した授業評価アンケートの作成を行う。 2. 春学期に授業評価アンケート項目の見直しのための調査を実施。 3. 秋学期に2の調査結果を基に、授業評価アンケート項目の修正および信頼性、妥当性の検討を行い、年内にアンケート項目を決定する。 4. 3に伴い、授業評価アンケートフィードバックシステムの一部見直しを行う。	1. 自由記述のチェック機能について、ニューラル・ネットワークを用いて誹謗・中傷に関する書き込みを判別できるか検討する。	1. 非対面授業の在り方について、同期型、非同期型それぞれにおける各種手法がどのような授業に適しているかの検証結果を基に、各学部の教授会にて、授業評価アンケート項目の妥当性に関する調査依頼が必要であることから、委員会で十分理解が図れるように留意する。	1	1. 「学修者本位の教育への転換をもたらすための授業改善」を目的とする、新しい授業評価アンケートの作成に取り組んだ。 2. 授業評価アンケート項目の見直しのため、部会および委員会での協議、学部長会議の報告を経て、2021年7月～8月に専任教員を対象とした「2022年度以降の授業評価アンケートに関する調査」を実施した。 3. 調査結果を基に、授業評価アンケート項目の修正および信頼性、妥当性の検討を行い、年度内にアンケート項目の検討を行った。 4. 授業評価アンケートのフィードバックシステムについては、教員個人の結果表の内容等について、部会内で検討を行った。	
②学生の学修成果の把握と検証	2021年度は、アフターコロナを見据えた新たな授業形式に対応した授業評価アンケート項目の見直しに着手するため、学生の学修成果の把握と検証は意見交換程度とし、次年度に検討を継続していく。	1. 学修成果指標検討会議で出された結果と①の結果を踏まえた上で、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けができるかどうかの検討を行う。	1. 各学科が作成した学修成果指標に基づき、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けることができるかどうかの検討。 2. 1の検討結果に基づき、授業評価アンケートのフィードバックの仕組みの設計変更とも関連付けて検討することに留意する。	3	2021年度はアフターコロナを見据えた、新たな授業形式に対応する授業評価アンケートの開発に注力していたため、本格的な意見交換までは行われなかった。次年度は新しく開発した授業評価アンケートの実施結果を検証し、学生の学修成果をいかに把握でき、学修成果指標と関連付けができるようになったか、検証していく。	
③その他	1. Webによる授業評価アンケートを着実に実施する。	1. Webによる新たに設計した授業評価アンケートを着実に実施する。	1. 授業評価アンケートの実施率の低下を防ぐため、マークシートにて実施していた時と同様に、授業内で実施するように留意する。ただし、アンケート実施時に欠席した学生については、後日、入力できるようにすることで、実施率の向上を図る。 2. 集計資料では授業名を伏せ、受講していない学生には閲覧できないようにするなど、情報管理に留意する。 3. 教員からのコメント入力を積極的に行っていただけるように留意する。	2	2021年度は以下の日程でwebによる授業評価アンケートを実施した。 第1クォーター 2021年5月26日（水）～6月8日（火） 第2クォーター及び春学期 2021年7月7日（水）～8月3日（火） 第3クォーター 2021年11月4日（木）～11月17日（水） 第4クォーター及び秋学期 2021年12月16日（木）～2022年1月31日（月） その結果、アンケート回答率は、次の通りであった。 ・春学期 回答率：38.2％（昨年度 39.5％） ・秋学期 回答率：30.8％（昨年度 35.9％）	

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

FD・SD 研修部会

部会

第 1 回

- 日時 2021 年 5 月 17 日(月)～21 日(金)
- 場所 ガルーン
- 議題 ①はじめに
- ②第 III 期（2021 年度～2022 年度）活動計画書（案）について（協議）
- ③2021 年度春学期 TA・SA 研修会の実施について（報告）
- ④新任教員 FD 研修会の実施について（協議）
- ⑤英語で授業を行うための FD 研修会の実施について（協議）
- ⑥今後の進め方
- ⑦その他

第 2 回

- 日時 2021 年 10 月 1 日（金）13：00～14：30
- 場所 Webex Meetings
- 議題 (1) FD・SD チャンネルについて
- (2) FD・SD の充実・高度化について

第 3 回

- 日時 2021 年 10 月 8 日（金）13：00～14：30
- 場所 メール会議
- 議題 (1) FD・SD チャンネルについて
- (2) FD・SD の充実・高度化について

第 4 回

- 日時 2022 年 2 月 25 日(金) 14：30～16：00
- 場所 Webex Meetings
- 議題 1. 報告事項
- 1.1. 2021 年度 FD・SD 活動報告
2. 協議事項
- 2.1. 2021 年度 FD・SD 研修部会の活動報告について

2.2. 2022 年度 FD・SD プログラムについて

2.3. 学部・研究科における FD・SD 活動の共有について

2.4. 2022 年度 TOYO FD・SD Channel のコンテンツについて

学内 FD・SD 関連研修会

研修会名	実施方法	実施日程	対象	参加者等
TA/SA 研修会（春学期）	オンデマンド型	2021/4/7 ～5/10	新規 TA/SA	425 名
TA/SA 研修会（秋学期）	オンデマンド型	2021/9/17 ～10/31	新規 TA/SA	220 名
英語で授業を行うための研修会 ①講義とプレゼンテーション(導入) ②講義とプレゼンテーション(発展)	同時双方向型	2021/8/18 ～8/19	専任教員	①8 名 ②6 名
英語で授業を行うための研修会 ①アカデミックライティング(導入) ②発音と Global Englishes	同時双方向型	2022/2/16 ～2/18	専任教員	①9 名 ②13 名
新任教員 FD 研修会	同時双方向型	2021/9/1	新任教員	42 名
TOYO FD・SD Channel	オンデマンド型	—	専任教職員	16 本公開

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

FD・SD研修部会

計 画：2021年5月10日
中間報告：2022年3月08日
期末報告：2023年 月 日

部会長 荻野 剛史

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物 等	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①全学的なFD・SDプログラムの企画、実施	1. TA・SA研修会の実施 2. 新任教員FD研修会 3. 英語で授業を行うためのFD研修会 4. TOYO FD・SD channel 5. FD・SD研修会 6. 東洋大学教育DX推進基本計画④「学生の成長を中心に据えた体系性あるFD・SDプログラムの構築」に向けた検討	・それぞれのFD・SD活動を実施し、教職員及び教育補助員の能力開発、資質向上を図る。 ・学内（学部研究科、全学組織、事務部門等）で実施しているFD・SD活動を情報収集し、精査する。 ・東洋大学教育DX推進基本計画を踏まえて、FD・SDプログラムの体系化に向けた方針および具体的な活動計画を立案し、実施する。	1	1. TA・SA研修会 2021年4年7日-5月10日（春学期）/2021年9年17日-10月31日（秋学期） （参加者数：425人（春）/220人（秋）。両学期とも、参加者の90%以上が研修会が「大変参考になった」「やや参考になった」と回答） 2. 新任教員FD研修会 2021年9月1日（参加者42名。参加者の95%がプログラム全体に関して、「充実している」「やや充実している」とアンケートで回答） 3. 英語で授業を行うためのFD研修会 ①2021年8月18日-8月19日 講義とプレゼンテーション(導入) ②2021年8月18日-8月19日 講義とプレゼンテーション(発展) ③2022年2月16日-2月18日 アカデミックライティング(導入) ④2022年2月17日-2月19日 発音とGlobal Englishes （参加者数：①8名、②6名、③9名、④11名、合計34名。参加者の97%がこの研修を履修して、英語力、英語スキルが上がったと回答） 4. TOYO FD・SD channel 2022年2月-3月 10本制作中 6. かねてより課題であったFD・SDの体系化について、第2回及び第3回FD・SD研修部会並びに第3回高等教育推進委員会での協議を経て、2022年度以降のFD・SDの充実施策として、以下の柱を軸にしたプログラムを企画立案した。2022年度より順次実施予定である。 i.教育力の充実 ii.理念・方針の浸透 iii.データ活用力の獲得 iv.組織運営の高度化	
②各学部・研究科のFD・SD活動の支援	1. 各学部・研究科が開催するFD・SD活動に対して講師選定などの助言を行う。また、FD・SD活動に開催学部・研究科以外の教職員も参加できるよう、学内への情報提供を必要に応じて行う。 2. 各学部・研究科の『FD・SD活動報告書』の作成支援を必要に応じて行う。	・各学部・研究科特有のFD・SD活動が実施される。 ・『FD・SD活動報告書』の作成を通じて、各学部・研究科のPDCAサイクルの回すとともに、全学のFD・SD活動の取組状況を学内外にて周知・共有する。	2	1. 学部・研究科主催のFD・SD活動に対して、講師やテーマ選定等の助言を行った。 2. 2021年5月に『FD・SD活動報告書（2020年度）』を刊行した。また、2022年1月に学部・研究科に対して、『FD・SD活動報告書（2021年度）』の作成依頼を行い、3月下旬までに提出いただき、4-5月頃に刊行予定である。	

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

高等教育研究部会

部会

第 1 回

- 日時 2021 年 4 月 23 日(金)～5 月 6 日 (木)
- 場所 ガルーン
- 議題 ①「高等教育推進センターニュースレター」のご紹介（報告）
②第 III 期（2021～2022 年度）ニュースレター配信予定日（報告）
③シリーズ 6 のテーマについて（協議）

第 2 回

- 日時 2021 年 5 月 25 日～28 日
- 場所 ガルーン
- 議題 第 III 期（2021～2022 年度）の活動計画について

第 3 回

- 日時 2022 年 1 月 7 日(金) 11：10～12：10
- 場所 ガルーン
- 議題 ①シリーズ 6「Grow Up! Thirty Thousand」配信報告
②シリーズ 7 の企画について

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

付録参照

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

高等教育研究部会

計 画：2021年5月10日
中間報告：2022年3月08日
期末報告：2023年 月 日

部会長 藤澤 誠

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物 等	優先順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
①国内外の高等教育の動向の調査、発信	従来の活動を踏襲し、国内外を問わず、教育行政関連機関の政策動向や、他大学および学内のグッドプラクティスなどの情報を広く収集し、メールマガジン『東洋大学高等教育推進センターニュースレター』において学内教職員に提示する。このメールマガジンはToyoNet-ACEと『FD・SD活動報告書』にバックナンバーを蓄積し、特に本学の教育の質的向上に関する取組で対外的なプレゼンスの向上に資すると考えられるものについては、高等教育推進センターHPでの公開を検討する。記事のテーマについては、本学の教学施策や学生の実態等を踏まえた上で、時宜にかなったもので、かつ教職員への発信によって本学の教育活動の発展に資するものを選定する。情報を編集し発信する際には、教職員の興味を引くものとなるよう努めるとともに、メールマガジン誌上が教員・職員・学生の三者の意見が交流し合う場ともなるよう配慮する。 また、上記メールマガジンの編集作業の簡略化と配信効果の測定のため、専用のメールマガジン配信ツール（有料）を導入する。	左記の通り、メールマガジンの内容がToyoNet-ACEと『FD・SD活動報告書』にバックナンバーとしてアーカイブされる。 2021年度は第1回高等教育研究部会での議論を経て、連載企画シリーズ6として、6月22日配信のVol.4, No.5の配信から、「自己点検・評価から見えた東洋大学(仮題)」の連載を予定している。また、シリーズ7として、「わたし・わたしたちのデジタル活用事例を紹介します(仮題)」を計画している。 2022年度以降については、左記のとおり、高等教育研究部会で協議の上、テーマを選定する。	1	メールマガジン「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」では、本部会で設定したテーマについての教職員からのご寄稿、高等教育政策動向、FD・SD関連のリンクなどを掲載している。2021年度は、2022年2月末までに14回のニュースレター(Vol.4 No.1～No.14)を発行した。No.1～3では、昨年度に引き続き、危機対応の最前線で働く職員の声から大学運営の現状を学内で共有することを目的として、「大学運営の今」を配信した。No.4～13ではシリーズ6として「Grow Up! Thirty Thousand」を配信した。このシリーズでは、当初予定していた「自己点検」や「認証評価」に関するものだけではなく、3万人の学生の成長を支えている各組織の方針や活動内容についてその組織の代表者からご寄稿いただくことで、本大学の包括的なヴィジョンを共有することを目的とした。No.14以降は、部会での協議の結果、シリーズ7として「ICT活用アイデア」をテーマにすることとなった。2月以降、月1回の頻度で11月までの配信を予定している。全てのメールマガジンは、計画通りToyoNet-ACEおよびGoogleグループにアーカイブされている。 メールマガジン配信ツールについては、ツールを比較検討中である。	
②学会・他大学との連携、情報交換	従来の活動を踏襲し、本学が機関会員資格を有する「関東圏FD連絡会」と「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」の連絡会参加および情報共有に加え、学外FD・SD関連研修会に積極的に参加し、新たな連携先（情報交換ができる関係）を模索する。 「関東圏FD連絡会」や「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」、学外FD・SD関連研修会で得られた有益な情報や知見は、活動項目①「国内外の高等教育の動向の調査、発信」において共有できるよう配慮する。 なお、学会、他大学のみならず、本センター内他3部会との連携も意識し、高等教育関連情報発信の充実に努める。	本取組において得られた有益な情報は活動項目①で配信するメールマガジンで配信、アーカイブされる。	2	東洋大学高等教育推進センターニュースレター Vol.4, No.11 (2021年11月17日配信) において、伊藤 大将 先生（国際学部グローバル・イノベーション学科）にご寄稿いただいた「FD・SD研修会参加報告」をメールマガジンで配信した。国際教育研究コンソーシアムが主催した国際教育夏季研究大会への参加報告であり、ご寄稿の題目は「第1回 COIL（Collaborative Online International Learning）と留学の効果の測定」であった。本ニュースレターはGoogleグループにアーカイブされている。引き続き、FD・SD研修会に参加した教職員からのご寄稿を掲載していく。	

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

教育開発・改革部会

部会

第 1 回

- 日時 2021 年 5 月 11 日（火） 18:15～19:45
- 場所 Webex Meetings
- 議題 ① 教育開発・改革部会（第Ⅲ期）の位置づけ
② 第Ⅲ期(2021 年度～2022 年度)活動計画書（案）について
③ 今後の流れ

第 2 回

- 日時 2022 年 2 月 22 日（火） 15:30～17:00
- 場所 Webex Meetings
- 議題 ① 活動計画における中間報告に向けて
② 2021 年度・2022 年度の割り振り（考え方）
③ 今後の流れ
④ 2022 年度の活動の方向性について
 (1) 他大学の LMS 等の利用状況
 (2) ToyoNet ACE 利用状況
 (3) 高等教育推進委員対象のアンケート
⑤ 2021 年度末中間報告：活動項目 2（案）

その他

他大学の LMS 等の利用状況調査

2021 年 7 月 5 日開催「第 32 回関東圏 FD 連絡会」にて調査。

ToyoNet-ACE 利用状況

コース統計情報の取得・活用事例の収集。

- ・ 2021 年度 春学期（2021 年 4 月 07 日～2021 年 8 月 03 日）
- ・ 2021 年度 秋学期（2021 年 9 月 17 日～2022 年 1 月 31 日）

高等教育推進委員対象アンケート

回答期間：2022 年 3 月 8 日～3 月 31 日

教育支援システム等の利用状況の把握、活用事例の収集を目的に実施。

高等教育推進センター第Ⅲ期（2021～2022年度）活動計画

教育開発・改革部会

計 画：2021年5月10日
中間報告：2022年3月08日
期末報告：2023年 月 日

部会長 川瀬 晃弘

活動項目	P			D・C	
	計画の概要	期待される成果物 等	優先 順位	中間報告（2021年度末）	期末報告（2022年度末）
1. 教育支援システム活用事例の収集及び課題整理	DX基本計画に鑑み、オンライン授業により利用機会が拡大した教育支援システム（ToyoNet-ACE 等）や会議システム（Webex 等）の活用事例を収集するとともに、併存する複数のシステムについて検討を行い、運用上の課題を整理する。その結果を関係委員会等を通じて学内で共有することにより、今後のLMSや情報インフラの活用・整備の一助とする。	①：現行の各教育支援システムの利用状況および活用事例の評価。 ②：教育支援システムを通じて「実現すべき教育活動」について、現行システムの活用範囲の評価、他の手法を用いた実現可能性の検討。 ③：②を踏まえた試験的な実践（現行システムまたは代替手段の試行）。 ④：③を受けた評価。 ※評価に必要な情報収集は、担当事務局（情報システム課等）や各システム開発元へ提供を求める。	1	教育支援システム等の利用状況や活用事例の評価および課題整理を行うにあたり、2021年度を『情報の収集・整理』を行う年と位置付け、下記の活動を行った。（年度内実施予定を含む） (1)他大学の教育支援システム等の利用状況調査として、関東圏FD連絡会にて参加大学への情報収集を行った。 (2)本学の教育支援システムの利用状況を把握するためToyoNet-ACEの「コース統計情報」を情報システム課より提供を受け、利用頻度などの確認を行った。データはコース（授業）ごとにToyoNet-ACEの各機能がどの程度利用されているかを示すもので、今年度の春学期・秋学期の2つの統計をもとに次年度に評価・課題整理を行う活用事例の選定に利用する。 (3)次年度に向けた事前調査（委員会承認後、年度内に実施）として高等教育推進委員を対象に、教育支援システム等の利用状況と活用事例を収集するアンケートを実施する。主な調査項目は「利用している教育支援システム等」「所属内での先進的取り組み事例」について伺う。	
2. 学習効果を高めるコミュニケーション機会の創設	教員と学生および学生同士のコミュニケーションの円滑化を通じ、学習効果を高められるオンラインツールの整備・創設について検討を行う。 教員から学生に対するパーソナライズされたフィードバックによる学習効果、ある学生からの質問に別の学生が回答したり履修計画について情報交換を行うなど、学生同士の「教え合い」の場の提供により得られる学習効果、教員による教育活動との相乗効果を得るために必要な諸条件や運用課題を洗い出し、現行システムの活用を中心に検討を行う。 なお、本項目は「活動項目1」で得られた知見の活用・実践と位置づける。	①：学内外のコミュニケーションツール（スペース）の事例の収集および評価、「活動項目1」の活動による知見から現行システムで実現可能な実施方法を検討する。 ②：運用ルールなどの検討を行い、現行システムまたは代替手段による試行への準備。 ③：②で整備したツールを用いた試験的な実施を行う。 ④：③を受けた評価。	2	活動項目1で得られた知見の活用・実践と位置づけており、本項目に関わる活動実績も項目1の中間報告における『情報の収集・整理』に含まれている。	

◆A 総括（ふりかえり／第Ⅳ期に向けての改善）

付録

高等教育推進センター刊行物

高等教育推進センターの刊行物は下記 URL からご覧いただけます

東洋大学高等教育推進センターHP>「刊行物」

URL : <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/publications.html>

東洋大学高等教育推進センターニュース

～本学の特色ある FD・SD 活動を取りまとめた定期刊行物～

発行：創刊号～（旧『東洋大学 FD ニュース』創刊号～第 19 号）

URL : <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/fdnews.html>



東洋大学 FD・SD 活動報告書

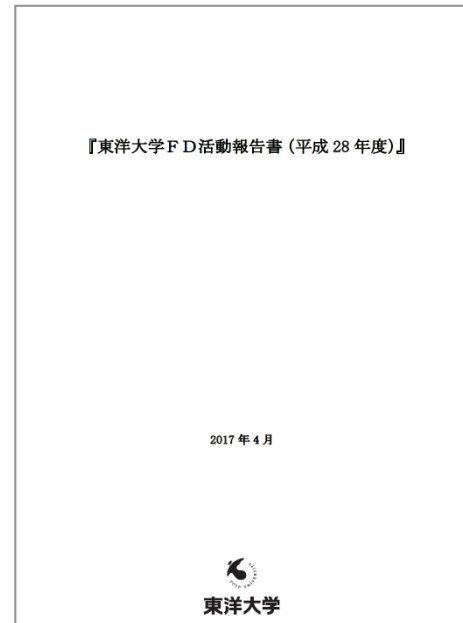
～学部・研究科、高等教育推進センター／委員会の年間の FD 活動を取りまとめた報告書～

発行：2009(平成 21)年度～

URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/fd-report.html>

CONTENTS：

- I. 学部 FD 活動状況報告
- II. 大学院 FD 活動状況報告
- III. 高等教育推進センター活動報告
- IV. 関係資料（規程、刊行物）



TA/SA Handbook

～TA/SA 業務の担当者が教育補助業務を遂行するための手引書～

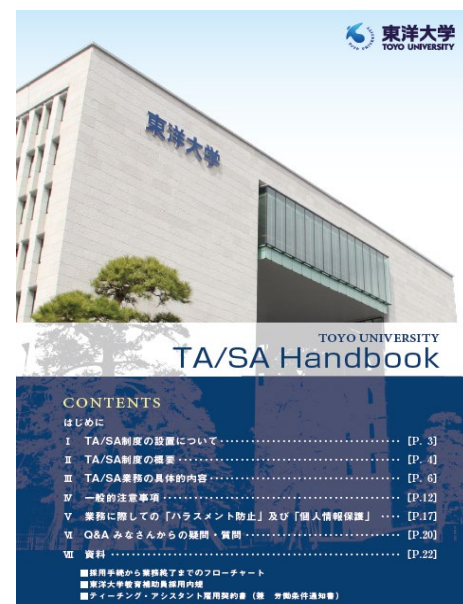
発行：2018 年 4 月 1 日改定

URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/tahb.html>

CONTENTS：

はじめに

- I. TA/SA 制度の設置について
- II. TA/SA 制度の概要
- III. 一般的注意事項
- IV. TA/SA 業務の具体的内容
- V. 業務に際しての「ハラスメント防止」
および「個人情報保護」
- VI. Q & A みなさんからの疑問・質問
- VII. 資料
 - ・採用手続から業務終了までのフローチャート
 - ・東洋大学教育補助員採用内規
 - ・ティーチング・アシスタント雇用契約書(兼労働条件通知書)



FD ハンドブック

～授業運営の基本事項をまとめた手引書～

発行：2011 年 12 月 1 日（第 2 版）

URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/fdhb.html>

CONTENTS：

■基本編

- ・ シラバス
- ・ テキスト、プリント、参考書
- ・ 1 単位の意味
- ・ 様々な授業形態
- ・ 板書や資料、IT の活用
- ・ 質問等への対応
- ・ 授業の秩序を保つために
- ・ TA をどう使う？
- ・ 図書館の活用
- ・ 単位僅少者の把握
- ・ 留学生に配慮した授業運営
- ・ 障がいのある学生への配慮
- ・ 授業評価の意義
- ・ 授業評価アンケートの活用方法
- ・ オフィスアワー
- ・ 教員の健康管理
- ・ ハラスメントとその防止

■実践編 ー授業改善事例シンポジウムからー

■資料編

- ・ FD 関連図書一覧
- ・ FD 用語集
- ・ FD リンク集



GPA リーフレット

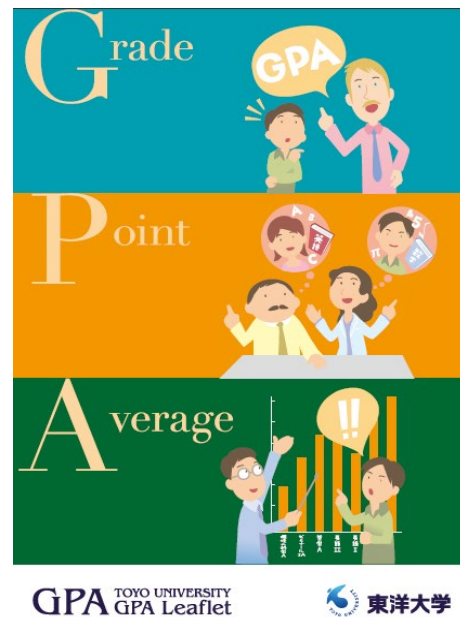
～GPA 制度の導入と活用について～

発行：2013 年

URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/17133.html>

CONTENTS：

- ・ 東洋大学における GPA 制度の導入にあたって
- ・ GPA とは
- ・ 提示方法
- ・ どのように使われる？
- ・ 導入の背景は？
- ・ どんな影響があるのか？
- ・ 教員の成績評価は何が変わる？
- ・ 他大学の取組み



学生 FD チームニュースレター

発行：No.1～No.10

URL：<http://www.toyo.ac.jp/site/fd/49128.html>

CONTENTS：

- ・ 先輩による履修相談会
- ・ 学生 FD サミット 2016 夏 in 札幌大学
- ・ 学生 FD チームの紹介
- ・ 先生インタビュー! in 川越
- ・ 第 4 回東洋授業へのコンクール



東洋大学高等教育推進センター規程

東洋大学高等教育推進センター規程

平成 20 年規程第 39 号

平成 20 年 12 月 17 日

公示

平成 20 年 12 月 1 日

施行

改正 平成 30 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 東洋大学（以下「本学」という。）は、東洋大学学則第 3 条の 3 及び東洋大学大学院学則第 1 条の 3 に基づき、「東洋大学高等教育推進センター」（以下「高等教育推進センター」という。）を設置する。

(目的)

第 2 条 高等教育推進センターは、本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援することを目的とする。

(事業)

第 3 条 高等教育推進センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) F D（ファカルティ・ディベロップメント）及び S D（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

(センター長)

第 4 条 高等教育推進センターに、センター長を置く。

2 センター長は、高等教育推進センターの業務を統括し、高等教育推進センターを代表する。

3 センター長は、学長が指名する副学長とし、理事長が任命する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副学長の在任期間内とする。

(副センター長)

第 5 条 高等教育推進センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき、又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(センター員)

第6条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、センター員を置くことができる。

2 センター員は、学内外の専門的な知識を有する者とし、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

(高等教育推進委員会)

第7条 高等教育推進センターに、高等教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

2 推進委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1) センター長、副センター長

(2) 各学部から推薦された専任教員 各1名

(3) 各研究科から推薦された専任教員 各1名

(4) 教務部長

(5) 教務部事務部長

(6) 高等教育推進支援室長

(7) センター員

(8) 学長が推薦する本学専任教職員 若干名

3 前項第2号、第3号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

第8条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 第3条に掲げる事業に関する重要事項

(2) 学長から諮問された事項

(3) その他高等教育推進センターに関する重要事項

2 推進委員会はセンター長が招集し、その議長となる。

3 推進委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。

4 推進委員会の議決に当たっては、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、センター長が決する。

5 推進委員会は、必要に応じ、委員以外の者（学外者を含む。）を推進委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(部会)

第9条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、部会を置くことができる。

2 部会の部会長は、推進委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。

3 部会の構成員は、推進委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。

4 センター長が部会長と協議し、必要に応じ、推進委員以外の者を部会に加えることができる。

5 その他部会に必要な事項は、別に定める。

(学生F Dチーム)

第10条 センター長のもとに、学生F Dチームを置くことができる。

2 学生F Dチームは、センター長のもとで、F D活動を行う。

3 学生F Dチームは、本学の学部又は研究科に在籍する学生で、F D活動への参加を希望する者のうちから、センター長が任命する。

(細則)

第11条 この規程の実施について必要な事項は、推進委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事務の所管)

第12条 高等教育推進センターの事務は、高等教育推進支援室の所管とする。

(改正)

第13条 この規程の改正は、学長が推進委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成20年12月1日から施行する。

2 この規程施行の際、改正後の第6条第2項第2号、第3号、第4号及び第6号の委員は、現に「東洋大学F D委員会規程」により選出された委員をもって充てる。ただし、任期は、平成21年3月31日までとする。

3 東洋大学 F D委員会規程（平成19年規程第8号）は、廃止する。

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第72号）

この規程は、平成27年4月20日から施行する。

附 則（平成29年規程第126号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規程）

この規程は、平成30年4月1日から施行する

No.	通算（号）	配信日
1	54	2021 年 4 月 27 日(火)
2	55	2021 年 5 月 18 日(火)
3	56	2021 年 6 月 1 日(火)
4	57	2021 年 6 月 22 日(火)
5	58	2021 年 7 月 13 日(火)
6	59	2021 年 7 月 27 日(火)
7	60	2021 年 8 月 25 日(水)
8	61	2021 年 9 月 7 日(火)
9	62	2021 年 9 月 29 日(水)
10	63	2021 年 10 月 26 日(火)
11	64	2021 年 11 月 17 日(水)
12	65	2021 年 11 月 30 日(火)
13	66	2022 年 12 月 21 日(水)
14	67	2022 年 2 月 24 日(木)
15	68	2022 年 3 月 9 日(水)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.1, 通算第54号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2021年4月27日 Vol.4, No.1（通算第54号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※ニュースレターの運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#) ※ToyoNet-ACE

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ5 | 大学運営の今

第7回 2カ月で数年分の想いが叶った（腰山 雅基）

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【5】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今

第7回 2カ月で数年分の想いが叶った

腰山 雅基（就職・キャリア支援課）

100年に一度のチャンス

マイクロソフトCEOのサティア・ナデラ氏は「2カ月で2年分のデジタル変革が起きた」と述べた。当課もこうした急激な変革に巻き込まれながら、スタッフ一丸となって支援に取り組んだ。

まず、2020年3月に、他大学に先駆けて [合同企業説明会をWEBで実施した](#)。学生との接触の場が限られてしまっていた参加企業からは、「いち早く対応していただいて大変助かった」と感謝の言葉が多数寄せられた。また、学生相談もこれまでの対面相談からWEB相談に切り替えた。これまでの対面相談は窓口先着順に受付をしていたが、事前予約のWEB相談に移行したことで、学生は場所を問わず、自身の都合であらかじめ相談スケジュールを確保できることで利便性が高まった。

これまで対面による実施を行っていた各種支援も全てLIVE配信（見逃し配信含む）やオンデマンド配信に切り替えることにより、学生は時間や場所の制約から逃れて自身のペースで支援を受けることができるようになった。また、教員からのイベント実施時間と授業時間との重複による苦情も解消できた（以前から支援行事をアーカイブ化して貸し出してはいたのだが...）。更には、こうした非対面支援により、これまで対面の場に足を運ぶことが苦手だった学生へ支援を届けることができるようになった。

新しい支援のあり方

非対面支援は1・2年生に対しても加速した。課題解決型学内WEBインターンシップでは、マイナビが実施する課題解決プロジェクトにチャレンジした。Google社の、「AIを活用し、あなたに関心のある社会課題の解決策を提案してください」という課題にチャレンジし、応募4チーム中1チームが優秀作品として入選を果たした。

また、オンラインによる非対面支援は、コロナ禍で海外との繋がりを求める学生のニーズを満たした。近年急速な経済発展を遂げ、学生からも関心の高いベトナムでモール事業を展開するイオンベトナム（AEON VIETNAM CO.LTD）に対して、国内3大学（東洋大学・帝京大学・愛知大学）の学生とベトナムのホーチミン市外国語情報技術大学の学生で横断的なチームを結成し、ミーティングを重ね、日本最大規模の商品数を誇るイオンのプライベートブランド商品「トップバリュ」のベトナムにおける拡販プランを考案。イオンベトナムのゼネラルマネージャーに対してプレゼンテーションを行うまでを全てオンラインで行うという [AEONVietnamプロジェクト](#) を実施した。

どちらも物理的接触を行うことがないオンライン完結型であり、当初、慣れない様子で課題に取り組んでいる学生もいたが、最終的にはその状況を踏まえて各自が何をすべきか考えて行動できた。学生は、オンラインの特性を活かした、地理的制限から開放されたネットワーク作りができたこと、将来に向けた目標設定ができたことなどから、「コロナ禍にあなたは何をしていましたか？」と企業の面接で問われた時に、胸を張って答えられる「何か」を掴んだに違いない。

こうした支援形態は、コロナ禍以前であれば提案しても理解されなかっただろう。冒頭で「2カ月で2年分のデジタル変革が起きた」という文言を引用したが、私としては「2カ月で数年分の想いが叶った」というのが正直な感想である。企業の採用やインターンシップの形

態が、対面、非対面のハイブリッド型になっていること、企業のDX推進が本格化していることなど、コロナ禍をきっかけにしたパラダイムシフトが加速化している。2021年4月6日付日本経済新聞（地方経済面）には、新卒採用にDX採用枠を設ける動きが広がっているという記事が掲載されていた。当課も2021年度からDX時代に向けた新しいキャリア支援プログラムをスタートさせる。安易にコロナ禍以前に戻ることのない新しい支援のあり方を考えていきたい。

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD ChannelにてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねてご視聴いただければ大変うれしく思います。視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020



オンラインを生かした
授業をするための3つのポイント
～FD・SDチャンネル開設に寄せて～

Contents

- ・FD・SDチャンネルの紹介
- ・決まりを共有する
- ・メリハリをつける
- ・つながりを深める

村田 奈々子 高等教育推進センター
センター長

●ラインナップ

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試み—エアロビクス指導法—
- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 17【授業運営】演習をとまなう理系科目のオンライン実施例
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク
- 19【学生支援】本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定について（2021/03/23）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00525.html

令和2年度「学術情報基盤実態調査」調査結果公表（2021/03/24）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1418398_00002.htm

■ 設置計画履行状況等調査の結果について（令和2年度）（2021/03/26）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ninka/1413782_00002.htm

■ 大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査結果について（令和2年度）（2021/03/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00539.html

■ 「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について（2021/03/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm

■ 新型コロナウイルス感染症に関する日本人留学生及び外国人留学生等への情報提供及び学生の学修機会の確保について（依頼）（2021/03/31）

https://www.mext.go.jp/content/20210401-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

■ 「教育現場におけるオンライン教育の活用」に関する取りまとめ 公表（2021/04/01）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00541.html

■ 教育再生実行会議「ポストコロナ期の新たな学びの在り方について（第十二次提言）案」の取りまとめに向けた議論（2021/04/06）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20210406.html

■ 「大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ推進委託事業」の公募開始（2021/04/21）

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/000005338_00005.html

■ 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更等について（周知）（2021/04/23）

https://www.mext.go.jp/content/20210423-mxt_kouhou02-000014527_1.pdf

科学技術・学術政策研究所

■ 「科学技術に関する国民意識調査－新技術の社会受容性の決定要因の分析」公表（2021/03/23）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47033>

■ 「ポストドクター等の雇用・進路に関する調査(2018年度実績)」公表（2021/03/26）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46910>

■ 「研究大学における教員の雇用状況に関する調査」公表（2021/03/26）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46913>

■ 「科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2020）」公表（2021/04/09）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47147>

大学入試センター

■ 入学者選抜研究に関する調査室報告書「『センター試験』をふり返る」掲載（2021/03/22）

https://www.dnc.ac.jp/research/nyugakusha_chyosasisu/houkoku.html

■ 「大規模入学者選抜における CBT 活用の可能性について（報告）」公表（2021/03/24）

[リンク](#)

■ 平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目について（2021/03/24）

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html

■ 「独立行政法人大学入試センター研究開発部の活性化について（最終まとめ）」公表（2021/04/08）

<https://www.dnc.ac.jp/news/20210408-02.html>

■ 「運営審議会将来構想ワーキングチーム 議論のまとめ」公表（2021/04/09）

<https://www.dnc.ac.jp/news/20210409-01.html>

日本学生支援機構

■ 「2020（令和2）年度外国人留学生在籍状況調査」等 結果の公表（2021/03/30）

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/jp2021033001.html>

『令和2年度（2020年度）「障害者差別解消法」施行に伴う障害のある学生に関する紛争の防止・解決等事例集』調査結果の概要及び事例の公表（2021/03/31）

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/jp2021033101.html>

日本私立学校振興共済事業団

「令和2年度 私立大学等経常費補助金交付状況の概要」掲載（2021/03/26）

https://www.shigaku.go.jp/s_hojo_r02.htm

「2020年度 大学改革を成功に導く特色ある取組事例集」掲載（2021/03/26）

https://www.shigaku.go.jp/s_hojo_tokusyokujirei2.htm

「学校法人の資産運用状況」（集計結果）更新（2021/03/29）

https://www.shigaku.go.jp/s_center_sisannunnyaannke-to.htm

「私立大学・短期大学教育の現状（令和2年度）」更新（2021/03/31）

https://www.shigaku.go.jp/s_center_kyouikugenjyou.htm

日本私立大学連盟

監事会議「監事監査ガイドライン〔令和2年度版〕」公表（2021/03/23）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3122

「会員法人における「自律性の向上」に向けた取組の進捗状況に関するアンケート」結果公表（2021/03/31）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3133

「理工系分野におけるオンライン教育への取組と課題」とりまとめ（2021/03/31）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3142

「新型コロナウイルス感染症に関わる大学の情報発信」に関する調査結果公表（2021/03/31）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3144

私立大学情報教育協会

機関誌「大学教育と情報」2020年度No.4（特集 コロナ禍のオンライン学生支援）掲載（2021/03/29）

<http://www.juce.jp/LINK/journal/index.html>

首相官邸

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」創設（2021/03/17）

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ai_senryaku/suuri_datascience_ai/index.html

内閣官房

2022年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請を行いました。（2021/03/30）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou_yousei/2022nendosotu/index.html

日本学術会議

声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」公表（2021/04/22）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-s182-1.pdf>

「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」公表（2021/04/22）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-s182-2.pdf>

日本経済団体連合会

「ポスト・コロナを見据えた新たな大学教育と産学連携の推進」公表（2021/04/19）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2021/040.html>

経団連と国公立大学の代表者で構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」において取りまとめられました。

経済同友会

「強靱な経済安全保障の確立に向けて 一地経学の時代に日本が取るべき針路とは－」公表（2021/04/21）

<https://www.doyukai.or.jp/policyproposals/articles/2021/210421a.html>

マイナビ

「企業の雇用施策に関するレポート（2021年版）」を発表（2021/03/30）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_30364.html

「マイナビ・日経 2022年卒大学生就職企業人気ランキング」を発表（2021/04/09）

https://www.mynavi.jp/news/2021/04/post_30461.html

マイナビ進学「2021年 高校生の進路意識と進路選択に関する調査」を実施（2021/04/22）

https://www.mynavi.jp/news/2021/04/post_30651.html

就職みらい研究所

就職活動・採用活動に関する振り返り調査 データ集 公表（2021/03/29）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/white_paper_article/hakusho20210329001/

「大学生の地域間移動に関するレポート2021」公表（2021/03/31）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/20210331002/

「就職白書2021」公表（2021/04/09）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/white_paper_article/20210409001/

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・[「新型コロナと大学」に関するまとめ](#)（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

新年度、はじめてのレターをお届けしました。

高等教育推進センターでは、毎月、高等教育に関する情報を届けるため、本学すべての専任教職員にメールマガジンを配信しています。

下記の読者アンケートにご協力いただけますと、励みになります。
今年度もご愛読のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

-
- みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけましたと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

東洋大学高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.4, No.2, 通算第55号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2021年5月18日 Vol.4, No.2 (通算第55号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※ニュースレターの運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#) ※ToyoNet-ACE

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ5 | 大学運営の今

第8回 コロナ禍のハイブリッド図書館 (永島 淳子)

【2】寄稿 | ハイブリッド (ハイフレックス) 授業雑感 (佐藤 節也)

【3】高等教育推進センターからのお知らせ

【4】高等教育政策動向等

【5】Quick links

【6】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今

第8回 コロナ禍のハイブリッド図書館

永島 淳子 (図書事務課)

今こそ電子、世界中の出版社も支援開始

2020年4月、いつも賑わっているキャンパスが閑散とし、経験したことのない新学期を迎えました。世界中で感染拡大した新型コロナウイルスの影響で、本学も学生の入構が禁止となり、図書館も閉館を余儀なくされました。

その未曾有の状況下でも教育・研究を止めることはできません。図書館に来館できないと、必然的に電子資料の需要が急激に高まりました。元々、本学もデータベース・電子ジャーナル・電子ブックなどの電子資料を契約し、利用提供をしていましたが、中にはあまり利用したことがない方やどんな電子資料があるのか知らない方もいたと思います。そこで、少しでも教育・研究の一助になるように、図書館ホームページ・ガールン掲示板・ToyoNet-ACEで「[閉館中でも自宅から利用可能なデータベースや電子ジャーナル](#)」について随時周知しました。ToyoNet-ACEは2020年4月10日に「[図書館からのお知らせ](#)」コースを開設したところ、1週間で10,000件以上のアクセスがあり、図書館リソースを求める利用者が多くいることを実感しました。

また、今まで各学部・研究科へ冊子体資料の購入希望を募っていましたが、今回初めて [電子ブックの公募もガールン掲示板](#) にて行ったところ、先生方から多くの要望をいただき、購入手続きを進めました。その結果、ある出版社の電子ブックは、2020年度の利用率が前年度に比べると6倍以上になりました。

世界中で学生や研究者が困難な状況に直面している中、各出版社が電子資料コンテンツの無料公開や同時アクセス数の増加対応を開始しました。例えば、新聞データベースは従来有償でガイダンス期間に合わせて同時アクセス数の増加を実施していましたが、昨年は無償対応の期間があり、有償期間も併せると1年を通して、長期間の同時アクセス数増加サービスを提供することができました。また、契約上学外からのアクセスができないデータベース等も特例として学外利用のID・パスワードを発行、冊子体のみ購入している洋雑誌のオンライン版での提供、購入していない電子ブック・電子ジャーナルの期間限定無償利用など、各出版社から有難い支援情報が寄せられました。世界中の出版社が一丸となった取り組みだったと思います。

やはり紙の資料も必要

電子資料の需要が高まっている一方で、図書館に所蔵されている紙の冊子体資料を利用したいという要望が増えてきました。その理由は、まだ海外に比べて国内刊行物は電子化されていない資料が多く、学問分野によっては冊子体資料が必要なためです。そこで、2020年4月下旬からオンライン授業も開始されたことに伴い、段階的に5月上旬より教員対象に週2日、6月中旬より大学院生・卒論履修生・教職員対象に週5日、7月上旬より大学院生・学部生(通信生含む)・教職員対象に週5日の開館を実施しました。感染拡大防止のため、開館時間を短縮し、閲覧席もテープを貼って座れる席を限定するなどの館内利用体制を整備しました。学生はGoogleフォームを利用した [入館予約システム](#) で事前予約を行う対応を取りましたが、週を追う毎に利用者が増え、図書館の必要性を改めて感じました。

5月中旬より [大学院生・卒論履修生への資料郵送サービス](#) も開始しました。従来も通信生には実施していましたが、対象者を広げたのは今回が初めてです。博士論文、修士論文、卒業論文の作成に必要な本学図書館所蔵の貸出資料と文献複写資料の郵送サービスについて周知

したところ、はじめの週は100件以上の受付がありました。受付件数が増えていく中で苦慮したことは、段ボール箱と緩衝材の調達です。社会全体で外に出ることを制限されている中、宅配の需要が高まり、段ボール箱・緩衝材の品薄の状態が発生していました。納品された書籍の段ボール箱や廃棄する予定の段ボール箱を清掃の方から分けてもらい、なんとか対応することができました。その苦労の中で、学生から「このような状況にもかかわらず対応してくださりありがとうございます」という感謝の一言が図書館勤務者にとって励みになったと思います。

コロナが終わっても図書館の改革は続く

コロナ禍の影響により、例年実施していた図書館ツアーや授業別ガイダンスの代わりに、[ガイダンス動画](#)の作成にも取り組みました。ガイダンス動画はいつでも視聴できることから、先生方のPC教室予約も不要となり、学生も必要な時に繰り返し確認することができるといふ利点があり、コロナ後も続けていきたいと思っています。長時間の動画ではなく、項目別に作成しているので、必要な動画のみの視聴も可能です。また、先生方の要望を取り入れ、授業に合わせた動画作成も随時対応し、動画コンテンツを増やしていく予定です。

コロナが終息しても元に戻ることはなく、教育・研究環境は変化し続け、図書館も求められることが従来とは異なってくると思います。すでにオンライン授業の普及により学生は自身のパソコンを持って図書館へ来館するため、学習PC室よりWifiや電源のあるエリアの需要が高くなっています。また、2021年3月末～4月には小・中学生にパソコンまたはタブレットなどのデジタル機器が1人1台配布されました。これからの学生はデジタル環境があることは当然のことで、情報量もさらに多くなります。その中で、図書館は利用者のニーズを取り入れ、媒体の異なる複雑化した情報をどのように蓄積・保存し提供すべきなのか、利用者にとってどのような環境を整備すべきなのか、常に考え、変革していく必要があると考えています。そして、あの頃は大変だった、でもあの経験をしたから今があると言える日が来ることを切に願っています。

【2】寄稿 | ハイブリッド（ハイフレックス）授業雑感

佐藤 節也（高等教育研究部会 部会員・国際学部グローバル・イノベーション学科 教授）

著者は国際学部グローバル・イノベーション学科の教員として教壇に立っているが、コロナ禍で昨年1年間はほとんどZoomを用いたオンライン授業に終始した。新年度からは大学の方針で対面・非対面を隔週で行うこととなったが、履修生のかなりの割合（科目によっては3分の1ないし半数）が海外に在住したままである。海外もインドネシア、タイ、ベトナム、モンゴル、フィリピン、ミャンマー、ロシア、フランス、ドイツ、ブルガリアなど広く分散している。こうした状況でいかに効率良く授業を行うか、特にいかに海外（ないし国内）からオンラインで受講する学生にとって不利にならないような授業形態を設計するかが多くの教員に共通して問われている課題であると思う。

一つの方策として、学生間の意見交換を活発化するため、著者は対面・非対面を問わず授業は全回Zoomを用いたハイフレックス講義で行うこととし、講義ノートは授業後にToyoNet-ACEにアップして受講生の復習に充てさせる一方、講座に関する諸連絡や学生とのコミュニケーション、課題提出・採点・フィードバック、学生のグループワーク作業やプレゼン資料のアップは全てToyoNet-ACEを通じて行わせることとした。そして、その方針をシラバスに明記するとともにToyoNet-ACE上にも掲示しつつ初回講義で周知した。

実際にハイブリッド（ハイフレックス）授業を開始してみると、オンライン受講生の声がスピーカーから教室に流れなかったりする小さなトラブルは当初あったものの、[ICTサポートデスク](#)の助けも借りて技術的な問題は全て解決できており、今のところ双方向の授業を進めるうえで何ら支障は感じていない。学生からの苦情や不満も幸いにして出ていない。情報システム課の方々の努力とサポートを多としたい。

1年間のZoom授業を経験したことは、新たな授業の流れを作り上げるうえで相当学習効果があったように思う。著者個人の例をあげると、ToyoNet-ACEないしResponで出席登録させ、その後は画面共有でスライドを用いながら講義し、必要に応じて動画を見せたり、投票させたり、ブレイクアウト・セッションを行ってグループ発表させたり、チャットに質問を書き込ませたりしている。いずれも多くの先生方が既に大なり小なり行っておられることで特筆に値するものはないため詳細は割愛するが、Zoomに追加される新しい機能を使ってみるのも楽しみの一つになった。

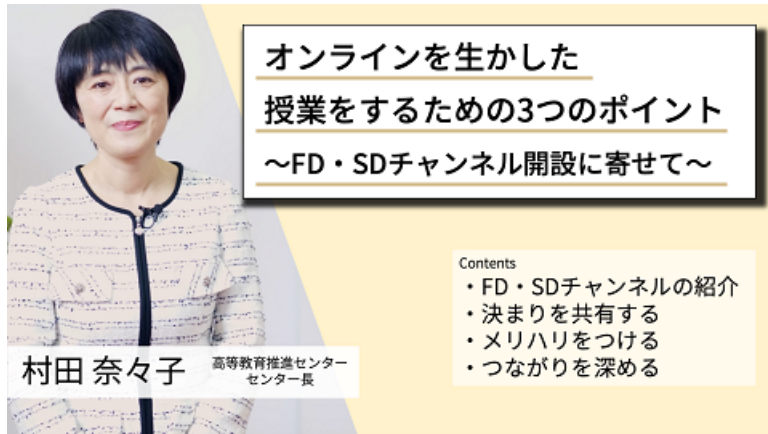
重要なことは、冒頭に記したように「いかに海外（ないし国内）からオンラインで受講する学生にとって不利にならないような授業形態を設計するか」であり、受講生に画面が見えているか、動画の音声がかかっているか、学生がチャットに書き込んだ質問に見落としがないかを逐次確認しながら授業を進めることに尽きるように思う。学生も1年間のオンライン授業の経験から色々学んでおり、ハイブリッド授業そのものに関する戸惑いは教員側・学生側ともかなり減っているように感じる。Googleは週3日はオフィス勤務とし、それ以外の日は在宅勤務を認める方針と伝えられるが、大学教育においてもいずれハイブリッド授業が“New Normal”として定着するのではないだろうか。[ミネソタ大学](#) 創立者のベン・ネルソンは「われわれが問わねばならないのは“どうすれば教室でやっていたことをオンラインでできるか”ではない。“どうすれば教室でできないことを、オンラインでできるか”だ。オンライン教育が本来のインパクトを持つには、このアプローチが必要だ。」と語っているが、至言である。

ちなみに著者の担当するNew Perspectives on Globalizationという科目には145名の学生が履修登録しており、初めてのライブ授業を先日行ったが、300名収容の講義室に110名もの学生が出席し、30名がオンライン受講であった。講義後に学生から割れんばかりの拍手を受けたが、これはハイブリッド講義を何とか終えたことへの安心感からか、はたまた学生同士が久しぶりに（あるいは初めて）会う機会を作ったことへの感謝からだったのか、未だ判然としない。十分に広いスペースの教室ではあったが、学生は固まって座る傾向があるので、教壇から見ると十分なソーシャル・ディスタンスを確保しているとは正直言い難い。多くの学生と教室で会えて嬉しい反面、変異株感染を防げるのか、密な状態に全く恐怖感を感じないと言えば嘘になる。サテライト教室の併用や巡回など、ライブ授業における十分なソーシャル・ディスタンス確保にはなお工夫の余地がありそうである。

【3】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD ChannelにてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、
「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。
お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。
視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020



●ラインナップ

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 17【授業運営】演習をともなう理系科目のオンライン実施例
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク
- 19【学生支援】本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【4】高等教育政策動向等

文部科学省

ジョブ型研究インターンシップ（先行的・試行的取組）実施方針（ガイドライン）（案）公表（2021/05/06）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/109/toushin/1386864_00001.htm

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更及び大学等における同感染症への対応に関する留意事項等について（2021/05/07）

https://www.mext.go.jp/content/20210510-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

文部科学大臣メッセージ「不安や悩みを抱える全国の児童生徒や学生等のみなさんへ」発表（2021/05/10）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/mext_01406.html

学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ & A等の送付について（令和3年5月14日時点）（2021/05/14）

科学技術・学術政策研究所

第11回科学技術予測調査 所属・年代別の比較分析公表（2021/04/28）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47223>

コロナ禍を経た科学技術の未来－第11回科学技術予測調査フォローアップ－公表（2021/04/28）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47233>

日本学生支援機構

令和2年度 障害のある学生への修学支援における学生本人による効果評価に関する調査研究（プロジェクト研究）の成果報告 公表（2021/04/28）

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/project/2020project_top.html

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議 第2回 世界と伍する研究大学専門調査会 開催（2021/04/16）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/2kai/2kai.html>

第1回大学ファンド資金運用ワーキンググループ 開催（2021/04/26）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/wg1kai/wg1kai.html>

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合 開催（2021/05/13）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210513.html> 「新たな社会に向けた教育・人材育成について」や「STEAM教育による探究力育成の強化と社会全体の人的資本の高度化」について議論がなされました。

第6回経済財政諮問会議 開催（2021/05/14）

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2021/0514/agenda.html>

文教・科学技術分野における経済・財政一体改革の当面の重点課題等について議論がなされました。

経済産業省

大学発ベンチャー実態等調査 取りまとめ（2021/05/17）

<https://www.meti.go.jp/press/2021/05/20210517004/20210517004.html>

厚生労働省

青少年雇用対策基本方針 策定（2021/03/29）

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000184815_00012.html

厚生労働省では、青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づき、「青少年雇用対策基本方針」が策定されており、令和3年度～7年度の5か年を運営期間とする新たな基本方針が策定・公表されました。

日本私立大学連盟

新型コロナウイルス感染症にかかる私大連の要望等一覧（2021/04/27）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2869

新型コロナウイルスに伴う科学研究費助成事業 補助事業期間再延長の要望（2021/04/27）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3209

新型コロナウイルス感染症に伴う授業及び感染防止策に関する要望（2021/05/06）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3210

経済同友会

公立小中学校における「脱・画一化」教育のための「創造的環境」の実現 ～ICTを活用した業務構造改革を後押しする人材・ガバナンスによる教育長・校長支援～ 公表（2021/05/07）

マイナビ

「マイナビ 2022年卒大学生就職意識調査」発表（2021/04/26）

https://www.mynavi.jp/news/2021/04/post_30715.html

「2021年 大学生のアルバイト実態調査」発表（2021/04/28）

https://www.mynavi.jp/news/2021/04/post_30724.html

「2022年卒 大学生Uターン・地元就職に関する調査」発表（2021/05/11）

https://www.mynavi.jp/news/2021/05/post_30796.html

就職みらい研究所

2020年入学大学1年生対象調査 - 2020年入学大学1年生の学生生活等について - 公表（2021/05/07）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/research20210507002/

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【5】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【6】 あとがき

図書事務課からのご寄稿にもありましたが、GIGAスクール構想が加速的に進んでいます。
地方で小学校の教員をしている人が身近にいますが、
児童・教員に一人一台ずつiPadが配布されたそうです。
当人は機械に強くないので、「使えているのかな？」と勝手に心配していましたが、
「普通に"使っているよ"」とのこと。デジタル教科書も使っているとか。
この前も、iPad片手に、児童の宿題を確認していました。

-
- みなさまの声をお寄せください
[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

-
- このメールは本学教職員にお届けしています。

- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.3, 通算第56号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2021年6月1日 Vol.4, No.3（通算第56号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※ニュースレターの運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#) ※ToyoNet-ACE

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第9回 板倉キャンパスにおけるコロナ対応（田中 秀樹）
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】Quick links
- 【5】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第9回 板倉キャンパスにおけるコロナ対応
田中 秀樹（板倉事務部板倉事務課）

コロナ禍における板倉キャンパスの対応

板倉キャンパスには、理系の生命科学部、食環境科学部の2学部、生命科学研究科、食環境科学研究科の2研究科があります。理系では、実験や実習をもとに研究活動を進めていく関係で、非対面や入構規制の対応がとて難しいキャンパスです。どのように安全対策を講じていくか、改善していくかなどを、教員、職員で意見を出し合いながら課題と向き合った1年となりました。

実験・実習科目の非対面授業等の対応

昨年の春学期においては全面非対面授業実施が決まりましたが、一番の課題となったのは実験・実習の科目でした。実験科目は本来、機器を実際に使うことで安全な操作方法を習得、化学反応等による事故防止の訓練や、安全教育の場として重要な位置づけという意味もあるため、非対面での実験において何が出来るかを実験担当の先生方間で検討してもらいました。結果、先生やTAにより実験手順を撮影したものを配信し完全非対面で実施したもの、開講時期を学期の後半から学生夏季休暇を利用して行ったもの、正規の授業回数に加えて、不安な学生に対して授業期間外に補講を数回対面で実施したものなど、将来、安全な実験ができるよう様々な形で授業を実施することになりました。

秋学期については、実験や実習は原則対面で行うこととなりましたので、どのようにして密をさけるかなどが課題となりました。従前のやり方ですと、1つの実験台で何人も学生が向き合った作業となってしまうので、そこで、大学でフェイスシールドを用意し、全員に配付し着用を義務付けました。加えて、グループ編成を見直ししてもらい、密を避けるために実験台で作業する人数が減らすことに。また、学生が実験機器に集まる時間をできる限り短くできるようにと、普段であれば、学生自身が行う実験の準備作業をTA/SAにしてもらい、実験室に入ると直ちに実験を開始できるようにするなどの工夫も行いました。加えて、非対面受講希望者への対応の一例では実験キットを送付して、自宅で実験と一緒にしてもらったというケースもありました。このように、先生方の様々な工夫により学生へのフォローがなされました。今年度は、特に2年生は実験機器の取り扱いなどが、不慣れなことが想定されましたので、一部の実験科目では担当教員を増やし、一人ひとりに目が届きやすく、よりきめ細かく指導できるようにしたいという、学科からの声もあり、現在も調整しています。

他にも、管理栄養士養成の健康栄養学科においては、臨地実習という学外の現場での実習活動があります。コロナ禍においては、実習生の抗体検査や物品の貸し出しなどキャンパス入構の制限下において対面での対応が難しかったため、郵送での受け渡し対応も行いました。

実際の実習先は、給食施設だけでなく、保健所や病院など、まさに、コロナ禍の影響を大きく受けたところもあり、例年のようなスケジュールで受け入れていただけないところも多く、実施時期が大幅に後ろ倒しになる施設や、実習そのものが中止となる施設もありました。中止となった実習は、厚生労働省からの通達に基づき、学内での実習に切り替えて完了するなど、綱渡りのようなギリギリの対応でした。今年度の臨地実習も緊急事態宣言により一部の施設から実習受入れの延期などの連絡が入り、昨年同様の対応を行っています。

大学院生、学部4年生の研究活動

授業の対応と並行して課題となったのは、大学院生、学部4年生への対応でした。冒頭にも書きましたが、理系の研究活動はどうしても実験を主体としなければなりません、緊急事態宣言下、キャンパスへの入構が禁止された中で、大学院生や学部4年生に学内での研究活動をさせるわけにもいきませんでした。

研究活動ができないため、実験で使う動物や植物を廃棄するということも考えられましたが、一度廃棄してしまうと、場合によっては実験用に成長するのに数か月かかってしまうものもあります。そのため、入構再開後、直ちに研究が再開できるように動物の餌やり、植物の水やりなどの研究環境の維持に限り、公共交通機関を利用せずに登校できる大学院生、学生に限定し緊急的に入構を認め、終了後は直ちに退構させるといった日々が続きました。次第に、大学院生、学生から研究の再開希望の声も届き始めました。それに加えて、学部・研究科においても1日でも早く再開させてあげたいという先生方の思いから、全学での調整を図り、5月25日の緊急事態宣言解除後、喫緊に研究再開の必要がある博士後期課程の全大学院生と前期課程2年生から研究を再開しました。その後、2週間ごとに、実験再開の対象範囲を拡げ、学部の卒研生の研究が再開できたのは6月の下旬でした。

キャンパス入構に当たっては、当初、各部屋の中での同時滞在人数を2名までと制限したうえで、入退構の時間、当日の体温、実験室等の滞在時間および一定時間以上同室に滞在していた人の名前を登録させ、不測の事態に備えました。その後、感染状況を踏まえ、少しずつですが、同時滞在人数を緩和していき、各研究室で先生方の管理の下、大学院生、学生の実験スケジュールを調整しながら研究を進めてもらいました。大学院生、学部生もこのような大きな制限下、例年よりも研究に費やす時間が短いながらも、各先生方の指導のおかげにより、なんとか研究成果をまとめることができ、博士論文公聴会・修士論文、卒業論文発表会に繋げることができました。

対面授業実施に伴う学生食堂の対応

施設面での対応についても、秋学期からの一部授業の対面化による学生の入構に向けて行っていました。その中で一番問題になったのが、食事環境となる学生食堂の対策でした。

キャンパス周辺にコンビニなどの店舗や飲食店がありませんので、キャンパス内において安全に昼食をとれる環境を用意する必要がありました。

講義はマスク着用、実験・実習はそれに加えてフェイスシールドを着用させましたが、食事中はどうしてもマスクを外してしまいます。かといって、学生食堂で昼食をとらせないということではできません。そこで、座席を一つ置きに、加えて向かい合わないよう、一方向に向かってしか利用できないようにしました。そのため、着席可能座席数が大幅に減ってしまいましたが、この座席数不足を解消するための対策として、2つの大教室を原則授業で使用せず、昼食で利用できるように開放しましたが、結果的には、想定よりも学生がキャンパス内に滞在する時間が短かったこともあり、学生食堂においては混雑することはありませんでした。

今年度に入ってから、ほとんどを対面授業にしたことに伴い、利用者数も大きく増加しました。そのため、より多くの座席数を確保するため、アクリル板を設置し、向かい合った利用ができるようにしました。また、利用者が増えたことにより当初、食堂業者による配膳に時間がかかっていたという問題点がありましたが、食堂業者と曜時限毎の履修者数の共有や、食事提供方法の改善など細かく打ち合わせをした結果、現在では、混雑が解消に向かってきています。

就職相談、学生相談などの支援

そのほかにも、如何に非対面で就職相談や学生相談などの学生支援を継続していくかも課題となりました。

白山など、他のキャンパスで先行して、Web化を進めていましたので、そこからノウハウや資料を共有してもらい、非対面による支援を進めました。

想定外だったのが、相談員が利用しているPC用のWebカメラがなかったこと、身分によって、学内Wi-FiやWebexの利用権限がないなど、下準備が意外にありましたが、それぞれすぐに対応いただき、始めることができました。

秋学期以降対面の相談を再開したあとも、非対面での相談を希望する学生もあり、そのような学生にとっては相談のためだけにキャンパスに来なくてもよくなり、時間的な制約が軽減されました。交通の便の悪いキャンパスにおいては、利便性が向上したことは間違いありません。

これからのキャンパス運営

板倉キャンパスは、他キャンパスに比較し、学生一人当たりの校舎面積に余裕があることから、学生の入構においてもできる限りの制限をなくしています。

昨年の閑散としたキャンパスから一転、マスク姿ではありますが、以前のような活気が戻りつつあります。しかし、その反面、学生同士の接触の機会も増え、感染のリスクも高くなります。

少しでも安全にかつ安心してキャンパスライフを過ごせるように、注意をしたり、掲示つくったりなど、利用状況を見ながら日々、微調整や改善策の検討など対応しています。

なかなか、終息が見込めず、一進一退といった感じではありますが、これまでの経験から学んだこと、対応したことをそれぞれ財産として有効活用し、これからの新たなキャンパス運営、学生支援などに繋げていきたいと思っています。

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD Channel にてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、
「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。
お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。
視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020



● ラインナップ

授業運営関連

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 17【授業運営】演習をともなう理系科目のオンライン実施例
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes

学生支援関連

- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 19【学生支援】本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）

ICT活用関連

- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（4月1日現在）」公表（2021/05/18）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/11/1422624_00007.htm

「ジョブ型研究インターンシップ（先行的・試行的取組）実施方針（ガイドライン）」公表（2021/05/21）

https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1421136_00002.htm

あわせて、「ジョブ型研究インターンシップ（先行的・試行的取組）当面の対応について」が策定・公表されました。

国立大学法人法の一部を改正する法律 成立（2021/05/24）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/detail/mext_00019.html

概要

1. 中期計画の記載事項の追加並びに年度計画及び年度評価の廃止
 2. 国立大学法人等の組織体制の見直し
 3. 国立大学法人等による出資の範囲の拡大
 4. 国立大学法人の統廃合
- 上記の4.を除いて、2022年4月1日に施行されます。

新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果公表（令和3年5月25日）（2021/05/25）

https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

令和2年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業の成果報告書 公表（2021/05/26）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sankou/1409999_00001.htm

国際研究交流の概況（令和元年度） 公表（2021/05/27）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryu/1409550_00005.html

著作権法の一部を改正する法律 成立（2021/05/28）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/detail/mext_00020.html

概要

1. 図書館関係の権利制限規定の見直し
 - ①国立国会図書館による絶版等資料のインターネット送信
 - ②各図書館等による図書館資料のメール送信等
 2. 放送番組のインターネット同時配信等に係る権利処理の円滑化
1. については、これから文化庁により施行に向けた準備がなされます。
2. については、2022年4月1日に施行されます。

「令和2年度ものづくり基盤技術の振興施策（ものづくり白書）」公表（2021/05/28）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2021/1417842_00004.htm

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更等について（周知）（2021/05/28）

https://www.mext.go.jp/content/20210531-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

令和3（2021）年版「諸外国の教育統計」（2021/05/31）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074_00010.htm

我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第2期ESD国内実施計画）策定（2021/05/31）

https://www.mext.go.jp/unesco/001/2018/1407955_00010.htm

科学技術・学術政策研究所

「欧州レベルの科学技術・高等教育政策 ～現状と成立過程～」公表（2021/05/20）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47344>

内閣府

第1回日本学術会議の在り方に関する政策討議 開催（2021/05/20）

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210520_1.html

第3回世界と伍する研究大学専門調査会 開催（2021/05/21）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/3kai/3kai.html>

第2回大学ファンド資金運用ワーキンググループ（2021/05/26）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/wg2kai/wg2kai.html>

首相官邸

第7回データ戦略タスクフォース開催（2021/05/26）

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/dgov/data_strategy_tf/dai7/gijisidai.html
教育プラットフォームの検討の方向性が示されています。

日本学生支援機構

日本語教育センター日本語到達目標（2021/05/25）

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/jlec/ojlec/research/jlec_standard.html

日本の大学・大学院等への進学を目指す日本学生支援機構日本語教育センターの学生及び教員が、それぞれ学習目標、指導目標として参照するためのガイドラインです。

大学基準協会

2022年度大学評価及び短期大学認証評価の概要等（資料の公開）（2021/05/27）

https://www.juaa.or.jp/news/detail_741.html

あわせて、2020年度に評価を受けた3つの大学及び短期大学による事例報告の資料及び動画も公開されています。

「2021年度認証評価等申請一覧」の公表について（2021/05/29）

https://www.juaa.or.jp/news/detail_747.html

2021年度は、本学の他、48大学が大学基準協会による認証評価（大学評価）を受審します。

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

この春東洋大学を卒業した学部生を対象に、卒業時アンケートが実施されました。

学部・学科別の集計結果表がガルーンファイル管理にて公開されています。

2014年度から2020年度までの結果を比較してご確認いただけますので、ぜひご確認ください。

卒業時アンケート

2020年度結果：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=4184&sort=ftu&sp=0>

2014～2020年度結果比較：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=4185&sort=ftu&sp=0>

- みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.4, 通算第57号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年6月22日 Vol.4, No.4（通算第57号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#) ※ToyoNet-ACE
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】（新連載）シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第1回 学生の自覚と教育の質保証（村田 奈々子）
- 【2】 高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】 高等教育政策動向等
- 【4】 Quick links
- 【5】 あとがき

【1】（新連載）シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第1回 学生の自覚と教育の質保証 村田 奈々子（高等教育推進センター長/文学部史学科）

アメリカの大学教育

「その苦労は、きっといつか『甘く懐かしい思い出』になる」

ニューヨークのケネディ国際空港で、偶然出会った初老のアメリカ人女性とおしゃべりをした時のことである。私はアメリカの大学院の博士課程に在学中で、夏休みで日本に帰国する便を待っていた。大学院での日々の勉強に精根尽き果てていた私は、いつのまにか彼女に愚痴っていたのだろう。すると彼女はこんな風にさりげんと言ったのけたのである。この人はただのおざなりを言って私を慰めようとしているのだろう。その時の私は、その程度にしか思わなかった。

彼女が言ったことはその通りになった。あのときの大学院の学びは、今の私にとってはSweet Memoriesである。あのころの私はとても濃密で充実した日々を送っていた。私にとっては最高の勉学環境だったとしみじみ思っている。

アメリカの大学院、とくに私の専門である歴史学のような人文社会系の大学院では、膨大なテキストを相手にしなくてはならない。毎週1,000ページをゆうに超える英文を読み、複数のレポートを書く生活は本当にしんどかった。ニューヨークのセントラル・パークで昼のあいだ観光客を乗せる馬車が、真夜中の2時を過ぎると厩舎に帰ってゆく。その蹄の音に、今日もけっきょく課題がおわらず、こんな時間になってしまった、と絶望したことが何度あったことか。疲れ果てて眠りにつく時は、ふとレポートのアイディアが浮かぶことを願って、枕元にいつもメモ帳と鉛筆を置いて寝た。大学の教室では、討論で自分の思うことがうまく英語にならず、落ち込むことの連続だった。自分が報告を担当する日は、朝から緊張して吐きそうだった。食事と睡眠以外は机に向かうか24時間開館の図書館で調べものをする。そんな生活が数年続いた。

そんな大学院の教育が、どうして最高の勉学環境なのだと、訝しむ人がいることだろう。常軌を逸した大量の知識の詰め込みで、アメリカ人学生でも課題をこなすのは容易ではない。とうてい潤いのある生活とはいえず、心身のバランスを崩して脱落していく者も多かった。

それでも、あのころ私が獲得した知識は現在も自分の研究に確かな手ごたえを与えてくれることを実感する。学ぶということは生半可なことではない。学問にたずさわるには、いかに強い覚悟が必要であるか。そのことを肌で感じたアメリカでの生活だった。当時はやみくもに呑みこんだ知識が、数十年後の今はとつとつするような発見につながったりして、私の研究にひとつの方向を示してくれている。本当にありがたいことだと思う。

学生の自覚

今日の日本の大学の問題にもだろう。多くの学生たちは研究の世界には無縁なままに大学生活を送る。そんな学生たちに、私がアメリカの大学院で経験したような教育を施そうとは思わない。教育の質を保証するには、アメリカの大学のような大量の課題を与えればよい、などと言うつもりもない。しかしながら、学ぶことは容易なことではないということを、学生たちが理解する場があってもよいと思う。学生たちが学ぶことの困難を自覚し、しっかりと覚悟を持つことが、ひるがえって彼らが質の高い教育を享受する一歩になる。そう私は信じて

いる。覚悟を持って主体的に学修できた学生は、社会に出たあと、自分がよい教育を受けたことを実感するはずである。そのような学生であれば、大学で得た知識を実生活の様々な場面に応用して、充実した人生を送ることができることだろう。

学生の自覚を強調するのにはわけがある。大学における教育は、教員が学生に対し一方的に知識を伝達することではない。教員と学生とは大学において対等の立場に立つ。知識のやりとりには双方向性が担保されていなければならない。教員と学生とが議論を重ねていく過程で、課題の性質を見きわめ、対象を多角的に解釈し、新たな創造や発見につなげてゆく。それが大学教育の理想的なありかたである。それが実現されるためには、知識量がまだ足りていない学生に、まずは知識の習得に真剣に取り組んでほしい。教員に負けない知識を獲得し、教員に議論を挑むくらいの覚悟と気概が欲しい。教員が与える「こたえ」が唯一絶対だと思い込み、それをただ待っている受け身の姿勢では何も身につかない。解のない問いに、教員と学生がともに主体的に取り組むのが、大学本来のすがたであり、その存在意義であることを、いま一度私たちは思い出しおく必要があるだろう。

学生の自覚を支える教職員の支援

教育の質の保証を論ずるにあたって学生の自覚を求める——それは教員の怠慢ではないか。そんな声も聞こえてきそうである。たしかに教職員の側には努力が求められる。学生が学修に取りくみやすいよう、大学内の態勢を整えることは必須である。現在進められている教育のDX（デジタル・トランスフォーメーション）も、そのための手段のひとつである。DXの一環である学生情報のデータ統合などが、どういう形で教育の質を高めることができるか。今後も教職員の創意工夫が求められる。

とはいえ「学修者本位の教育活動の実現」を目指す本学において、主役はあくまで学生である。繰り返しになるが、学修者としての学生の自覚を促すこと——それが教育の質を向上させる最初の一步である。そのために教職員は何をすべきか。そうした観点から、本学の教育の質保証の制度設計は考えられなくてはならない。

あらゆる制度は理念をかたちにするためにある。かたちばかりが先行して心がこもっていなければ意味がない。大学の理念とは何であったか。私たちは何度でもそこに立ち戻ってみる必要がある。

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD Channel にてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、

「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。

お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

オンラインを生かした
授業をするための3つのポイント
～FD・SDチャンネル開設に寄せて～

Contents

- ・FD・SDチャンネルの紹介
- ・決まりを共有する
- ・メリハリをつける
- ・つながりを深める

村田 奈々子 高等教育推進センター
センター長

●ラインナップ

授業運営関連

00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～

01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について

02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権

15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント

16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～

03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫

04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール

17【授業運営】演習をともなう理系科目のオンライン実施例

13【授業運営】スポーツ系実習科目での試み—エアロビクス指導法—

12【授業運営】英語による授業運営のポイント

09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps

10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes

学生支援関連

- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 19【学生支援】大学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】大学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向

- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）

ICT活用関連

- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

2021年度入試におけるオンライン入試の実施状況に関する調査（2021/05/24）

https://www.mext.go.jp/content/20210521-mxt_daigakuc02-000015074_3.pdf

大学入試のあり方に関する検討会議（第26回）にて公表されました。

（参考）between情報サイト「2割近い大学が総合型、学校推薦型でオンライン入試－文科省調査」

<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2021/05/on-line.html>

「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた2020年度卒業予定者等の就職・採用活動への配慮について（要請）」掲載（2021/06/01）

https://www.mext.go.jp/content/20200601-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

『科学技術・イノベーション白書』掲載（2021/06/08）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kagaku.htm

令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラムの開発・実施）」の採択結果（2021/06/11）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2021/mext_00617.html

「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日中央教育審議会大学分科会）事例紹介公表（2021/06/11）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html

「大学拠点接種（新型コロナウイルス感染症に関連した大学等におけるワクチン接種）について」掲載（2021/06/16）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_01530.html

「日本人学生の海外留学について（周知）」掲載（2021/06/15）

https://www.mext.go.jp/content/20210616-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

「海外留学を予定する学生等への新型コロナワクチン接種について（依頼）」掲載（2021/06/15）

https://www.mext.go.jp/content/20210616-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

ワクチン接種が留学先から求められている今秋留学予定の皆さんへ（2021/06/16）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_01534.html

「令和2年度地方教育費調査（令和元会計年度）中間報告」公表（2021/06/16）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/005/1418002_00004.htm

「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更等について（周知）」掲載（2021/06/18）

https://www.mext.go.jp/content/20210618-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

科学技術・学術政策研究所

「民間企業の研究活動に関する調査報告2020」公表（2021/06/16）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47476>

大学入試センター

「令和4年度大学入学共通テスト実施要項」公表（2021/06/11）

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r4.html

「令和5年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び大学入学共通テスト問題作成方針」公表（2021/06/11）

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r5.html

首相官邸

教育再生実行会議「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について（第十二次提言）」公表（2021/06/03）

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaiei/teigen.html>

（参考）教育再生実行会議において第十二次提言「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」が鎌田座長から菅総理に手交されました（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20210603.html

内閣府

「選択する未来2.0 報告」公表（2021/06/04）

<https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/future2/index.html>

内閣府

第4回世界と伍する研究大学専門調査会 開催（2021/06/08）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/4kai/4kai.html>

「経済財政運営と改革の基本方針2021」閣議決定（2021/06/18）

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2021/decision0618.html>

「統合イノベーション戦略2021」閣議決定（2021/06/18）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/2021.html>

内閣官房

「成長戦略」閣議決定（2021/06/18）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/seicho/index.html>

まち・ひと・しごと創生本部

「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」閣議決定（2021/06/18）

<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/index.html#an20>

全国大学生生活協同組合連合会

「第11回全国院生生活実態調査」公表（2021/06/15）

https://www.univcoop.or.jp/news_2/news_detail_1891.html

リクルート進学総研

「高校教育改革に関する調査 ICT活用編」公表（2021/06/07）

<http://souken.shingakunet.com/research/2019/02/post-9b3b.html>

「高校教育改革に関する調査 進路指導編」公表（2021/06/15）

<http://souken.shingakunet.com/research/2019/02/post-9b3b.html#0615>

THE

「Asia University Rankings 2021」発表（2021/06/02）

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2021/regional-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats

本学は、401+にランクインしました。

QS

「QS World University Rankings 2022」発表（2021/06/09）

<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2022>

（参考）2022年版QS世界大学ランキング発表(QS World University Rankings 2022)（株式会社KEIアドバンス）

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000008.000051856.html?form=MY01SV&OCID=MY01SV>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

6月18日、臨時閣議が開催され、「経済財政運営と改革の基本方針 2021」
「成長戦略実行計画・成長戦略フォローアップ」「規制改革実施計画」
「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」が閣議決定されました。

その中の「経済財政運営と改革の基本方針」は、
2022年度政府予算の重点項目を決めるものとされています。
高等教育に関する項目として、下記のようなキーワードが盛り込まれていました。

- ・数理・データサイエンス・AI教育の充実
- ・東京圏の大学の地方サテライトキャンパスの設置
- ・大学の学部段階における文理融合教育
- ・大学ファンド
- ・産学官連携の下、時代や企業のニーズに合ったリカレントプログラム
- ・大学発ベンチャー
- ・私学助成等を含めた大学への財政支援の配分のメリハリ強化 など...

本文はこちらからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2021/decision0618.html>

- みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

--

学校法人東洋大学
高等教育推進支援室

〒112-8606
東京都文京区白山5-28-20 8号館8階
<https://goo.gl/maps/Xz2CxR36dq545w8GA>
Email : mlfdjimu@toyo.jp
WEB : <https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/>

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.5, 通算第58号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年7月13日 Vol.4, No.5（通算第58号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第2回 コロナ禍において学生を支え続けるために
～見えにくい取組みの数々～（早川 和宏）
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】Quick links
- 【5】あとがき

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第2回 コロナ禍において学生を支え続けるために

～見えにくい取組みの数々～

早川 和宏（副学長／学生部長／学生生活委員会委員長／障がい学生支援委員会委員長／就職・キャリア支援委員会委員長／法学部法律学科教授）

はじめに

2019年度末から国内外を席卷しているコロナ禍は、本学の諸活動に様々な影響を与え続けています。本稿執筆時点（2021年7月4日）では、第5波の到来が懸念されているところであり、まだまだ予断を許しません。

コロナ禍が本学に与えている影響を教職員が肌で感じるのは、キャンパス内に入り出す学生数の増減でしょう。本学の行動指針レベルの変更に伴い、対面授業の実施状況が変わり、入構者数が変わります。しかし、授業だけが学生生活ではありません。

今回は、コロナ禍において学生生活を支えるための本学の取組みのうち、私が担当しているもののいくつかをご紹介します。入構者数とは異なり、教職員の目に触れにくい取組みの数々ですが、学生を支え続けるために何がなされているのかを改めてご認識いただき、引き続きご理解とご協力を賜れば幸いです。

健康管理について（学生生活委員会）

誰にも会わない、家から一步も出ないのであればともかく、日常生活や学生生活を営んでいる以上、新型コロナウイルスに感染するリスクをゼロにすることはできません。現在の我々にできるのは、感染したとき、感染が疑われる状況になったとき、感染を広めないための努力をすることだけでしょう。

本学では、2020年3月から、感染者・濃厚接触者・濃厚接触者に相当する者（COCOAの通知を受けた者、同居者が濃厚接触者になった者など）、発熱等の風邪症状が出た者、海外から帰国・入国した者、発話を伴う授業内で陽性者が出た場合の出席者などを登校禁止とするとともに、健康観察を実施しています。学生のみならず教職員の皆様についても、人事課と連携し、同様の措置をとっています。

2020年3月に健康観察を開始しましたが、延べ人数で見ますと、2020年8月17日時点では感染者：15名、健康観察対象者：494名でしたが、2021年2月18日時点では感染者：132名、健康観察対象者：1,196名となり、同年7月1日時点では感染者：228名、健康観察対象者：2,529名になっています。ごく大雑把に申し上げると、関東圏における感染者数の増減に呼応するように本学での感染者数も増減しています。学生部・教務部・各キャンパスの事務課、保健管理室・医務室が一丸となって、健康観察対象者の範囲の確定、健康観察対象者への連絡、日々の健康観察、登校禁止解除の確認などを行っています。

なお、保健所による濃厚接触者の指定範囲にはばらつきがあること（あれだけ忙しいのですし、感染者からの聞き取りには限界があるのでやむを得ないと思います）、指定されなかった者が後に感染者になった例が複数あったことから、本学では登校禁止対象者を広め取るようにしています。その甲斐あってか、授業内クラスターは発生しておりませんし、合宿所等における感染拡大も最小限に抑えられているように思います（とある合宿所で感染者が出た折には、「よくあの人数で抑えられましたね」と保健所に驚かれたこともあります）。

以上のような健康管理を実施しているところですが、この方法には重大な欠点があります。それは、基本的に、感染者、濃厚接触者、体調不良者からの報告があつてからでないと動けないということです。[ウェブサイト](#)や各種媒体を通じて、学生・教職員の皆様には報告をお願いしているところですが、どの程度認識されているのかについては、正直なところ心もとないものがあります。学生の中には、ゼミの先生など近い方には報告するものの、大学への報告を忘れるといった例もございますので、情報を得られた方は、すぐに学生部・教務部・各キャンパスの事務課にご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

課外活動について（学生生活委員会）

本学の行動指針では、レベル2以上では対面での課外活動が原則として禁止されています。オンラインでの活動は自由ですが、性質上対面での活動を必要とするものも多いため、課外活動が全般的に低調になっています。特に問題なのが、2年連続で新入生勧誘活動（新勧）を十分にできていないことです。

大学としては、新勧動画の作成・配信、オンライン大学祭の実施などで学生団体を支援しています。新勧動画により、例年よりも多くの1年生が集まったという声が聞かれる一方、廃部届の提出に至る団体もあります。学業が大学生活の大きな柱であることはもちろんですが、それと同じぐらい大きな柱が課外活動です。先輩・同期・後輩と触れ合い、色々な行事・イベント・試合などを共に乗り越えていくことにより、学生たちが大きく成長することは、昔は学生であった多くの教職員が実感しているところでしょう。

感染者数の推移、ワクチンの接種状況などを勘案しながらとなりますが、少しずつでも対面での活動を再開できるよう、準備を進めているところです。

また、レベル3では「大学が特別に許可した一部の運動部のみ」が、レベル2では「大学が許可した一部の運動部等のみ」が、対面での課外活動を実施しています。活動の種類にもよりますが、実施に際しては、連盟等の各種団体が策定している新型コロナウイルス感染症に係るガイドラインの内容、健康観察記録、監督・コーチ等の指導者の常駐、対戦相手や大会時の宿泊先のコロナ対策の状況などを学生部でチェックし、一つ一つ許可しております。各種報道でご承知のように、大学でクラスターが発生しやすいのは運動部の合宿所です。本学では、「合宿所帰寮及び生活上のガイドライン」を定め、部長・監督・コーチを通じて寮生に遵守するよう呼びかけています。また、寮生などに「コロナ慣れ」が感じられたことから、2021年6月30日には、強化部・準強化部の部員たちに対し、Webexを用いて学長・学生部長からLIVEで注意を呼びかけました。この折の録画は、当日参加できなかった部員、一般の運動部の部員にも視聴してもらうことにしています。

大学によっては、運動部の自主管理に委ね、活動制限をしていないところもあると聞きます。しかしそれでは、感染者が出た場合に「部のせい」「学生のせい」になってしまいます。本学は「大学のせい」になるよう、大学として活動内容をチェックし、他大学から「東洋さんは厳しいですね」と言われながらも、引き続き感染拡大防止に取り組んで参ります。

障がい学生に対する修学支援について（障がい学生支援委員会）

2020年度、コロナ禍によりやむなく始まった非対面授業は、学生・教職員に多大な負担を強いることになりました。そんな中でも、特に大きな影響を受けたのは障がいを抱える学生たち（障がい学生）です。

本学における障がい学生支援は、対面授業を想定したものであったため、2020年度春学期は試行錯誤の連続でした。特に、聴覚障がいについては、対面授業時にノートテイクが同席して情報保障をするという支援体制でしたので、オンライン授業には対応できません。そこで、①自動文字起こしアプリであるUDトークを法人契約する、②教員にお願いしてノートテイクをToyoNet-ACEの準履修者として登録していただくことにより講義資料や動画にアクセスできるようにする、③障がい学生とノートテイクをUDトークでつなぐことにより、自動文字起こしに不可避である誤変換を即時に修正する、といった支援を行えるようにしました。

とある学科では、UDトークを使った授業の実施方法についてFD活動で取り上げてくださったとお聞きしております。自発的な取組みに、心から感謝申し上げます。なお、UDトークについては、ToyoNet-ACEに設けられているTOYO FD・SD Channelの「08【学生支援】大学における合理的配慮の実践」で取り上げられておりますし、障がい学生に対する合理的配慮全般については、[同チャンネル](#)の【学生支援】という項目で視聴することができます。

オンライン授業では、聴覚障がい学生以外にも、発達・精神障がい学生が多大なストレスを感じている傾向があります。授業を担当される先生には、合理的配慮依頼文書が交付され、想定される合理的配慮が明記されておりますので、授業の本質に影響を与えない範囲内でご協力いただきますようお願い申し上げます。

就職支援について（就職・キャリア支援委員会）

コロナ禍は、就職活動にも大きな影響を及ぼしています。ご存じのように、航空・観光業界では採用の見送り、大幅減が生じましたし、オンラインを通じた採用活動が一般化しました。[就職・キャリア支援室](#)では、これらの変化に対応することと感染拡大防止を両立するため、2020年4月からオンラインによる就職支援に大きく舵を切りました。

オンラインで、講座、ガイダンス、セミナー、相談会、求人紹介会、模擬面接、模擬グループ面接、ワークショップなどを精力的に展開し、2020年度は、例年と遜色ない就職率を達成することができました。この取組みには、思わぬ副産物もありました。2019年度まで、就職支援関係行事は白山キャンパスを会場とするものが多く、他キャンパスから出席しにくいという「行事格差」が生じていました。各種行事がオンラインになったことによって全キャンパスからの参加が容易になり、格差が解消に向かっていきます。

オンラインによる就職支援に大きく舵を切ったとは言ものの、対面によってしかできない支援も多々あります。2021年度に入ってから、対面での面接を復活させる企業が増えておりますので、対面模擬面接はどうしても必要です。そこで、本学の行動指針レベルを勘案しながらではありますが、対面による支援を徐々に増やしつつあります。このニュースレターが配信されている段階で、まだ内定を得ること

ができていない4年生がいることと思います。就職・キャリア支援室には、4年生向けの求人が届いておりますので、足を運んでみるようお願いがけください。

おわりに

大変恥ずかしいことを告白します。私は、2020年度に副学長・学生部長を拝命するまで、職員の皆さんがこんなにも精力的に働いてくれていることに気づいていませんでした。2部の講義をするために事務室の前を通るときなどは、「夜遅くまで働いているんだな」と思ってはいましたが、これほど細やかに学生のために取り組んでいるとは、不覚ながら知りませんでした。

今回取り上げることができたのは、コロナ禍において学生を支え続けるためになされている取組みのほんの一部です。直接関係しない限り、教職員や学生には見えにくいですが、学生を支えるための取組みは、様々な学部・学科・研究科・事務室でなされ続けています。これらの取組みが、「感染拡大防止」と「学びの継続」という両立が難しい事象に立ち向かう大きな力になっていることに感謝しつつ、私も「活動の中で奮闘」し続けたいと思います。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、現在、大学基準協会による書面評価が実施されています。また、9月24日～25日には、2日間にわたり対面での実地調査が行われる予定です（2021年7月13日現在）。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、早川副学長にご寄稿いただいた学生生活、障がい学生支援、就職・キャリア支援については、第7章をぜひご一読ください。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

目次

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

第9章 社会連携・社会貢献

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

関連LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD Channel にてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、

「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。

お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020



● ラйнаアップ

授業運営関連

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 17【授業運営】演習をともなう理系科目のオンライン実施例
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes

学生支援関連

- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 19【学生支援】大学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】大学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）

ICT活用関連

- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

大学等が開講する主に知的障害者を対象とした生涯学習プログラムに関する調査（令和2年度）(2021/06/22)

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01580.html

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」実施機関の取組概要 公表(2021/07/08)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00010.htm

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択された事業実施機関の取組概要が掲載されました。

● 本学の取組概要

https://www.mext.go.jp/content/20210630-mxt_senmon01-000016115_2.pdf#page=13

● 関連リンク

between情報サイト「大学教育DX」の採択校発表ートレンドは「個別最適化」「個別支援」(2021/03/17)

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/03/DX-gakusyusya.html>

between情報サイト「Plus-DX」ダブル採択の金沢工業大学ー学修の個別最適化をめざす(2021/05/17)

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/05/kanazawakodai.html>

令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定結果(2021/06/30)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/1413155_00011.htm

●同時発表

（経済産業省）<https://www.meti.go.jp/press/2021/06/20210630007/20210630007.html>

●関連LINK

Beetween情報サイト「データサイエンス教育認定プログラム第1号は大学7校、高専4校(2021/07/02)」

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/07/DSnintei.html>

令和3年度統計エキスパート人材育成プロジェクトの選定コンソーシアム決定(2021/06/23)

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1421728_00002.htm

大学入試のあり方に関する検討会議 提言 公表(2021/07/08)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/toushin/mext_00862.html

昨年2020年1月から28回にわたり開催された大学入試のあり方に関する検討会議において、提言が取りまとめられました。

●関連リンク

Between情報サイト「入試改革の有識者会議が提言－改革総合支援事業等による取り組み促進へ」(2021/07/09)

<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2021/07/nyushi.html>

大学院部会（第101回）開催(2021/07/06)

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/2019/09/1421377_00003.html

議題

- (1) 部会長の選任等について
- (2) 大学院部会の運営について
- (3) 第11期大学院部会の審議の方向性について
- (4) その他

質保証システム部会(第9回) 開催(2021/07/07)

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/mext_00244.html

議題

- (1) 質保証システムの見直しについて
- (2) その他

科学技術・学術政策研究所

「修士課程(6年制学科を含む)在籍者を起点とした追跡調査(2020年度修了(卒業)者及び修了(卒業)予定者に関する報告)」公表(2021/06/29)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47485>

「イノベーションの画期性と企業成長：全国イノベーション調査を用いた分析」公表 (2021/06/28)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47668>

「日本版バイ・ドール制度を適用した特許出願の網羅的調査」公表(2021/06/28)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47679>

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における我が国のワクチン開発に関する課題と対策の抽出(2021/06/30)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47693>

日本学術振興会

科研費の最近の動向及び令和4(2022)年度公募等の説明資料・FAQ 掲載 (2021/07/09)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_210709_2/index.html

「我が国における学術研究課題の最前線（令和2(2020)年度）」公表 (2021/07/12)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/index.html

大学入試センター

「令和3年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書」公表(2021/06/30)

<https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/hyouka.html>

令和4年度大学入学共通テスト「受験案内」「受験上の配慮案内」公表(2021/07/09)

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r4.html

私立大学情報教育協会

機関誌「大学教育と情報」2021年度No.1 刊行(2021/07/07)

特集「対面と遠隔(オンライン)を組み合わせたハイブリッド型授業の進展と教育改革」
<https://www.juce.jp/LINK/journal/index.html>

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 開催(2021/06/24)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210624.html>
議題

- ・教育・人材育成について

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 開催(2021/07/01)

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210701_1.html
議題

- ・研究力を多角的に分析・評価する新たな指標の検討について

日本学術会議の在り方に関する政策討議(第2回) 開催(2021/07/01)

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210701_2.html
議題

- ・日本学術会議の役割・目的等

総合科学技術・イノベーション会議 第5回 世界と伍する研究大学専門調査会 開催(2021/06/30)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/5kai/5kai.html>
議題

- (1) 世界と伍する研究大学について
タン・チャー・チュアン氏(前シンガポール国立大学 学長)
リチャード・レビン氏(元イエール大学 学長)
からのヒアリング
- (2) その他

マイナビ

「マイナビ 2022年卒大学生 活動実態調査(6月15日)」発表(2021/06/22)

https://www.mynavi.jp/news/2021/06/post_31197.html

リクルート進学総研

『カレッジマネジメント』Vol.229 Jul.-Aug. 2021 刊行(2021/07/06)

特集「コロナ×入試改革をどう乗り越えたのか」
http://souken.shingakunet.com/college_m/

就職みらい研究所

「採用活動中間調査 就職活動状況調査 データ集 2022年卒」公表(2021/07/08)

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/seminar202107080002/

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@toyoy.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES (大学改革支援・学位授与機構)
 - ・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【4】 Quick links

- [高等教育推進センターホームページ](#)
- [高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース](#) ※ToyoNet-ACE
- [ニュースレターバックナンバー](#) ※Googleグループ
- [TOYO FD・SD Channel](#) ※ToyoNet-ACE
- [学外FD・SD研修会情報](#) ※ガルーン
- [English Support Service \(ESS\)](#) ※ガルーン
- [高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム](#)
- [高等教育推進センターニュースレター読者アンケート](#) ※Googleフォーム

【5】 あとがき

前号から、シリーズ6「Grow Up! Thirty Thousand」がはじまりました。
今回の第2回からは、本学の全学委員会の委員長の先生方にご登場いただき、
各委員会・組織の取り組みをご紹介します。

3万人の学生の成長を支えている「見えにくい取組み」を分かり合うきっかけになりましたら幸いです。
また、下記の『点検・評価報告書』も合わせてぜひご覧ください。
学内の様々な取り組みを網羅的に知ることができます。

- 関連LINK
 - ・『[2021年度 東洋大学点検・評価報告書](#)』（[認証評価受審用](#)） ※Googleドライブ
 - ・[2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式](#) ※Googleドライブ
 - ・[過去の認証評価について](#) ※大学ホームページ

● みなさまの声をお寄せください
[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.6, 通算第59号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2021年7月27日 Vol.4, No.6（通算第59号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
 ※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
 ※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第3回 学生の成長と研究を支援する図書館を目指して（藤村 真）
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】Quick links
- 【5】あとがき

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
 第3回 学生の成長と研究を支援する図書館を目指して
 藤村 真（図書館運営委員会委員長／生命科学部生命学科科）

はじめに

図らずも図書館運営に携わるようになって、学生たちの成長を支える図書館像を模索する日々が続いている。本稿では、思いつくままに本学図書館の現状と問題点等について書かせていただいた。多くの教職員の方にもご理解とご支援を賜りたく、ご一読いただければ幸いです。

歴史ある東洋大学附属図書館

現在、図書館では、苦学された卒業生（故人）から図書館に対する寄付金をいただいている。本を買う余裕などない学生時代に図書館の本を利用してしっかりと勉学に励めたことに対する感謝を込めての寄付金と聞いている。貧しかった日本において図書館が、多くの学生たちにたくさんの本を提供することによって、その成長を支えてきたことに、図書館に関わる者として誇らしく思う。哲学館からの流れをくむ哲学堂文庫から現在まで、約160万冊の蔵書をもっている。何でもランキングするのは好みではないが、上には上がいるようで日本の大学図書館では40位くらいの蔵書数である。その中には貴重な図書が多く含まれており、研究対象としても重要な価値を持つ資料を多数所蔵している。国文学研究資料館が進めている大型プロジェクト「[日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画](#)」に [本学所蔵の哲学堂文庫や百人一首など](#) をデジタル化するお誘いを受けており、契約に向けて現在調整している。本学の図書館は [山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム](#)（青山学院大学、学習院大学、國學院大學、専修大学、東洋大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、立教大学）に加盟しており、各大学図書館がお互いの蔵書を相互利用できる環境を整備している。これらのことは、東洋大学附属図書館がこれまでに優れた蔵書を集めてきていることが外部からも高く評価されていることの証である。

学術研究をサポートする情報図書館

学術研究を支える国際的な学術誌は電子ジャーナル化が進み、大学によっては図書館をデジタル情報センターなどと称することも多くなってきている。本学の国際的なランキングを上げてゆくためには、研究推進が不可避であり、教員の要望をできるだけ受け入れて、[電子ジャーナルやデータベース](#)を整備している。これらの閲覧数やダウンロード数などのデータから見ても教育研究をサポートすることができるのではないかと感じている。自身の大学院時代には、自分の研究課題と関連がある最新の論文を網羅するために、図書館に頻繁に通って新入荷学術誌コーナーでドキドキしながら目次を開いて論文タイトルを確認していた。しかし、今では、図書館が契約している電子ジャーナルの多くが学内のPCから容易にアクセスできるようになっているだけでなく、学外からでも簡単に全文の閲覧ができるような環境を整備している。一方で、このことは、図書館へ直接来館していただく必要が無くなっていることを意味しており、これまで、来館者数を重要な評価指標としてきた図書館運営の見直しに直面している。

学生の成長のための図書館を目指して

先生方に、「図書館に対する要望はありますか？」とお聞きすると、「学部教育で手一杯なので、図書館のことは図書館に任せるから」という返事が返ってくることが多い。図書館側は、「図書館のことは図書館にお任せください」として教員との関係ができあがっており、一見機能しているように見える。学生からはどう評価されているのだろうか？最近では多くの大学が近代的でおしゃれな図書館を開設し、学

生に憩いの場を提供している。一方、本学の各図書館は、よく言えば機能的ではあるのだが、学生からすると見劣りするのかなあと感じている。しかし、[卒業時アンケート](#)の結果をみると、図書館はほとんど不満なく良い評価をいただいている。図書館スタッフは主に館内運営を担当している業務委託スタッフと図書館本体の業務（図書・雑誌の購入やデータベース契約等）を担当する職員から成り立っているが、彼らが学生をサポートするために日々努力している結果であると感謝したい。

しかし、できるだけ教員や学部・学部の要望に応えたいと思いつつも期待に応えられない場合も多い。海外の大学図書館では「24時間オープンしている」「修士号や博士号をもつスタッフが常駐している」ところも珍しくないそうである。図書館では学年暦や各キャンパスの諸事情を考慮しながら、開館時間は細かくやりくりしているし、レファレンススキルを向上させるために図書館スタッフが一生懸命経験を積み重ねて頑張っている姿を見ている。しかし、要望のある開館時間の大幅な延長や専門スタッフの配置は、実際の入館者数の動向や現状の大学院生数などから判断する限り、いずれも実現は難しいように思われる。本学の学術研究推進が進み大学院生数が格段に増えることを期待したい。

先生方から「最近の学生は、スマホとSNSばかりで、文章が書けない。」という話をよく聞く。学生からも「もうこの2年はまともな本を読んでいない」と言う話が普通に聞かれる。学生が手軽に読んでみたいと思うような本も提供できるようにしているが、本が好きな学生には届いても、本を読まない学生にはなかなか伝わらない。先生方からも、図書館の本を利用してレポート等を作成するように促していただくと学生の成長につながるのではないかなと思う。

図書館は大学の方針や世界の流れをキャッチして、グローバル化・就職・SDGs・プログラミングなどに関わる書籍（[電子ブック](#)）等を提供できるような環境を整えて、[ホームページ](#)や[ToyoNet-ACE](#)を通じて発信している。また、学生の自発的な学習や成長を促すための取り組みとして、[図書館の活用方法等いろいろな動画](#)の作成やイベント企画に力を注いでいる。しかしながら、それらの情報が、学生に届きにくいという悩みがある。学生からすると、大学から洪水のように提供される情報の中で図書館からの情報の優先順位が低いのだと思われる。図書館が自らの発信力をつけてゆくことも必要ではあるが、広範囲の分野が対象となる図書館では、関連部局と連携した情報発信が有効と考えている。例えば、就職・キャリア支援課と連携した情報発信をすることにより、就活を支援するデータベース（会社情報など）や電子ブック（面接マナーやSPI問題集）などをより多くの学生に有効に利用してもらうことができると考えている。

図書館では、[ラーニングコモンズ](#)（アクティブエリア）を整備して、多様な学習スタイル（グループワークなど）をサポートしている。コロナ禍を契機に学生の学習方法も変わってきている。自前のPCを持参する学生が急増していることから、図書館内のWi-Fi環境の整備を急いでいる。さらに、授業の受け方も大きく変化してきている。自分の学生時代は必死で先生の板書をノートに写すことに全集中していた。その後、教員が授業資料を白黒のリソで配布していた時代から、ToyoNet-ACEが整備され、膨大な授業資料をPDFで学生に配信する時代に変化している（これにより、図書館にプリンターだけを使いに来る学生が増えている）。さらに、タブレット画面の授業資料に直接デジタルペンで書き込む風景を見かける。複数の学生が、タブレットの資料をのぞき込み、スクロールしながら議論したり、お互いのデータを共有しながら共同で資料を作成する場面もよく見かける。このような流れをキャッチして学生の成長を支えてゆくのも、図書館の新しい役割ではないかと考えている。

おわりに

このところのコロナ禍にともなう世界の動向や地球温暖化の対策などを考えると、一つの学問分野で決して解決できないように思われる。10年後の時代を担うことができる人材を輩出するためには、高度な知識や技術を持ち、いろいろな考え方を受け入れることができる人材育成が必要になってきている。その意味で、教育・研究をサポートする図書館の役割はますます大きくなっていくと思っている。図書館が多くの予算を使って集めている資料を学生の成長のために、各学部・研究科で有効に利用していただければと改めて思っている。

最後に、コロナ禍により図書館も大きな影響を受け、[書籍の郵送サービス](#)や[入館制限](#)をおこなってきた。コロナ禍の続く現在は、学生が静かに勉学に励む図書館となっている。近いうちに一度、図書館に来館いただき、館内を実際に見ていただくのも良いかと思います。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。2021年4月1日に『[点検・評価報告書](#)』をはじめとする評価資料を提出し、現在、大学基準協会による書面評価が実施されています。また、9月24日～25日には、2日間にわたり対面での実地調査が行われる予定です（2021年7月27日現在）。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、藤村図書館運営委員会委員長にご寄稿いただいた図書館運営については、[第8章 教育研究等環境](#)をぜひ一読ください。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

-----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

[第8章 教育研究等環境](#)

LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD ChannelにてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、
「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。
お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。
視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

●ラインナップ

授業運営関連

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 17【授業運営】演習をともなう理系科目のオンライン実施例
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試み—エアロビクス指導法—
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes

学生支援関連

- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 19【学生支援】本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）

ICT活用関連

- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「国際研究交流の概況（令和元年度）」公表（2021/07/19）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryu/1409550_00005.html

この調査は、日本の国公立大学、高等専門学校、独立行政法人等と諸外国との年間の研究交流状況等を把握し、国際交流推進施策に関する基礎資料とすることを目的として文部科学省が実施しているものです。

「全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ 最終まとめ」公表（2021/07/19）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1421443_00004.htm

全国的な学力調査に関する専門家会議 全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループにより取りまとめられました。

学校法人ガバナンス改革会議（第1回）開催（2021/07/19）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/115/siryo/mext_00892.html
議題

1. 会議の運営について
2. 学校法人のガバナンスに関する意見交換
3. その他

『令和2年度文部科学白書』公表（2021/07/20）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/07/1418930_00006.htm

大学分科会（第162回）開催（2021/07/21）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/siryo/1422495_00014.html
議題

1. 大学設置基準の一部改正について
2. 大学院設置基準等の一部改正について
3. 魅力ある地方大学の在り方について
4. 高校生等が科目等履修生として大学の単位を履修した際の修業年限の通算について
5. 「大学入試のあり方に関する検討会議 提言」について
6. その他

スポーツ庁

大学における課外活動での感染症対策の取組例 公表（2021/07/07）

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1416556_00001.htm

科学技術・学術政策研究所

科学技術基本政策文書検索の公開（2021/07/15）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47789>

「日本の多国籍企業における海外研究開発と特許出願」公表（2021/07/15）

<https://www.nistep.go.jp/archives/47798>

首相官邸

「知的財産推進計画2021」決定（2021/07/13）

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/index.html>

内閣府

第4回大学ファンド資金運用ワーキンググループ開催（2021/07/09）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/wg4kai/wg4kai.html>
議題

- (1)国内運用事例～企業年金連合会からのヒアリング～
- (2)運用の基本的な考え方（透明性の確保、時間軸等）について
- (3)大学ファンドの資金運用の基本的な考え方（素案）について
- (4)その他

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会開催（2021/07/15）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210715.html>

議題

- ・総合知を戦略的に推進する方策（総合知戦略）の検討について

第6回世界と伍する研究大学専門調査会開催（2021/07/19）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/6kai/6kai.html>

議題

- (1)大学支援フォーラムPEAKSからの報告
- (2)中間とりまとめ骨子案について
- (3)その他

授業目的公衆送信補償金等管理協会

「授業目的公衆送信補償金制度『利用報告』への入力の手引き」公表（2021/07/16）

<https://sartras.or.jp/hokoku/>

リクルート進学総研

高校生に聞いた大学ブランドランキング「進学ブランド力調査2021」発表（2021/07/15）

<http://souken.shingakunet.com/research/2012/07/post-66a6.html>

本学のランクは下記の通りです。

志願度（関東）：9位（昨年7位）

知名度（関東）：14位（昨年12位）

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

●海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】あとがき

今号では、図書館運営委員会委員長の藤村先生にご寄稿いただきました。

みなさん、大学時代の図書館での思い出はありますか？

わたしは、コラムを拝読して、大学図書館という空間がとても好きだったことを思い出しました。

レポートやテスト、卒論が山場の時は、

閉館の音楽が流れるまで課題に取り組んだり、

授業でグループワークが課されたら、授業後そのまま、

みんなで図書館のラーニングコモンズに行ったり、

朝活と称して朝9時に友人と図書館で待ち合わせをして、それぞれ自習したり、

空きコマがあれば図書館にあるふかふかのソファでくつろいだり（睡魔に襲われたり）、

大学生のころを思い返してみると、図書館によくいたなあと思います。

就職して、図書館に行く機会がめっきり減ってしまいましたが、

本学の附属図書館のホームページでは、電子ブックがたくさん紹介されています。

手塚治虫の漫画が、多言語（英語・中国語・フランス語・韓国語・

タイ語・イタリア語・スペイン語）で読めることを知ったので、

早速読んでみたいと思います。

https://www.toyo.ac.jp/library/book/E_bookpage02/#tezuka

●みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.7, 通算第60号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年8月25日 Vol.4, No.7（通算第60号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第4回 100%の学生がボランティア体験することを目指す（森田 明美）
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】Quick links
- 【5】あとがき

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第4回 100%の学生がボランティア体験することを目指す 森田 明美（社会貢献センター長）

コロナ禍は、人と人の関係の取り方、社会生活のおくり方、社会的存在としての個の在り方、家族の役割と配慮、働き方など様々な問題を、改めて私たちに問いかけている。人生100年時代を迎え、キャリア形成や社会生活、家族的生活などが大きく変わりはじめたところに、コロナ禍の到来によって変化が加速したように思う。そして、これらに伴い大学への進学目的、大学生活に求めるものも変化していくかもしれない。

コロナ禍において、教員や学生が正課活動として実施している地域での様々な社会貢献活動が中止になったように、社会貢献センターの多くの活動も中断せざるを得なかった。しかし、このような状況下でも社会貢献センターは、様々な工夫をして活動を継続した。特にToyoNet-ACEの「ガクチカサブリ」は学生への情報発信ツールとして大きな力を発揮し、このサイトの閲覧数は大学の非対面授業の実施とともに急増した（2019年度－76,729件、2020年度－244,366件）。社会貢献センターは、「[ガクチカサブリ](#)」またはWeb上の「[しゃべり場（オンライン）](#)」の運用によって、ボランティア支援室を中心とした社会貢献活動をなんとか継続した。またそこを手掛かりにして、学生たちとのICTを活用した交流活動を進めた。

その結果、コロナ禍において、社会貢献センターの活動も第一に極力対面を避けるためにオンラインによる様々な事業を実施。第二にオンライン活動と対極にある対面の活動に対する価値が問われることになった。社会貢献センターの評価にあたっては、この二つのことを意識して考えてみたいと思う。

1.組織における取り組みの特長・課題

【組織】

[社会貢献センター](#)は、東洋大学創設125周年記念行事の一環として2013年4月に開設し、今年度9年目の活動を進めているところである。社会貢献センターは、それまで生涯学習センターが担当していた公開講座や講師派遣事業に加え、社会貢献事業を展開することとなった。

社会貢献センターの活動を支える組織としては、「[社会貢献センター運営委員会](#)」が設置されている。大学全体の活動として進めていくために、その構成員を各学部及び各大学院研究科が推薦する専任教員各1名のほか、学長推薦の委員若干名、通信教務部長、学生部長、教務部長としている。

また、これとは別に社会貢献センターにはボランティア支援室があり、その運営を担うために「ボランティア支援室運営委員会」と、これを支える専門部会を置いている。なお、本学のボランティア活動には、社会貢献センターによる活動、ボランティア支援室による活動に加え、課外活動育成会や教育・研究協力資金（寄付金）の支援によって実施される活動などがある。

私立大学における社会貢献活動は、大学の創設者などの思想や宗教とのかかわりや、自校教育との連携の中で進められることが多い。東洋大学の自校教育は、「井上円了研究センター」が2020年度まで担っていたが、2021年度から教育、研究、社会貢献、博物館等を含めた総合的な組織として「[井上円了哲学センター](#)」が担うことになった。

井上円了哲学センターの活動は、旧「井上円了研究センター」における事業を「研究部門」として位置づけ包括する形で事業展開を図ることにより、その研究成果を井上円了の理念承継に係る教育（自校教育）に反映させるほか、創立者井上円了の建学の精神、教育理念、思想及び事績の研究を推進することにより東洋大学の存在理由を検証し、それらの継承と普及することとしている（井上円了哲学センターHPより抜粋）。

井上円了哲学センターは、創設者の意思を反映させる教育実践の場としての役割もあると考えられ、社会貢献センターは、今後更に深く連携しながら社会貢献事業を展開していく必要があると思う。

【取り組み】

社会貢献センターの活動を大きく分けると、以下の二つになる。

- ①生涯学習部門：公開講座・講師派遣（生涯学習支援プログラム、研修支援プログラム、SDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラム）
- ②社会貢献部門：教職員や学生による社会貢献活動（ボランティア活動を含む）

そして、これらすべての活動を全キャンパスの学生、教職員がかかわり展開できるようにすることを目標とする。

＜生涯学習部門＞

生涯学習部門では、学びたいという意欲のある人に安心・安全、かつ効果的な学びを提供することを目指している。公開講座（エクステンション講座）においては適切な料金で専門的な学びの場を提供し、講師派遣（生涯学習支援プログラム、SDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラム）および公開講座（オープン講座）においては余資なき人を含め、学びたいすべての人が学べるように無償で学習の場を提供している。テーマについては、学びの対象と方法を整理して提供するようにしている。

一方で、学ぶ場を求める人は学生、卒業生、市民など多様である。更にコロナ禍を経て、受講者は大学に学び方や内容の変化を求めるようになった。オンラインで学ぶ場を提供することにより、受講対象を世界に広げ、知識を提供することも可能になった。

2021年度の公開講座は対面講座を中心としつつも多くの講座をハイブリッドで実施し、Webでの受講も併用して行った。しかし、コロナの感染拡大により対面からWebのみに切り替えなければならない講座が発生した。その際、Webでの受講環境が整っていない人のために感染防止策を講じた上で、学内で受講出来るように会場を設置することにした。今後はWebによる受講システムを持たない地域グループに受講するための機器等一式を貸し出しすることができれば、学びの支援はさらに展開すると考える。

一方で、Webによる受講は、対面での講座とは大きく異なることが分かってきた。つまり、1. 受講生には新たな知識や情報を知りたい人たちと、2. 対面で学び教員もしくは受講者同志で交流したい人たちの2種類のタイプがあることが分かった。今後この2種類の受講者の要望に応えるために、講義内容は専門的でかつ有意義に、そして安全・安心も担保したうえで講座を開講する必要がある。そのためには、すべての教職員（名誉教授の方々を含む）に協力を仰ぎ、あらゆる人脈を駆使して東洋大学の生涯学習活動を進めていきたい。

＜社会貢献部門＞

2017年度に社会貢献センター内にボランティア支援室を設置し、ボランティアコーディネーターを配置した。このことにより、学生が様々な社会貢献活動に積極的に加わり、コーディネーターは、学生達のボランティア活動を専門的に支援するようになった。

また、社会貢献センターには、学生による社会貢献活動に対する活動助成事業と活動表彰事業の二種類がある。従来、活動実施後に行われていた表彰制度を、まずは活動助成として事前に計画されたものへ助成金を付与し奨励する形に改めた。社会貢献センターの助成事業には①地域活性化支援事業（教員と学生が共同して実施し、活動の一部助成を行うもの）と、②社会貢献活動助成事業（学生たちによる社会貢献活動に対し、助成を行うもの）の二種類がある。

しかし、学生の中にはこうした助成事業には馴染まない活動や、外部機関などと連携しながら個人、グループなどで独自に活動をするケースもある。こうした活動については、活動助成ではなく活動終了後の活動表彰への応募を促進している。表彰事業に応募してくる学生は、非常に質の高い活動を展開していることが多い。こういった様子を見ると、学生の中で着実に社会貢献活動が育っていると感じられる。

また、社会貢献センターのコロナ禍での取り組みとして、2020年度より始まった「Hands to Handsプロジェクト」がある。これは、コロナ禍の困難な状況の中で、学生へ食糧等を支援する活動である。支援物資は主に卒業生、教職員、保護者、関係団体等から寄せられている（※東洋大学高等教育推進センターニュースレター2021年2月2日 Vol.3, No.14（通算第51号）に報告）。このような活動を通じ、学生たちを経済的のみならず、メンタル面でも応援する風土を作りあげたいと思っている。

2. 3万人の学生をどのように支え、成長させたいか

細々と始まった社会貢献センターであったが、積極的に組織や活動を見直した結果、学生や教職員が一体となって社会に貢献する東洋大学独自の体制が徐々に出来上がってきている。特に力を入れているのは、学生の主体的な活動の育成支援である。ボランティア支援室を社会貢献センター内に開設したことで、ボランティア活動を行う学生の主体性やグループでの支え合いを育て、関係サークルへの支援や、学生ボランティアリーダーの育成を推進した。ボランティア活動においては、学生同士が学びあい、支えあう経験こそが重要な財産であり、それを進めるためには、学生の中にリーダーを育てることが重要であると考えた。

ボランティア支援室を開設し5年余りであるが、学生のボランティアリーダーの育成を進めてきたことにより、ボランティア支援室で開催されるボラカフェ（気軽な雰囲気、ボランティア社会貢献活動に関する話題に触れる機会を提供）や、ボランティア活動でリーダー役を務める学生が育ってきている。1年以上実施してきたオンライン上での各種企画でも、学生リーダーが場をコーディネートすることが出来るようになってきている。また、今年度募集したSDGsアンバサダーへの応募者が50人を超えたのは、ボランティア支援室のリーダー育成の地道な活動の大きな成果と言える。

これまで、「大学に入ったらサークル活動とアルバイトをしたい」と堂々と語って入学してくる学生が多くいた。もちろんそれがいけないわけではないが、近年、その傾向に大きな変化が表れている。学生アンケートでは入学時に「大学生活で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか。（優先順位の高いもの3つまで）」で「社会体験（インターンシップやボランティア）」と考えている学生の比率は、24.6%。その一方で、卒業時に、「大学生活で、興味や関心を持って取り組んだことは何ですか。（複数回答可・3つまで）」で「社会体験（インターンシップやボランティア）」を体験できた学生は回答者数の中で、8.4%しかいない（※2017年度入学時アンケート、2020年度卒業時アンケートから）。その状況を改め、ボランティア活動を希望する学生全員、できれば100%の学生がボランティア活動を体験して社会へ出てほしいと考えて、工夫している。ボランティア活動を体験したことがない学生には、その体験による充実感がアルバイトとは全く違うものであることを体験してもらいたい。これが100%の学生にボランティア活動を体験してほしいと考えているゆえである。

「ボランティア活動への参加は、自分の意志で決めることが重要だから、もっと自由であっていい」と言う人もいる。生き方や考え方は多

様であることが重要だと思うが、ボランティア活動に関しては、そうした多様性を超えて、誰もが普遍的に体験すべきことと思う。

そして東洋大学に入学した学生には、「他者に奉仕する」ということが、いかに自分の考え方、生き方にもつながる重要な活動であるかということを経験し、感じてもらいたいと思っている。まさに、これこそが自校教育と一体化したボランティア支援活動である。

東洋大学は、教育理念の中で「主体的に社会の課題に取り組む」人間の育成を大きな柱としてきた。また、東洋大学の心として「他者のために自己を磨く」こと、「活動の中で奮闘する」ことを掲げている。

そして、創立者の井上元了は前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」も行ってきた。

このように東洋大学は、社会貢献活動を教育理念や東洋大学の心の具現化するための柱の一つとし、人財育成をしてきた大学であることを改めてここで位置付けたいと思う。

そして、今後は「[学校法人東洋大学SDGs行動憲章](#)」に基づきSDGs17ゴール目標達成のために社会貢献活動も更に多様な展開が求められる。

2030年、それ以降も「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、すべての教職員の皆様に本学社会貢献活動への益々のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。

2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、

現在までに、大学基準協会による書面評価が実施されました。

9月24日～25日には、2日間にわたりオンラインでの実地調査が行われる予定です。

※前回のニュースレターでは、対面での実施と記載いたしましたが、

一般の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、オンラインでの実施に変更となりました。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、森田社会貢献センター長にご寄稿いただいた社会貢献センター運営については、[第9章 社会連携・社会貢献](#)をぜひご一読ください。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

-----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

[第9章 社会連携・社会貢献](#)

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD Channel にてFD・SDに関する動画コンテンツ公開中

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、

「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設しています。

お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

●ラインナップ

授業運営関連

00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～

- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 15【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 17【授業運営】演習をとまなう理系科目のオンライン実施例
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes

学生支援関連

- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 19【学生支援】本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）

ICT活用関連

- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用
- 18【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」結果（2021/07/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00665.html

「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」設立（2021/07/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00678.html

「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について（報告）」公表（2021/07/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/159/mext_00904.html

「ヒト受精卵に遺伝情報改変技術等を用いる研究に関する倫理指針」及び「ヒト受精卵の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」の一部改正（2021/07/30）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00679.html

政策評価に関する有識者会議（第55回）（2021/08/02）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/seisaku/001/gijiroku/1420748_00004.htm
議題

1. 令和2年度実施施策に係る政策評価書（案）について
2. 文部科学省の使命と政策目標等の見直しについて
3. その他

令和3年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定・選定結果（2021/08/04）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/1413155_00011.htm

●参考情報

データサイエンス教育認定プログラム第二弾と先導的な「プラス」を発表（2021/08/05）
<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/08/DSnintei..html>

「産学連携による医薬品・医療機器等の研究開発の推進の在り方に関する検討会報告書」公表（2021/08/04）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/062/toushin/1417689_00001.htm

質保証システム部会(第10回)（2021/08/04）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/049/kaisai/1411079_00012.html

議題

- (1) 質保証システムの見直しについて
- (2) その他

「アジア太平洋数理・融合研究戦略検討会 報告書」取りまとめ (2021/08/05)

https://www.mext.go.jp/a_menu/mathematicalsciences/report.html

学校法人ガバナンス改革会議 (第2回) (2021/08/06)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/115/siryo/mext_00004.html

議題

1. 学校法人のガバナンスに関する意見交換
2. その他

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会設立 (2021/08/10)

https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1421136_00001.htm

情報委員会 (第19回) (2021/08/10)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/kaisai/1421941_20210810.html

議題

1. 次世代計算基盤検討部会の検討状況について
2. 研究DXの推進方策について
3. 令和4年度概算要求に向けた重点課題の事前評価について (非公開)
4. その他

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」(中間報告)公表 (2021/08/20)

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00718.html

スポーツ庁

令和3年度 大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業について8大学を選定 (2021/08/20)

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1421596_00003.htm

文化庁

「日本語教育の推進のための仕組みについて(報告)」公表 (2021/08/20)

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/93324401.html

科学技術・学術政策研究所

「bioRxivに着目したプレプリントの分析」公表 (2021/08/10)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47849>

「科学技術指標2021」及び「科学研究のベンチマーキング2021」の結果公表 (2021/08/10)

<https://www.nistep.go.jp/archives/47926>

「研究職の募集要項に関する国際比較」公表 (2021/08/20)

<https://www.nistep.go.jp/archives/48129>

「プレプリントとジャーナル論文の差異: bioRxivを用いた試行」公表 (2021/08/20)

<https://www.nistep.go.jp/archives/48132>

内閣府

第7回 世界と伍する研究大学専門調査会 (2021/07/27)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/7kai/7kai.html>

議題

- (1) 大学ファンド資金運用ワーキンググループからの報告
- (2) 中間とりまとめ案について

(3) その他

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2021/07/29）

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210729_1.html

議題

- ・世界と伍する研究大学専門調査会中間とりまとめ及び大学ファンド資金運用WG運用の基本的考え方について

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合（2021/07/29）

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210729_2.html

議題

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえた女性研究者の活躍促進に向けた取組について

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第3回）（2021/08/05）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210805.html>

議題

1. 日本学術会議における改革の進捗報告等について
2. 井村裕夫 元日本学術会議の在り方に関する専門調査会会長との 意見交換等【非公開】

総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループに向けたキックオフミーティング（2021/08/18）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/kickoff/kickoff.html>

議題

1. 共通認識の確認
2. 検討課題の絞り込み
3. 委員発表「STEAM教育・探究的な学びの取組事例、課題・乗り越えるべき障壁等」
4. 自由討議

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2021/08/19）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210819.html>

議題

1. スタートアップ・エコシステム調査について
2. 「科学技術指標2021」及び「科学研究のベンチマーキング2021」について

日本私立大学連盟

国際連携委員会「国際教育・交流調査2020」公表（2021/08/02）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3297

提言『ポストコロナ時代の大学のあり方〜デジタルを活用した新しい学びの実現〜』公表（2021/08/03）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3330

令和4年度私立大学等政府予算要望・税制改正要望の手交（2021/08/04）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3331

就職みらい研究所

振り返り企業調査－外国人学生の採用状況等について－（2021/08/17）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/research20210817003/

マイナビ

「2021年 高校生の進路に関する保護者調査」発表（2021/08/04）

https://www.mynavi.jp/news/2021/08/post_31520.html

「マイナビ 2022年卒 内定者意識調査」発表（2021/08/05）

https://www.mynavi.jp/news/2021/08/post_31551.html

進研アド

『Between 2021年7-8月号』刊行（2021/07/28）

<http://between.shinken-ad.co.jp/between/2021/07/20217-8.html>

特集「地域、企業、大学間、高校… 連携、その先は。」

Best Student Cities 2022(2022年版QS最高の学生都市ランキング)発表 (2021/07/28)

<https://www.topuniversities.com/city-rankings/2022>

●参考情報

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000051856.html>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
- ※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
- ※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#) (大学改革支援・学位授与機構)
 - ・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

- みなさまの声をお寄せください
- [読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
- 最短10秒で回答が完了します。
- いつもあたたいコメントをお寄せいただきありがとうございます。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.8, 通算第61号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年9月7日 Vol.4, No.8（通算第61号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第5回 ラーニングサポートセンターについて（東海林 克彦）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】Quick links

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第5回 ラーニングサポートセンターについて 東海林 克彦 ラーニングサポートセンター長（教育担当副学長）

1 ラーニングサポートセンターとは

ラーニングサポートセンターは、学生が大学の授業を受けるために必要な基礎的な知識や能力を身に付けられるように、個別の学習相談やアドバイス、文章力や英語などに関する学力の向上を目的とした施設です。こういった学習支援により、誰一人取り残されることなく学習を継続できるようにすること、また、学習を効果的なものとするを目的としています。

本学においては、正式に「ラーニングサポートセンター」と銘打った施設や機能は、[白山キャンパス](#)、[板倉キャンパス](#)、[赤羽台キャンパス（ライフデザイン学部）](#)に設置されているにとどまっています。しかしながら、[川越キャンパス](#)や赤羽台キャンパス（情報連携学部）においても同様の支援活動を行う体制が整備されており、学生に対する学習支援が積極的に実施されています。

2 設立の経緯

白山キャンパスには、2014（平成26）年にラーニングサポートセンターが設置されましたが、学習支援を専門に行うセクションの必要性についての検討は、2012（平成24）年から始まっていました。リメディアル教育の導入の必要性が全国各地の大学で議論されていたという時代背景はもちろんですが、卒業時アンケートで「授業以外で充実して欲しかった支援」として、「レポートや論文の書き方相談」「学内の語学学校の開講」「文献・資料の調べ方相談」を挙げる回答が多くあったことが直接的な契機になったと考えられています。

3 取り組み状況

白山・川越・板倉・赤羽台の各キャンパスにおいて、様々な学習支援活動が行われています。大別すると、①学生に対して個別に行われる学習相談や学習指導、②複数の学生を集めて行う授業を補完するための各種の講座（セミナー）の2つになります。

②の各種講座（セミナー）ですが、そのメニューとしては、パソコンスキル、プレゼンテーションスキル、文章力（作文・読解）、レポートや論文の書き方、英語・物理・化学の補習、資格試験対策などが主たる内容になっています。また、一部のキャンパスでは、ノートPCの貸し出しなども実施しています。利用者数（延べ人数）は、各年度により多少の増減はありますが、①の学習相談や学習指導は約4千人～6千人、②の各種講座（セミナー）は約5千人となっています（本学の学生数は約3万1千人です）。

なお、①の学習相談や学習指導を担当するスタッフですが、各キャンパスにおいて異なる部分はありますが、職員の他に、学生のニーズを的確に把握するとともに相談しやすい環境整備を図るために、本学の大学院生のTAを学習支援アドバイザーとして活用しているところ（別添の「各キャンパスにおけるラーニングサポート体制」参照）。

4 今後のあり方

新型コロナウイルス感染症のまん延という不測の事態が発生し、未だに、対面での授業の実施が思うように進められないという困難な状況が続いています。しかしながら、このような困難な状況であるからこそ、学生の学習を支えるラーニングサポートセンターの役割が重要になってくると考えられます。

各学部においても学習支援などに関する独自の取り組みが行われてきていますが、全学的に行うべき業務と各キャンパス・学部・研究科

において個別に行うべき事項の整理や検討を進めながら、学生に対する学習支援のより一層の拡充を図っていく予定です。今後とも、引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。
2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、
現在までに、大学基準協会による書面評価が実施されました。

9月24日～25日には、2日間にわたりオンラインでの実地調査が行われる予定です。

※前回のニュースレターでは、対面での実施と記載いたしましたが、
今般の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、オンラインでの実施に変更となりました。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・
特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、東海林センター長にご寄稿いただいたラーニングサポートセンター運営については、
第7章 学生支援をぜひご一読ください。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

第9章 社会連携・社会貢献

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

「大学ファクトブック2021」公表（2021/09/02）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00001.html

第1回大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等の策定に関する検討会開催（2021/09/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/gijyutu/036/siryo/mext_00925.html

議題

1. 公開の取扱いについて【非公開】
2. 大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等について
3. その他

大学分科会「魅力ある地方大学を実現するための支援の在り方について」取りまとめ（2021/08/30）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1411360_00006.html

学校基本調査－令和3年度（速報） 結果の概要－公表（2021/08/27）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00005.htm

科学技術・学術政策研究所

「新型コロナウイルス感染症対応が研究生産性に与える影響等に関する調査－博士人材データベース（JGRAD）におけるウェブアンケート調査－」公表（2021/09/01）

<https://www.nistep.go.jp/archives/48312>

日本学生支援機構

令和2年度(2020年度)障害のある学生の修学支援に関する実態調査公表 (2021/08/31)

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/2020.html

内閣府

第56回総合科学技術・イノベーション会議開催 (2021/08/26)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihui056/haihu-056.html>

議事

大学改革の方向性について

- ・世界と伍するトップ研究大学の在り方について
- ・地域中核大学の在り方について

Times Higher Education

World University Rankings 2022 (2021/09/02)

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2022/world-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats

東洋大学は1201+にランクイン (昨年2021: 1001+)

※ランキング対象 2021: 1486校、2022: 1662校 (2021から136校増)

●関連リンク

Between情報サイト

「THE世界大学ランキング 東大が過去最高の35位タイ、京大は61位」

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/09/THE.html>

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブはこちら

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

●海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#) (大学改革支援・学位授与機構)
- ・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【3】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

白山キャンパスと川越キャンパスにおいて、
新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種がはじまりました。

○東洋大学ワクチン大学拠点接種ポータルサイト

<https://www.toyo.ac.jp/vaccine/main/>

○大学 後期授業が開始 ワクチンの職域接種に多くの学生訪れる (NHK MEWS WEB)

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210906/k10013247291000.html>

※動画で白山キャンパスの職域接種の様子をご覧ください

ワクチン接種会場から出てこられた学生の方が、
白山キャンパス8号館をスマホで撮影している場面を何度か見かけました。

久しぶりに来た大学の景色を残したかったのでしょうか。
ワクチン接種をした記録をおさめたかったのでしょうか。
学生から見た大学の景色がどのように映ったのか、気になりました。

●みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

いつもあたたかいコメントをお寄せいただきありがとうございます。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター



「各キャンパスのラーニングサポート体制」（出典：2020年度父母懇談会ガイドブック）.pdf

644K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.9, 通算第62号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年9月29日 Vol.4, No.9（通算第62号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第6回 本学の国際教育・交流（高橋 一男）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】Quick links

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第6回 本学の国際教育・交流 高橋 一男（国際教育センター長／国際学部国際地域学科）

1. 国際教育センターの目的

国際教育センター（以下、センター）は、全学のグローバル化のための企画立案及びその事業を推進することを目的とする全学組織である。その目的達成のため国際教育センター運営委員会（以下、運営委員会）と2つの専門委員会が置かれている。

運営委員会は、センター長、副センター長（3名）、教務部長、各学部で選出された専任教員（13名）、各キャンパスで選出された研究科委員（4名）、国際部長、センター長が推薦する教職員（3名）、合計26名で構成され毎月第3月曜日に開催されている。このほか留学支援のための英語特別教育科目専門委員会（LEAP、委員16名）及び交換留学生のための初修日本語・日本文化科目専門委員会（委員6名）が設置されている。

2. センターが取り組んでいる9つの事業

センターが上記で示した目的を達成するために取り組んでいる基本的な事業は次の9つに分類される。

- ①外国語力強化プログラムに関する事業
- ②留学生に対する教育支援に関する事業
- ③Toyo Global Leaderプログラムの推進に関する事業
- ④各種留学プログラム（派遣及び受入）の推進に関する事業
- ⑤海外インターンシップ及び海外ボランティア活動の推進に関する事業
- ⑥国際学術交流に関する事業
- ⑦協定校の開拓及び全学的な海外拠点の運営に関する事業
- ⑧グローバル化推進プログラムの研究、開発及び実施に関する事業
- ⑨その他の目的を達成するために必要な事業

このほかにグローバル化推進の状況に応じた対応を適宜行っている。2020年度の事業活動については『2020国際教育センター年報』*を参照されたい。

*(<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/ipo/publications/>)

3. コロナ禍の国際教育・交流

2020年2～3月、新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進んだ時期に、27カ国に留学中の学生197名に対して学長名で帰国勧告を行った。新型コロナウイルス感染症の実態がまだよく明らかになっていない状況下であり学生の安全を第一に考えて帰国勧告を発出した。それ以来、実渡航を伴う留学等の国際教育・交流は止まったままになっていたが、2021年にワクチン接種が進む中、6月にガイドライン6を改正して特例措置による学生、教職員の中長期の渡航が認められるようになった。その結果、2021年度秋学期特例措置によって原則2回のワクチン接種を終え且つ派遣先の大学等の受け入れ体制が十分整っていると判断された学生54名（9月10日現在）が交換留学生として派遣され、今後出発予定の学生29名を含めると合計83名が渡航することになっている。同時に教員の海外特別研究、交換研究等も特例措置として認められ渡航準備が始められている。

国際教育センターでは、先の帰国勧告発出以来、2021年度は渡航を伴う国際教育・交流を停滞させてはいけないとの認識のもとで、オンラインによる交流機会を設けてきた。

・短期（派遣）留学プログラム

2020年度春季プログラムでは142名、2021年度夏季プログラムには246名がそれぞれオンラインで各プログラムに参加した。

・国際学生ミーティング

国際学生ミーティング（Online Student Meeting）は、コロナ禍における新しい国際教育・交流の形として、東洋大学と海外の協定大学をオンラインで結び、学生による交流を深めることを目的に実施している。各ミーティングではあらかじめテーマ（大学紹介、学生生活、コロナ禍での学生生活の変化、学生が紹介したい自文化・知りたい他文化、SDGsの実践など）が設定され、参加者はテーマについて事前に準備した内容をもとにオンラインで自由に意見交換を行う。各大学とは日本語または英語で学期中に3回程度実施している。多くの学生に異文化理解の機会を促進するねらいもあり、日本語を学んでいる協定校の学生とのミーティングを優先することも配慮している。2020年6月から2021年8月までに本学学生は延べ356名が参加している。ミーティングを行った大学（10校）及び直近に行う予定の大学（2校）は次の通りである。

ポーロニヤ大学、チェンマイ大学、タマサート大学、チュラロンコーン大学、ダルマプルサダ大学、暨南大学、ダッカ大学、大連外国語大学、韓国外国語大学、アムステルダム応用科学大学、カーティン大学、ハノイ銀行学院大学

以上12協定校とのミーティングの他に、「留学生（Iターン）就職促進プログラム（2017年に採択され5年間の事業を実施している）」担当のセンター教員による提案で、学内の私費留学生と国内生の親睦を深め、知識と経験を共有することを目的とする学内国際学生ミーティングも実施している。

・模擬国連

2020年度からUMAP加盟大学に呼びかけて学生アンバサダーを募り、SDGsをテーマとする模擬国連会議を2021年3月に実施した。世界12カ国、19教育機関から88名が参加した。今後の模擬国連は協定校にも働きかけて国際教育センターの主催で年に1回開催することを目標としている。学内でもSDGsアンバサダーを育成するプログラムを検討している。

・留学生就職促進プログラム

先にふれたとおり本学は2017年度に「留学生（Iターン）就職促進プログラム」に採択され本年が最終年度にあたる。島根県、石川県、新潟県、長岡市、日立市、島根大学、金沢星稜大学とコンソーシアムを組んで留学生のIターン就職を促進する事業として文部科学省から委託を受けて実施している。地方都市の企業におけるインターンシップを核とした取組であるが、コロナ禍でのインターンシップはオンラインに依存しなければならず、企業サイドの積極的な参加が望めない状況である。それでもこれまでに学生を受け入れた経験のある企業、経営者団体、自治体等の協力を得てオンラインインターンシップを実施して企業側との信頼関係が構築できている。今後も継続して企業、経営者団体等と交流しながら留学生の採用に向けたプログラムの提案を行っていく。

・ビジネス日本語ポイント講座

留学生就職促進プログラムの一環としてビジネス日本語教育に力を入れてきた。留学生を採用する企業としては職場のチームワークを重視すると同時にビジネスシーンで使われる日本語能力を重んじていることが明確になった。そのため21カリ改訂ではセンター開講の基盤教育科目としてのビジネス日本語と日本文化のコースを増設している。

留学生の日本における就職率（60%以上を目指す）をさらに向上させるためにはビジネス日本語教育を徹底して行うことが重要であることを把握することができたので、2020年度夏季休暇及び春季休暇、2021年度夏季休暇を利用した集中講義を実施したところ思わぬ成果が得られた。

協定校、国際交流基金等の国際教育・交流に関わる国際機関、学会等を通して周知し、1日2講座、10日間の集中講義をオンラインプログラム（ハイフレックス方式）授業として実施した。受講料を無料にしたこともあって、最大で世界73の国・地域から申込みがあった。延べ申込者数は17,000名から24,000名に増加、実受講者数も1,800名を超える結果となった。これだけ大きなビジネス日本語教育需要があることがわかった。今後はこの分野をさらに発展させて、評価指標としてビジネス日本語検定J1+（ジェーワンプラス、ネイティブ相当）レベルの「高度日本語人材の育成」を本学のブランドとして育てていきたいと考えている。

（参考）ビジネス日本語ポイント講座申込実績

	2020年度夏季	2020年度春季	2021年度夏季
延べ申込者数	17,268名	22,505名	24,562名
実申込者数	1,826名	1,897名	1,875名

4. 今後の課題

2014年に「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」タイプBに採択されて以来、本学はグローバル化に大きく舵を切った。2017年には「留学生（Iターン）就職促進プログラム」に採択され留学生の日本における就職を促進、飛躍させることに取り組んでいる。2021年7月にはSGU採択校並びに大学の世界展開力強化事業採択校の間で連携を図り国際競争力を促進することを目的とした「大学の国際化促進フォーラムプロジェクト」において、本学は「アジア・太平洋地域におけるオンライン協働教育—UMAPを基盤とするSDGsオンライン協働学習とバーチャル模擬国連—」、『東洋大学「ビジネス日本語」オンライン講座を通じた高度日本語人材の育成』の2つのプロ

ジェクトを提案し、採択された。

このようにセンターは大学全体のグローバル化を推進しているが、**SGU中間評価**、SGU外部評価委員会評価、**ISAS2.0**の勧告等で指摘された課題が残されている。

語学能力の指標としてあげているTOEICスコアの500点未満の学生への対策、留学無関心層へのインセンティブの模索、あと一歩というところで足踏みをしているTGLポイント獲得者のアップグレード対策等が課題となっている。2024年度以降の**SGU自走化**に向けた準備を2022年度半ばまでに立案し精査をしていかなければならない。現在、自走化に向けた学科、大学院専攻科単位の対応について学科長、専攻長の皆さんにアンケートをお願いしている。それらを踏まえて11月～12月にかけて学部、研究科、事務局との意見交換を行って自走化案を練りたい。

私たちはコロナ禍において教育、研究、教育行政等において多くの経験を積んだ。コロナ禍でも学びを止めない運営を継続している。今後は2019年以前の大学に戻るのではなく、DX変革とともに大学が置かれている環境に柔軟に対応してその役割を追求することが求められている。国際教育・交流においても同様である。各位のご協力を引き続きお願いしたい。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。

2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、

現在までに、大学基準協会による書面評価が実施されました。

9月24日～25日には、2日間にわたりオンラインでの実地調査が行われました。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、高橋センター長にご寄稿いただいた国際教育センターの活動については、

第4、7章をぜひご一読ください。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

第9章 社会連携・社会貢献

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

学校法人ガバナンス改革会議（第5回）（2021/09/09）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/115/siryo/mext_00011.html

議題

- 1.私立学校関係団体からのヒアリング
- 2.学校法人のガバナンスについて
- 3.その他

世界と伍する研究大学の実現に向けた制度改正等のための検討会議（第1回）（2021/09/07）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/065/siryo/000017833.html

質保証システム部会(第11回) (2021/09/17)

https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/mext_00269.html

議題

1. 検討会議の議事運営等について
2. 「世界と伍する研究大学専門調査会」の検討状況について
3. 特定研究大学制度（仮称）の検討の進め方について
4. 特定研究大学（仮称）に求められるガバナンスについて
5. その他

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員懇談会（2021/09/09）

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210909_1.html

議題

1. 「ヒト受精卵へのゲノム編集技術等の利用」に係る検討状況（第三次報告(案)の取りまとめ等）について

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第4回）（2021/09/09）

https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210909_2.html

議題

1. 日本学術会議 令和4年度予算概算要求について
2. 尾池和夫 元日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議座長との意見交換等【非公開】

総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員懇談会（2021/09/16）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210916.html>

議題

1. ムーンショット型研究開発制度の新たな目標案について

総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ（2021/09/16）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/1kai/1kai.html>

議題

1. キックオフミーティングの議論を踏まえた論点整理～「時間」の確保・再配分について～
2. その他

OECD

OECD報告書「図表で見る教育2021年版」公表（2021/09/16）

https://www.oecd.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00082.html

QS Quacquarelli Symonds

「QS Graduate Employability Rankings 2022」発表（2021/09/24）

https://www.topuniversities.com/university-rankings/employability-rankings/2022?utm_source=topnav

○参考リンク

KEIアドバンス「日本の大学がエンプロイアビリティでアジアをリード～英QS社 各大学と卒業生の就職（被雇用能力の育成）についてランキング。東大は世界25位～」

<https://www.kawaijuku.jp/jp/news/detail.html?id=462>

マイナビ

「マイナビ 2021年度キャリア・就職支援への取り組み調査」発表（2021/09/16）

https://www.mynavi.jp/news/2021/09/post_31855.html

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・ 高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・ 海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・ 「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

- [高等教育推進センターホームページ](#)
- [高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース](#) ※ToyoNet-ACE
- [ニュースレターバックナンバー](#) ※Googleグループ
- [TOYO FD・SD Channel](#) ※ToyoNet-ACE
- [学外FD・SD研修会情報](#) ※ガルーン
- [English Support Service \(ESS\)](#) ※ガルーン
- [高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム](#)
- [高等教育推進センターニュースレター読者アンケート](#) ※Googleフォーム

【4】 あとがき

- みなさまの声をお寄せください

[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

いつもあたたかいコメントをお寄せいただきありがとうございます。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.4, No.10, 通算第63号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター
2021年10月26日 Vol.4, No.10 (通算第63号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SDに関するお知らせ

- ・ English Support Service "Tips動画" のご紹介 (高等教育推進支援室)
- ・ 2021年度会計処理ミス防止対応講習会 (経理部経理課)

【2】高等教育政策動向等

【3】Quick links

【1】FD・SDに関するお知らせ

English Support Service "Tips動画" のご紹介 (高等教育推進支援室)

高等教育推進センターでは、マンツーマンによる英語表現のコンサルテーションサービス、「English Support Service」を実施しています。

ESS担当のBrad講師、鴨澤講師による
英語での授業運営に関するTips動画を作成いたしましたので、ぜひご覧ください。

A. よりよいプレゼンテーションをするには (05:09 / Brad講師)

効果的なスライドの作り方、Nonverbal Communication など
プレゼンテーションや英語による講義での注意点を確認できます。

https://youtu.be/_HLXDF_ohbg

B. 日本人の『あるある』英文法間違い (05:31 / Brad講師)

"We discussed about the project."など、
日本人が間違えやすい文法ポイントをいくつかピックアップしきめ細かく解説します。

<https://youtu.be/AHKsGrIfoSI>

C. 授業準備-Instructional Language (4:26 / 鴨澤講師)

英語での講義を始めるにあたり、何から準備すればいいのか、
どういった点に特に注意すればいいのか、まずは初歩的なTipsをまとめています。

<https://youtu.be/CfdbzP8HGGk>

D. 授業の始め方-Warming Up (4:22 / 鴨澤講師)

実際に英語で講義をする上で、特によく使う頻出表現を
まとめています。すぐにでもご活用いただけます。

<https://youtu.be/fUFCNzAh4Oc>

A～Dの動画にあわせて、スライド資料もご参照ください。
<https://drive.google.com/drive/folders/19DQ4D2nEwSZ3eFZYLwPczRWNJAGjFCGF?usp=sharing>

ESSでは、ネイティブ講師 (水曜日は日本人講師) による
個別コンサルテーションを受け付けております。

具体的には、

- ・ シラバスや授業設計について
- ・ 英語でのクラスマネジメントについて
- ・ 授業のための英語プレゼンテーションやスピーキング練習

・論文要旨や事務文書等の英文表現チェック
など、幅広くサポートが可能で、70名近くの方にご登録いただいております。

まずはお気軽に下記より初期登録をお済ませください。

<https://www.biz.ecc.co.jp/toyoes/>（※PW：toyoes）

● 2021年度 English Support Service 詳細

利用対象

専任教職員

サポート内容

- ① シラバスや授業設計について
- ② 英語でのクラスマネジメントについて
- ③ 授業のための英語プレゼンテーションやスピーキング練習
- ④ 論文要旨や事務文書等の英文表現チェック
- ⑤ その他

= 対応できない事柄 =

- ×日本語から英語への「全文翻訳」
- ×英文の「全文チェック」
- ×テクニカルターム（専門用語）のチェック

実施スケジュール・場所

詳細につきましては、次の特設ページをご覧ください。

URL : <https://www.biz.ecc.co.jp/toyoes/index.php>

パスワード : toyoes

- ・開講時間：10:30-14:25（25分単位で予約が可能）
- ・担当講師：月・火・木・金曜日→ネイティブ講師 / 水曜日→日本人講師
- ・受講形態：対面（白山キャンパス9号館2階）もしくはWebexによるオンライン

予約方法

- Step1 特設ページより「初回登録（ID発行）」
Step2 ID/PWをメールにて受領（翌営業日までにお送りいたします）
Step3 特設ページ「予約サイト」より予約

予約ルール

利用に際して、利用者の利便性維持の観点から、以下の点をご留意下さい。

- A) 1日の連続予約可能は2コマ（最大55分）まで
B) 1週間あたりの最大利用回数は1回（連続予約の場合は2コマ）まで
C) 1回に予約できるのは1回分のみ（＝新たな予約は受講後翌日以降可能）

※ ただし、前日/当日に空きがある場合は予約回数制限なし。
（予約時間の制限は適用されるため、1日の最大利用可能は2コマまで。）

お問い合わせ

高等教育推進支援室・株式会社ECC（運営委託）

Mail : ml-ess.unei@toyo.jp

2021年度会計処理ミス防止対応講習会（経理部経理課）※職員必見!

毎年、経理部経理課では主に職員を対象に、
会計処理ミス防止対応講習会を開催しています。ぜひご参加ください。

主な対象 職員

実施方式 Web形式

開講期間 9月21日（火）～10月30日（土）

聴講方法 下記URLより、開講期間中の任意の時間に受講いただけます。

【講習会動画】

0. はじめに（13分）
1. 検収とは何か（16分）
2. 決算とは何か（12分）

【視聴後のアンケート】

受講後はアンケートにご協力ください（アンケートは[こちら](#)）。

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

科学技術・学術審議会学術分科会 研究費部会（第3回）（2021/09/27）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2021/mext_00009.html

議題

- 1.令和4年度概算要求について
- 2.若手研究者支援の改善・充実について
- 3.今後の基盤研究のあり方について
- 4.基盤研究（B）における合同審査の検討状況について

法科大学院等特別委員会（第104回）（2021/09/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/041/1421098_00002.htm

議題

- 1.連携法曹基礎課程について

教育課程部会（第126回）（2021/09/30）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryoy/mext_00005.html

議題

- 1.社会に開かれた教育課程について

【事務連絡】令和3年度後期の大学等における授業の実施と感染症対策の留意事項について（2021/09/30）

https://www.mext.go.jp/content/20210930-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

大学拠点接種等による新型コロナウイルスワクチン接種状況について（2021/10/01）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_01530.html

文部科学省において、大学、短期大学、高等専門学校における学生や教職員等を対象とした、大学拠点接種等による新型コロナウイルスワクチン接種の実施状況の全体像を把握するための調査が実施されました。

大学院部会（第102回）（2021/10/01）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/1422801_00002.html

議題

- 1.今期大学院部会の主要議題について
- 2.人文・社会科学系の大学院のあり方について
- 3.令和4年度概算要求について

原子力科学技術委員会 原子力研究開発・基盤・人材作業部会 群分離・核変換技術評価タスクフォース（第3回）（2021/10/05）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/106/siryoy/1422932_00001.htm

議題

- 1.今後の研究開発の方向性について
- 2.タスクフォースとりまとめ（素案）について

研究開発基盤部会（第11回）（2021/10/07）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu28/siryoy/mext_00002.html

議題

- 1.文部科学省の組織再編について
- 2.研究基盤に関する取組について

生命科学・医学系研究等における個人情報の取扱い等に関する合同会議（第2回）（2021/10/11）

<https://www.lifescience.mext.go.jp/council/council019.html>

議題

- 1.個人情報保護法の改正について
- 2.タスクフォースの検討状況について
- 3.遺伝子治療等臨床研究に関する指針一部改正に係る今後の検討方針について

大学分科会（第163回）（2021/10/12）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/kaisai/1422340_00015.html

議題

- 1.認証評価機関の認証について（諮問）

- 2.国際連携教育課程制度（ジョイント・ディグリー）の見直しについて
- 3.職業能力開発短期大学校から大学への編入学について
- 4.魅力ある地方大学の在り方について
- 5.大学ファンド創設に関する状況と大学研究力強化に向けた取組について
- 6.質保証システム部会における作業チームの設置について

科学技術・学術審議会（第66回）（2021/10/13）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu0/shiryo/mext_00010.html

議題

- 1.第11期の活動について
- 2.委員会の設置について
- 3.最近の科学技術・学術の動向について

世界と伍する研究大学の実現に向けた制度改革等のための検討会議（第2回）（2021/10/14）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/065/siryo/000017833_00002.html

議題

- 1.特定研究大学制度（仮称）の構築に向けて（1 ガバナンスについて、2 規制緩和等について、3 指定・評価について）

科学技術・学術政策研究所「全国イノベーション調査 2020 年調査統計報告」の公表について（2021/10/15）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1422310_00014.htm

生涯学習分科会（第113回）（2021/10/19）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryo/1422064_00009.htm

議題

- 1.第11期生涯学習分科会の検討課題について

令和3年度 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会（2021/10/20）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1419601_00005.htm

科学技術・学術政策研究所

全国イノベーション調査2020年調査統計報告 [NISTEP REPORT No.192] の公表について（2021/10/15）

<https://www.nistep.go.jp/archives/48615>

日本学生支援機構

「令和2年度学生生活調査」結果（大学昼間部（速報値））を公表しました（2021/09/30）

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2020.html

大学入試センター

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況について（2021/10/01）

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html

令和4(2022)年度に高等学校に入学する者から、平成30(2018)年3月に告示された新しい学習指導要領により学ぶことを受け、令和7(2025)年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストは、新学習指導要領に対応した試験となります。

令和4年度大学入学共通テストの出願状況（受付最終日）（2021/10/07）

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040800.pdf&n=%E5%87%BA%E9%A1%98%E7%8A%B6%E6%B3%81%28%E5%8F%97%E4%BB%98%E6%9C%80%E7%B5%82%E6%97%A5%29R4.pdf>

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議（第57回）（2021/09/28）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/siryo/haihu057/haihu-057.html>

議題

- 1.ムーンショット型研究開発制度の目標設定について

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2021/09/30）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210930.html>

議題

- 1.総合知を戦略的に推進する方策（総合知戦略）の検討について

総合科学技術・イノベーション会議 世界と伍する研究大学専門調査会（第9回）（2021/10/08）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/9kai/9kai.html>

議題

1.大学ファンドによる支援の基本的考え方について

教育・人材育成ワーキンググループ（第2回）（2021/10/14）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/2kai/2kai.html>

議題

1.これまでの議論を踏まえた論点整理（案）～「人材」の確保・再配分について～

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会（2021/10/21）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211021.html>

議題

1.地域の中核となる大学振興パッケージについて

日本私立大学連盟

文部科学省「学校法人ガバナンス改革会議」に改めて意見提出（2021/10/05）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3390

私費留学生等の入国緩和を文部科学省・法務省・外務省に要望（2021/10/07）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3373

提言「ポストコロナ時代の大学のあり方」における図書館等の記述について（2021/10/21）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3412

日本私立大学振興・共済事業団

令和3（2021）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 更新（2021/09/28）

https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm

●参考リンク

「私大の入学定員充足率は99.8%で初の定員割れ－私学事業団調査」『Between情報サイト』（2021/09/29）

<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2021/09/shidaijusoku.html>

日本私立大学情報教育協会

『大学教育と情報』2021年度No.2（通巻175号）特集「社会人の学び直しDX化～大学でのリカレント教育の積極化とオンライン化」（2021/09/30）

<https://www.juce.jp/LINK/journal/2201/mokuji.html>

日本経済団体連合会

GIGAスクール構想の確実な実施に向けた緊急提言（2021/10/15）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2021/095.html>

進研アド

『Between』「みんなで回そう！教学マネジメント」2021年9-10月号（2021/09/28）

<http://between.shinken-ad.co.jp/between/2021/09/20219-10.html>

リクルート進学総研

『カレッジマネジメント』「大学ブランド 未来の指標」Vol.230 Oct.-Dec. 2021（2021/10/06）

http://souken.shingakunet.com/college_m/

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
- 高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- 海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- 「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

本日のニュースレターでは、FD・SDに関する動画を7本ご紹介しました。
 わたしも、2021年度会計処理ミス防止対応講習会を視聴しました。
 「検収とは何か」「決算とは何か」について、よく分かっていなかったことを痛感しました。
 講習会を受けてから、日頃の検収や支払処理業務に向き合う姿勢が変わったように感じています。

- みなさまの声をお寄せください
- [読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
 最短10秒で回答が完了します。
 いつもあたたいコメントをお寄せいただきありがとうございます。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター
 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
 E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.11, 通算第64号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター
2021年11月17日 Vol.4, No.11（通算第64号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】FD・SD研修会参加報告

第1回 COIL（Collaborative Online International Learning）と留学の効果の測定（伊藤 大将）

【2】高等教育政策動向等

【3】Quick links

【1】FD・SD研修会参加報告

第1回 COIL（Collaborative Online International Learning）と留学の効果の測定
伊藤 大将（国際学部グローバル・イノベーション学科）

参加した研修会の概要

8月26日と27日、国際教育研究コンソーシアムが主催した国際教育夏季研究大会に参加しました。コロナ禍のため、オンラインでの開催でした。私が2日間に渡り参加したワークショップは大きく2つに分けられます。1つは留学の効果測定するもの、もう1つは学生間のオンラインでの協働を通してグローバル・コンピテンシーを高めるCOILです。

研修会で得られた知見

留学の効果の測定

グローバル化に伴い、多くの大学が学生に留学を勧めています。その中で留学の効果を検証しようとする動きがあり、測定方法は複数ありますが、米国の心理学者によって開発されたBEVI（Beliefs Events, and Values Inventory）が様々な日本の大学で使用され始めています。BEVIでは、批判的思考、自己や他者の理解、世界の理解、ジェンダーや環境に対する意識といったものまで測定できます。例えば、留学前と留学後にBEVIを学生に受けてもらい、それぞれの分野の点数が伸びているのかどうか個人内の変化について分析することもできれば、大学レベルで結果を出して他大学と比較することもできます。

BEVIは有益なツールであるという認識は私も共有していますが、個人的な意見として現時点では導入をためらう点が3つあると考えます。1つ目は使用には費用がかかること、2つ目は質問数が多く回答者にとっては負担が大きいこと、3つ目は世界共通の尺度の使用には疑問が残ること、です。特に3つ目は、テストの信頼度に関わってきます。BEVIは米国外でもテストはされていますが、被験者数は米国と比べると少なく、十分であるとは言えません。実際に使用した研究者の報告によると宗教観（religious traditionalism）の質問については質問がよくわからないという問い合わせがあったようで、文化的背景によっては理解しにくい質問があるようです。

私が国際学会で海外で作られた尺度を用いて日本人を対象に研究を行って発表すると、その尺度の信頼性（reliability）と妥当性（validity）について疑問を投げかけられることがあります。同様に留学効果の測定の尺度は海外で作られたものを日本語に訳して応用するのではなく、日本バージョンを1から作成してもいいのではないかと考えます。日本の文化的背景や留学の目的を反映させることができる上、無償での配布や質問数をできるだけ少なくすることもできるため利点が多くあります。ただし尺度の開発には手間と時間とお金がかかることが難点です。BEVIに関しては、数時間のワークショップだけで全体を理解するのは不可能ですので、さらに細かく学び、理解を深め、日本版留学効果尺度を開発すべきか、BEVI（あるいはほかの既存の尺度）を使用したほうがいいのか検討していきたいと思います。

COIL

COILはCollaborative Online International Learningの略で、特にコロナ禍で海外へ行くことが難しい今、COILに対する注目は大きいと言えます。COILでは、例えば東洋大学の教員と海外の大学の教員が協働してプロジェクトを考え、それをそれぞれの授業の中に組み込みます。協働する教員が同じ授業を教えている必要はありません。授業が始まったら、両国の学生がお互いを知るためのアイスブレイクを行い、協働でプロジェクトに取り組み、最後に振り返りを行うというのが単純な流れです。

私はまだCOILを実施したことはありませんが、ランゲージ・エクステンジ（LE）はしたことがあります。LEと比較して、COILをする上で気になったのが、学生の能力がアンバランスなケースです。例えば、日本の学生とアメリカの学生が英語を共通言語として協働する場

合、アメリカの学生が日本の学生を常に助けるという構造ができてしまい、本当の意味でのコラボレーションにならないのではないかという懸念です。セッションで質問したところ、それぞれのグループがプロジェクトの中で同じタスクをするように仕向けなくてもいいということでした。例えば、日本とアメリカの働き方の比較をして、それをインタビュー形式にまとめるというプロジェクトの場合、アメリカの学生が日本とアメリカの働き方を調査し内容を精査するというタスクを行い、日本の学生はインタビューらしくなるように編集したり、文字を入れたりといったテクノロジーのタスクを行うというコラボレーションでもいいということでした（この場合、アメリカの授業は社会学で、日本の授業は情報リテラシーと考えられます）。タスクの量に関しても、アメリカの教員がこのプロジェクトの8割はアメリカチームがする、その代わり成績の割合も大きくなる等、きちんと事前に決めてそれを学生と共有すればいいとのことでした。また英語が母語ではない国の学生が第二言語としてプロジェクトに参加することは難しいことであるとアメリカの学生が学ぶことも、グローバル・コンピテンシーの一部であると返答があり、まさにその通りだと思いました。

最後に、大会に参加して最も印象に残ったのが、NPO法人WELgee代表理事を務める渡部カンコロンゴ清花さんが、「オンラインでどれだけ国際交流をしても、現地に行くことの代替にはならない」と発言したことでした。私自身も長い間アメリカに滞在し（計10年）、1年の交換留学ではわからなかったことが理解できたりしました。COILを用いて広く学生に国際経験を積ませることは大切であると思いますが、すべてがオンラインで代替できるのではなく、海外に行かなければ学べないこともあると心に留めておくことは大切だと感じました。

● 研修会情報

研修会名：国際教育夏季研究大会

主 催：国際教育研究コンソーシアム

開催日：2021年8月26日～27日

会 場：オンライン

URL：<https://siej.org/>

高等教育推進センターでは、学外で開催されるFD・SD研修会の周知及び参加に伴う経費支援をおこなっています。

参加された方には参加報告書のご提出をお願いしており、研修によって得られた知見を学内で共有し、本学のFD・SD推進につなげていく観点から、報告者より承諾を得た場合に限り、本ニュースレターへの掲載にご協力をいただいております。

皆さまのご参加・ご報告をお待ちしております。（高等教育推進支援室）

● 関連リンク：学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

学校法人ガバナンス改革会議（第8回）（2021/10/28）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/115/siryo/mext_00015.html

議題

1. 学校法人のガバナンスについて
2. 内部統制システム、会計監査人について

大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等の策定に関する検討会（第2回）（2021/11/08）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/gijyutu/036/siryo/mext_00003.html

議題

1. 共用化のためのガイドライン等の検討について

学校法人ガバナンス改革会議（第9回）（2021/11/11）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/115/siryo/mext_00016.html

議題

1. 内部統制システム、会計監査人について
2. 情報開示について
3. 学校法人のガバナンスについて

科学技術・学術政策研究所

「研究活動把握データベースを用いた研究活動の実態把握(研究室パネル調査2020):基礎的な発見事実」公表（2021/10/27）

<https://www.nistep.go.jp/archives/48853>

「専門家が注目する科学技術に関するアンケート調査（NISTEP注目科学技術2020）」公表（2021/10/29）

<https://www.nistep.go.jp/archives/48900>

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ (2021/10/27)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/3kai/3kai.html>

議題

- 1.これまでの議論を踏まえた論点整理(案)～「財源」の確保・再配分について～
- 2.委員発表(戸ヶ崎委員)
- 3.これまでの議論を踏まえた全体を通した議論

日本学術会議の在り方に関する政策討議(第5回) (2021/10/28)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211028.html>

議題

- 1.日本学術会議 改革の進捗状況について
- 2.「日本学術会議のより良い役割発揮にむけて」について意見交換等【非公開】

評価専門調査会(第140回) (2021/10/29)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/hyouka/haihu140/haihu-si140.html>

議題

- 1.第6期科学技術・イノベーション基本計画の評価の進め方

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会(2021/11/11)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211111.html>

議題

- 1.総合知を戦略的に推進する方策(総合知戦略)の検討について

生命倫理専門調査会(第129回) (2021/11/11)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/life/haihu129/haihu-si129.html>

議題

- 1.第128回「生命倫理専門調査会」議事概要(案)
- 2.「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告(第三次)(案)のパブリックコメントの結果報告
- 3.「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告(第三次)～研究用新規胚の作成を伴うゲノム編集技術等の利用等について～(案)について
- 4.今後の検討議題について

日本学術振興会

「人文科学・社会科学におけるデータ共有のための手引き」掲載(2021/11/08)

<https://www.jsps.go.jp/j-di/guide.html>

日本学生支援機構

令和2年度実態調査結果における障害学生数の減少等について(2021/10/26)

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/_icsFiles/afieldfile/2021/10/18/decrease_in_2020.pdf

日本私立学校振興・共済事業団

「2022年度 学術研究振興資金 応募状況」更新(2021/10/27)

https://www.shigaku.go.jp/files/s_shikin_2022oubo.pdf

マイナビ

「マイナビ 2023年卒大学生インターンシップ調査(中間総括)」発表(2021/10/29)

https://www.mynavi.jp/news/2021/10/post_32344.html

QS

QS University Rankings for Asian 2022 発表(2021/11/02)

<https://www.topuniversities.com/university-rankings/asian-university-rankings/2022>

●参考リンク

KEIアドバンス「QSアジア大学ランキング2022 日本の大学は国際競争力の向上が必要ーランキングで明らかに」

<https://www.keiadvanced.jp/news/353.html>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#) (大学改革支援・学位授与機構)
 - ・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【3】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 書籍借用申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

ガルーン掲示板にて、学外で開催されるFD・SD研修会情報を多数掲出しております。

皆さまのご参加・ご報告をお待ちしております。

「シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand」は次号から再開いたします。

- みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。

最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.12, 通算第65号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2021年11月30日 Vol.4, No.12（通算第65号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第7回 東洋大学全体の研究力強化に向けて（川口 英夫）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】Quick links

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand

第7回 東洋大学全体の研究力強化に向けて

川口 英夫（副学長／学術研究推進センター長／研究推進部長／生命科学部・教授）

学術研究推進センターの位置付けと機能

学術研究推進センターって何をしているところ？と多くの方は思われていると推測します。実は私も昨年初めまでその一人でした。本センターについて、少々堅苦しいのですが先ず定義からご紹介します。本センターは、『[学校法人東洋大学 組織図](#)』によると、学長の下にあり、7つの附置研究所を統括する位置付けです。因みに、7つの附置研究所は、①人間科学総合研究所、②現代社会総合研究所、③東洋学研究所、④アジア文化研究所、⑤地域活性化研究所、⑥工業技術研究所、⑦ライフイノベーション研究所、です。しかしながら、本センターの名称からも類推できる通り、『東洋大学の研究全体を統括し、推進すること』を本務とします。実際、『東洋大学学術研究推進センター規程』には下記のように定めてあります。

第1条（中略）本学が卓越した研究力を有する大学としての地位を確立し、国際的にも高い水準の研究拠点を有する大学として認知されることを目的とする。

第2条 推進センターは、研究活動の開始から研究成果の社会への還元までを支援し、本学における学術研究の一層の推進を図るために、次の活動を行う。その活動を進めるに当たっては、社会貢献センター、産官学連携推進センター等必要な組織と連携する。

(1) 研究力強化及び研究高度化のための中長期計画の策定

(2) 複数の研究分野を横断する個性的で先端的な本学として重点を置く研究プロジェクトの企画推進及び大型補助金等へ申請する研究プロジェクトの選定

（中略）

(10) 大学院教育との連携による次代を担う若手研究者の育成の推進

省略した部分には、各種の連携推進から情報収集、学内外への広報に至るまで、多岐に亘るミッションが列挙されています。本センターは研究推進部とある意味一体となって運営していますが、それでも十分には対応できないほど広範で重要なミッションばかりと改めて思います。

上記のことをベースに、今現在、本センターが注力していることは次の2つです。

- (a) 研究力強化の具体策の策定、実施
- (b) 全学的な研究環境の整備、特に研究倫理審査体制の整理・構築

以下に、これら2つについて詳しく述べます。

研究力強化

高等教育機関としての大学の矜持として研究力の強化は必然である、と多くの方がご賛同いただけるものと思います。[学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」](#)には、『研究の高度化が教育の高度化を牽引し、研究活動と教育活動の高度化が地域貢献・地域連携活動の高度化を推進する』と明記されています。さらに『とりわけ起点となる研究活動においては主体的に社会の課題に取り組むことで、新しい価値を創造し明るい未来を描くことを期待する』と述べられています。とは言え、研究力強化・研究の高度化をどう具体的に実現するのか、簡単ではありません。

その一つの取り掛かりとして『大学院の活性化』が考えられます。本センターにおいても昨年度から議論を重ねています。その中で効果的な方策の一つとして、『学生・保護者に大学院進学を進路の一つとして意識してもらう』ことであるとの結論を得ました。理系では入学時から、文系では3年次の進路決定時に大学院のことを宣伝する、さらに『社会に出るのが2年遅れても、生涯賃金は約5,000万円高い』という厚生労働省の統計値（※1）も合わせて紹介する、というものです。実際にこの方策を実行し、4年間で大学院進学者を倍増させた学科があります。また、今年度初めから法人・教学と一緒に意見交換する大学院活性化検討会が開催され、経営企画本部の取りまとめで整理され、予算申請も含め実行フェーズに移行しつつあります。一方、研究科長会議のタスクフォースでは本件が長年議論され、その結果が幾つかの提言としてまとめられています。今後、ポストコロナ時代を見据えた実行が検討されています。これらの各部署と強力に連携して目的を達成できればと考えています。

学内研究投資の面では、単年度予算では実現できなかった息の長い大型の研究支援制度が、[東洋大学重点研究](#)として2019年度から実施されています（3年間のファンドであるが再採択を妨げない）。すでに7つのプロジェクトが採択され、1件当たり年3,000万円を上限とした投資が実行されています。総合大学である東洋大学の強みを生かすため、研究チームは学部横断・文理融合であることを応募要件としています。将来、東洋大学を代表する研究に育ち、国内外にその成果が認められると共に、大型の外部資金獲得につながることを期待しています。

国内外の研究交流事業、例えば学会・研究会だけでなく共同研究の打ち合わせまでもが、ここ2年間のコロナ禍で止まってしまいました。代わりに通信インフラを活用したリモート学会・シンポジウムやリモート会議が多く実施されています。これによる効率化はもちろん有難いことも多いのですが、それでも、新規なアイデアは、例えば対面式で実施されていた従来の学会のように、予期せぬ出会いやたまたま耳にした発表から生じたものが多いように思います。いわゆるセレンディピティ（serendipity）による発見や発明は、リモート環境下では生じ難いのではと推測します。その意味で、国内外への移動が解禁された暁には、大いに他者と会い対面で雑談し議論することを実践して、新しい価値の創造を実行していただきたいと思います。

全学的な研究環境の整備（研究倫理審査体制の整理・構築）

今まで望まれていたにもかかわらず中々着手されて来なかった全学的な研究環境の整備として、特に人文・社会系の研究倫理審査体制の整理・構築を、谷口明子先生（学術研究推進センター・副センター長）を中心に進めています。各学部間で文化や言葉が異なる等、難題ではありましたが、見通しが立つ状態に至りました。従来は論文投稿時に研究倫理審査を受け認可されていることの証明が求められることもあるという状況でしたが、ここ数年で急速に厳しくなり、学会発表時においても上記の証明が必須である環境になりつつあります。研究倫理を始めコンプライアンス関係の要件は、今後厳格になることはあっても緩くなることはないと考えられますので、このような変化に対応できるような体制を作り、維持して行くことが必要です。近い将来、現在の学術研究推進センターや研究推進部のマンパワーでは足りない状況になるものと推測できますので、先手先手の対応が必要と考えています。

おわりに

本学は、皆様ご存知の通り、文部科学省の分類によると『研究大学』（※2）ではありません。これを単純に受け止めると特に研究をする必要はないということになってしまいますが、おそらく多くの本学教職員の方はこれを否定されると思います。建学の精神である『諸学の基礎は哲学にあり』からも、物事を深く観察し考えることはそれすなわち『研究』であり、研究に立脚しない教育は高等教育機関として在り得ないからです。有名国立大学と比して高いS/T比や相対的に少ない研究費・スタッフ数等のハンディキャップはありますが、『深い洞察と努力で新しい価値を創造し、社会に貢献する』という志なくては、学生・保護者・教職員・OBOG等々いずれのステークホルダーにとっても魅力のない大学となってしまいます。『高い志と奮闘』これが東洋大学の精神であり、存在意義であると私は確信しています。足りないものは知恵で補い、価値の創造とその社会実装、そして有為な人材の育成に自信を持って邁進しましょう。

※1：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

※2：文部科学省「研究大学強化促進事業」

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。

2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、

現在までに、大学基準協会による書面評価が実施されました。

9月24日～25日には、2日間にわたりオンラインでの実地調査が行われました。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

今回、川口学術研究推進センター長にご寄稿いただいた学術研究推進センターの活動については、

[第3章・第8章](#)をぜひご覧下さい。（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

-----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

[第3章 教育研究組織](#)

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

第9章 社会連携・社会貢献

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

LINK

- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

世界と伍する研究大学の実現に向けた制度改革等のための検討会議（第3回）（2021/11/10）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/065/siryo/000017833_00004.html

議題

1.特定研究大学制度（仮称）の構築に向けて（1 ガバナンスについて、2 規制緩和等について、3 指定・評価について）

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）取りまとめ（2021/11/15）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20211115.html

令和3年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（10月1日現在）（2021/11/19）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/naitei/kekka/k_detail/1422624_00006.htm

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の決定等について（周知）（2021/11/19）

https://www.mext.go.jp/content/20211119-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf

大学等における令和3年度後期の授業の実施方針等に関する調査及び学生への支援状況・学生の修学状況等に関する調査の結果について（周知）（2021/11/19）

https://www.mext.go.jp/content/20211119-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf

学校法人ガバナンス改革会議（第10回）（2021/11/19）

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/2021/1421377_00007.html

議題

1.取りまとめ（案）について

令和2年度科学技術人材養成等委託事業「持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析」公表（2021/11/22）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00003.html

報告書目次

第1章：大学におけるアントレプレナーシップ教育の目指す姿と取り組むべき課題（調査概要）

第2章：大学のアントレプレナーシップ教育の現状

第3章：アントレプレナーシップ教育の事例調査

第4章：学生のアントレプレナーシップ教育の受講に関する調査

地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況について（令和3年度）（2021/11/22）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/10/1422294_00002.html

緊急事態措置区域及び重点措置区域での大学等の部活動・課外活動における感染リスクの高い活動の制限又は自粛の緩和について（周知）（2021/11/22）

https://www.mext.go.jp/content/20211122-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

大学院部会（第103回）（2021/11/22）

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/2019/09/1421377_00008.html

議題

1.大学院設置基準等の一部改正について

2.国際連携教育課程制度（ジョイント・ディグリー）の見直しについて

- 3.人文科学・社会科学系の大学院に関する背景データについて
- 4.大学院におけるリカレント教育の振興について（産業界における人材ニーズの現状）

内閣官房

新しい資本主義実現会議（第2回）（2021/11/08）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai2/gijisidai.html

「緊急提言～未来を切り拓く「新しい資本主義」とその起動に向けて～」が取りまとめられました。

内閣府

総合科学技術・イノベーション会議 世界と伍する研究大学専門調査会（第10回）（2021/11/15）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/10kai/10kai.html>

議題

- 1.大学ファンドによる支援の基本的考え方について

総合科学技術・イノベーション会議（2021/11/18）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211118.html>

議題

- 1.地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて

日本学術会議

SSH7共同声明（2021/11/16）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-13.html>

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

明日から師走。2021年もあと1か月です。
本格的な寒さに向かう時節、どうぞご自愛ください。

- みなさまの声をお寄せください
[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.13, 通算第66号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年12月21日 Vol.4, No.13（通算第66号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand
第8回 学生一人ひとりの成長を約束するために
——コロナ禍で再認識した東洋大学の強み（矢口 悦子）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】Quick links

【1】シリーズ6 | Grow Up! Thirty Thousand 第8回 学生一人ひとりの成長を約束するために ——コロナ禍で再認識した東洋大学の強み 矢口 悦子（学長）

2021年度も終盤を迎えている中、いまだにパンデミック終結宣言は発せられず、私たちは様々な事態に即時に対応する「スタンバイ状況」を維持しなければならない日々を送っています。100年に一度といわれるこの事態にあって、学長就任以来、「初めて経験する」ことへの対応を日々続けてきた時間の蓄積は、個人的には10年も過ぎたかのように感じられます。異常事態の常態化によって奪われてしまった、対面の場における人々の言葉の背景を読み取る対話の力や、複数の人々の交差する思いを感じあうアンテナもさび付いてしまったのではないかという不安があります。この不安を、対面での関わりが持つ力の評価へと転換し、これからの教育や研究を一層豊かなものへと深めていきたいと考えております。

一方で、この危機をともに乗り越えるための様々な対応の中で、教職員の皆さんの言葉や行動に励まされることも多くありました。まずは、大学基準協会による認証評価の受審という7年に一度の「自己点検・評価活動の集大成イベント」に対して、一致団結して取り組むことができたことに感動しました。また、ライフデザイン学部の赤羽台キャンパスへの移転、社会学部国際社会学科の設置、そして今後の新学部設置や板倉キャンパスからの移転準備など、休むことなく改革を進めることができていたことには、しばしば外部の方々から驚きの声をいただきます。学内業務においても、学生たちへの特別修学支援金の給付から始まり、国の修学支援新制度の実施に伴う奨学金制度の改革を行いつつ、寄付を原資とした新型コロナウイルス感染症対策特別奨学金「RIBBON」の創設と運用を進めています。6月には「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を理事長とともに宣言して、学生リーダーの養成にも着手しています。政策に翻弄されたワクチンの大学拠点接種もありました。枚挙に暇がないほどの奮闘の数々、そうした中で発見した本学の強みはたくさんありますが、ここでは次の3点を挙げたいと思います。

1. 「授業を止めない」から「よりよい授業づくりへ」

新型コロナウイルス感染症への基本的な対応をしながら、非対面と対面の使い分け、同時配信やオンデマンド方式を活用して授業を実施していただきました。2020年度は「授業を止めない」を合言葉としましたが、2021年度は「授業の質や方法の改善」が目指され、学生たちによる非対面授業への評価も大きく変わりました。先生方のご尽力により、大学としての根幹をなす授業提供を維持していただくことができました。

このことができた背景には、急遽始めることになったオンライン授業をより良いものにするために、学部やキャンパスを超えた学びの場が作られたことがありました。良い実践に学び合うための学内研修や学外のFD研修への参加もこれまで以上に多くみられ、オンデマンド授業との併用による教育効果の改善へという発想に議論が進みました。これは、2年前にはなかなか共通の話題になりにくいテーマでした。

2. 「学生一人ひとりの成長を約束するために」を合言葉とする教職協働のチーム力

コロナ対策は、感染状況によって変化する政府や文部科学省の方針、そして自治体の動向を連日注視する中で、迅速かつ冷静に対応することが求められてきました。隔週の新型コロナウイルス感染症対策委員会に向けて、毎日が情報収集であり、委員会での協議結果を確実に学生や教職員の皆さんに伝えるというところまでが一連の流れとして続きます。これは大変なことで、たった一つの方針の提示であっても、意図とそれをどのように解釈して受け止めるかは、なかなか一致しません。スピードが求められることから、短期間のアンケート集約

や情報確認とフィードバックを矢継ぎ早に行い、次の週にはそれを踏まえた方針へ修正しなければならない、というような場面もあり、次々と変わる状況の中で、情報に込めた意図を共有することの難しさを感じ続けてきました。このことは、今後ますます重要になる課題であると認識しています。

そうした難しさはあっても、「学生一人ひとりの成長を約束するために」を合言葉として協力する教職員の皆さんの姿は、時に眩しいものでありました。エッセンシャルワーカーという言葉が世界に広がりましたが、大学の機能を維持し、かつ改革を遂行するために黙々と準備を続ける姿や、感染してしまった学生たちの生活を守り、孤独の中に苦しんでいる学生を支えるために、そして、感染が落ち着いてきてからは、学生たちによる各種交流の機会の提供によるキャンパスライフの回復を目指し、活動が続いている教職員の皆さんも、まさにその名にふさわしく、大学になくてはならない存在です。学生をステークホルダーとする大学においては、教職協働のチーム力ほど重要なものはないと確信しました。

3. 東洋大学の「底力」

私立哲学館として生まれた時から、「日本で初めて」の取り組みがなされてきました。創立者井上円了先生が29歳という若さで哲学館を開いた挑戦者であったことにより、開設以来、円了先生は自ら世界に学びながら、人々のためにその知見を講座や講演、通信教育という形で人々に届けることを続けられました。常に改革を続けるオープンなアカデミーとしての歴史を綴ってきたといえましょう。そして、「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉は円了先生のお姿そのものといえます。学び続けながら、社会と向き合い、他者との関係で自立を図る生き方のモデルであり、人間が社会を作って生きていく限り普遍的な価値として受け継がれると考えられます。「諸学の基礎は哲学にあり」という言葉もまた、多様な解釈を許し、あらゆる人に開かれています。その精神を受け継ぎながら、それぞれの時代において「良いこと」を重ねてきた歴史は、様々な糸によって織り次がれています。

例えば、リカレント教育という糸を手繰ってみると、長い糸が鮮明に浮かびあがってきます。学びの場と社会との往還を目指して生きられた円了先生の姿を起点として、研究者が研究成果を社会に還元するというイメージは重なります。学び手自身が、学び舎と社会（職場や地域社会等）とを行き来するという意味でのリカレント教育も、長い歴史を重ねています。教員の側が智を持ちだすのか、学び手自身が動くのか、あるいはそこを通信やオンラインでつなぐのか、そのあたりの手法はICT革命によって格段に豊かになりましたが、本質は変わらないと思います。

そうした歴史が今日の東洋大学を作り上げてきたこと、それは本学の「底力」といえるでしょう。こうした基盤を有していることで、未来に向けた歩みも大きく踏み外すことはない、と確信しています。

最後に、皆さんにとりまして、2022年が素晴らしい年となりますように、祈念申し上げます。

●『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用）について

本学は、今年度（2021年度）に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審しております。

2021年4月1日に『点検・評価報告書』をはじめとする評価資料を提出し、

現在までに、大学基準協会による書面評価が実施されました。

9月24日～25日には、2日間にわたりオンラインでの実地調査が行われました。

『点検・評価報告書』は、各組織の自己点検・評価活動を通じて明らかとなった長所・

特色や問題点などを踏まえて、大学評価統括本部のもとで下記の章別に取りまとめています。

（高等教育推進支援室／大学評価支援室）

-----目次-----

序章

第1章 理念・目的

第2章 内部質保証

第3章 教育研究組織

第4章 教育課程・学習成果

第5章 学生の受け入れ

第6章 教員・教員組織

第7章 学生支援

第8章 教育研究等環境

第9章 社会連携・社会貢献

第10章 大学運営・財務（1）大学運営

第10章 大学運営・財務（2）財務

終章

LINK

- ・『東洋大学の教育の質保証パンフレット—学生ひとりひとりの成長を約束するために—』
- ・『2021年度 東洋大学点検・評価報告書』（認証評価受審用） ※Googleドライブ
- ・2021年度第3期大学評価（認証評価）提出資料一式 ※Googleドライブ
- ・過去の認証評価について ※大学ホームページ

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

大学院部会（第103回）開催（2021/11/22）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/1422801_00003.html
議題

1. 大学院設置基準等の一部改正について
2. 国際連携教育課程制度（ジョイント・ディグリー）の見直しについて
3. 人文科学・社会科学系の大学院に関する背景データについて
4. 大学院におけるリカレント教育の振興について（産業界における人材ニーズの現状）

世界と伍する研究大学の実現に向けた制度改正等のための検討会議（第4回）開催（2021/11/25）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/065/siryo/000017833_00006.html
議題

1. 「世界と伍する研究大学専門調査会」の検討状況について
2. 特定研究大学制度（仮称）の構築に向けて

令和3年度補正予算案（2021/11/26）

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00002.htm

自由で挑戦的な研究を最長10年間支援する「創発的研究支援事業」259名を新たに採択（2021/11/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20211126.html

質保証システム部会作業チーム会合（第1回）開催（2021/11/26）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/mext_00303.html
議題

1. 座長の選任等について
2. 質保証システムの見直しについて

オミクロン株に対する水際措置の強化について（周知）（2021/11/30）

https://www.mext.go.jp/content/20211202-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

●参考リンク

文部科学省「水際対策強化に伴う対応に関するタスクフォース」を立ち上げ、第1回に末松大臣が出席（2021/12/08）
https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20211208.html

日本私立大学連盟「留学生の水際対策に関する要望提出」（2021/12/16）
https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3449

科学技術・学術審議会 大学研究力強化委員会（第1回）開催（2021/12/01）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/mext_00305.html
議題

1. 大学研究力強化委員会の設置等について
2. 大学の研究力の現状・課題等について
3. 大学ファンドの創設に向けた状況
4. 「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」の検討状況

●参考リンク

文部科学省「第1回「大学研究力強化委員会」を開催」（2021/12/01）
https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20211201.html

学校法人ガバナンス改革会議（第11回）開催（2021/12/03）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/2021/1421377_00001.html
議題

1. 「学校法人ガバナンス改革会議」報告書について

●参考リンク

日本私立大学協会「私立大学のガバナンスに関する現況調査」（速報版）（2021/12/06）
<https://www.shidaikyo.or.jp/apuji/news/7692.html>

日本私立大学連盟「学校法人ガバナンス改革会議の最終報告に対する意見声明」（2021/12/06）
https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=3442

Between情報サイト「ガバナンス改革の報告書、提出ヘーパブコメ実施めぐり有識者会議が紛糾」（2021/12/06）
<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/12/governance.html>

中央教育審議会（第129回）開催（2021/12/10）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/1415607_00006.html

議題

- 1.第3次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申素案）
- 2.「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会における審議状況について

質保証システム部会作業チーム会合（第2回）開催（2021/12/10）

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/mext_00308.html

議題

- 1.質保証システムの見直しについて

科研費による研究成果展開事例追加掲載（2021/12/13）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1371592.htm

中央教育審議会大学分科会（第164回）開催（2021/12/15）

https://www.mext.go.jp/kaigisiry/mext_00310.html

議題

- 1.大学院設置基準等の一部改正について
- 2.令和3年度文部科学省補正予算（案）について
- 3.魅力ある地方大学の在り方について

令和3年度「学術変革領域研究（A・B）」に係る審査概況とその検証結果公表（2021/12/17）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1284412.htm

科学技術・学術政策研究所

「研究データ公開と論文のオープンアクセスに関する実態調査2020」公表（2021/11/30）

<https://www.nistep.go.jp/archives/49576>

「我が国の大学の研究活動における国内・海外とのつながりに関する分析」公表（2021/11/30）

<https://www.nistep.go.jp/archives/49618>

「科学技術への顕著な貢献2021（ナイスステップな研究者）」選定（2021/12/14）

<https://www.nistep.go.jp/archives/49706>

大学入試センター

「令和4年度大学入学共通テストの志願者数等について」掲載（2021/12/07）

[リンク](#)

「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する「「情報」の出題方法」及び「得点調整の対象教科・科目」について」掲載（2021/12/17）

[リンク](#)

「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況」掲載（2021/12/17）

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou.html

内閣官房

教育未来創造会議設置（2021/12/03）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/index.html>

首相の諮問機関である教育再生実行会議の後継組織として「教育未来創造会議」が新設されました。

●参考リンク

文部科学省「「教育未来創造会議担当室」設置に係る看板かけ実施」（2021/12/03）https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20211203.html

内閣府

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第6回）開催（2021/11/25）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211125.html>

議題

- ・「日本学術会議のより良い役割発揮にむけて」について意見交換等

教育・人材育成ワーキンググループ（第4回）開催（2021/11/25）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/4kai/4kai.html>

議題

- 1.教育・人材育成政策パッケージ策定に向けた中間まとめについて

令和3年第16回経済財政諮問会議開催（2021/12/03）

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2021/1203/agenda.html>

議題

- 1.経済・財政一体改革における重点課題～イノベーション、デジタル化を梃子に～（文教・科学技術、社会資本整備、地方行財政）
- 2.令和4年度予算編成の基本方針

教育・人材育成ワーキンググループ（第5回）開催（2021/12/07）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikujinzai/5kai/5kai.html>

議題

- 1.教育・人材育成政策パッケージ策定に向けた中間まとめについて

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第7回）開催（2021/12/09）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211209.html>

議題

- 1.日本学術会議 第183回総会について
- 2.「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」について意見交換等【非公開】

世界と伍する研究大学専門調査会（第11回）開催（2021/12/10）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/sekai/11kai/11kai.html>

議題

- 1.世界と伍する研究大学の在り方について最終まとめ骨子（案）
- 2.世界と伍する研究大学の実現に向けた制度改正等のための検討会議の報告

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会開催（2021/12/16）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20211216.html>

議題

- 1.総合知を戦略的に推進する方策（総合知戦略）の検討について
- 2.「ヒト受精卵へのゲノム編集技術等の利用」に係る報告（第三次）（案）について

日本学術会議

提言「学術の振興に寄与する研究評価を目指して～望ましい研究評価に向けた課題と展望～」公表（2021/11/25）

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-25-t312-1-abstract.html>

12月3日の総会において「政府と日本学術会議の新たな関係構築に向けての要望書」承認（2021/12/03）

<https://www.scj.go.jp/index.html>

日本学術振興会

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和3（2021）年度フォローアップ結果掲載（2021/11/30）

<https://www.jsps.go.jp/j-sgu/follow-up.html>

日本学生支援機構

「令和3年度(2021年度)障害のある学生の修学支援に関する実態調査」公表（2021/11/29）

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/2021.html

就職・採用活動日程に関する関係省庁連絡会議

2023年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方（2021/11/29）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou/pdf/r031129s_siryou.pdf

【参考資料】とりまとめのポイント

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・ 高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・ 海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・ 「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【4】 あとがき

今年も1年間、ニュースレターをご愛読いただきありがとうございました。
来年もみなさまにFD・SDに関する情報をお届けしてまいります。
みなさま、よいお年をお迎えください。

- みなさまの声をお寄せください
[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.4, No.14, 通算第67号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2022年2月24日 Vol.4, No.14 (通算第67号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。

※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。

※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第1回 3Dデータを活用した教材の作成 (藤澤 誠)

【2】お知らせ

(1) TOYO FD・SD Channelに新しいコンテンツが追加されました (高等教育推進センター)

【3】高等教育政策動向等

【4】Quick links

【1】シリーズ7 | ICT活用アイデア

第1回 3Dデータを活用した教材の作成

藤澤 誠 (高等教育研究部 部長/食環境科学研究科 高等教育推進委員)

今回から、シリーズ7「ICT活用アイデア」が始まります。本シリーズでは様々な分野の先生方にICT活用事例やICTに関わるアイデア等をご紹介いただく予定です。本シリーズが皆様の教育活動の一助になりましたら幸いです。

第1回目は、私の担当している「基礎化学」での事例をご紹介します。化学の学習においては、頭の中で化学物質の立体構造をイメージする必要があり、これが、学生が化学を苦手とする要因の1つになっています。市販の分子模型を購入して触ることができれば理解が深まりますが、使用頻度が低い割に値段が高いことがネックです。そこで、オンライン講義となった際に、3Dデータを用いた資料(分子模型)を作成しました。学生からはそこそこ好評でしたので、今回は3D資料に関するTipsについてご紹介したいと思います。

※アプリケーションについては、自己の責任においてご利用ください。

ポイント:

講義の資料(PDFファイルまたはToyoNet-ACEのコンテンツ)に直接3Dの分子模型を入れ込み、構造の違いを理解してもらいたい。

(1) 自分で回転させることが可能な3D PDFの作成

東洋大学で利用可能なAdobe Acrobat Pro DCでは、3Dデータ(.u3d形式)を組み入れることができます。しかしながら、分子模型の場合、多くは.mol形式、.pdb形式、.wrl形式などであるため、これらのファイルを.u3d形式に変換しなければなりません。詳細は省きますが、10種類以上のフリーソフト(Avogadro, Bentley, ChemSketch・3D Viewer, CueMol2, QuteMol, DAZ 3D Studio, DS Visualizer, MeshLab, MolViewほか)をインストールして調べましたが、基本的にはどれもうまく変換できませんでした(変換できたとしても色や影がなくなる)。また、オンラインでの変換ソフトであるONLINE CAD CONVERTERでは.wrl形式のファイルを.u3d形式に変換することはできましたが、初回のみ無料でそれ以降は有料となってしまいますし、画像も安っぽいアニメ風になります。結局、うまくいったのはJmol Wikiで紹介されていた方法(*)で、Jmolというソフトのコンソールを利用して.pdb形式や.mol形式のファイルから.idtf形式のファイルを生じ、それをコマンドプロンプトからUniversal 3D Sample SoftwareのIDTFConverterを使って.u3d形式に変換する方法でした。きれいな画像を生成できますが、コマンドラインを用いるため、少し難しく感じるかもしれません。この方法で作成した分子モデルとその作り方の詳細は別添のPDFファイルをご参照ください。

※現在はPDFforge PDF CreatorまたはPDF-XChange Lite Printerを用いた方法が紹介されています。

[良い点]

3D PDFは、自分で自由に動かすことができるため、“触る”という体験を通して学ぶことができ、学習効果の向上が期待できます。

[問題点と代替方法]

本稿の執筆時点でiPhone等のスマートフォンやタブレット用のAcrobat Readerでは3D機能は利用できませんでした。「3D PDF Reader」などのサードパーティー製のアプリを使うと3D機能が利用できますが、3D PDF ReaderはPDFのページを読み込むのではなく、そのページに含まれる3Dデータのうち1つを選んで表示するというものです。それならば、オンラインで利用できるMolViewのようなソフトで分子模型を作成し、そのURLへのQRコードをつけておくという方法の方が、アプリのインストールが不要なためスマートです。URLからQRコードを作成するには、ブラウザのURLが表示されているアドレスバーをクリックし、右側に表示される「QRコードの作成」ボタ

ンを押すと簡単に生成することができます。いずれにしても、2つの構造式を比較したいときなどは使い勝手はよくありません。

QRコードを利用した例



(2) アニメーションGIFの作成

(1)の問題点を相補する別の方法として、分子模型が回転するGIFアニメーションを作成する方法があります。この方法では自分で回転させることはできないものの、立体構造の理解には役立ちます。このようなGIFアニメーションの作成は複数のフリーソフトで作成できます。作り方の詳細は別添のPDFファイルをご参照ください。

【良い点】

画像ファイルであるため、2つ以上の画像を並べて表示でき、比較がしやすくなります。また、GIFアニメーションはパワーポイントやToyoNet-ACEで表示させることができます。(ToyoNet-ACEでの表示方法に関するTipsは別添のPDFファイルをご覧ください。)

【問題点と代替方法】

GIFアニメーションはパワーポイントやToyoNet-ACEで有用ですが、PDFにコピー&ペーストすると静止画となってしまいます。PDFに組み込むのであれば、.movなどの動画ファイルとして出力し、Adobe Acrobat Pro DCの「リッチメディア」から追加する必要があります。

(3) その他

上記の方法のほか、実際の分子模型を使って説明している動画をPDFに埋め込むといった方法も考えられます。また、近年、立体的なモデルを共有するために、AR技術やVR技術が利用されています。例えば、MolAR([android](#) / [iOS](#))というアプリでは、手書きまたはプリントアウトした構造式の画像などを認識して、スマートフォン上に分子模型を出現させることができます。ただし、3Dデータを見るためにアプリをインストールしたり、3Dデータにアクセスしたりする必要があるため、学生によってはそもそも利用しない可能性があります。

(4) 終わりに

今回は、特に分子模型について3Dデータを用いた教材の作成について記述しましたが、人体の構造の理解などにも3D教材は大変有用と思います。デジタルネイティブ世代の教育において、動画や3Dデータの活用は今後ますます重要になり、それに伴って便利なツールも次々に出てくると思われます。教員も学生も限られた時間のなかで有用なICT関連ツールを選び、うまく活用していくことが望まれます。

別添資料

- ・ 20220222_シリーズ7ICT活用アイデア_第1回3Dデータを活用した教材の作成 (別添資料①) (藤澤)
- ・ 20220222_シリーズ7ICT活用アイデア_第1回3Dデータを活用した教材の作成 (別添資料②) (藤澤)

【2】お知らせ

(1) TOYO FD・SD Channelに新しいコンテンツが追加されました (高等教育推進センター)

昨年度に引き続き、高等教育推進センターでは、TOYO FD・SD Channelを通じて教職員の皆様に役立つ情報をお届けいたします。

2021年度第1弾は、授業事例の2本です。
お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ぜひご視聴ください。

21【授業運営】言語教育における反転授業の試み

牛窪 隆太 (国際教育センター)

#授業設計 #非対面授業 #同時双方向型 #語学科目 #反転授業 #アクティブラーニング

[動画を見る](#)



22【授業運営】ICTを活用した大人数科目運営の工夫～ToyoNet-ACE活用事例の紹介～

澤口 隆（経済学部経済学科）

#授業設計 #非対面授業 #同時双方向型 #講義科目 #大人数科目 #ToyoNet-ACE #小テスト機能 #zoom

[動画を見る](#)



【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「助成資金運用が長期的な観点から安全かつ効率的に行われるようにするための基本的な指針（通知）」公表（2022/01/11）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/daigakukenkyuryoku/000017997_00001.htm

「競争的研究費の適正な執行に関する共通的なガイドライン」改定（2021/12/21）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/integrity/index.html

2021年4月に決定された政府の対応方針に従い、「競争的研究費の適正な執行に関する指針」が競争的研究費に関する関係府省連絡会申合せで改定されました。

「私立大学等の令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果」公表（2021/12/24）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/1412031_00004.htm

「私立学校ガバナンス改革に関する対応方針」取りまとめ（2021/12/21）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shiritsu/211221.html

「令和3年度科学研究費助成事業の配分について」公表（2022/01/14）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1422129_00002.htm

「令和2年度大学等における産学連携等実施状況」公表（2022/02/01）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730_00013.htm

「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」（審議まとめ）公表（2022/01/14）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00007.html

「令和3年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（12月1日現在）」公表（2022/01/14）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/naitei/kekka/k_detail/1422624_00001.htm

科学技術・学術政策研究所

「新型コロナウイルス感染症による日本の大学における研究活動への影響」公表（2022/01/20）

<https://www.nistep.go.jp/archives/50209>

「民間企業の研究活動に関する調査2021」（速報）公表（2022/01/31）

<https://www.nistep.go.jp/archives/50268>

「『博士人材追跡調査』第4次報告書」公表（2022/01/25）

<https://www.nistep.go.jp/archives/50303>

スポーツ庁

第3期スポーツ基本計画（中間報告）（2021/12/20）

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/toushin/1420653_00002.htm

内閣府

「日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめ」公表（2022/01/21）

https://www8.cao.go.jp/cstp/220121_torimatome.pdf

経済産業省

「安全保障貿易に係る機微技術管理ガイダンス（大学・研究機関用）」改訂（2022/02/04）

<https://www.meti.go.jp/press/2021/02/20220204002/20220204002.html>

デジタル庁

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」閣議決定（2021/12/24）

<https://www.digital.go.jp/posts/79b7ZMv1>

「教育データ活用ロードマップ」策定（2022/01/07）

https://www.digital.go.jp/posts/a5F_DVWd

大学入試センター

「令和4年度大学入学共通テスト実施結果の概要」掲載（2022/02/07）

https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040998.pdf&n=%E5%88%A5%E6%B7%BB%EF%BC%91_%E5%A0%B1%E9%81%93%E7%99%BA%E8%A1%A8_%E5%AE%9F%E6%96%BD%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81.pdf

UNIVAS

新型コロナウイルス感染症対策としての『UNIVAS大学スポーツ活動再開ガイドライン』改訂(第6版)（2022/01/25）

<https://www.univas.jp/article/192506/>

日本経済団体連合会

「新しい時代に対応した大学教育改革の推進」公表（2022/01/18）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/003.html>

「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」公表（2022/01/18）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/004.html>

●「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。

●海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

- ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

今年はいじめてのニュースレターをお届けしました。
本年もどうぞよろしくお願いします。

昨年度に引き続き、TOYO FD・SD Channelの
動画コンテンツの制作に取り組んでします。
ぜひご視聴ください。

TOYO FD・SD Channel : https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

- みなさまの声をお寄せください
- 読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

-
- このメールは本学教職員にお届けしています。
 - このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

添付ファイル 2 件



20220222_シリーズ7ICT活用アイデア_第1回3Dデータを活用した教材の作成 (別添資料①) (藤澤).pdf
336K



20220222_シリーズ7ICT活用アイデア_第1回3Dデータを活用した教材の作成 (別添資料②) (藤澤).pptx
6880K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.4, No.15, 通算第68号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2022年3月9日 Vol.4, No.15（通算第68号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」をお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※[読者アンケート](#)にご協力いただけますと幸いです。

- 【1】寄稿 | 経理課主催会計処理講習会動画のTOYO FD・SD Channel 掲載にあたって（野村 浩）
- 【2】お知らせ
 - (1) TOYO FD・SD Channel 新規コンテンツ追加のお知らせ（高等教育推進センター）
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】Quick links

【1】寄稿 | 経理課主催会計処理講習会動画のTOYO FD・SD Channel 掲載にあたって 野村 浩（経理部経理課 課長）

はじめに

これを書いている2022年2月25日現在、話題は専らロシア・ウクライナ情勢になっています。戦後生まれの私にとって平和と戦争が表裏一体であることを改めて痛感させられています。ちなみにここで言う戦後というのは第二次世界大戦後のことを指しますが、当時のことを描いた映画に『アルキメデスの大戦』（2019年、原作：三田紀房）がありました。旧日本海軍内での不当に安価な巨大戦艦建造計画案に対して、主人公（海軍省経理局特別会計監査課・課長）が見積金額の嘘をあばいていくというストーリーで、戦争とは巨額なお金、国家予算がかかるものだということを気付かせてくれる作品です。

また、最近観たドラマに『石つぶて ～外務省機密費を暴いた捜査二課の男たち～』（2017年、原作：清武英利）があります。これは政府の機密費流用を明らかにした実在の事件を題材にしていますが、その背景にあったのは政府の機密費というものが流用されやすい仕組み（領収書が不要、会計検査院や税務当局による監査等も免除）であったことでした。

内部統制

さて、戦艦を作るにも予算が必要のように、何事にも仕事をするにはお金が必要なものです。そしてお金を使うためには最低限の作法が必要になります。そのために必要な考え方の一つに内部統制（internal control）があります。私は研究者ではないので正確な定義ではないかもしれませんが、簡単に言えば組織が事業目的を達成するために、組織の内部で適用するルールや業務プロセスを整備し、適正に運用することだと理解しています。もともとは（少なくとも財務報告的な側面では）アメリカ合衆国で2002年に制定されたサーベンス・オクスリー法（SOX法）が始まりで、わが国へは会社法改正や金融商品取引法による内部統制報告書の制度化等で導入されたものです。我々学校法人に直接的に適用される法令ではありませんが、その基礎となる考え方は広く私立学校法や学校法人会計基準等様々な業務のベースになっています。ある意味で内部統制を充実させることは、アメリカ発ということを経ればグローバル化のひとつといえるかもしれません。いずれにせよ財務＝お金にかかわるのはどのような仕事でも共通であり、少なくとも学校法人内で定めた最低限の処理方法に従った会計処理をしていくことは、ドラマの例（領収書が不要って、考えられますか？）を持ち出すまでもなく重要なことです。

経理課講習会実施のアンケートから

そしてこういった内部統制をはじめとしたルールを身に着けたい、理解したいという会計処理に携わる職員の皆さんの声を、経理課に多数頂戴していました。これまで事務局を対象に2019年度から経理課主催で近年の処理誤りの増加に対応するために、会計処理に関する講習会を実施していたのですが、そのアンケートでは以下のようなお声（一部抜粋）を頂いています。

「日々の業務の大切さがよくわかる内容で、経理担当者以外の方にもみてもらいたかったです。」

「毎年実施していただきたいこと、聴講期間を年度末まで設定いただきたい」

「今後2019年度の講座内容も含め、全員に送信していただけると助かる。また期限を区切ることで受講を促す効果もあると思うが、いつでも何度でも視聴できる状態だとお助かる。」

いつも暖かく、そして厳しいご意見を頂戴しながら過去3回、会計処理講習会としてコンテンツを充実させてきたつもりですが、期限を区切って聴講いただいていたため、バックナンバーをご覧いただく機会がありませんでした。「いつでも何度でも視聴できる状態」を

どう作っていくか思料していたのですが、ふとしたきっかけで「TOYO FD・SD Channel」で掲載させていただけるというお話を頂戴しました。そこで、過去の講習会動画（2019年度はリアル実施のため資料のみ）をすべて掲載させていただくことで、必要に応じてご覧いただく環境を整備させていただきました。コンテンツ自体は各年度でターゲットを絞った内容となっているためまだまだ体系的ではありませんが、今後さらに充実させられるよう検討していきたいと考えています。

また、先生方におかれては会計システムに入力いただくことでご自身の予算残高がいくらか、リアルタイムで確認いただける仕組みになっておりますので、執行申請の処理まで行っていたいただいているところです。経理課が作成している動画は主に事務局が担うべき内容がメインとなっていますが、お時間があるときにご覧いただけますと、事務局の仕事の一部をご理解いただけるのかもしれませんが。

さいごに

「会計こそ最古の情報システムである。」と言った人がいます。近年指数関数的に発達しているIT技術と比較すれば「会計」は陳腐化したように見えるかもしれませんが、最低限必要な言語（会計言語＝学内ルールや複式簿記等、プログラミング言語＝JavaScriptやPython）を用いて情報を記述し、指令に従って実行（アウトプット）していくという過程を見ると、確かに会計も情報システムの一つなのかもしれません。であれば、会計業務も進化していく必要があります。DX（Digital Transformation）の概念を持ち出すまでもなく、近年の電子帳簿保存法や消費税法におけるインボイス制度（適格請求書保存方式）への対応を行いながら、内部統制上必要な手続を確実に行いつつ、実務担当の方の負担を減らすことも行いながら、その結果において情報システムとして最適な計算結果（決算や各種財務指標、その他業務に有用となりうる会計情報）をアウトプットしていけるよう、経理課業務を見直していく必要性を痛感しています。2022年度以降も日常業務はもとより、講習会動画などで皆さんとコミュニケーションをとらせていただきながら、より良い業務を創造していければと考えています。そのためにも、この度「TOYO FD・SD Channel」に掲載させていただいた経理課作成コンテンツを改めてご視聴いただければ幸いです。

【2】お知らせ

(1) TOYO FD・SD Channel 新規コンテンツ追加のお知らせ（高等教育推進センター）

2020年度及び2021年度に開催された経理部経理課主催の会計処理講習会動画のコンテンツを新たに追加いたしました。

日頃から会計処理を担当される職員の皆さんにとっては、何回見ても学びや気づきがあるのではないのでしょうか。
4月に入職される新入職員へもぜひ周知いただきたい7本です。

2020年度

- 23【その他SD】1.挨拶
- 24【その他SD】2.簿記を箱で考える
- 25【その他SD】3.勘定科目の分類
- 26【その他SD】4.ミスを防ごう

2021年度

- 27【その他SD】1.挨拶
- 28【その他SD】2.検収とは何か
- 29【その他SD】3.決算とは何か



【3】高等教育政策動向等

文部科学省

大学院部会（第104回）開催（2022/02/16）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/1421377_00009.html
議題

- 1.人文科学・社会科学系における大学院生のキャリアパス等について
- 2.大学院におけるリカレント教育の振興について

質保証システム部会（第13回）開催（2022/02/16）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/mext_00340.html

「新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について（審議まとめ）（素案）」に関する議論が行われました。

学校法人制度改革特別委員会（第3回）開催（2022/02/22）

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2021/1421377_00004.html

「教育進化のための改革ビジョン」公表（2022/02/25）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1413767_00007.htm

科学技術・学術政策研究所

科学技術に関する国民意識調査 -DXについて-」公表（2022/03/03）

<https://www.nistep.go.jp/archives/50867>

内閣府

教育・人材育成ワーキンググループ（第7回）開催（2022/03/03）

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kyouikuujinzai/7kai/7kai.html>

「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ（案）」に関する議論が行われました。

首相官邸

スタートアップ・大学を中心とする知財エコシステムの在り方に関する検討会（第2回）開催（2022/03/03）

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/startup/dai2/gijisidai.html>

全国大学生生活協同組合連合会

第57回学生生活実態調査の概要報告 公表（2022/03/01）

https://www.univcoop.or.jp/news_2/news_detail_2124.html

就職みらい研究所

「就職白書2022」公表（2022/02/21）

https://shushokumirai.recruit.co.jp/white_paper_article/20220221001/

マイナビ

「マイナビ 2023年卒大学生のライフスタイル調査 ～ 今年の就活生のwithコロナ2年目の日常は？ ～」発表（2022/02/21）

https://www.mynavi.jp/news/2022/02/post_33310.html

「マイナビ2023年卒大学生広報活動開始前の活動調査」発表（2022/02/25）

https://www.mynavi.jp/news/2022/02/post_33339.html

「マイナビ2023年卒 企業新卒採用予定調査」発表（2022/02/25）

https://www.mynavi.jp/news/2022/02/post_33351.html

- 「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)
※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。
※閲覧は@[toyo.jp](#)のアカウントを持つ教職員に限定しています。
- 海外については、下記のwebサイトをご確認ください。
 - ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
 - ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
 - ・「新型コロナと大学」に関するまとめ（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 Quick links

- 高等教育推進センターホームページ
- 高等教育推進センターToyoNet-ACE専用コース ※ToyoNet-ACE
- ニュースレターバックナンバー ※Googleグループ
- TOYO FD・SD Channel ※ToyoNet-ACE
- 学外FD・SD研修会情報 ※ガルーン
- English Support Service (ESS) ※ガルーン
- 高等教育関連図書のご案内 / 貸出申込フォーム
- 高等教育推進センターニュースレター読者アンケート ※Googleフォーム

【5】 あとがき

今週3月7日(月)から12日(土)は、東洋大生による東洋大生のための
学生生活を素敵に歩むきっかけとなる1週間。My Journey Weekです。

昨年12月から学生たちが連日連夜webミーティングやメッセージのやり取りを重ねて
ゼロから企画した7つのイベントが対面・オンラインで開催されています。
URL : <https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/vision/DX/mjp/>

運営サポートとして、昨日開催された対面のイベントに参加してきました。
学部も学年も違う初対面同士の学生がグループワークをする内容だったため、
どれくらい会話が弾むかなと少し心配していましたが、
初対面同士でもグループワークに取り組みやすいよう工夫がされていて、
むしろ話が止まらず盛り上がっていました。
おかげでわたしは写真撮影に専念していました。

チームで問題に取り組むときの真剣な表情、
自分の目標を発表するときの生き生きとした姿、
好きなことを分かち合えたときの笑顔など
すてきな瞬間を切り取ることができました。

--

- みなさまの声をお寄せください

読者アンケートにご協力いただけますと幸いです。
最短10秒で回答が完了します。

企画

高等教育推進センター 高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

- このメールは本学教職員にお届けしています。
- このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2022 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学 FD・SD 活動報告書（2021 年度）

発 行 東洋大学高等教育推進センター

発行日 2022 年 5 月

編 集 東洋大学高等教育推進支援室

〒112-8606

東京都文京区白山 2-28-20

TEL: 03-3945-7253 / FAX: 03-3945-7238

Mail: mlfdjimu@toyo.jp